

この「履修案内」は2006年度の商学部第3学年および第4学年生に対して、履修の方法、手続き、講義内容、実際に適用される学則の「運用」等について解説したものです。

学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を決定し、指定された日時に必ず履修申告を行ってください。履修申告後の履修授業科目の変更は認められません。本案内を読んで疑問な点があれば学事センター商学部係または以下の学習指導に問い合わせてください。

学習指導主任 教授 新保 一成	研究室 444 号室 (内線 23195) e-mail : shimpo@fbc.keio.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 10:00 ~ 12:00
学習指導副主任 教授 園田 智昭	研究室 415 号室 (内線 23165) e-mail : sonoda@fbc.keio.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 13:00 ~ 14:45

授業期間中に学習指導に相談のある場合には、上記のオフィスアワーを利用すること。予約は不要ですが、研究室棟 1 階の内線電話で研究室に電話をしたうえで、面談場所を確認してください。

休業期間中に連絡を取る場合には、メールにて連絡を取り、各自で日程の調整をすること。

目 次

商学部の基本理念	3
専攻課程に学ぶ諸君へ	4
三田における勉強とカリキュラムの特徴	5
平成 18 年度 (2006 年度) 学事関連スケジュール	7
一般注意事項	8
履修申告のしかた	16
履修要項	23
講義要綱・シラバス	41
教職課程	113
言語文化研究所特殊講座	114
メディア・コミュニケーション研究所	120
体育研究所設置講座	137
福澤研究センター設置講座	145
外国語教育研究センター設置講座	148
国際センター在外研修プログラム	151
国際センター設置講座	153
情報処理教育室設置講座	189
知的資産センター設置講座	191

商学部の基本理念

本学部は、福沢諭吉の実学の精神を「商学」の分野において継承し、現代社会の進歩と変革に対応して、つねに新鮮にして活力のある学部であることをめざす。

1. 本学部は、広い視野と創造的思考をもって、現代の産業社会を商学の理論と実証を通して把握し、その方向を洞察することを、研究と教育の基本とする。
2. 教育にあたっては、経済社会現象に対する自主的関心と豊かな発想をもってつねに新しい課題に取り組み、体得した科学的方法と商学の専門知識を積極的に問題解決に適用できる人材の育成をめざす。
3. 本学部は、このような知的教育にとどまらず、教員と学生の人間的接触を重視し、個性の伸長をはかり、意欲的で国際性豊かな、活力ある人間の形成をめざす。
4. 「商学」の核を、経営学・会計学・商業学・経済学および産業経済論とする。
5. 本学部は、これらの実現のために、独自の研究教育体制とカリキュラムの有機的編成をはかる。

専攻課程に学ぶ諸君へ

2年間の日吉での課程を終えた諸君は、これからいよいよ商学部の専門科目を履修することになる。商学部では従来から日吉と三田での教育の連続性と一貫性という点を考慮してカリキュラムの編成を行い、何度かの改定をも試みてきた。こうした改定の結果、日吉のカリキュラムにおいても専門科目の基礎や入門的な科目が設置され、また三田にも教養科目に属するものが設けられている。

こうしたカリキュラム編成が試みられているのは、商学部の教育目的として、諸君らが幅広い知識と教養をそなえ、次代を担う知識人になってほしいという願いがあることと、一方で諸君らにできるだけ早く商学部の主要な学問分野の内容に接してもらい、商学部がどのような研究教育をする学部であるのかを理解する糸口になればという意図からである。三田におかれている教養科目についても同様の趣旨をもっており、三田で専門的な分野を学んでゆくなかで、基礎的な分野の学習の必要性を改めて認識した諸君のために履修可能なようにという意味から設けられている。また今日では、「地球環境問題」や「技術革新に関連する問題」のように、複合的な専門分野からのアプローチによって、はじめて問題の本質を把握できるものが増えている。商学部では、ある一定の条件をみたせば、このような複合的なアプローチによる大学院の科目も履修することができ、高度な専門知識を習得することもできる。

こうした三田、日吉の教育の連続性と一貫性を考慮に入れたカリキュラムではあるが、その中心をなしているのが商学であり、それは商業学、会計学、経営学の3分野から構成されている。しかし、こうした3つの専門分野についての学習をし、各々の分野についてその内容を理解するためには、産業・経済についての知識が当然のことながら必要とされる。そのために商業学、会計学、経営学の3分野に加え、産業・経済分野を合わせた4つの専門分野が商学部の専攻課程の中核にあるものと考え、それらがその他関連分野と有機的・体系的に組み合わせられたものこそが、商学部のカリキュラムの特徴である。諸君にはカリキュラム編成の意図を十分に理解し、広い視点から自らの問題発見と分析を深化させてほしいものと期待している。

とくに、近年のわれわれの存在する経済社会は激しく変化しており、社会からの大学や諸君へのニーズが変化する兆しを見せつつある。こうした状況のもとで、大学生活の後半である2年間の専攻課程をどう過ごすかということが、従来にも増して重要になってきているといえよう。三田での最初の1年間に、すでに述べたように、できるだけ幅広い視野を身につけ、そうした視点から社会で起こっている諸問題を見据え、深く分析してゆくという努力がなされなければならないといえる。時代の変化は、既存知識の適応能力の限界を示し、新たな知識の構築を要請してくるようになるであろう。そのためには現実や既存の知識や社会の仕組みを批判的に検討しうるような姿勢を作る努力が必要になってくるといえる。

三田での2年間の生活のなかで、諸君らの自信の視点、考え方を確立し、そのような立場から多様な社会問題を分析するような努力をされ、次代を担う豊かな知識人に成長されんことを願ってやまない。

学部長 桜本 光

三田における勉強とカリキュラムの特徴

商学部のカリキュラムの特徴は、学生が自分で問題を発見し、より深くそれを探究できるように、学生の自主性、オリジナリティを重視していること、基礎からより高度なものへと段階を踏んで学習できるように編成されていること、多岐にわたる研究領域のスタッフを揃え、広い分野にわたって講座が均整をもって設置されていること、そして、外国語と数学・統計学および情報処理関係の教育にかなりの比重をおいていることが挙げられます。

諸君は、日吉キャンパスでの2年間で、すでにこれらの特徴を実感し、着実に学力の幅を広げてきたことと思います。これからは、いよいよ、三田キャンパスでの2年間を通じて、学力を深化させ、そして問題を発見し、それを解決する経験を積みましょう。

商学部の専攻分野のコアは、経営、会計、商業、経済・産業の4分野からなり、さらに、経済・産業は、国際経済、計量経済、金融・保険、産業・交通、労働・社会、産業史・経営史から構成されています。諸君は、三田での2年間、これら専攻分野に属する科目から、幅広く履修科目を選択し、知識を広げ、解決方法の代替案を多く探索できる能力を持つ「すなわちジェネラリストを目指すこともできますし、また、特定の分野に焦点を当て、その分野の科目を集中して履修することにより、自己の専門分野を持つ「すなわちスペシャリストを目指すという選択もできます。ただし、問題発見能力や解決能力を身につけるためには、複数の専攻分野の知識を蓄えることが有益です。

また、各専攻分野のカリキュラムは、すべて総論科目と各論科目から構成されています。総論科目は、その名のとおり、より基礎的かつ概論的な科目で、原則として毎年設置され通年講義で行われていますが、春学期に週2コマの集中講義の形態を採る科目もあります。他方、各論の科目は、より専門的あるいは特別なテーマを講義する科目で、中には隔年で設置される科目もあります。したがって、履修の要領は、段階を踏んだ学習のためには総論科目と各論科目のセットで選択すること、各論科目については、第3学年と第4学年の2年間で履修したい科目の計画を立てることが肝要です。

ところで、本文冒頭でも述べたように、商学部では、外国語や数学、情報処理の教育を重視しています。そこで、三田キャンパスでも外国語や情報処理の鍛錬を継続できるように、あるいは応用数学の知識を増やすために、それらの講座が用意されていますので活用しましょう。卒業を目前にし、社会人の仲間入りを自覚する頃になると、日吉キャンパスでの2年間に数多くの講座が設置されていた自然科学や人文・社会科学の知識をより充実させておくべきだったという反省をよく聞きます。その為に三田キャンパスでもそれら総合教育科目に属する講座を幾つか設置してありますので、履修することを考慮してみてください。

「研究会」については若干後述しますが、研究会に所属しない(できなかった)学生諸君は、「外書演習」・「外国語特殊」・「外国語演習」・「専門演習」を重視しましょう。少人数のクラスで教員との質疑応答も大いに期待でき、研究会の先生に準じるような親しい教授を見つけることができるかもしれません。

詳細は後述しますが、商学部の卒業に必要な単位数128単位は、他の学部比べて少ないと思います。しかし、これは、最低の単位数であって、1年間で履修できる上限50単位を4倍すれば、合計200単位まで4年間で履修できます。三田キャンパスに限っても100単位まで履修できるのですから、思う存分履修し勉強してください。自主選択科目として20単位を認めたことや少ない卒業単位数である真の意味は、諸君が自主性をより発揮する為なのです。

以上の基本方針のもとに履修案を作成しましょう。なお、履修申告の際には、手続きに誤りがないよう充分注意してください。具体的な注意点は、履修案内の該当事項を参照していただきたいのですが、とくに重要な幾つかの点を箇条書きにしてみます。

1. 卒業に必要な単位数は、4学年を通じて、合計128単位です。そのうち、第3・第4学年で履修し合格しなければならないのは、必修・選択科目あわせて58単位(但し、平成13年度以前の入学者で第1・第2学年で68単位もしくは69単位を修得し、三田に上ってきた者を除く)です。

2. 専攻科目については、4学年を通じて、類から類まで合計58単位以上合格しなければなりません。

その場合、専攻科目類を2単位以上、専攻科目類と類をあわせて46単位以上を履修し合格する必要があります。専攻科目類には、関連科目を8単位まで専攻科目類に含めることができます。関連科目の範囲、履修の際の手

続きの注意について、履修案内の該当箇所をよく参照してください。

3. 各学年における履修単位数の最高限度は 50 単位（自由科目を除く）です。

4. 第 3・第 4 学年において履修し合格した授業科目のうち 12 単位まで、自主選択科目として進級および卒業所要単位数にカウントされます。

なお、自主選択としての履修は、他学部設置の科目からも選択できます。詳細は自主選択科目に関する注意事項を参照してください。

5. 第 3 学年において合計 12 単位以上を履修し合格しないと第 4 学年に進級できません。また、第 4 学年においても 12 単位以上を履修し合格しないと卒業できません。なお、カウントされる科目の範囲が限定されていますので注意してください。

6. 研究会は、専攻科目のなかでもとくに特徴のある科目です。人数の制約から希望者全員が履修できるとはかぎりませんが、志望者は各研究会の行うゼミ入会選考を受けて入会許可をうけることになります。履修申告は第 3・第 4 学年それぞれ行う必要がありますが、可否の判定は第 4 学年終了時に一括して行われ、合格すると 8 単位が付きます。したがって、履修可能上限 50 単位および履修合格必要下限 12 単位の条件に関して、研究会の 8 単位はすべて第 4 学年においてカウントされます。

7. 重複履修は原則としてできませんが、外国語については、科目名が同一でも担当者が異なる場合あるいは科目名および担当者が同一でも内容が異なる場合に、自主選択科目として再度履修ができる場合があります。詳細は重複履修に関する注意事項を参照してください。

なお、学士入学者については上記とは若干異なる規定がありますので注意してください。

履修案内に関し、疑問・不明な点があれば、学習指導または学事センター商学部係まで問い合わせてください。

時代の多様化に対応したカリキュラムの長所を生かし、各自が有意義な学生生活を送り、日吉で身につけた幅広い視野や基礎知識の上に、専門的知識や問題発見能力・解決能力の研鑽を積まれることを望んでやみません。

商学部学習指導主任（三田）

新 保 一 成

平成 18 年度（2006 年度）学事関連スケジュール

商学部履修案内等資料配付	3月31日（金） 10時～17時 123番教室
情報処理教育室ガイダンス	4月3日（月） 10時45分 516番教室
成績証明書発行	4月3日（月） 12時30分～
商学部第3学年ガイダンス	4月4日（火） 10時 531番教室
国際センター在外研修プログラムガイダンス	4月5日（水） 13時 519番教室
教職課程ガイダンス（既登録者）	4月5日（水） 13時 526番教室
" （新規登録者）	4月5日（水） 13時 533番教室
" （来年度実習予定者）	4月5日（水） 14時45分 528番教室
教育実習事前指導（今年度実習予定者）	4月5日（水） 14時45分 517番教室
教職課程ガイダンス（学校教育学コース）	4月5日（水） 16時30分 513番教室
言語文化研究所ガイダンス	4月6日（木） 12時20分 523-A番教室
外国語教育研究センターガイダンス	4月6日（木） 12時30分 531番教室
体育研究所ガイダンス	4月7日（金） 9時・10時45分 522番教室
学事 Web システムパスワード変更締切	4月7日（金） 学事センター
春学期授業開始	4月8日（土）
履修申告用紙配付日	4月10日（月）} 8時45分～16時45分 11日（火）} 学事センター
Webによる履修申告期間	4月14日（金） 8時30分～4月15日（土）15時 4月17日（月） 8時30分～15時
履修申告用紙による履修申告日	4月14日（金） 8時45分～16時45分 学事センター前受付ボックス
開校記念日（休講）	4月23日（日）
授業料等納入期限（全納または春学期分納）	4月28日（金）
履修申告科目確認表送付（本人宛）	5月上旬（掲示を出します）
健康診断	5月上・中旬
履修申告修正受付	5月8日（月）～10日（水）（予定）
4年生用卒業見込証明書発行	5月8日（月）以降
早慶野球戦	5月下旬
春学期末試験 時間割発表	7月上旬（掲示を出します）
春学期補講日	7月10日（月）・11日（火）
春学期授業終了	7月15日（土）
春学期末試験	7月18日（火）～26日（水）
春学期末追加試験申込受付	7月中（掲示を出します）
夏季休業	7月27日（木）～9月21日（木）
春学期末追加試験	8月3日（木）～4日（金）
（三田キャンパス一斉休業）	（ 8月9日（水）～15日（火））
春学期学業成績表送付（保証人宛）	9月中旬
ガイダンス期間（対象：法学部9月進級者のみ）	9月22日（金）
秋学期授業開始	9月25日（月）
授業料等納入期限（秋学期分納）	10月31日（火）
早慶野球戦	10月下旬
秋学期補講日(1)	11月21日（火）午前
三田祭（準備・本祭・片付けを含む）（休講）	11月21日（火）午後～11月27日（月）
休学願提出期限（今年度分）	11月30日（木）
冬季休業	12月23日（土）～1月5日（金）
（三田キャンパス一斉休業）	（ 12月28日（木）～1月5日（金））
授業開始	1月6日（土）
秋学期末試験 時間割発表	1月上旬（掲示を出します）
福澤先生誕生記念日（休講）	1月10日（水）
秋学期補講日(2)	1月16日（火）・18日（木）
秋学期授業終了	1月22日（月）
秋学期末試験	1月23日（火）～2月5日（月）
秋学期末追加試験申込受付	1月中（掲示を出します）
福澤先生命日	2月3日（土）
春季休業	2月上旬～3月下旬
秋学期末追加試験	2月下旬（予定）
卒業者発表	3月9日（金）
学業成績表送付（保証人宛）	3月中旬
卒業式	3月23日（金）

（注1） 印の期間には学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。

（注2） 事情により日程・教室は変更があり得るので、掲示板等に注意してください。変更がある場合は、掲示板への掲示が優先します。

一般注意事項

学 生 証 (身 分 証 明 書)

1. 学生証は、諸君が本塾大学学生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
3. 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真(縦4cm、横3cm、カラー光沢仕上げ)1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により、当日発行できないこともありますのでご了承ください。学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料2,000円が必要です。
4. 返 却
再交付を受けた後、前の学生証が見つかった場合、および退学・卒業などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

掲 示 板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて西校舎正面入口の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が非常な不利益をこうむることもあります。
なお、他学部設置科目を履修した場合はその科目を設置している学部の掲示板を、他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を見てください。諸研究所、各種センター設置科目・講座等については、共通掲示板にも注意してください。
2. 主な掲示事項
授業の休講・補講・時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達、各種試験の実施要項、学事日程、呼出し等。
休講・補講、呼出しについては、インターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話により学事 Web システムにおいても確認できます。(17ページを参照してください)
また、定期試験時間割、その他掲示の一部は塾生ページ(<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>)でも確認できます。
3. 研究会に関する掲示は、西校舎501番教室後方入口前の掲示板を利用してください。

試験・レポート等

定期試験はもとよりレポート・授業中に行われる小テストにおいても、代筆やカンニング、答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合には、不正行為とみなされ学則第188条により厳しく処分されます。このようなことが絶対ないように学生諸君の自戒を強く要望します。

1. 定期試験

定期試験は、学期末に行われます。

春学期末：7月18日(火)～26日(水)実施(春学期に終了する科目および通年科目の中間試験を対象とします)

秋学期末：1月23日(火)～2月5日(月)実施(秋学期に終了する科目および通年科目を対象とします)

試験時間割や注意事項は、掲示により発表します。

試験に関する注意事項

定期試験の振鈴時間は、三田と日吉で異なりますので注意してください。

受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。

答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。

学生証を必ず携帯し、提示してください。

試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証(発行日当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可)の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料500円が必要となります。

学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。

仮学生証発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。

答案用紙の担当者および科目名並びに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がない場合、成績はつきません。

試験開始後20分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるもの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験を受験するのかは、本人の判断に依ります。電車遅延等により遅刻を

しても試験開始 20 分以内で入室した場合は追加試験の対象とはなりません。また、試験時間の延長もありません。

試験開始後の体調不良などの場合で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

2. 平常試験

随時授業時間内に行われます。

3. 追加試験

追加試験は、履修申告した授業科目で病気や不慮の事故等、やむを得ぬ事情により定期試験を受験できなかった授業科目に対して行うものです。ただし、外国語科目、演習科目、体育実技、その他定期試験を行わず、レポート等により評価の定まる科目、ならびに研究会については行いません。

他学部設置の授業科目を履修した場合、その実施の有無を含めて取扱いは当該学部の方針によります。他学部が設置主体である併設科目（総合教育科目「人の尊厳(社会と人権)」、専攻 類科目「経済統計」「交通経済各論(経済地理)」「法学各論(経済法)」「法学各論(労働法)」「経済学史」)についてもこれに準じます。

追加試験の申請には、医師の診断書(治療期間の明記されたもの)、事故の証明書、あるいは学習指導の受験許可書のいずれかが必要です。詳細は、試験時間割発表の際に掲示します。

日吉において履修した授業科目の追加試験の申請は、所定の手続きを日吉で行う必要があります。なお試験場は原則として日吉になります。

以上の手続きを怠って試験を受けても無効です。

なお、定期試験期間中、当該科目の試験時間内に試験教室に立ち入っていた場合は、追加試験が認められません。

4. 再試験

商学部学生に対してはその履修する科目が商学部・他学部いずれの設置科目であっても再試験は行いません。

5. レポート

三田では、レポートが最終試験と同様に取り扱われますので、提出にあたっては次の手続きを厳守してください。

- (1) 指定された日時に、指定された場所に提出してください。特に学事センター窓口では、指定日時以外は一切受け付けませんので、掲示で確認してください。

学事センターレポートボックス受付時間

火・水曜日、木・金曜日 8時45分～16時45分

受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。

その他の事務取扱時間については 11 ページも参照してください。

- (2) 学事センター窓口への提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙(2枚複写式)に必要な事項を記入し、添付してください(2枚とも)。レポート提出用紙は学事センターに備えてあります。
- (3) 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。

6. 成績通知

成績結果を記載した学業成績表を、保証人宛に郵送します。春学期終了科目については9月中旬に、通年科目や秋学期終了科目も含めた当該年度最終の学業成績表については3月中旬に発送となります。

学業成績表は、いかなる事情があっても再発行いたしません。また、成績の照会もいたしませんので、各自の責任において保管してください。

なお、取得した科目の成績が成績証明書に記載される時期は、翌年度の4月以降となります。

ただし、卒業決定者の証明書については申請方法を1月に掲示します。

諸 届

以下の事項はすべて学事センターで取り扱います。

1. 休学願・就学届・退学届

「病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には、保証人連署の上願い出で必要の期間休学することができる」(学則 152 条)。本年度休学希望者は、11 月末日までに学習指導と面接し、休学願(所定用紙)に承認印をうけたうえで学事センターに提出してください。病気を理由に休学する場合は、医師の診断書を添付してください。休学期間は当該年度末(3月31日)までとします(38 ページも参照してください)。休学が次の年度に及ぶ場合は、改めて許可を得なければなりません。休学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学をしていた場合にはあわせて医師の診断書を提出してください。

なお、休学者が休学許可を受ける前に修得した当該年度の科目について、申し出のあった場合は、自由科目に限り振り替えます。この場合、就学後履修することは認められません。希望者は休学願提出時に窓口にて問い合わせてください。

退学予定者は、退学届に本人・保証人の署名捺印のうえ、学生証を添えて学事センター窓口へ提出しなければなりません。

2. 留 学

「本大学が教育上有益と認めるときは休学することなく、外国の大学に留学することを許可することがある」(学則 153 条)。留学に関する手続き(国外留学申請書の提出)はあらかじめ学事センターで相談・確認のうえ、所定の手続きをしてください。学習指導との面接を含めて、遅くとも出発の 1 ヶ月前には済ませてください。また、帰国後は速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、商学部での留学に関する取扱いについては、38 ページを参照してください。

3. 住所変更届(本人・保証人)、保証人変更届、改姓(名)届

各届とも学事センター所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センター窓口へ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。郵便および電話による届け出は受け付けません。

必要書類(所定用紙は学事センターにあります)

住所変更届: 在学カード

保証人変更届: 変更届, 在学カード, 誓約書(本人・保証人押印), 保証人住民票

改姓(名)届: 改姓(名)届, 在学カード, 誓約書(本人・保証人押印), 戸籍抄本, 学生証再交付願

また、学生総合センター学生生活支援窓口に提出する「学生カード」に新住所等を記入しても、正式な届とは見なされません。必ず学事センターに所定の届を提出してください。

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されていない場合は、極めて重大な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

各種証明書

証明書の発行、申込み、受取、いずれの場合でも学生証が必要です。

授業料等が未納の場合、すべての証明書が発行できません。

1. 証明書自動発行機で即時発行する証明書(和文)

料金は改定されることがあります。

在学証明書(4月3日12時30分~)	1通 200円
成績証明書(4月3日12時30分~)	
卒業見込証明書(5月8日~)	
履修科目証明書(6月1日~)	
卒業見込証明付成績証明書(5月8日~)	1通 400円
学割証(JR各社共通)	無料
健康診断証明書(6月中旬~年度内)	1通 200円

注 稼働時間

学事センター事務室内発行機: 学事センター事務取扱時間内

南校舎1階設置発行機: 9時~20時[授業期間外の土曜日および休日・大学休業日は除く]

メンテナンス、故障等により、証明書発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し、あらかじめ早めに準備してください。

学割証(JR各社共通)は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内(有効期限内でも離籍した場合は無効)。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。なお、定期健康診断を未受診の場合には、学割証(学校学生生徒旅客運賃割引証)の発行はできません。

各種証明書等で厳封を必要とする場合には、学事センターに申し出てください。(自動発行機で発行した証明書は厳封できません)健康診断証明書は6月中旬以降、定期健康診断受診者を対象に発行されます。

なお、奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は、保健管理センター三田分室受付に相談してください。

2. 学事センター窓口で即時発行する証明書(英文)

いずれも1通200円。(料金は改定されることがあります)

(1) 英文在学証明書(4月3日12時30分~)

(2) 英文卒業見込証明書(5月8日~)

(3) 英文成績証明書(4月3日12時30分~)

2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。その他の学生については従来どおり窓口での発行となります。ただし、2004年4月以降、窓口で一度英文証明書の申請・交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能となります。

3. 学事センター窓口で申し込み、日数を要して発行する証明書・文書

前記以外の証明書・文書等(例: 司法試験用単位取得証明書, 英文履修科目証明書, 他大学院受験等のための形式指定の調査書等)の発行に関しては、余裕をもって学事センター窓口で相談のうえ申請してください。なお、交付には和文書類は申請後標準3日、英文書類は申請後標準1週間日数を要します。

教室使用申請について

1. 受付窓口

利用者により、受付窓口が異なりますのでご注意ください。

	利 用 者		
	研究会	学生団体	外部団体
授業期間	学事センター	学生総合センター-学生生活支援	管財部管財課
休業期間	学事センター	使用できません	管財部管財課

2. 授業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。
 - (2) 学生団体の場合は、学生総合センター-学生生活支援窓口に「学内集会届」を提出してください。
 - (3) 申請は使用予定日の2週間前から3日前まで受け付けます（注）。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として申請を受け付けません。
 - (4) 申請者控は、研究会・学生団体ともに学生総合センター-学生生活支援窓口でお受け取りください。
 - (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。
- （注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた3日前とします。

3. 休業期間中の教室使用申請

- (1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄（3枚複写の3枚とも）に研究会担当教員の印またはサインが必要となります。
 - (2) 学生団体は原則として、使用できません。
 - (3) 申請は使用予定日の3日前まで受け付けます（注）。ただし、土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間中（8月中旬および年末年始）は原則として申請を受け付けません。
 - (4) 申請者控は、研究会・学生団体ともに学生総合センター-学生生活支援窓口でお受け取りください。
 - (5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。
- （注）土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた3日前とします。

学事センターの窓口

1. 学事センター事務取扱時間

月～金曜日……8時45分～16時45分

土曜、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

事務取扱時間等を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

2. 窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申込み
- (6) 休学願・留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届等
- (7) 学生証の発行
- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（和文はおもに証明書自動発行機）
- (9) 司法試験等受験のための単位取得証明書の発行
- (10) 教室に関すること（ただし研究会以外の教室使用申請は学生総合センター-学生生活支援窓口で行います）
- (11) 通学証明書の発行

落とし物、学生カード提出は学生総合センター-学生生活支援窓口が取り扱います。

教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

専門科目担当専任教員（教授・助教授・専任講師・助手）……研究室（三田研究室棟）

日吉専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎2階）

学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係の深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

学生生活支援

教室等の使用申込み受付

公認学生団体が会合のために教室を使用したいときは、使用希望日の3日前（休日を除く）までに申し込んでください。休日・試験期間中・休業期間中の使用はできません。（「教室使用申請について」も参照）

使用できる時間は次のとおりです。

月～金曜日 9：00～20：00

土曜日 9：00～18：00

音楽団体指定時間

月～金曜日 18：10～20：10

土曜日 13：00～18：00

なお、教室以外に利用できるスペースとして、学生談話室 A・B と音楽練習室がありますので、使用したい場合は学生生活支援窓口にお問い合わせください。

山食・西校舎学生食堂ホール・北館学生食堂の使用申込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食や生協食堂・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生生活支援窓口で使用申込みをし、予約してください。さらに、予約後2週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合は予約は取り消されますので注意してください。なお日曜日・祝日は利用できません。

学外行事届の受付

公認学生団体や研究会で、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前までに届け出てください（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。

合宿等で団体割引が必要な場合についても学生生活支援窓口で受け付けています。

組織届の受付

クラブ、サークル等を新設する場合は、所定の組織届を提出してください。組織届の提出がないと、学生団体公認申請等の諸手続を行うことはできません。公認申請の詳細については学生生活支援窓口にご各自で問い合わせをしてください。

学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、場所等の指示を受けることが必要です。

備品使用申請の受付

公認学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前までに申請してください。

郵便物の取扱い

外部から送付される各公認学生団体宛の郵便物は、学生生活支援窓口備え付けのメールボックスに区分けしておきますので、学生責任者は定期的に取りに来るようにしてください。なお、個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、やむをえず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前までに申請してください。

学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジは、個人の利用ができます。開室時間は8：45～21：00です。室内での飲食はできません。

伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。A4用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の学部・学年・氏名・連絡先を明記してください。

その他

学生総合センター「大学生生活懇談会」では見学会、講演会、討論会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生生活支援窓口には、財団法人大学セミナーハウス、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生生活支援の受付窓口で取り扱っています。

奨学金

学生生活支援窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

慶應義塾大学奨学金〔給費〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

慶應義塾大学特別奨学金〔給費〕

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。

募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

日本学生支援機構奨学金〔貸費〕

4月中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と、第二種（きぼう21プラン）（有利子）があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）があります。

地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

指定寄附奨学金〔給費〕

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

奨学融資制度（利子給付奨学金付き学費ローン）

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借入に伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は学生生活支援窓口までお問い合わせください。

学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。なお、給付方法は銀行振込となりますので、口座登録が必要です。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に、給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口に置いてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄には各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配付した「健保の手引き」（学生総合センター窓口にも置いてあります）をご参照ください。

就職・進路支援

就職担当は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報などを、南校舎地下1階の就職担当事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職担当のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として、3年生を対象に10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッションなどを開催しています。

就職担当は就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職担当を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室（西校舎地下2階）

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります（電話予約可）。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。

また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

学生総合センター窓口取扱時間

学生生活支援，就職・進路支援

月～金曜日…… 8時45分～16時45分 都合により閉室することがあります。

土曜日……閉室

学生相談室

月～金曜日…… 9時30分～16時30分

土曜日……閉室

昼休み……11時30分～12時30分

学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

正課を受けている間

講義，実験・実習，演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい，次に掲げる間を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき，卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。

ただし，もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において，これらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき，授業の準備もしくは後片付けを行っている間，または授業を行う場所，大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

学校行事に参加している間

大学の主催する入学式，オリエンテーション，卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有，使用または管理している施設内にいる間。ただし，寄宿舎にいる間，大学が禁じた時間もしくは場所にいる間，大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより，大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので，上記活動中に万一事故にあった場合は，学生生活支援窓口で相談のうえ，所定の手続きを行ってください。また，本保険の適用が円滑に行われるよう，ゼミ合宿を学外で行う場合，および学内学生団体が学外で活動する場合は，その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については，直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては，保険と共済の2つがあり，加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は，(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に，「学生総合共済」保険は慶應生活協同組合に，資料請求してください。

連絡先 (株)慶應学術事業会 Tel.. 03-3453-6098

慶應生活協同組合 Tel.. 045-563-8489

学生カード・大学に対する要望カードの提出について（学生カードの提出によって住所変更の届けとすることはできません）

次に従って提出してください。

1. 提出学年

3・4年（文学部は2・3・4年）

2. 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生生活支援窓口

3. 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください（やむをえず提出日に提出できなかった場合でも，後日必ず学生生活支援窓口に提出してください）。

大学に対する要望カードは，大学における今後の研究・教育・学生生活において，改善のための参考に資するものです。諸君が今までの大学生活の中で，教育一般・カリキュラム・課外活動・施設・その他感じたこと，思ったことで大学に対する要望がありましたら，学生カードに連なる同じカードに記入し，学生総合センター学生生活支援窓口に提出してください。

定期健康診断について

定期健康診断は、学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。

学則第179条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので、必ず受診してください。

未受診の場合には、「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

緊急時における授業の取扱いについて（三田）

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合などの授業の取扱いは次のとおりとします。

1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取扱い

【対象事由】

1. 交通機関のストライキ
2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの

【対象路線】

- ・山手線　・中央線（東京 - 高尾間）　・京浜東北線（大宮 - 大船間）
- ・東急（電車に限る）

のいずれか1路線の全区間または一部区間において運行停止となった場合は下記のとおりとします。

【時間・対応策】

1. 午前6時30分までに運行を再開した場合は、平常どおり授業を行います。
2. 午前8時までに運行を再開した場合は、第2時限から授業を行います。
3. 午前10時30分までに運行を再開した場合は、第3時限から授業を行います。
4. 正午までに運行を再開した場合は、第4時限から授業を行います。
5. 正午を過ぎても運行が再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。掲示や構内放送、下記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

交通機関の運行状況に係わらず、大規模な災害や事故等が発生した場合の授業の取扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

2. 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取扱いは下記のとおりとします。

[1] 「東海地震注意情報」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。

[2] 地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

早慶野球戦が行われる場合の授業について

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします。

（3回戦以降もこれに準じます）

雨天等により試合が中止になる時は、神宮球場の判断によります。

神宮テレフォンサービス TEL 03-3236-8000

履修申告のしかた

1. 履修申告について

(1) 履修申告方法について

原則として、学事 Web システムにより申告してください。やむをえない場合は履修申告用紙で申告できますが、両方法を併用することはできません。履修するすべての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。

学事 Web システムにより登録を行うと、即時にエラーチェックおよび一部の学則判定が行われ、メッセージが表示されます（ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、本人宛に送付する履修申告科目確認表で行ってください）。

(2) 履修申告上の注意

履修申告にあたっては、2005 年度の学業成績表を保証人宛に送付してありますので、各自保証人からそれを受け取り、取得した科目を確認し「履修要項」「履修申告のしかた」（本項）を熟読して、申告してください。特に誤登録、申告漏れ等によって不都合が生じることがあります（進級・卒業に影響する場合があります）ので十分に注意してください。

原則として、申告期間後は、履修科目の変更・追加・取消しを認めません。また、閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録後、登録科目一覧画面を印刷、あるいは履修申告用紙をコピーし、時間割とともに控えとして保管してください。期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分になることとなります。（学則第188条）

(3) 学事 Web システムによる申告日程

4月14日（金）8時30分～4月15日（土）15時、4月17日（月）8時30分～15時

期間中は何回でも履修の修正が可能です。最終日に初めて申告するのではなく、なるべく早いうちから申告を行うようにしてください。ただし、毎日午前4時から1時間程度は定期メンテナンスのためシステムの稼働を停止しています。

(4) 履修申告用紙による履修申告日（履修申告用紙提出日）

4月14日（金）8時45分～16時45分 学事センター前受付ボックス

(5) 履修に関する疑問点、その他については履修申告の前日までに、学習指導担当または学事センター窓口にお問い合わせください。

(6) 履修申告科目確認表（履修申告した授業科目のリスト）は5月上旬に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題（申告漏れ、科目間違い等）については大学側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間（詳しくは掲示により指示します）で、この期間経過後は確認は終了したものとみなします。

(7) 時間割は変更することがありますので、掲示で確認のうえ申告してください。

(8) 登録されていない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。

2. 外書演習・外国語特殊・外国語演習 S・専門演習の事前登録および関連課題研究 D の履修者数調整について

専攻科目 類のうち外書演習・外国語特殊・外国語演習 S・専門演習については、履修申告の前に事前登録が必要です。事前登録を怠ると履修できませんので十分注意してください。あわせて別紙「専攻科目 類ガイダンスについて」および「専攻科目 類履修希望クラスの申告について」を参照してください。また、関連課題研究 D についても、履修者数の事前調整を行う予定です。詳細は 41 ページ以降の講義要綱・シラバス部分で確認してください。

3. 分野の選択について

履修科目により登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合（従来の A 欄申告）と、各自分野を選択しなければならない場合があります（申告の際は 2 桁の B 欄分野番号を登録します）。

登録番号のみで自動的に分野が登録される科目（従来の A 欄申告、通常はこちら）

・商学部 3・4 年設置の授業科目
・商学部 1・2 年設置の授業科目（日吉設置）
・履修案内 37 ページに掲載の他学部設置総合教育科目
・（自主選択科目として登録する）「全学部共通 外国語科目履修案内」（以下の URL 参照）に掲載の他学部設置科目 http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/index.html
・（自主選択科目として登録する）諸研究所（センターを含む）設置科目 教職課程センター設置科目は「自由科目」として登録されます。 体育研究所設置科目は「総合教育科目 類」として登録されます。 諸研究所（センターを含む）設置科目を関連科目や自由科目で登録したいときは B 欄分野番号を登録して申告してください。（次頁参照）

次頁＜分野を選択する場合＞の表のうち自主選択科目の欄も参照してください。

分野を選択する場合（2桁のB欄分野番号を登録）

・下表に示される科目を履修する場合はB欄で申し、その際分野欄には2桁のB欄分野番号を登録してください。

科目種類		授業科目	B欄分野
専攻科目類	関連科目	他学部および諸研究所（センター等を含む）に設置されている科目で教授会が適当と認める授業科目（29ページ参照）	41
自主選択科目	第3・4学年 配当科目	外書演習(2) 外国語特殊(2) 外国語演習S(2) 専門演習(2) 関連課題研究D(4) (ただし、自主選択科目として履修する場合) 他学部設置の授業科目（前頁の科目は除く）	51
自由科目	自由科目 (*卒業単位には含まれません)	商学部設置科目（必修科目は、履修を許可された場合のみ） 他学部設置の授業科目 言語文化研究所設置講座 メディア・コミュニケーション研究所設置講座 体育研究所設置講座 福澤研究センター設置講座 外国語教育研究センター設置講座 国際センター設置講座 保健管理センター設置講座 情報処理教育室設置講座 知的資産センター設置講座 外国語学校設置講座のうち、商学部および他学部には設置されていない外国語（2006年度は対象科目無し）	60
	自由科目 (*卒業単位には含まれません)	メディア・コミュニケーション研究所研究生として履修するメディア・コミュニケーション研究所設置講座 教育免許取得のために履修する教職課程授業科目	61

4. 学事 Web システムの利用方法

学内のパソコンからは無論のこと、自宅や海外からでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システムを利用して履修申告や登録済科目の確認、また休講・補講情報の確認などが可能です。

学事 Web システムを利用するためには ID（学籍番号）と事前に通知したパスワードが必要です。このパスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまでの間使用することになります。すべて個人管理になりますので忘れないように十分注意してください。

学事 Web システムには以下の6つの機能があります。

履修申告（履修申告期間中は、何度でも修正できます）

登録済科目の確認（履修申告終了後の、ある一定の期間に自分の登録した科目を Web 上で確認できます）

休講・補講情報の確認

パスワード変更

受付確認メールの送付先アドレスの変更

学生呼出情報の確認

また、携帯電話では上記のうち、休講・補講情報の確認、パスワード変更、学生呼出情報の確認を行うことができます。

... 注 意 ...

学事 Web システムは、4月3日（月）から休講・補講情報の確認ができます。必ず4月7日（金）までにログインできることを確認してください。もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4月7日（金）までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください。（2004年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合は2006年3月に送付した成績表に印字されています）

また、学内のパソコンを利用するための Windows パスワードを忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター（ITC。大学院校舎地階）で変更申請の手続きを行ってください。（ただし学事 Web システムは学内のパソコンに限らず、インターネットに繋がるパソコンがあれば、自宅などからでも利用できます）

学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは別になりますのでご注意ください。

（学事 Web システムのユーザー名） 学籍番号
（Windows アカウントのユーザー名） f * * * * *

(1) 学事Web システム操作上の注意

複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。

学事 Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。

学事 Web システムは 30 分間何も操作をしないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。

ブラウザの [戻る] ボタンや [進む] ボタンを何度も押ししたり、30 分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の [登録] ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。

学事 Web システムは、各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わないと、ログインできない場合があります。各種設定方法については、学事 Web システムのブラウザ用トップページ (http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html) からのリンクを参照してください。

(2) 履修の申告

2006 年度の学事 Web システムを利用しての履修申告日程と学事 Web システムの URL は以下のとおりです。

日程：4月14日(金)8時30分～4月15日(土)15時、4月17日(月)8時30分～15時
学事 Web システムの URL <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

受付期間中に時間割の変更がある場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要であれば締切りまでに再申告(申告の修正)を行ってください。

学事 Web システムトップページ

上記 URL にアクセスし [ブラウザー用] をクリックしてください。

履修申告は「Internet Explorer」や「Netscape」などの標準ブラウザを使用してください。携帯端末用メニューからは操作できません。



学事 Web システムブラウザ用トップページ

学事 Web システムの操作方法 (特にログインできない場合などの説明) や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。[ログイン画面へ] ボタンをクリックしてください。



ログイン

「ID (学籍番号)」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。画面がうまく表示されない場合は、前述の画面の「ログインできない時は」を選択し、ブラウザの設定方法等を確認してください。

この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

複数のブラウザを起動して、同時にログインしないでください。

トップメニュー画面

右の画面 (トップメニュー画面) の「メールアドレス登録・変更」から、履修登録後に送信される受付確認メールの送信先の登録・変更ができます。確認できる状態の電子メールアドレスを登録してください。

変更する場合には、新たに登録する電子メールアドレスを 2 箇所入力し (再入力欄にも同じものを入力する)、[登録] ボタンをクリックしてください。

(学事センターからの連絡や呼出しなどがある場合、ログイン後のこの画面に表示されることがあります)

(注意) 学事 Web システムに登録されているメールアドレスについて
学事 Web システムに登録されているメールアドレスについて、アドレスの登録間違いにより、履修登録が実行された際に送信するメールが不着になるケースが多発しています。履修申告前に必ず、学事 Web システムに登録されているメールアドレスをご確認ください。

学事 Web システムには学校配付のメールアドレス (*****@mita.cc.keio.ac.jp 等) を登録し、個人所有のメールアドレスに送りたい場合は転送設定をご利用ください。

メールアドレスのユーザー名 (例: '*****@mita.cc.keio.ac.jp' の ***** 部分) は変更できません。またユーザー名のみ登録しても届きません。ご注意ください。

履修申告メイン画面

[履修申告] ボタンをクリック後、[Web による履修申告上の注意] をクリックし、必ず注意文を熟読してください。その後、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。

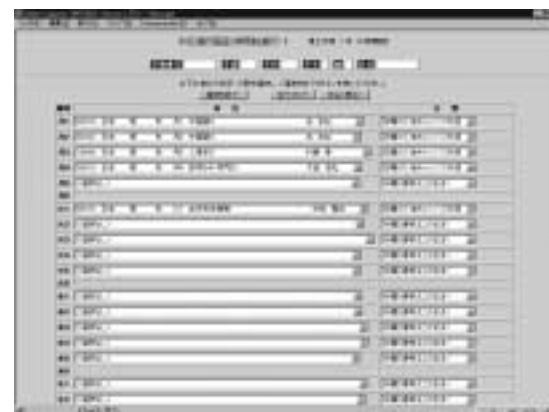
科目の選択

右の画面が「履修申告メイン画面」になります。(a) と (b) の 2 通りの方法で科目の選択ができます。

(a) 時間割から科目を選択するとき

[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから、[時間割から選択] ボタンをクリックしてください (初期設定では自分の所属する学部・学科および学年が自動的に指定されています)。

科目選択画面 (時間割選択) が表示されますので、曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択してください。他学部の科目を履修する場合などで、分野を「A 欄」以外で選択する場合は前項「3. 分野の選択について」(16・17 ページ) をよく読んでください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。



(b) 登録番号から科目を選択するとき

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面(登録番号)が表示されますので、履修書類配付時に配付された時間割表に記載されている5桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、科目情報 欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認したうえで、最後に[選択を終了] を押してください。

(a) (b) いずれの方法も、分野(A・B欄)の選択方法は同じですので、「3. 分野の選択について」(16・17ページ)を参照してください。

(a) (b) の手順は、連続して行うことができます。

「すでに登録されています」と表示される「研究会」については過年度分です。新学年分の研究会は新たに登録しなければなりません。同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度[選択を終了] を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。



選択した科目の確認

で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。

(選択直後は 状態 欄に「未登録」として表示されます)



選択した科目を取り消す場合

の画面から、取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。

選択した科目の登録

選択されている科目を確認したら、画面一番下の[登録] ボタンを押してください。 および で行った内容はこの[登録] ボタンを押すまで有効になりません。

登録結果表示の確認

履修申告メイン画面の[登録] ボタンをクリックすると、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます(エラーメッセージの詳細については、の「履修申告メイン画面」のSTEP 2の横にある[エラーの詳細説明]をクリックし、参照してください)。右端の「状態」欄が「保留中」の場合、エラー科目があるためにすべての科目が未登録です。エラー内容を確認し登録し直してください。「保留中」と表示されている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。さらに、上部の「現在の登録状況」に必要な条件不足・不備等のメッセージが表示されていないか確認してください。不足・不備がある場合は登録し直してください。この画面を控えとしてプリントアウトしておくことをお勧めします。

登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンをクリックし、からの手順を再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[履修申告を終了する] ボタンを押してください。

ここで Web ブラウザーを終了しないでください。(ブラウザの右上の×印をクリックして閉じないでください)



受付確認メール

[登録] ボタンを押した後、正常にログアウトする際、で登録されているメールアドレスへ受付確認メールが送信されます。

でメールアドレスの登録を行っていない場合は、一時的な受付メールの送信先を指定できる画面が表示されます。メールアドレスを入力し[指定する] ボタンを押してください。受付番号と受付メールの送信先が表示され、確認メールがそのアドレス宛に送

信されます(この場合は、メールアドレスの登録はされません)。「指定しない」ボタンを押すと、受付番号のみ表示されます。

なお、hotmail等のWebメールを使用した場合、受付確認メールが字化けすることがあります。他のプロバイダーのアドレスを指定するか、学校配付のメールアドレスを指定するようにしてください(参照)。また、携帯電話のメールアドレスを指定した場合は、正しく送信されない可能性がありますので、使用を避けてください。

すべての作業終了後は「ログアウト」ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

(3) 登録済科目確認

履修申告で登録された科目は、4月20日(木)9時(予定)より、学事Webシステムを利用して再度確認することができます。ただし、5月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

前述(2)の(トップメニュー画面)までは、同様の操作です。画面上の、「登録済科目確認」ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

(4) 休講・補講情報の確認

学事Webシステムから、全キャンパスの休講・補講情報をWebを利用して確認することができます。またこのサービスは、携帯電話からも同様に見ることができます。

なお、公式の情報は大学の掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。また、代替講義日の休講は、通常講義と異なり学事Webシステムの休講情報では対応していませんので、以下のページおよび各キャンパスの学部掲示板で確認してください。

(塾生ページ URL) <http://www.gakuji.keio.ac.jp/>

[ブラウザ編]

(2)の から までを参照して、学事Webシステムにログインしてください。

(2)の(トップメニュー画面)の画面から「休講補講情報」ボタンをクリックしてください。

自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、「休講・補講情報を検索する」ボタンをクリックしてください。



休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された(したがって通常どおり実施する)科目 となりますので注意してください。確認後は「ログアウト」ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

[携帯端末編]

学事WebシステムのURL(<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>)を携帯電話の画面から入力(詳しくは携帯電話の説明書をお読みください)し、(2)の画面上で「携帯端末用メニュー」を選択してください。以後、Web休講・補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事WebシステムのURLをブックマーク等に登録しておくことと便利です。(詳しくは使用している携帯電話の説明書で確認してください)

「i-mode専用」もしくは「i-mode以外の携帯端末」のいずれかを選択してください。

「サーバー1」もしくは「サーバー2」のどちらかを選択してください。選択は任意です。

「学籍番号」と(2)で説明のあった「学事Webシステムパスワード」を入力し、「ログイン」ボタンを押してください。

この画面から「休講情報」あるいは「補講情報」ボタンを押してください。

パスワードの変更もこの画面からできますが、ここでは説明を省きます。後述の(5)を参照してください。

自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から1週間後までの情報が表示されます。休講・補講情報の確認が終了したら、「検索画面へ戻る」ボタンを押してください。

(5) パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってくだ

さい。

前述(2)の(トップメニュー画面)の画面から,[パスワード変更]ボタンをクリックしてください。

「現在のパスワード」を入力し,「新パスワード」を2箇所入力後(再入力欄にも同じものを入力する),[パスワード変更]ボタンをクリックしてください。

【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください(大文字/小文字を区別します)。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に学内のパソコンを利用するためのWindows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください(17ページ「注意」参照)。



5. 履修申告用紙(マークシート)での申告について

Webによる履修申告がやむをえずできない場合には、以下の日程で履修申告用紙(マークシート)を配付します。以下の提出日を過ぎると申告用紙での申告はできません。

履修申告用紙配付日・場所

4月10日(月)・11日(火) 学事センター

履修申告用紙提出日・場所

4月14日(金) 8時45分~16時45分 学事センター前受付ボックス

履修申告用紙記入の際は、以下の点に注意してください

- (1) 授業科目名,担当者名と登録番号(5桁)を十分確認してください。

1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義等,曜日・時限が複数にわたって開講している授業科目についても,登録番号は1つだけです。その登録番号を1つ登録することで他の時限についても登録されます。この場合,どの曜日・時限にも別の科目を登録することはできませんので注意してください。

また,商学部設置科目のうち,他学部・諸研究所と併設している科目(30ページ参照)については,必ず商学部の設置科目を履修しなければなりません。商学部の時間割の登録番号で登録してください。

- (2) HBかBの鉛筆を使用してください。誤記,記入漏れがないように,丁寧に記入してください。

特に「0」と「1」のマークミス等に注意してください。

- (3) 学籍等の記入方法

学部,学年,組,氏名,学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに,該当する数字をマークしてください。

- (4) A欄記入上の注意事項(16ページの登録番号のみで自動的に分野が登録される科目を申告)

ア 形態欄:その科目の形態(春学期・秋学期・通年)を で囲み,曜日・時限を記入します。

イ 科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は,時間割上段に記載されている教員名を記入します。

ウ 登録番号欄:履修する授業科目の時間割表記載の登録番号5桁を記入し,マークします。

- (5) B欄記入上の注意事項

ア 形態欄:その科目の形態(春学期・秋学期・通年)を で囲み,曜日・時限を記入します。

イ 科目名・教員名を記入します。

ウ 登録番号欄:履修する授業科目の時間割表記載の登録番号5桁を記入し,マークします。

エ 分野欄:2桁の履修申告用B欄分野番号を記入し,マークします。(17ページの分野を選択する場合を参照)

- (6) 「無効マーク」(A欄・B欄に共通)にマークすると,その枠内について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが,跡が残ったり,黒くこすれたりした場合は,「無効マーク」を利用してください。

- (7) 履修申告用紙の再交付について

履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は,なるべく無効マーク欄を使用して無効にしたうえで正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので,その履修申告用紙を持参のうえ,学事センター窓口申し出てください。

交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センター窓口申し出てください。

履 修 要 項

開講科目と単位数

2006年度に商学部が三田に設置する科目と単位数は次のとおりです。授業には週1回開講される通年科目，春学期または秋学期のみに毎週2回開講される集中科目，および週1回の春学期または秋学期のみの半期科目があります。

(注) 新カリキュラム導入に伴い，*がついている科目は2007年度以降休講になります。履修希望者は2006年度中に履修してください。

なお，*がついていない科目でも2007年度に予告なく休講になる場合があります。

1. 総合教育科目

分類	科 目 名	単位数
類	自然科学概論	2
	自然科学概論	2
類	人間と音楽	2
	人間と音楽	2
	人の尊厳(社会と人権)	2
類	西洋文明学説史	4
	日本文明学説史	4

2. 専攻科目

(1) 類

科 目 名	単位数
* 外書演習	2
* 外国語特殊(ドイツ語口語表現)	2
* 外国語特殊(フランス語上級 - 講読)	2
* 外国語特殊(フランス語上級 - 演習)	2
外国語特殊(中国語中・上級)	2
* 外国語特殊(スペイン語)	2
外国語演習S(英語)	2
関連課題研究D	4
* 専門演習	2
* 専門外国書研究(独書)	2
* 専門外国書研究(仏書)	2
研究会	8または4

他学部設置の研究会は専攻科目 類として履修することはできません。

(2) 類

専攻分野に関する科目

(注) 次の表で備考欄が空白の科目は通年科目です。

なお，各論的科目は今年度開講されていても来年度必ずしも開講されるとは限りません。

特定期間集中の科目は，掲示板でその期間を確認してください。

専攻科目の科目名について

履修案内その他において「～各論」と表記されている科目について，学部学則では「～各論」・「～各論」と表記しています。繁雑さを避けるため通常使用するに当たっては「～各論」という表記に統一します。

分野		科目名	単位数	備考	
経営	A 経営	《総論的科目》			
		*現代企業経営論	4		
		*経営管理論	4		
		*経営学説史	4		
		《各論的科目》			
		現代企業経営各論（企業制度）	2	秋学期	
		現代企業経営各論（企業戦略）	2	秋学期	
		現代企業経営各論（企業評価）	2	春学期	
		現代企業経営各論（企業倫理）	2	春学期	
		現代企業経営各論（経営経済）	2	秋学期	
		現代企業経営各論（経営情報論）	2	春学期	
		現代企業経営各論（経営組織）	2	春学期	
		現代企業経営各論（組織文化論）	2	秋学期	
		現代企業経営各論（中小企業経営）	2	秋学期	
現代企業経営各論（比較経営論）	2	秋学期			
経営管理各論		休講			
経営学説史各論		休講			
会計	B 会計	《総論的科目》			
		財務会計論	4		
		管理会計論	4		
		会計史	4		
		(注)「管理会計論」は2007年度以降も開講されませんが、2006年度以前に「管理会計各論（原価計算論）」の単位を取得済みの場合は、2007年度以降は履修できません。			
		《各論的科目》			
		財務会計各論（会計基礎理論）	2	春学期	
		財務会計各論（会計測定論）	4		
		財務会計各論（現行会計基準概論）	2	秋学期	
		財務会計各論（国際会計論）	2	春学期	
		財務会計各論（税務会計論）	2	春学期	
		財務会計各論（税務会計論）	2	秋学期	
		財務会計各論（退職給付会計論）	2	春学期	
		財務会計各論（非営利法人会計論）	2	春学期	
財務会計各論（非営利法人会計論）	2	秋学期			
会計監査各論（実態監査と情報監査）	2	春学期			
*管理会計各論（原価計算論）	4				
会計史各論		休講			
商業	C 商業	《総論的科目》			
		マクロ・マーケティング論	4		
		ミクロ・マーケティング論	4		
		(注)「マクロ・マーケティング論」「ミクロ・マーケティング論」は2007年度以降も開講されませんが、前者は2006年度以前に「マクロ・マーケティング各論(マーケティング学説史)」の単位を取得済みの場合、後者は2006年度以前に「マクロ・マーケティング各論(マーケティング史)」の単位を取得済みの場合は、2007年度以降は履修できません。			
		《各論的科目》			
		*マクロ・マーケティング各論（マーケティング学説史）	2	秋学期	
		*マクロ・マーケティング各論（マーケティング史）	2	春学期	
		マクロ・マーケティング各論（流通論）	2	春学期	
		ミクロ・マーケティング各論（グローバル・マーケティング論）	2	秋学期	
		ミクロ・マーケティング各論（広告論）	2	秋学期	
		ミクロ・マーケティング各論（消費者行動論）	2	春学期	
		ミクロ・マーケティング各論（製品開発論）	2	春学期	
		ミクロ・マーケティング各論（マーケティング経済学）	2	秋学期	
		ミクロ・マーケティング各論（マーケティング・リサーチ）	2	春学期	

経 済 ・ 産 業	D 国際経済	《総論的科目》		
		国際経済学	4	
		世界経済論	4	
		国際金融論	4	
		《各論的科目》		
		国際経済学各論（国際経済政策論）	2	春 学 期
		世界経済各論（国際開発協力論）	2	春 学 期
		世界経済各論（中国経済論）	2	秋 学 期
	国際金融各論（国際金融システム論）	2	秋 学 期	
	E 計量経済	《総論的科目》		
		理論経済学	4	春学期集中
		経済政策	4	
		経済統計	4	
		計量経済学	4	
		《各論的科目》		
		理論経済学各論（応用ミクロ経済学）	2	春 学 期
理論経済学各論（経済成長論）		2	秋 学 期	
経済政策各論			休 講	
経済統計各論（数理統計基礎）		2	春 学 期	
経済統計各論（統計の推論）	2	秋 学 期		
計量経済学各論（応用計量経済学）	2	春 学 期		
F 金融・保険	《総論的科目》			
	金融論	4	春学期集中	
	財政学	4		
	証券経済論	4		
	保険学	4		
	《各論的科目》			
	金融各論（企業金融論）	2	秋 学 期	
	金融各論（資本市場論）	2	春 学 期	
	財政学各論		休 講	
	証券経済各論（証券制度論）	2	秋 学 期	
	保険学各論（生命保険論）	2	春 学 期	
	保険学各論（損害保険論）	2	春 学 期	
保険学各論（保険経営論）	2	秋 学 期		
保険学各論（保険数理論）	2	秋 学 期		
リスク・マネジメント各論（現代社会とリスク）	2	秋 学 期		
G 産業・交通	《総論的科目》			
	産業組織論	4	春学期集中 休 講	
	サービス経済学			
	交通経済論	4		
	《各論的科目》			
	産業組織各論（規制の経済学）	2	春 学 期	
	産業組織各論（産業組織と企業戦略）	2	春 学 期	
	産業組織各論（社会問題の経済学）	2	秋 学 期	
サービス経済学各論		休 講		
交通経済各論（経済地理）	4			
交通経済各論（国際交通論）	2	春 学 期		
H 労働・社会	《総論的科目》			
	労働経済学	4		
	産業関係論	4		
	産業社会学	4		
	組織心理学	4		
	社会保障論	4		

経済・産業		《各論的科目》		
		労働経済学各論		休 講
		産業関係各論（労務管理論）	4	
		産業社会学各論（経営社会学）	4	
		組織心理学各論		休 講
		社会保障各論		休 講
	I 産業史・経営史	《総論的科目》		
		産業史	2	春 学 期
		経営史	2	春 学 期
		《各論的科目》		
	産業史各論（科学技術政策史）	2	春 学 期	
	産業史各論（比較小売業史）	2	秋 学 期	
	経営史各論（アメリカ経営史）	2	春 学 期	

その他の科目

科 目 名	単位数	備 考
ブランド創造とコミュニケーションの新展開（寄附講座）	4	
資産運用の理論と実務（寄附講座）	2	春 学 期
現代の企業金融（寄附講座）	2	秋 学 期
21世紀のマネジメント（特別講座）	2	秋 学 期
数学各論（確率解析）	2	秋 学 期
数学各論（経済数学基礎）	2	春 学 期
数学各論（ゲーム理論）	2	春 学 期
数学各論（最適化理論）	2	秋 学 期
情報処理（電子計算概論）	4	
情報処理		休 講
法学各論（民法）	4	
法学各論（民法）	4	
法学各論（商法）	4	
法学各論（商法）	4	
法学各論（経済法）	4	春学期集中
法学各論（労働法）	4	
ジャパニーズ・エコノミー	2	春 学 期
経済学史	4	
環境の経済・経営・商業・会計	2	春 学 期
イノベーションの経済・経営・商業・会計	2	春 学 期
非営利組織の経済・経営・商業・会計	2	秋 学 期
戦略の経済・経営・商業・会計	2	秋 学 期

3. 自主選択科目

科 目 名	単位数	備 考
中国語第 XX（表現練習）	2	
イタリア語	2	
ロシア語	2	
朝鮮語（初級）	2	
朝鮮語（中級）	2	
アラビア語	2	
ギリシャ語	2	
ラテン語	2	

卒業および進級所要単位数

「学部学則」をあわせて参照してください。

1. 卒業所要単位数

授業科目の種類			所要単位数
総合教育科目	類	6単位以上必要 4単位まで算入	20
	類		
外国語科目	英語，ドイツ語，フランス語，中国語， スペイン語のうちから2か国語各8単位		16
基礎科目	類	6	14
	類A群	4	
	類B群	2	
	類C群	2	
専攻科目	類	4	12
	類	8	46
	類	2単位以上必要	
自主選択科目	所要単位 第1・2学年 8単位（第1・2学年で履修合格したもの） 第3・4学年 12単位（第3・4学年で履修合格したもの） （この所要単位数には総合教育科目・基礎科目・専攻科目のうち所定単 位数を超えて履修合格した単位は，自動的に，自主選択科目として算 入されます。また，履修学年には充分注意してください。）		8
			12
合 計			128
第4学年における必要取得単位数.....			12単位以上
第3・4学年を通じて履修し合格しなければならない単位数.....			58単位
（内訳：専攻科目 ・ 類と第3・4学年の自主選択科目）			
（不合格のため再履修した第1・2学年配当の必修科目および所定単位不足の選択科目（総合教育科目， 基礎科目 類，専攻科目 ・ 類）は，この58単位に含まれません）			

- 1) 関連科目は専攻科目 類のなかに8単位まで卒業所要単位として算入されます。
- 2) 自主選択科目については，上の表の内訳にあるように，3・4年では12単位分その枠が用意されています。
商学部が自主選択科目として設置している科目をそのまま履修する他に，他学部や諸研究所の科目を自主選択科目として履修する，又は勉強をさらに深めたい者は，総合教育科目・基礎科目・専攻科目の内必須とされている単位数以上に履修し合格した場合，その単位は12単位を上限に，自動的に自主選択科目として算入されます。
- 3) 第4学年においては最低12単位以上，第3・4学年を通じて58単位以上履修し，合格しなければなりません。
- 4) 自由科目は卒業所要単位には算入されません。

2. 第4学年への進級所要単位数

第4学年に進級するためには専攻科目 類，専攻科目 類，および関連科目，総合教育科目，自主選択科目のうちから最低12単位履修合格しなければなりません。1単位でも不足すると不合格となりますので注意してください。

自由科目は進級所要単位には算入されません。

関連科目は，何単位履修合格しても卒業・進級単位に算入される単位は，第3・4学年あわせて8単位までです。

総合教育科目 類（体育科目）は何単位合格しても卒業・進級単位に算入される単位は第1～4学年あわせて4単位までです。すでに第1・2学年で 類を取得している場合は，第3学年で取得した4単位を超える分は，進級単位に算入されません。

3. 学士入学者

(1) 卒業所要単位数

授業科目の種類			単位数
専攻科目	類	4	12
	類	8	
	類	2 単位以上必要 } 46	46
	類		
自主選択科目	12単位まで算入		12
合計			70
第4学年における必要取得単位数.....			12単位以上

1) 関連科目は専攻科目 類のなかに 8 単位まで卒業所要単位として算入されます。

2) 自主選択科目は第 3・4 学年において履修した専攻科目のうち 12 単位の範囲内で上記の所定単位数を超えて履修合格した単位をもって充てることができます。

3) 自由科目は卒業所要単位には算入されません。

(2) 第4 学年への進級所要単位数

第 4 学年に進級するためには専攻科目 類, 専攻科目 類, 専攻科目 類, 専攻科目 類, および関連科目 (何単位履修合格しても第 3・4 学年あわせて 8 単位までしか算入されません), 自主選択科目のうちから最低 24 単位履修合格しなければなりません。1 単位でも不足すると不合格となりますので注意してください。自由科目は進級所要単位には算入されません。

履修方法

1. 最高履修単位数について (三田)

1 年に履修できる単位数の最高限度は 50 単位です。限度を超過して申告した履修科目は無効です。ただし, 次の科目の単位数はこれに含まれません。

(1) 不合格のために再履修する第 1・2 学年配当の必修科目 (外国語科目, 基礎科目 類) および単位不足の選択科目 (基礎科目 類, 専攻科目 類)。なお, 選択科目のうち, 単位不足の分については制限外ですが, 余裕をみて余分に履修申告する場合のオーバーする分については制限に含まれます。

(2) 総合教育科目。ただし, (1) と同様, 単位不足の分については制限外ですが, 余裕をみて余分に履修申告する場合のオーバーする分については制限に含まれます。

(3) 自由科目

8 単位以内に限り履修できます。対象科目は 36 ページを参照してください。

(4) 自由科目

単位数の制限はありません。対象科目は 36 ページを参照してください。

2. 研究会の履修について

研究会を履修する学生は, 志望の研究会が行う所定の入ゼミ選考を受け, 担当者に入会許可を得ていなければなりません。また, 第 3・4 学年を通じて履修するものですが, 第 4 学年でのみ 8 単位として履修単位数に算入されます (第 3 学年では履修単位数に算入されません)。ただし, 履修申告は第 3 学年では「研究会 (3 年)」を, 第 4 学年では「研究会 (4 年)」をそれぞれ申告しなければなりません。なお, 研究会を退会した場合は, 学事センターに申し出てください。

(他学部の研究会について)

他学部の研究会を履修する際は関連科目・自主選択科目・自由科目 のいずれかで登録してください。専攻科目 類として履修することはできません。

3. 専門演習の履修について

商学部設置の研究会を履修している人は, 専門演習を専攻科目 類として履修することはできません。自主選択科目として履修してください。(外書演習・外国語特殊・外国語演習 S は専攻科目 類として履修することができます)

4. 自主選択科目の履修について

自主選択科目は商学部が自主選択科目として設置している科目, および他学部 (諸研究所やセンター等を含む) 設置科目のうち商学部設置科目と同一名称の科目および商学部と併設されている科目を除いたものから選択できます。ただし, 第 3・4 学年であわせて 12 単位まで進級・卒業所要単位数に算入されます。

また、第3・4学年において履修した商学部設置科目のうち卒業所定単位数を超えて履修合格した単位を12単位の範囲内で充てることもできます。この場合は改めて自主選択科目として履修申請する必要はありません。なお、「7. 重複履修について」の項も参照してください。

自主選択科目として外書演習・外国語特殊・外国語演習 S・専門演習・関連課題研究 D を履修する場合は、専攻科目の外書演習・外国語特殊・外国語演習 S・専門演習・関連課題研究 D とは区別して B 欄で履修申請してください。ただし、専攻科目として申請したクラスが不合格で自主選択科目として申請したクラスが合格した場合には、そのクラスを専攻科目に振り替えることはできません。また、自主選択科目として希望するクラスに、専攻科目としての希望者が多い場合は専攻科目の希望者を優先します。

他学部の科目および諸研究所設置科目は自由科目や関連科目としても履修できますが、履修申請時に自由科目や関連科目として申請した科目を後に自主選択科目に振り替えることはできません。

5. 関連科目の履修について

三田設置の他学部および諸研究所（センター等を含む）の科目のうち、商学部設置科目と同一名称の科目および商学部に併設されている科目を除いたもので、総合教育科目および外国語科目以外の科目でなくてはなりません。関連科目として認められない科目は、自由科目として登録される場合もありますので注意してください。

第3・4学年を通じて8単位までが専攻科目類として進級・卒業所要単位数に算入されます（8単位を超えた分は、自主選択科目としても算入されません）。ただし、履修単位数は、すべて履修単位数制限に算入されますので注意してください。なお、他学部の科目および諸研究所設置科目は自由科目や自主選択科目としても履修できますが、履修申請時に自由科目や自主選択科目として申請した科目を後に関連科目に振り替えることはできません。

6. 他学部・諸研究所・他地区の履修について

他学部および諸研究所（センター等含む）設置科目を履修する場合、各学部および共通掲示板で履修不可の科目が無いかを確認したうえで、事前に履修を希望する授業科目の担当者の許可を得てから（承認印は不要。口頭承認で可）履修申請してください。諸研究所科目では、事前に手続きが必要なものもありますので、履修案内で確認して必ず済ませておくようにしてください。他学部・諸研究所科目の履修申請の際には、分野の指定が必要になる場合があります。詳細は、16・17 ページの「3. 分野の選択について」の項を参照してください。

日吉設置科目を履修する場合は、三田の設置科目と時間が重複しないように注意してください。特に、時限が連続（例 1 時限三田，2 時限日吉）した履修は不可能ですので注意してください。なお、昼休みを挟んだ場合は可とします。その他の地区の科目を履修する場合も移動時間を十分考慮のうえ履修計画を立ててください。移動不可能と思われる履修申請をした場合は三田の履修科目を無効とします。定期試験は授業時間割と異なる時間帯で試験が行われることがありますので、試験時間割が他の地区の科目と重複することがあります。その場合の取扱いについては試験時間割発表時に掲示しますので、確認して所定の手続きをとってください。

7. 重複履修について

曜日、時限を重複して履修した授業科目は無効です。

同一名称の科目は、同一学年内および学年が異なっても重複して履修することはできません（原則として担当者が異なっている場合でも不可）。ただし、以下の例外があります。

- ・一方の科目を自由科目として履修申請すれば、重複履修が認められます。ただし、自由科目は進級卒業所要単位数に算入されません。履修申請時に自由科目として申請した科目の分野を後に変更することもできません。
- ・自主選択科目として履修可能な外国語科目は科目名が同じでも担当者が異なれば履修を認めます。科目名と担当者が同じでも内容が異なる場合には担当者の承認を得ることを条件に履修を認めます。外書演習・外国語特殊・専門演習は担当者が異なる場合に限り、自主選択科目としての履修を認めます。外国語演習 S，および関連課題研究 D は、担当者が同じでも内容が異なれば履修を認めますが、担当者の承認が必要です。詳細は「4. 自主選択科目の履修について」の項を参照してください。
- ・2004 年度までに「外国語特殊（英語演習）」の単位を取得した者は、2005 年度以降「外国語演習 S（英語）」の履修はできません（同名科目とみなすため）。ただし、担当者が異なる場合に限り、自主選択科目としての履修を認めます。
- ・進級不合格者が同一学年内に単位を取得した科目の成績評価はすべて認められますが、同じ科目を履修上限の 50 単位の枠内で再履修することもできます。この場合評価の良い方がその科目の成績評価として記録されます。ただし自由科目として単位を取得した科目の再履修はできません。
- ・総合教育科目については、例えば「歴史」と「歴史 a」、「歴史 b」は、同一名称の科目とみなすため重複履修できません。ただし、総合教育科目類の諸科目は担当者が異なれば重複履修可能です。同じ担当者の場合は原則重複履修が認められませんが、必要な許可を受ければ履修が可能になります。なお、類の体育実技科目も同名科目を重複履修することができます。商学部と他学部に同じ名称の科目が設置されている場合には、商学部が設置している科目のみ履修することができます。

（例：経済学部・法学部設置「金融論」「経営学」、経済学部設置「産業組織論」「産業社会学」、法学部設置「経済政策」。これらの他学部科目は履修できません。履修申請は無効となります。）

ただし「研究会」については、志望の研究会が行う所定の入ゼミ選考を受け、授業担当者の入会許可を得られれば、他学部のものも履修できます（商学部の「研究会」と他学部の「研究会」の重複履修も可能です）。

商学部と他学部とで併設されている以下の科目を履修する場合は、たとえ科目名が異なっても商学部の設置科目を履修しなければなりません。

商学部設置科目	他学部併設科目（他学部での科目名）
経済統計	（経済学部）経済資料論
交通経済各論（経済地理）	（経済学部）経済地理
経済学史	（経済学部）経済学史
財務会計論	（経済・法学部）会計学
法学各論（労働法）	（経済・法学部）労働法
国際経済学	（法学部）国際経済論
世界経済論	（法学部）国際経済論
法学各論（経済法）	（法学部）経済法

以下の科目は同一名称とみなされる科目の一覧です。同一名称とみなされる科目を重複して履修する場合、両方を卒業単位に含めることはできません。どちらか一方を自由科目として登録してください。

商学部設置科目	同一名称とみなされる他学部設置科目
簿記論	（経済学部）簿記
経済政策	（経済学部）経済政策論
計量経済学	（経済学部）計量経済学
財政学	（経済・法学部）財政論
労働経済学	（経済・法学部）労働経済論
法学各論（民法）	（経済・法学部）民法
法学各論（民法）	（経済・法学部）民法
法学各論（商法）	（経済・法学部）商法
法学各論（商法）	（経済・法学部）商法

8. 第1・2学年の不合格科目の履修について

(1) 日吉でのガイダンスについて

必修の外国語科目に不合格がある者は、三田には特修授業等は設置されていませんので、日吉設置の授業科目を履修しなければなりません。「商学部外国語科目履修案内」をあわせて参照してください。なお、以下のとおり日吉でガイダンスを行いますので必ず出席してください。

4月4日（火）13：00～14：30

英語・ドイツ語履修者	23 番教室
英語・フランス語履修者	J21 番教室
英語・中国語履修者	J24 番教室
英語・スペイン語履修者	26 番教室

(2) 不合格のために再履修する第1・2学年設置の以下の必修科目は第3学年で履修することを原則とします。第3学年で単位が取得できない場合、第4学年で履修しなければなりません。授業時間割が重複したり、定期試験で日吉・三田の試験が重複して受験できず卒業できなくなることがありますので注意してください。

外国語科目 2 か国語 16 単位

基礎科目 類 6 単位

基礎科目 類 A 群 4 単位， 類 B 群 2 単位， 類 C 群 2 単位

専攻科目 類 4 単位， 類 8 単位

なお、総合教育科目は卒業までに 20 単位必要になりますが、第3学年での履修の仕方および成績によっては、第4学年に進級できても第4学年の履修申告時点で卒業できないことが決定する場合があります。卒業所要単位を考慮に入れて誤りがないよう十分に注意してください。

新カリキュラム導入に伴う注意事項

商学部は2005年度入学者より新カリキュラムが導入されました。ただし、2004年度以前の入学者の卒業・進級条件は変わりません。第1学年の不合格科目を再履修する際には、「2004年度以前入学者用」の時間割で履修クラスを確認するようにしてください。

また、日吉設置の総合教育科目は半期科目移行に伴い、以下のように多くの科目名が変更となっています。

[総合教育科目 半期科目移行に伴う科目の見方]

- ・科目名の末尾に ， がつくもの
半期完結型科目で成績は， が春， が秋にそれぞれつきます。
先習条件 がある場合やセットでの履修が推奨されている場合もありますので，シラバスで確認してください。
「 」を履修するには，原則として「 」を履修しなければならない。
- ・科目名の末尾に a, b がつくもの
セット履修しなければいけない科目で，成績は a, b いずれにも学年末につきます。
- ・科目名に D, S がつくもの
科目名の D は通年もしくは半期集中科目で 4 単位，S は半期科目で 2 単位になります。

科目廃止に伴う注意点

旧学則科目は，以下の表のとおり，新学則科目と併設（合同授業）になります。

	旧学則科目名	旧学則 単位数	新学則科目名	新学則 単位数
基礎 類	経済学	4	経済学基礎	2
			経済学基礎	2
	商学概論	2	基本簿記と財務諸表の見方	2
			経営学（環境と戦略）	2
			経営学（組織と管理）	2
			商業学	2
基礎 A	情報処理	4	情報リテラシー基礎	4
情報処理	4	データとの対話 D	4	
社会科学の考え方	4	社会科学概論 ・	2 × 2	
		近代思想史 ・（登録番号91578(金・4)）	2 × 2	
基礎 B	簿記論	4	簿記 ・（経済学部用科目）	2 × 2
	数学基礎	2	休講	
	微分法	2	微積分	2
			微積分	2
	線形代数	2	線形代数（自主強化科目）	2
	数理計画法	2	ゲーム理論基礎（自主強化科目）	2
解析	2	中級線形代数	2	
基礎 C	解析	2	中級微積分	2
	統計学	2	統計学	2
専攻 類	経済史	4	統計学	2
			統計学	2
	私法基礎	4	経済史	2
			経済史	2
	社会経済学	4	私法基礎	2
			私法基礎	2
専攻 類	経営学	4	社会経済学	2
			社会経済学	2
	商業学	4	経営学（環境と戦略）	2
			経営学（組織と管理）	2
	産業経済論	4	商業学	2
			商業学	2
会計学	4	産業経済論 a	2	
		産業経済論 b	2	
理論経済学	4	財務会計論	4	
		経済学	2	
			経済学	2

「商学概論」選択の注意

	経営学既習者もしくは 履修希望者	商業学既習者もしくは 履修希望者
基本簿記と財務諸表の見方		
経営学（環境と戦略）	×	
経営学（組織と管理）	×	
商業学		×
商業学		×

は履修可，×は履修不可

「微分法」選択の注意

「微分法（微積分）」、「微分法（微積分）」として、2科目とも履修が可能ですが、その場合には、どちらかを自由科目として申告してください。どちらを自由科目とするかは選択することが出来ませんが、「微分法（微積分）」を自由科目にすることをお勧めします。（履修申告後の基礎科目 類 B 群と、自由科目の単位交換は認めません。）

時間割の見方（例）

時間割には、以下のように表記されます。

商学概論（基本簿記と財務諸表の見方）

社会科学の考え方（社会学概論・）

- (3) 中国語第 が不合格の場合、日吉設置の特修クラス中国語第 X を履修しなければなりません。中国語第 X は 2 つ設置されますが、クラス指定になります。履修者は、学事センターで自分の履修クラスを確認してください。なお、クラス変更に関する注意事項および所定の用紙は学事センター窓口で配付しています。間違ったクラスで履修した場合、成績が付きませんので、十分に気を付けてください。

9. 学士入学者の履修について

上記の事項とあわせて次の事項にも注意してください。

学士入学する以前の学部において取得した単位を認定する場合がありますので認定を希望するものは学習指導に申し出てください。

学士入学する以前の学部における履修状況により、学習指導が商学部の必修科目（基礎科目 類）の商学概論、経済学を自主選択科目 12 単位のうちで、履修を指定する場合がありますので学士入学者は 4 月に必ずガイダンスを受けてください。

その他

1. 退学処分について

4 年間で第 3 学年に進級し得ない者および第 3・4 学年併せて 4 年在学し卒業し得ない者は学則第 156 条により退学処分となります。

大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められたとき、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できないときなどには学則第 188 条により退学処分となります。

2. 再試験について

商学部学生に対しては再試験は行いませんので注意してください。

3. 学業成績について

学業成績の評語は、A、B、C、D の 4 段階で示されます。A、B、C は合格、D は不合格です。所定の授業に出席し、評価試験（定期試験またはレポート）を受けた後に評語が決まります。また、教授会が認めた特定の授業科目は、評語を P、F の 2 種とし、P を合格、F を不合格とします。なお、他大学等で履修した科目の単位を認定した場合は、G とします。

商学部所属の学生で履修した科目の成績評語に対して、確固たる根拠をもって問い合わせたいと考える者は、質問制度を利用することができます。詳細は、提出期限を掲示で確認のうえ、学事センター窓口にお問い合わせください。なお、提出期限を過ぎたものはいかなる理由があっても一切受け付けませんので注意してください。また、この制度を利用せずに、直接授業担当者に問い合わせることはできません。不正行為とみなされる場合もありますので注意してください。

商学部の分野番号表（下線のついてる科目は今年度開講されません）

科目種類 (括弧内は卒業所要単位数)	分野	授業科目	申告欄	B欄分野	
総合教育科目 (20単位以上)	類 (6単位以上)	01-01-01	心理学(4) 心理学・(各2) 地学(4) 地学・(各2) 地学a・b(各2) 天文学(4) 天文学・(各2) 天文学a・b(各2) 宇宙の科学(2) 生命の科学(2) 宇宙と生命(4) 宇宙と人間(4) 人類学(4) 人類学・(各2) 生命現象の分子科学(2) 動物の科学(2) 植物の科学(2) 健康科学(2) 自然人類学(2) 生態学(2) 地球科学概論(2) 基礎の数学(2) 現代化学概論(2) 現代生物学概論(2) 自然科学概論・(各2)	A欄	
		01-01-02	物理学(6) 物理学・(実験を含む)(各3) 化学(6) 化学・(実験を含む)(各3) 生物学(6) 生物学・(実験を含む)(各3)		
		01-01-03	総合教育セミナー(類)(2または4) 総合教育セミナーS(類)(2) 総合教育セミナーD(類)(4)		
	類	01-02-01	哲学(4) 哲学・(各2) 哲学a・b(各2) 倫理学(4) 倫理学・(各2) 倫理学a・b(各2) 論理学(4) 論理学・(各2) 論理学a・b(各2) 宗教学(4) 宗教学・(各2) 宗教学a・b(各2) 歴史(4) 歴史・(各2) 歴史a・b(各2) 科学史(2) 科学史～(各2) 文学(4) 文学・(各2) 文学a・b(各2) 漢文(4) 漢文a・b(各2) 国語国文(4) 国語国文・(各2) 国語国文a・b(各2) 音楽(4) 音楽・(各2) 音楽a・b(各2) 美術(4) 美術・(各2) 美術a・b(各2) 民族音楽学(4) 地域研究(2または4) 経済人類学(4) 経済人類学a・b(各2) 言語認識論(2) 現代メディア論(2) 論理学序論(2) 論理学本論(2) 現代思想論(2) 現代芸術論(2) 身体文化論(2) 映像・音響文化論(2) 文化人類学(2) 造形・デザイン論(2) 地域文化論(2) 地域文化論～(各2) 女性学(2) 現代日本史(2) 現代世界史(2) 言語・文化論(2) 言語・社会論(2) 地域生態文化論(2) 言語学(4) 言語学～(各2) ジェンダー論・(各2) 住宅・建築史概論(2) 人の尊厳(社会と人権)(2) 人文総合講座(2) 中国事情(2) 人間と音楽・(各2)		
		01-02-02	法学(憲法を含む)(4) 法学・(憲法を含む)(各2) 政治学(4) 政治学・(各2) 社会学(4) 社会学・(各2) 社会学a・b(各2) 近代思想史(2または4) 近代思想史・(各2) 近代思想史a・b(各2) 地理学(4) 地理学・(各2) 地理学a・b(各2) 社会科学概論(4) 社会科学概論・(各2) 現代社会論(2) 日本の政治(2) 世界の政治(2) 社会心理学・(各2)		
		01-02-03	総合教育セミナー(類)(2または4) 総合教育セミナーS(類)(2) 総合教育セミナーD(類)(4)		
	類	01-03-01	日本の産業と経営(2) 社会との対話(2) 社会との対話(2または4) 社会との対話D(4) 社会との対話S(2) 21世紀の実学(2)		
		01-03-02	放送文化とヴァチュアル・リアリティ(2) 情報文化とヴァチュアル・リアリティ(2) 地域と文化(4) 比較文化論(4) 比較文化論a・b(各2) 表象文化論(4) 表象文化論a・b(各2) 身体/感覚文化(2) 日本文明学説史(4) 西洋文明学説史(4) 自然とヒト(4) ラテンアメリカ研究(4) ラテンアメリカ研究a・b(各2) 文明学説史(4) 文明学説史・(各2) 戦争と社会(2) 近代日本と福澤諭吉(2) スタディ・スキルズ・(各2) 生命の教養学(2) アカデミック・スキルズ・(各2) 東アジアの中の近代日本(2)		
		01-03-03	総合教育セミナー(類)(2または4) 総合教育セミナーS(類)(2) 総合教育セミナーD(類)(4)		
	類 (4単位まで算入)	01-04-01	保健衛生(1) 体育理論(1) 体育学講義(2) 体育学演習(1)		
		01-04-02	体育実技(1) 体育実技(1) 体育実技A(1) 体育実技B(1)		
	外国語科目計16単位)	第1学年 配当科目 (2か国語 各4単位)	02-01-01		
02-01-02			ドイツ語(各2)		
02-01-03			フランス語(各2)		
02-01-04			中国語(各2)		
02-01-05			スペイン語(各2)		

外国語科目計16単位)	第2学年 配当科目 (2か国語 各4単位)	02-01-11	日本語(各2)		
		02-02-01	英語(各2)		
		02-02-02	ドイツ語(各2)		
		02-02-03	フランス語(各2)		
		02-02-04	中国語(各2)		
		02-02-05	スペイン語(各2)		
		02-02-11	日本語(各2)		
基礎科目	類(6単位)	03-01-01	商学概論(2) 経済学(4)		
		A群 (4単位)	03-02-01	簿記論(4) 社会科学の考え方(4) 情報処理 (4) 情報処理 (4)	
			B群 (2単位)	03-02-02	数学基礎(2) 線形代数(2) 微分法(2) 解析 (2) 解析 (2) 数理計画法(2)
				C群 (2単位)	03-02-03
(日吉設置) 専攻科目	類 (4単位)	04-01-01	経済史(4) 社会経済学(4) 私法基礎(4)		
	類 (8単位)	04-02-01	経営学(4) 会計学(4) 商業学(4) 理論経済学 (4) 産業経済論(4)		
専攻科目(三田設置) 類あわせて46単位)	類 (2単位以上)	04-03-01	外書演習(2)		
			専門外国書研究(2)		
			外国語特殊(2)		
			外国語演習S(2)		
			関連課題研究D(4)		
			専門演習(2)		
		04-03-02	研究会(3年生)(0)		
	04-03-03	研究会(4年生)(8または4)			
	A経営	04-04-01	総論的科目	現代企業経営論(4) 経営管理論(4) 経営学説史(4)	
		04-04-02	各論的科目	現代企業経営各論(2または4) 経営管理各論(2または4) 経営学説史各論(2または4)	
	B会計	04-04-03	総論的科目	財務会計論(4) 管理会計論(4) 会計史(4)	
		04-04-04	各論的科目	財務会計各論(2または4)	
				会計監査各論(2または4) 管理会計各論(2または4) 会計史各論(2または4)	
	C商業	04-04-05	総論的科目	マクロ・マーケティング論(4) ミクロ・マーケティング論(4)	
		04-04-06	各論的科目	マクロ・マーケティング各論(2または4) ミクロ・マーケティング各論(2または4)	
	D国際 経済	04-04-07	総論的科目	国際経済学(4) 世界経済論(4) 国際金融論(4)	
		04-04-08	各論的科目	国際経済学各論(2または4) 世界経済各論(2または4) 国際金融各論(2または4)	
	E計量 経済	04-04-09	総論的科目	理論経済学 (4) 経済政策(4) 経済統計(4) 計量経済学(4)	
		04-04-10	各論的科目	理論経済学各論(2または4) 経済政策各論(2または4) 経済統計各論(2または4) 計量経済学各論(2または4)	
	F金融・ 保険	04-04-11	総論的科目	金融論(4) 財政学(4) 証券経済論(4) 保険学(4)	
04-04-12		各論的科目	金融各論(2または4) 財政学各論(2または4) 証券経済各論(2または4) 保険学各論(2または4) リスク・マネジメント各論(2または4)		

A
欄

類	G 産業・交通	04-04-13	総論的科目	産業組織論(4) サービス経済学(4) 交通経済論(4)	A欄			
		04-04-14	各論的科目	産業組織各論(2または4) サービス経済学各論(2または4) 交通経済各論(2または4)				
	H 労働・社会	04-04-15	総論的科目	労働経済学(4) 産業関係論(4) 産業社会学(4) 組織心理学(4) 社会保障論(4)				
		04-04-16	各論的科目	労働経済学各論(2または4) 産業関係各論(2または4) 産業社会学各論(2または4) 組織心理学各論(2または4) 社会保障各論(2または4)				
	I 産業史・経営史	04-04-17	総論的科目	産業史(2) 経営史(2)				
		04-04-18	各論的科目	産業史各論(2または4) 経営史各論(2または4)				
	J その他	04-04-19		情報処理(4) 情報処理(4) 経済学史(4) ジャパニーズ・エコノミー(2) マーケティング戦略(2)				
		04-04-20		数学各論(2または4)				
		04-04-21		法学各論(4)				
	04-04-22			デリバティブ(2) ポートフォリオ・マネジメント(2) バンキング・ビジネス(2) 21世紀のマネジメント(2) 経済の構造変化と雇用制度(4) 企業の社会性(4) 製品・ブランドをつくりマネジメントする(4) 変革の時代を生き抜くための経営(4) 企業の社会的責任(CSR)を考える(4) ブランド創造とコミュニケーションの新展開(4) 資産運用の理論と実務(2) 現代の企業金融(2)				
		04-04-23		環境の経済・経営・商業・会計(2) イノベーションの経済・経営・商業・会計(2) 非営利組織の経済・経営・商業・会計(2) 戦略の経済・経営・商業・会計(2)				
	関連科目(8単位まで算入)	04-04-25		他学部および諸研究所(センター等を含む)に設置されている科目で教授会が適当と認める授業科目(29ページ参照)			B欄	41
	自主選択科目(20単位)	第1・2学年 配当科目 (8単位)		*総合教育科目・基礎科目・専攻科目・類のうち所定単位数を超えて履修合格した単位をもって充てることもできます。(1・2年で履修合格したものに限られます)			A欄	
05-01-01			商学部設置の外国語科目 ドイツ語インテンシブ(2) フランス語インテンシブ(2) 中国語週3クラス(2) スペイン語第X(2) スペイン語インテンシブ(2) アラビア語(2) 英語アカデミックライティング(2) 英語ディスカッション(2) 英語ディベート(2) 英語プレゼンテーション(2) 英語リーディングセミナー(2) 英語リスニングセミナー(2) 英語第X-レベル2(2), レベル3(2), レベル4(2) 英語第X-TOEFL/TOEIC Practice(2) イタリア語入門(2) イタリア語入門a・b(各1) 確率論基礎(2) 線形代数演習(2) 微積分演習(2)					
			他学部設置の授業科目(単位数は当該学部の学則に従う)	B欄	51			
			言語文化研究所設置講座 メディア・コミュニケーション研究所設置講座 福澤研究センター設置講座 外国語教育研究センター設置講座 国際センター設置講座 保健管理センター設置講座 情報処理教育室設置講座 知的資産センター設置講座	A欄				
05-01-02		英語第X-TOEFL/TOEIC(2)						
第3・4学年 配当科目 (12単位)			*総合教育科目・基礎科目・専攻科目のうち所定単位数を超えて履修合格した単位をもって充てることもできます。(3・4年で履修合格したものに限られます)					

自主 選 択 科 目 (20 単 位)	第3・4学年 配 当 科 目 (12 単 位)	05-01-01	英語第XX - レベル2(2) 英語第XX - レベル3(2) 英語第XX - レベル4(2) 英語第XX - TOEFL / TOEIC Practice(2) ドイツ語第XX(2) フランス語第XX(2) 中国語第XX(2) スペイン語第XX(2) イタリア語(2) 朝鮮語(2) ロシア語(2) ギリシャ語(2) ラテン語(2) アラビア語(2)	A欄	51
			外書演習(2) 外国語特殊(2) 外国語演習S(2) 専門演習(2) 関連課題研究D(4) (ただし、自主選択科目として履修する場合)	B欄	
			他学部設置の授業科目 言語文化研究所設置講座 メディア・コミュニケーション研究所設置講座 福澤研究センター設置講座 外国語教育研究センター設置講座 国際センター設置講座 保健管理センター設置講座 情報処理教育室設置講座 知的資産センター設置講座	A欄	
自 由 科 目	自由科目 (*卒業単位には含 まれません。 1カ年につき8単位 まで)	06-01-01	商学部設置科目(必修科目は、履修を許可された場合のみ) 他学部設置の授業科目 言語文化研究所設置講座 メディア・コミュニケーション研究所設置講座 体育研究所設置講座 福澤研究センター設置講座 外国語教育研究センター設置講座 国際センター設置講座 保健管理センター設置講座 情報処理教育室設置講座 知的資産センター設置講座 外国語学校設置講座のうち、商学部および他学部には設置されていない外国語 (2006年度は対象科目無し)	B欄	60
			自由科目 (*卒業単位には含 まれません)	06-01-02	

(注) 専攻科目 類の各論的科目の()内の科目名は省略してあります。

三田設置の総合教育科目について

三田における他学部設置（他地区を除く）の授業科目のうち、以下の授業科目は、商学部の総合教育科目として扱われます。

履修申告に際しては、以下の点に注意してください。

以下の授業科目については下表中の分野以外での履修申告はできません（関連科目・自主選択科目として履修申告できません）。
履修申告用紙の場合はA欄で申告してください（Web申告の場合はB欄分野番号の指定は必要ありません）。 16ページ参照
履修人数が多い場合は設置学部の学生が優先となります。必ず履修申告前に授業担当者に許可をもらうようにしてください。
 講義要綱・時間割は設置学部のもので確認してください（学事センターにて閲覧できます）。

授業科目の種類	分野	科目名	設置学部
総合教育科目 類	01-01-01	数学	法
		数学	法
		統計学	法
		統計学	法
総合教育科目 類	01-02-01	映画演劇論	文
		映画演劇論	文
		映画演劇論	文
		映画演劇論	文
		ロシア文学	文
		現代芸術	文
		現代芸術	文
		詩学	文
		詩学	文
		地域研究 - 中国事情	経
	地域研究 - 中国事情	経	
	01-02-03	人文科学研究会	法
		人文科学研究会	法
		人文科学研究会	法
人文科学研究会		法	
総合教育科目 類	01-03-02	基礎情報処理	文
		自然科学研究会	法
		自然科学研究会	法
		自然科学特論	法
		自然科学特論	法

海外の教育機関に留学する場合の取扱いについて（商学部）

(1) 在学期間中に留学を希望する場合、「留学」と「休学」の2通りに分けられます。

		留 学	休 学
種 類		<p>教授会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等）</p> <p>なお、留学には</p> <p>「交換留学」</p> <p>「奨学金による留学」</p> <p>「私費留学」の3つの区別があります。</p>	<p>語学研修</p> <p>その他左記の留学と認定されない場合</p>
	期 間	<p>留学の開始日から最長1年まで</p> <p>年度の途中に開始し、年度の途中で終了することが可能です。 (例) 2006. 9. 22 ~ 2007. 9. 21</p>	<p>年度末日（3月31日）まで</p> <p>年度末をまたいで休学する場合は、新年度に再度休学願を提出してください。</p> <p>休学の開始日がいつであってもその年度はすべて休学の扱いになります。</p> <p>休学願の提出締切はその年度の11月末日です。</p>
延 長		<p>1回まで可能 (最長で留学開始日から2年まで)</p> <p>それ以降は「休学」となります。</p>	<p>次年度も休学する場合は、再度休学願を提出してください。</p>
		<p>延長する場合、「国外留学申請書」を改めて提出してください。</p>	
学 費・ 渡 航 費	学 費 減 免 措 置	<p>1年目：減免制度はありません。</p> <p>2年目：減免される場合があります。</p> <p>留学開始日から1年を経過した日の属する年度の授業料(在学料)および実験実習費の半額を免除します(留学許可通知とともに申請書類を保証人宛に送付します)。</p>	<p>減免制度はありません。</p>
	渡 航 費 補 助	<p>「交換留学」および「奨学金による留学」の場合には渡航費が補助される場合があるので、国際センターで所定用紙を受け取ってください。</p>	
	単 位 取 得 ・ 認 定	<p>は留学 む期間 履修を</p> <p>年度の途中から留学する場合は、留学前に履修申告した科目を留学後継続履修し、単位取得することが可能です (同一科目同一担当者が原則となります)。</p> <p>必ず留学前に各科目担当者に、留学終了後に継続して履修する意志があることを伝えておいてください。 (2007年度以降に休講となる科目は継続履修できません。 23ページ以降の履修要項で確認してください。)</p>	<p>休学中の年度は履修できません。</p> <p>[年度始めから休学] 履修申告は不要です。休学願を履修申告日までに提出してください。</p> <p>[年度途中から休学] 4月に履修申告した科目はすべて削除されます。</p>
在 学 年 数 へ の 算 入	進 級 ・ 卒 業	<p>30単位を超えない範囲で、慶應義塾大学での履修単位として認定することがあります。</p> <p>認定を希望する場合は、帰国後速やかに学事センターに申し出のうえ、就学届提出時に申請することを原則とします。</p> <p>なお、認定単位により帰国年度末の進級・卒業を希望する場合は、原則として1月末日を期限とします。</p>	<p>単位認定はありません。</p>
		<p>1年間に限り留学期間を慶應義塾大学の在学年数に参入することがあります。ただし、遡及卒業は認められません。</p> <p>[例] 3年夏から留学し、1年後帰国した場合、在学年数への算入が認められれば第4学年に遡及進級となり、その年度末に卒業することも可能です。ただし、4年生夏に留学し、1年後帰国した場合、卒業は早くても帰国した年度の年度末になります。</p>	<p>在学年数に算入されません。</p> <p>休学終了後は原級にとどまります。</p>

・網掛け部分については(2)を参照してください。

注意 TOEFL, GRE, GMAT等受験の際、身分証明書としてパスポートが必要になります。
早めに準備するよう心掛けてください。

(2)

単位取得・認定	留学期間をはさむ履修	継続履修の条件	同一科目同一担当者が原則です。 体育実技は、履修登録が学期開始日前で、履修定員に余裕があり、健康診断証明書を持参した場合のみ可能になります。 2007年度以降に休講となる科目は継続履修できません。 該当科目は23ページ以降の「開講科目と単位数」で確認してください。
	外国で取得した単位	認定対象となる科目	原則として専門教育科目です（総合教育科目・語学科目等は含まれません。また、既に単位を取得した科目と同一の科目名での認定は原則としてできません）。
		履修上限との兼ね合い	認定の結果、認定された単位と履修申告した単位を合計して履修上限単位を超えても、そのまま履修できます（削除等の必要はありません。ただし、認定した科目と同一名称科目の履修申告は原則としてできません）。
在学年数	進級・卒業	遡及進級の条件	<商学部3年生で留学> 1年後帰国した際、4年生への進級を希望する場合は、次の条件を満たすことが必要となります。 ・以下の と の合計が12単位（3年生から4年生への進級条件）以上であること 留学前に3年生で履修し取得した単位 留学先で取得した単位で認定されたもの 遡及進級を希望される際の研究会の扱いについては、事前に学事センターにご確認ください。
秋学期から休学する際の履修申告していた科目の取扱いについて		秋学期（9/22～11/30（休学締切日））に休学を開始する場合、それまでに修得した春学期終了科目はすべて削除されます。ただし、特に申し出のあった場合は自由科目に限り振り替えますので、休学願提出時に窓口にて問い合わせてください（この場合、就学後再履修することは認められません）。	

(3) その他

学籍についての注意

留学は二重学籍を認めるものではありませんので、次の点に注意してください。

慶應義塾大学で取得した単位を外国大学に振り替えた場合（Transfer）その単位は慶應義塾大学から抹消される。

外国大学で学位を取得せずに帰国する場合、により抹消した単位は慶應義塾大学での単位として認定し、外国大学で取得した単位も慶應義塾大学に振り替え（Transfer）可能とする。

外国大学で学位を取得した場合、外国大学に振り替えた（Transfer）単位および外国大学で取得した単位ともに外国大学での取得単位として扱う。

なお、上記のことについて確認するために、帰国後に成績証明書の提出を求めることがあります。

講義要綱・シラバス

〔講義要綱〕

総合教育科目

自然科学概論（春学期） 宇宙・生命の誕生と進化	教授 表 實 助教授 長谷川 由利子
----------------------------	-----------------------

授業科目の内容：

わたしたちが、その上で生活していることをほとんど意識していない地球はどのようにして生まれたのでしょうか？地球が属している太陽系は？太陽系が属している宇宙は？また、地球上に最初に誕生した生命はどのようなもので、どのようにしてヒトへとつながっていったのでしょうか？この講義では、誕生と進化について宇宙と生命の観点から解説します。

テキスト：

使用しません。

参考書：

講義中に適宜紹介します。

自然科学概論（秋学期） 科学と技術の最先端	助教授 福澤 利彦 専任講師 新田 宗土
--------------------------	-------------------------

授業科目の内容：

科学の進歩は、これまでに幾度となく人間の世界観を変えてきました。また、その応用技術は、我々の身近な生活のみならず、政治・経済・社会にも大きな影響を及ぼしてきました。今世紀になって、科学と技術はさらに発展し、我々に大きなインパクトを与えようとしています。そこで本講義では、物理学と生物学の分野における科学と技術の最先端を紹介します。秋学期の前半では「相対論と量子論に関する基礎と応用」を、後半では「生命のしくみとバイオ技術」を解説します。

テキスト：

使用しません。

参考書：

下記以外の参考書は、授業時に紹介します。
相対性理論 岩波文庫
A. アインシュタイン（著）、内山龍雄（翻訳）
岩波書店；ISBN: 4003393414；(1988/11)

人間と音楽（春学期） 歴史・文化・社会における世界音楽	講師 早稲田 みな子
--------------------------------	------------

授業科目の内容：

世界の様々な音楽文化を、その歴史・文化・社会との関わりの中で考察し、音楽に関する概念・価値観・理論の多様性、音楽の持つ多様な意義・機能、音楽の流動性・可変性などについて理解できるようにする。春学期の主なテーマは音楽と宗教・文化政策、音楽家の社会的地位、労働の歌、抗議の歌、および移民の音楽である。個々の事例を通して、「音楽と人間の関わり」というより大きなテーマを考察する基礎力を養うことを目的とする。

テキスト：

特になし。授業中随時参考資料を配布する。

参考書：

特になし。

人間と音楽（秋学期） 歴史・文化・社会における世界音楽	講師 早稲田 みな子
--------------------------------	------------

授業科目の内容：

世界の様々な音楽文化を、その歴史・文化・社会との関わりの中で考察し、音楽に関する概念・価値観・理論の多様性、音楽の持つ多様な意義・機能、音楽の流動性・可変性などについて理解できる

ようにする。秋学期の主なテーマは、音楽と観光産業・人種問題・レコード産業・戦争、楽器の伝播、および音体系の多様性である。個々の事例を通して、「音楽と人間の関わり」というより大きなテーマを考察する基礎力を養うことを目的とする。

テキスト：

特になし。授業中随時参考資料を配布する。

参考書：

特になし。

人の尊厳（社会と人権）（春学期）	文学部 教授 関場 武 文学部 教授 安藤 寿康
------------------	-----------------------------

授業科目の内容：

われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき、今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が、国内には少年犯罪や同和問題、性差別や児童虐待、さまざまなハラスメント、いじめなどの諸問題が、また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が、そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまようわれわれ一人一人の精神的・思想的危機がある。これらは一見別々の問題のようでありながら、実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき、自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には、これらの問題について考え、さらにはみずからふり返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけをつかんでいただくことが、この講義の目的である。

西洋文明学説史 キリスト教と儒教の古典主義的近代化	教授 松村 宏
------------------------------	---------

授業科目の内容：

福沢諭吉と丸山真男によって行われた各西洋文明学説の検討を手がかりに、ヴィンデルバントの哲学史とヴェーバーの文明史を再検討する。とくに日本文明学説史との併行異同関係を考え、世界市民文明学説への展望を拓く。実はプラトンとソフィストの論争は世界史を貫いて厳存しており、この問題の解法史を辿り新たな工夫をこらす。いわゆる関係（相関）主義ならびに外在要因対応としての人間研究である。具体的には、ヴェーバーの「儒教と道教」の対訳構成資料を読みこむことから始める。ヴェーバーには日本古学派以来の日本近代化がぬけているので大幅な見解の組みかえを行う。

テキスト：

上記四者の原本と翻訳本を多く参照するが、必要箇所を編集して複写を配布する。

参考書：

- ・ヴィンデルバントの「哲学史」
- ・ヴェーバーの「経済と社会」と「宗教社会学論集」

日本文明学説史 古代から近代までの論語老子解釈史	教授 松村 宏
-----------------------------	---------

授業科目の内容：

福沢諭吉と丸山真男の近代文明学説の原型を日本近世の祖来学に求め、論語と老子・孫子を連動させた日本独自の近代文明学説の枠組を創出した思案の跡を辿る。そして上級武士道と市民文明の生成を研究する。

テキスト：

- ・荻生徂来『論語徴』（平凡社東洋文庫一と二）
- ・論語徴原文、論語古訓外伝、論語稽古などの原文と上泉信綱文書など資料は、配布する。

参考書：

丸山真男『日本政治思想史研究』（東大出版会）

[専攻科目 類]

1. 目的および概要

1999年度から、専攻科目 類で履修可能な「科目」が増え、従来の外書演習（通年2単位）のほか、専門外国書研究（通年2単位）、専門演習（通年2単位）、外国語特殊（通年2単位）、研究会（2年間で8単位）が新たに加われました。以上の科目の中には、担当教員の専門に応じて、複数の「クラス」が設置されています。これは、少しでも学生諸君の興味や関心に沿った形で、演習形式の授業を充実させることを目的とした改革です。それぞれの科目の大まかな内容は、次のとおりです。

- * 外 書 演 習：商学部にあつさわしい内容 - 1) 商学部の専門に属する内容、2) 専門のバックグラウンドとなるような社会・文化的内容、3) ビジネス関係の実用的内容 - のいずれかについて、原書を題材に、演習形式で学ぶ科目です。
- * 専門外国書研究：外書演習より高度な専門的研究を、原書を教材に演習形式で行う科目です。
- * 専門演習：研究会に属さない学生のために、専門科目の基礎を演習形式で勉強する科目です。
- * 外国語特殊および外国語演習：
三田へ来てからも外国語を学びたい学生諸君を対象に設けられた、中・上級向けの演習形式の授業です。
- * 関連課題研究：これまで学んできた外国語や外国の知識を専門分野と関連づけながら、小人数のゼミ形式で深めていく科目です。
- * 研 究 会：2年間にわたって、特定分野の研究を演習形式で行う科目です。

専攻科目 類に属する以上の科目の中から、1科目2単位以上を履修しなければなりません。ただし、同一科目内では1クラスしか選択できません。また、研究会を選択する場合は、担当教員の承認を得て、第3・第4学年にわたって履修しなければならず、専攻科目 類として専門演習を履修することはできませんので、注意してください。

2. 担当者間の取り決め

成績評価の方法や出席の取扱いに関する担当者間のバラツキや、情報の不徹底からくる不満を少しでも解消するため、原則として、担当者間で次のような取り決めをしてあります。

（なお、以下の取り決めはあくまでも原則であって、実際の授業は担当者の裁量によって運営されます。）

- イ) 成績評価について：各人の基本方針をあらかじめ講義要綱に明記する。
 - ロ) 出席の取扱いについて（共通ルール）：年間3分の1程度を超えて欠席した場合は不合格とする。共通ルールを採用しない場合は、それと同等以上の負担を課す。
3. 履修希望クラスの選択・申告
履修案内と一緒に配付された案内で確認してください。

【外書演習】

外 書 演 習（秋学期集中） 助教授 伊 藤 規 子

授業科目の内容：

数学を一切使わないで市場経済を説明したテキスト（著者はオックスフォード大学教授で定期的にフィナンシャル・タイムズにコラムを掲載している Prof. John Kay）を読んでいく形で、市場と資本主義の根本概念と考え方の整理を行うことを目的とする。経済学を復習することに興味のある人には、現実世界での経済の動きと理論との対応を確認してもらうのが目的。他方、世界情勢のジャーナリズムに興味のある人は、経済制度やメカニズムと現実との関連がいかに深い点という点を納得してもらうのが目的。

5～6回以上、授業内でテキストの内容と関連する題材を扱ったビデオを上映し、参加者には感想を提出してもらう。主にイギリス

BBCの制作によるものだが、他は独立したアメリカのドキュメンタリー映画である。映画はすべて英語版であり、日本語の字幕はない。テキスト：

- 以下の2つから 難解な部分を除いた形で担当者が教材を作成する：
- 1) “The Truth about Markets; Why Some Nations are Rich but Most Remain Poor” by John Kay (Penguin Books 2004)
 - 2) “Everlasting Light Bulbs: How Economics Illuminates the World” by John Kay (The Erasmus Press 2004)

外 書 演 習（秋学期集中） 助教授 梅 津 光 弘

授業科目の内容：

このクラスでは企業倫理学、企業社会責任論に係る英文を読みます。初回の授業で参加者の英語力をたしかめ、又ある程度の要望もふまえながら、進めていく予定です。

テキスト：

Edward Freeman × Daniel Gilbert, *Corporate Strategy and the Search for Ethics*. (Prentice-Hall, 1988)

参考書：

適宜指摘します。

外 書 演 習（春学期集中）

The WTO and world trade issues 教授 遠 藤 正 寛

授業科目の内容：

国際通商問題における WTO (World Trade Organization) の役割について考えます。GATT から通算して第9回目の多国間貿易交渉（ラウンド）であるドーハ開発アジェンダが2001年11月に始まり、2005年12月には香港閣僚会議も開かれ、各種報道を通じて WTO の活動に関心を持った人も多いかと思えます。この授業では、下記テキストおよび関連記事をもとに、WTO の機構、原則、主要交渉分野、紛争解決等について理解を深めます。受講生には発表や討論をお願いします。

テキスト：

- ・ WTO, “Understanding the WTO,” 2005.
- ・ WTO website (http://www.wto.org/english/thewto_e/whatis_e/whatis_e.htm) よりダウンロード可能（2005年12月確認）。
- その他、WTO website 上の各種記事。

外 書 演 習 助教授 吉 川 肇 子

授業科目の内容：

1. 組織心理学の主要なテーマの1つである「集団浅慮」についての概説を読みます。
2. 授業の進め方は、(1) 単語テスト、(2) 該当箇所の発表（発表担当者）および受講生を指名して内容について尋ねる、(3) まとめ、という3つのステップを毎時間繰り返します。
3. 毎時間受講生全員を指名できるように、努力します。

テキスト：

Boin, A., t'Hart, P., Stern, E. & Sundelius, B. (2006)
The Politics of Crisis Management: Public leadership under pressure

外 書 演 習 専任講師 鄭 潤 澈

授業科目の内容：

スタンフォード大学 GSB の McMillan 教授が書いた本書は、世界の様々な市場の実例を取り上げながらその中から「市場経済の編成原理」を説明しています。内容は優しく興味を引くものばかりですが、調べないと意味が分かりにくい単語もたくさん出てくると思うので、英語の勉強にも適しています。授業では本文をじっくり輪読していくことによって、我々の身近に存在する「市場」の意味をより深く理解することをめざしています。

テキスト：

J. McMillan 著, “Reinventing the Bazaar: A Natural History of Markets” W.W. Norton & Company, Inc., 2002

外書演習(春学期集中) 助教授 前川千春

授業科目の内容:

財務会計の基礎を理解すると同時に会計学の専門用語を十分に修習し的確に訳出する力を養う。

テキスト:

米国の財務会計中級テキスト(英語)を使用する。

外書演習(ドイツ語)

ポップとは何か? アヴァンギャルドと日常性の
はざまを去来するドイツ音楽批評

教授 フォーグル, ヴァルター

授業科目の内容:

非常に有名なドイツ・ポップ音楽の批評家 Dierich Diederichsen は、以下テキスト欄にあげた新刊書で、ポップ音楽定義の外延を拡大しようと試みている。それによると、ポップ音楽とは単に軽音楽を意味するだけではなく、Johann Strauss や Arnold Schoenberg のような現代音楽の巨匠たちのことでもある。この本の中で彼は、Jimi Hendrix, Fat Boy Slim, John Coltrane, Einstuerzende Neubauten などの音楽、すなわち彼によって外延が拡大されたポップというジャンルに属する「巨匠たち」と取り組んでいる。

テキスト:

Dierich Diederichsen: Im Musikzimmer, Kiepenheuer & Witsch Verlag, ISBN: 3462036440

参考書:

語彙が豊富で、かつ語彙について詳しく解説された辞書を用意すること。

外書演習(中国語) 教授 許曼麗

授業科目の内容:

文学, 政治, 経済, 文化習慣等様々な分野の文章を精読する。言葉の表面的な意味を理解するのみならず、時代背景を理解し、書き手のメッセージも読みとれる読解力を養うことがこの授業の目標である。文章を訳すプロセスを通して、文法事項を再確認し、定着を図りたい。テキストの他に、時の話題に関する記事なども随時取り上げる予定である。

テキスト:

『ことばの旅』日下恒夫 石汝傑著 好文出版
テキストのほかプリントを配布

外書演習(スペイン語) 専任講師 安井伸

授業科目の内容:

時事的な話題を中心に、スペイン語圏の新聞・雑誌記事等を読み解く。読解・音読・聴解能力の養成を図るとともに、ラテンアメリカ地域を中心とする国際情勢の理解を深める。

テキスト:

Iyo Kunimoto & Alejandro Kuda. Leyendo las noticias en español. Editorial Asahi, 2005.

その他、必要に応じて配付する。

【外国語特殊】

外国語特殊(ドイツ語口語表現)

ドイツ語を話し、読み、聞き、書く。

教授 フォーグル, ヴァルター

授業科目の内容:

すでに2~3年ドイツ語を履修した学生を対象にした本授業は、そこで習得したドイツ語の基礎能力をさらに発展、充実することを目指しています。ドイツ語圏で出版されている目下最も新しい教科書のひとつを用いて、学生は毎回システムチックにドイツ語を「話

し、読み、聞き、書く」能力を鍛えられるしくみです。

テキスト:

Delfin. Lehrbuch und Arbeitsbuch, Teil 3 - Lektionen 15-20 著者: Aufderstrasse, Mueller, Storz. ISBN 3-19-421601-5 出版社: Max Hueber Verlag

参考書:

なし

外国語特殊(フランス語上級 講読)

現代フランスをフランス語で読む 教授 橋本順一

授業科目の内容:

フランス語を浴びるように読むことを目的とします。現代フランスをよりよく知る為に近代(19世紀)までさかのぼってフランスの(ひいてはヨーロッパの)歴史・社会・政治を復習することもあります。

テキスト:

基本的には Web で入手できるもの(春学期)

参考書:

よい辞書は最良の参考書です。

外国語特殊(フランス語上級 演習)

フランス語会話の実践

訪問講師(招聘) アブリアル, ジャン ピエール

授業科目の内容:

会話を通して、1・2年生で学んだフランス語の知識をコミュニケーション・ツールとして活用するトレーニングをします。

テキスト:

プリントを配布します。

外国語特殊(中国語中・上級) 教授 許曼麗

授業科目の内容:

入国するところから生活する場面まで、様々な必要な言い回し、人とのやり取りの表現を学習する。各場面について、先ず短い基本的な会話を学習してから、長い会話文を練習する。暗記、発表の繰り返しは授業の主な形式となる。

この他、ヒアリングの練習、穴埋め形式の作文、暗記した内容について質問するなどの練習も取り入れる。

テキスト:

「情景汉语」 意図と場面による中国語表現 CD付 邱质朴他(2004年 朋友書店 3360円)

外国語特殊(中国語中・上級) 講師 張明傑

授業科目の内容:

就職後仕事に役立つビジネス中国語を勉強し、特にビジネス関係の文書の作成をめざす。内容はFAX・メール通信、電話連絡、スピーチの三部から成る。

テキスト:

プリントを配布する。

参考書:

中国語関連の辞書を持参すること。

外国語特殊(スペイン語) 講師 ヨルディ, マリア C.

授業科目の内容:

TEMA: CULTURA ESPAÑOLA

En esta clase al tratarse de estudiantes que tienen un nivel superior de español, a la vez que es un repaso de lo estudiado hasta ahora, se desea que sea a su vez una profundización en la conversación y en la cultura. Deseando que sea de gran utilidad para los que tomen este curso, se seguirá el método de estudios de DELE. Para ello se utilizará el libro de texto para poder pasar los exámenes de Certificado de español.

No es necesario que todos los que tomen la clase deban pasar este

examen.

Pero por esta metodología se consigue COMPRESIÓN DE TEXTOS, PRACTICA DE AUDICIÓN, Y EXPONTANEIDAD DE CONVERSACIÓN.

Por lo tanto se necesita que los estudiantes que tomen esta clase tengan un nivel superior y también que estén dispuestos a realizar las tareas que cada semana se les dará, así como a preparar y repasar para la clase.

El libro de texto de DELE es de fácil comprensión e interesante para el conocimiento de la cultura española y para tener conversación.
テキスト :

PREPARACIÓN CERTIFICADO INICIAL Español lengua extranjera
Edit./ 出版社 : Edelsa
著者 : Marta Baralo
Berta Gibert
Belén Moreno de los Ríos

【外国語演習】

外国語演習 S (英語)(春学期)
英語で学ぶ国際問題(環境問題を中心に)
助教授 大矢 玲子

授業科目の内容 :

急速にグローバル化が進む社会のなかで、英語で情報を収集・理解し、自分の意見を発表する能力はますます重要となっています。この授業では環境破壊や国家間の経済摩擦を中心に、地球規模の問題に関するさまざまな論説文の読解とディスカッション、また学生自身の関心に基づくプレゼンテーションなどをとおして、総合的な英語力を養うことを目標とします。また新聞記事などに基づいたエクササイズも随時取り入れます。

テキスト :

講師が配布。

外国語演習 S (英語)(秋学期)
英語で学ぶ国際問題(日本の外交問題を中心に)
助教授 大矢 玲子

授業科目の内容 :

急速にグローバル化が進む社会のなかで、英語で情報を収集・理解し、自分の意見を発表する能力はますます重要となっています。この授業では最近起きた日本の外交問題を中心に、国際問題に関するさまざまな論説文の読解とディスカッション、また学生自身の関心あるトピックに関するプレゼンテーションなどをとおして、総合的な英語力を養うことを目標とします。また新聞記事などに基づいたエクササイズも随時取り入れます。

テキスト :

講師が配布。

外国語演習 S (英語)(春学期)
Psychological Approach to Effective Presentation (1):
Human's brain systems for speech 助教授 深澤 はるか

授業科目の内容 :

Knowledge and skills of presentation are inevitable in business situation. This course studies how to make an impressive and effective presentation by investigating human's brain and physiological systems for speech.

テキスト :

The course packet of reading materials will be distributed.

参考書 :

To be announced.

外国語演習 S (英語)(秋学期)
Psychological Approach to Effective Presentation (2):
Human's brain systems for vision and decision making
助教授 深澤 はるか

授業科目の内容 :

Knowledge and skills of presentation are inevitable in a business situation. This course studies how to make an impressive and effective presentation by investigating human's brain and physiological systems for vision and decision making.

テキスト :

The course packet of reading materials will be distributed.

参考書 :

To be announced.

外国語演習 S (英語)(春学期)
Presentation and Discussion Class 助教授 吉田 友子

授業科目の内容 :

Being able to deliver an effective presentation and discuss controversial topics in English are critical skills in today's business world. In this class, students will take turns making presentations on controversial topics of their interest. The presenter will be responsible for providing reading materials, vocabulary lists, and discussion questions in advance. The other class members will have one week to read the articles provided by the presenters and prepare for discussion. On the day of the presentation, the presenter will provide a short synopsis of the article and present various perspectives on the particular topic. Students are encouraged to use Power Point when making their presentations. The rest of the class will then break up into small groups and discuss their thoughts and opinions. Students should keep a journal on the various topics discussed in class along with the various viewpoints presented by their classmates. In addition to these regular presentations, there will be a final report and a final exam each semester. For the final report, students are encouraged to pick a topic of interest (or expand on a topic they chose for their presentation) and present it analytically. The final exam given at the end of each semester will be based on the topics presented during that semester.

テキスト :

Current materials will be provided.

参考書 :

- Academic Writing I Eigo Ronbun Sakusei Hou By: Tomoko Isogai Keio Daigaku Shuppan Kai
- Publication Manual of the American Psychological Association 5th Edition

外国語演習 S (英語)(秋学期)
Presentation and Discussion Class 助教授 吉田 友子

授業科目の内容 :

Being able to deliver an effective presentation and discuss controversial topics in English are critical skills in today's business world. In this class, students will take turns making presentations on controversial topics of their interest. The presenter will be responsible for providing reading materials, vocabulary lists, and discussion questions in advance. The other class members will have one week to read the articles provided by the presenters and prepare for discussion. On the day of the presentation, the presenter will provide a short synopsis of the article and present various perspectives on the particular topic. Students are encouraged to use Power Point when making their presentations. The rest of the class will then break up into small groups and discuss their thoughts and opinions. Students should keep a journal on the various topics discussed in class along with the various viewpoints presented by their classmates. In addition to these regular presentations, there will be a final report and a final exam each

semester. For the final report, students are encouraged to pick a topic of interest (or expand on a topic they chose for their presentation) and present it analytically. The final exam given at the end of each semester will be based on the topics presented during that semester.

テキスト :

Current materials will be provided.

参考書 :

- Academic Writing I Eigo Ronbun Sakusei Hou By: Tomoko Isogai Keio Daigaku Shuppan Kai
- Publication Manual of the American Psychological Association 5th Edition

【関連課題研究】

関連課題研究 D

SEMINAR IN INTERNATIONAL BUSINESS STRATEGY

教授 トビン, ロバート I.

授業科目の内容 :

This course examines issues related to global business strategy including innovation, strengths of Japanese and foreign capital companies, technological innovation, localization, entrepreneurship, marketing, joint ventures, and global leadership styles.

The course will be conducted as a seminar with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, research assignments, and a market simulation.

This course is conducted entirely in English and enrollment is limited to 20 students. See the website, www.tobinkeio.com for additional information.

テキスト :

- World View: Global Strategies for the New Economy, edited by Jeffrey Garten, Harvard Business School Press, 2000.
- Markstrat Business Simulation

【専門演習】

専門演習 (経営学) (秋学期集中) 助教授 神戸 和雄

授業科目の内容 :

企業経営に関する基本的な知識を習得するとともに各自が興味をもった企業および産業に関して調査, 発表を行い質疑応答を通じて実際の企業経営に関する理解を深めることを企図している。

テキスト :

必要に応じて資料を配布する。

参考書 :

必要に応じて紹介する。

専門演習 (経営学) 助教授 前田 淳

授業科目の内容 :

経営学, 経済に関する基本的問題についての理解を深めてもらう。

テキスト :

「現代日本の株式会社」後藤泰二編著 (ミネルヴァ書房)

参考書 :

授業の中で随時紹介する

専門演習 (会計学) 教授 園田 智昭

授業科目の内容 :

企業で行われている活動を改善するためのさまざまな手法に関する文献を数冊輪読する。具体的には, リエンジニアリング, 活動基準管理, バランスト・スコアカードなどを取り上げる予定である。

テキスト :

ハマー, チャンピー『リエンジニアリング革命』日経ビジネス人文庫

他数冊を予定 (上記文献以外は授業中に指示する)

専門演習 (商業学) (春学期集中)

マーケティング・サイエンス 助教授 里村 卓也

授業科目の内容 :

マーケティング・サイエンスとは, マーケティング上のマネジリアルな課題に対して, データに基づく論理的な意思決定を支援するための研究領域である。マーケティングのマネジリアルなプロセスでは様々な意思決定を行う必要があるが, それら各段階には固有の問題がある。これら固有の問題を考慮しつつ意思決定を行う方法について習得する。

履修者がマーケティング上のある課題について自ら問題設定を行い, データ収集・分析することにより結論を導けるようになることが本講の目的である。

テキスト :

古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング・サイエンス入門」有斐閣, 2003年

専門演習 (経済・産業) (春学期集中)

教授 八代 充史

授業科目の内容 :

私が専攻している人的資源管理論に関して, 大教室の授業とは異なる双方向による報告と討論を行い, 論文の執筆を目標に指導を行います。

テキスト :

とりあえず, 下記を使用します。玄田有史『仕事のなかの曖昧な不安』中央公論新社, 2001年。

参考書 :

佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理 (第2版)』有斐閣, 2003年。

【専門外国書研究】

専門外国書研究 (独書)

助教授 前田 淳

授業科目の内容 :

日吉でのドイツ語学習能力を前提に, ドイツにおける企業, 経済, 政治, 社会問題を扱う文献, 雑誌記事, 新聞記事を読みながら, ドイツが直面する課題について理解を深めていきたい。

テキスト :

特に指定しない。

専門外国書研究 (仏書)

講師 大井 正博

授業科目の内容 :

フランス語の基礎を学んだ人に対して, 経済記事や専門書を読むために必要な手引きをするのがこの講座の目的である。テキストとしては下記のものを使用し, 日本人にはあまりなじみのないフランス経済の諸問題に対する知識を学ぶとともに, 慣用的なフランス語の経済用語のマスターに努める。

テキスト :

J. et G. Grémond, "L'économie française face aux défis mondiaux", Hatier

【研究会】

研究会

財政学

教授 跡田 直澄

授業科目の内容 :

なぜ20歳から国民年金の保険料を払わなければならないのか。なぜアルバイトで稼いだお金に税金がかかるのか。なぜ営団だけでは

なく都営地下鉄が必要なのか。なぜ国立大学が必要なのだろうか。われわれの生活の身近なところで、政府部門はかなりの規模で活動している。その実態を知り、なぜそうした組織や制度が作られたのかを探り、その上で本当に必要か否かを検討する必要がある。本研究では、こうした問題を議論しながら、政府部門のあり方を考えていきたい。

研究会

教授 井手 秀 樹

授業科目の内容：

産業組織論に関する基本的文献の輪読と最近のトピックについて、産業組織論の観点から分析する能力を養う。

研究会

助教授 伊 藤 規 子

授業科目の内容：

本研究会は、形式上は「交通・公益事業論・規制の経済学」をタイトルに掲げています。インフラストラクチャー（社会資本）・交通・公益事業といった産業分野に対する介入や規制が社会にどんな影響を及ぼすか、また実際にどういう成果を与えてきたか、といったテーマを追求することが中心になっています。

ただ、そういった方面においてリサーチを深めれば深めるほど、日本における政府の役割・政策の方向がいかに特殊であるのかが浮かびあがってくるのも事実です。そして、公的介入の程度・方法を研究しようとする場合に、同時に日本経済・社会の特殊性も見えてきます。契約社会である西欧で元々発展してきた経済理論を、そのまま現実の日本の経済活動に適用して考えるのは少々難しいのですが、日本がどう特殊なのかという点をあえて考えることで、表面的な学習だけでなく幅広く批判的に考える力をつけていくメンバーが最近多くなっています。ですから、本研究会では交通や公益事業というような狭い分野だけではなく、日本における市場の働き全般について考察することも一つの目的です。

研究に必要な分析方法を学ぶための導入として、まず春学期に3年生には経済学的なものの考え方、ミクロ経済学、産業組織論に取り組んでもらうこととなります。そして、秋学期に三田祭で発表するプロジェクトを進めながら、プロジェクト・テーマにそくした形で、他にも何らかの応用的な分野（例えば公共経済学、財政学、公共選挙論など）の考え方にもなじむこととなります。

もう一つ、ゼミのメンバーに「独立心」を持ってもらうことも本研究会の目的です。自ら疑問を投げかけ、何が問題なのか、なぜ問題なのか、どのように問題なのかを徹底して考え抜き、独自のものの考え方ができることをめざしています。大上段に振りかぶって言うなら、自分で自分を教育するという意味での「独立自尊」の精神をメンバーに持ってもらうことが本研究会の理想とも言えます。

知識・考え方がネットワークとしての広がりをみせてこそ「研究会」の役割があると考えられるので、担当教員は強制的に何かを「教え込む」ことは基本的には行いません。また、何かを誰かから与えられてくるまで待ってしようというようなスタンスも期待していません。「自分のプロジェクト」、「自分の卒論」という意識で責任を持って、各メンバーにリサーチをしてもらいます。

研究会(3年)

金融商品会計論

教授 伊 藤 眞

授業科目の内容：

この研究会の研究対象は、金融商品に関する会計である。金融商品とは何か。金融資産／負債に係る発生認識、消滅認識、評価、ヘッジ会計、そして、複合金融商品の会計処理方法の検討（日本基準を主軸として、必要に応じ、IAS、米国基準も探る）を通じて、分析と総合、論理的思考方法、発表方法、討論方法を学ぶ。

金融商品会計の原点である、金融商品に係る会計基準、金融商品会計に関する実務指針、及び金融商品会計に関するQ & Aの輪読を行い、設例を解く。毎回担当者がレジメを作成し、解説し、質疑応答・討論する。

卒論については、各自が自由なテーマを選定し、執筆する。

参考書：

- ・「金融商品の完全解説 - 5訂版」伊藤・花田・荻原編著、財経詳報社
- ・改訂増補版「金融商品会計・外貨建取引の実務」日本公認会計士協会編、税務研究会出版局
- ・金融商品に関する文献（金融商品に係る会計基準、金融商品会計に関する実務指針、金融商品会計に関するQ & A等々 監査小六法（平成18年版を入手すること）に掲載の原典）

研究会(4年)

金融商品会計論その2 + 企業組織再編論

教授 伊 藤 眞

授業科目の内容：

卒論（テーマは各自が自由に選定）については、最初に研究テーマ・方針を報告し、研究途中で2回程度及び最終段階で、その内容を報告する。

卒論テーマの報告以外のときは、有価証券・金銭の信託・デリバティブ・債権以外の具体的な金融資産／負債に係る発生認識、消滅認識、評価を通じて、分析と総合、論理的思考方法、発表方法、討論方法を学ぶ。

毎回担当者がレジメを作成し、解説し、質疑応答・討論を行う。

参考書：

- ・「金融商品の完全解説 - 5訂版」伊藤・花田・荻原編著、財経詳報社
- ・改訂増補版「金融商品会計・外貨建取引の実務」日本公認会計士協会編、税務研究会出版局
- ・金融商品に関する文献（金融商品に係る会計基準、金融商品会計に関する実務指針、金融商品会計に関するQ & A等々 監査小六法（平成18年版を入手すること）に掲載の原典）

研究会

企業の成長・衰退と戦略的マネジメント

教授 今 口 忠 政

授業科目の内容：

研究会では、経営現象に対して理論的な考察ができる能力、創造的に対処できる能力、わかりやすくプレゼンテーション（発表）する能力を育成することが目的である。そのため、1) マネジメントに関する文献の輪読、2) 現実の企業動向の資料をもとに分析する学習、3) 研究課題を解決するグループ実習と発表、4) 各自の研究課題に対する研究発表などを取り混ぜて進める。

具体的には、文献を輪読し発表しながら、理論的な概念を学習することから始め、発表、質問、コーディネートの役割を体験できるようにする。夏休みの合宿（2泊3日を予定）では、各自の研究課題に関する発表を中心とし、普段の研究会では時間的に難しい問題解決の実習やケース研究を行う。

秋学期は、研究課題に関するさらに高度な文献を輪読し、グループごとに課題の設定、資料の収集・分析、発表を中心とした研究会を行い、三田祭の発表準備も並行して実施する。最終的に、1年間の内容をレポートにまとめて提出する。

テキスト：

上記タイトルに関連する書物を輪読し、適宜、関連する論文や資料等を配布します。

参考書：

随時、研究会の場で紹介します。

研究会

助教授 牛 島 利 明

授業科目の内容：

この研究会では、明治期から現代にいたる日本の産業・経営の「歴史」を研究分野とします。しかし、産業史・経営史研究は決して過去のみで完結するものではありません。その重要な課題のひとつは「いま現在」私達が抱える問題の歴史的な背景を読み解くことによって新たな展望を獲得する、ということにあります。ある問題がどのような社会的・経済的要因の相互作用の中で形成されたのか、さらに今なぜ変化しつつあるのか（またはなぜ変化しないのか）、その理由を歴史的な文脈の中で解き明かすことが研究上の重要な視角の一つ

なのです。

問題意識なしに歴史を見て、それは無味乾燥な出来事の羅列にすぎません。今日的な問題を考える上で、できあいの説明、根拠のない通説を疑い、長期的な視野を持って考えることができるかどうか、ということが大切です。ゼミで扱うテーマは産業・経営の歴史にかかわるものであれば特に限定しません。共同研究や個人卒論作成を通じ、鋭い問題意識、的確な情報収集と分析をもとに議論を進める能力を培う。これをゼミの最終目的にしたいと考えています。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

必要に応じてその都度指示する。

研究会 助教授 梅津光弘

授業科目の内容：

本研究会は企業倫理 (Business Ethics) および企業と社会 (Business and Society)、経営社会政策 (Corporate Social Policy) などの分野を研究する集まりであり、以下にあげる諸点をその研究目的とします。

- 1) 企業経営を経営学のみならず哲学・倫理的な視点からもとらえ、それらを理論、実践、制度の側面から分析、調査して課題事項の理解を深めるとともに、提言や政策立案などを考察すること。
- 2) 企業経営を事業体を取りまく様々なステイクホルダーとの関係からとらえ、そこにあらわれる経済的、法的、倫理的、社会貢献的などの企業社会責任の理解を深めるとともに、提言や政策立案などを考察すること。
- 3) 今後発展の予想される NGO、NPO などの非営利組織の在り方を考察し、そうした組織と企業との連携の可能性、企業の先導、経営者のリーダーシップのあり方などの理解を深めるとともに、提言や政策立案などを考察すること。

3年生は企業倫理学、企業社会責任論に関する主要論文を主テキストに使い、発表と討論を中心に進める予定です。

4年生は卒論中間発表を中心に進める予定です。

参加者はこうした分野に関心を持ち、2年間真剣に研究してみようという意志のあること、専門の論文が読める程度の英文の読解能力のあること、春学期に開講している現代企業経営各論(企業倫理)を同時履修することなどで。

成績評価方法：

- ・発表及びクラス参加度 30%
- ・レポート 40%
- ・出席・宿題 その他 30%

研究会 国際経済学 教授 遠藤正寛

授業科目の内容：

この研究会では、様々な国際経済問題について、主に経済学の視点から分析することを目的とします。対象とする国際経済問題は問いません。卒業論文として、各自が習得した経済学の分析道具を用いて、課題に対して理論的にアプローチし、独自の結論を導き出すことを目指します。

テキスト：

Paul. R. Krugman and Maurice Obstfeld, "International Economics: Theory and Policy, Seventh Edition." Addison Wesley, 2005

参考書：

遠藤正寛、『地域貿易協定の経済分析』、東京大学出版会、2005年

研究会 教授 岡本大輔

授業科目の内容：

本研究会は日本企業の経営方法、行動、成果の評価分析を目的としている。これは通常言われる経営学研究に他ならない。ただしその方法として実証研究に重点を置き、各要因と成果との関係を計量的に評価する、という特色を持っている。

従来日本の経営学はアメリカの経営管理論、ドイツの経営経済学

などを中心に発展してきた。しかし絶えざる日本経済の成長、発展の結果、いまや日本の経営は、良い意味でも悪い意味でも、世界の注目を浴びるようになった。そこで、日本の経営を対象とした日本独自の経営学を研究する必要が生じてきた。そのためには従来の文献研究に加えて、実際の日本の経営、企業行動を把握するための実証研究が不可欠なのである。

そこで本研究会では各種経営学の文献に触れ、経営学の基礎を学び、また実証研究の武器となる統計的手法を修得する、といった目的を持って活動を行なう。さらにこれらをもとに4年生修了時には全員が卒業論文を書けるよう、指導する。

研究会 教授 榎原正勝

授業科目の内容：

マーケティング現象を経済学的接近をもって認識、分析する「マーケティング経済学」及び「経済学方法論」を研究する。授業では「マーケティング論」「経済学」「方法論」の基本文献を併行的に輪読し、それぞれを関連づけながら総合的理解をめざす。

テキスト：

- ・マーケティング関係：コトラー/アームストロング「コトラーのマーケティング入門」、オルダーソン「マーケティング行動と経営者行為論」、田村正紀「流通原理」、その他
- ・経済学関係：メンガー「国民経済学原理」、オドリスコル/リッツォ「時間と無知の経済学」、その他オーストリア派経済学の著作
- ・方法論関係：K. ボバー「フレームワークの神話」、「より良き世界をもとめて」、M. ウェーバー「職業としての学問」、「社会科学の方法」その他

参考書：

その都度指示する

研究会 金融論・ファイナンス 教授 金子 隆

授業科目の内容：

金融に関する様々な事象を、経済学的な視点から理論的かつ実証的に分析する。新聞などで目にする金融的なトピックスについて、ただ表面的な知識を得るだけでなく、問題を発見し、背後にある本質を理解し、通説や政策の妥当性を検討する。そうした作業を通して、物事の是非を先入観抜きで客観的に判断し、自分の考えを論理的に述べる力を養ってもらおう。これがゼミで私がかもっとも心掛けている点である。

研究会 助教授 神戸和雄

授業科目の内容：

当研究会は経営学の領域一般を研究対象としているが、特に企業における情報の取り扱いに注目して研究を行う方向を企図している。

近年、インターネットの急速な普及に伴い、情報ネットワークに関する関心が高まりつつあるが、現実の企業における情報システムの導入は必ずしも円滑に行われているとは言えない側面がある。情報システムの大規模投資に見合うだけの効果が得られるかどうかは個別企業の特性にどれだけ合致した情報システムを構築、運用できるかにかかっている。情報技術の進歩は目覚ましいものがあり、的確な方向性を見出すためにはある程度、技術的な側面を理解することも必要になってくるものと考えている。

着実な分析を行うために、まず経営学の基礎的な知識の確認を行うことが必要となる。3年生の前半は経営学の基礎的な知識を確認するための基本文献を輪読する。それと併せて、企業経営の評価を行うために財務データによる分析を3名程度の小人数グループにより行う。基本文献の輪読は主として授業時間中に、財務データに基づく企業分析は各グループが個々に進めてゆくこととなる。

研究会 教授 菊澤研宗

授業科目の内容：

「組織の経済学」あるいは「新制度派経済学」と呼ばれている取引

コスト理論、エージェンシー理論、所有権理論や「行動経済学」あるいは「経済心理学」と呼ばれている限定合理性アプローチを徹底的に理解し、それを経営組織、経営戦略、コーポレート・ガバナンス問題に応用し、最終的に卒業論文を書き上げることを目的とする。

研究会

助教授 吉川 肇子

授業科目の内容：

この研究会では、人間の社会的な行動を、実証的な手法を用いて分析することを目的としています。

3年生では、(1) 調査や実験をもとにした論文を批判的に読む訓練をします。(2) 調査や実験の手法を身につけます。(3) 英語の論文をもとに、卒業論文の計画を立てます。

4年生では、データをもとにした卒業論文の作成を行います。

テキスト：

- ・浜田 麻里 (著) 大学生と留学生のための論文ワークブック くらしお出版
- ・吉田寿夫 (著) 本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房
- ・他3冊 (開講時に指示します。)

研究会

助教授 木戸 一夫

授業科目の内容：

この研究会では、システム・組織・制度に共通する相互作用、特に補完性、を数理的に研究します。

Machiavelli や孫子などの古典の教え、システムの法則から、企業組織における仕組み、世の中の仕組みまで、広く研究対象とします。頻りに観察される法則や仕組みには、必ず、理論的妥当性があるはずです。

ゲーム理論と、スーパーモジュールの理論 (補完性を定式化するための新しい理論) を武器に、モデル化という形で、理論的根拠を追求していきます。これに行動経済学の知見をスパイスとして加味すると、世の中が見えてきます。

「可能性の追求」をモットーとして、なぜそうなっているのか? どうしたら現状を変えられるのか?あるいは逆に、どうしたら現状を維持できるのか?とことん追求します。

3年次は理論的文献の輪読が中心、4年次は個別研究が中心になります。

研究会

教授 工藤 教和

授業科目の内容：

個別産業史、比較産業史、経済史、経営史などの分野から各自卒業論文の課題を設定し、完成に向けて努力することを基本とする。その上で、研究会構成員が討論を通じてそれを援助する。分析に必要な基本的な知識・手法などについては研究会のとくに初期に集中して身に付けることになる。また、現実社会に対する問題意識 (それは歴史研究の出発点でもある) を磨くために現代の社会経済についてのディベート、時事問題討論を行なう。

テキスト：

鈴木良隆・米倉誠一郎・安部悦生 (著) 『経営史』有斐閣 1987年参考書：

- ・武田晴人 (編) 『日本産業発展のダイナミズム』東京大学出版会 1995年
- ・湯沢威 (編) 『イギリス経済史 盛衰のプロセス』有斐閣 1996年
- ・中川敬一郎 『比較経営史序説』東京大学出版会 1981年
- ・ジェフリー・オーウェン (著) 和田一夫 (監訳) 『帝国からヨーロッパへ 戦後イギリス産業の没落と再生』名古屋大学出版会 2004年

研究会

教授 黒川 行治

授業科目の内容：

私の見るところ、会計とは、企業の経済的活動及びその結末を測定・伝達する人間の行為であり、また測定・伝達された情報を解釈・

利用する人間の行為である。かかる見地に立つと、人間の行為を研究対象とする他の学問の方法論が会計を研究対象とする会計学においても用いることができるのではないかと考えられる。学際的研究という言葉がいわれてから久しいが、事実、会計学は今や、行動科学、意思決定論、情報理論、財務論、社会学、政治学といった隣接諸科学の影響を受けて、非常に多様な学説あるいはアプローチが乱立する時代を迎えている。

かかる会計学の現状の中で、私自身の目標は、学際的アプローチによって会計行為を再解釈すること - 時には理論モデルを使った演繹、また時には統計手法を使った実証 - であった。何故ならば、かかるアプローチにもとづく解釈結果が既存の解釈を補強し、あるいは凌駕するような新発見となるかもしれないからである。

私がこれまで行ってきた研究は、キャッシュフロー計算書の有用性の検証と財務流動性の新指標の開発、企業の会計代替案選択行為および会計手続変更に関する実証的研究、意思決定論を用いたエージェンシーセオリーの探究、会計学の分野におけるプロスペクトセオリーの適用等の心理学的研究、株式評価と合併比率の決定に関する実証的研究、M & A と連結・合併会計との関連、オフバランス取引と会計認識・測定、会計・監査の変容と市場の論理に関する研究等である。

もちろん、これらは私の個人的研究テーマであって、ゼミ生諸君の卒論のテーマとして固執するものではない。

テキスト：

3年生, 4年生：

パレブ・バーナード・ヒーリー著 斉藤静樹監訳 『企業分析入門』(第2版) 東京大学出版会, 2001年。

研究会

教授 権 丈 善 一

授業科目の内容：

<http://fbc.keio.ac.jp/~kenjoh/seminar/> を参照してもらいたい。

研究会

助教授 斉藤 通 貴

授業科目の内容：

私の研究領域は、マーケティング戦略と消費者行動論である。P. ドラッカーは、マーケティングの目的は「セリング (販売・売込み) を不必要にすること」と述べている。これは、消費者 (市場) のニーズをよく理解し、そのニーズに対して適切な製品をデザインし、広告や他のコミュニケーション手段によって、買手に製品のコンセプトやアイデアが良く理解され、適切な価格、場所で売られれば、売込みをしなくても消費者の満足をもたらして売れる、ということを表している。この売れの仕組み作りこそがマーケティング戦略だと言ってもいいだろう。このドラッカーの考え方の焦点となっているのは消費者であり、消費者の理解なくしては効果的なマーケティングの展開は不可能である。

では、消費者行動研究の対象とはどのようなものなのだろう。第一に、標的市場の選定に必要な研究が挙げられる。経済的な豊かさや物質的な充足は、モノの所有ではなく、製品やサービスの生活における意味やコンセプトを消費する成熟した市場を産んだ。つまり、モノを持つことによる満足から、生活を豊かにし、自己実現を達成する小道具、大道具として製品やサービスが買われるようになったのである。その結果、企業は特定のニーズやライフスタイルを共有する部分市場に狙いを定め、製品開発を行い、その他のマーケティング手段を用いて消費者の満足を得ようと努力する。こうした目標となる市場 (標的市場) を決定するためには、経済的要因、人口統計学要因、生活研究やライフスタイルからの分析を組み合わせることが必要となる。

第二に、どのように消費者は購入ブランドを決めるか、といった選択行動の研究が挙げられる。消費者は、自らの経験や知識、知人や友人の話、広告や雑誌などの情報をもとに購入ブランドを決めていく。こうした情報の処理プロセスの理解は、有効なマーケティング戦略意思決定において非常に重要なテーマである。

この他にも、どんなタイプの人がおピニオンリーダーとなるか、文化や人種の違いが購買行動にどんな影響を与えるか、近未来の消費トレンドはどうなるか、などなど多様な研究がある。

いずれも、マーケティング戦略を考えていくうえで不可欠であり、消費者行動を理解との有効な戦略を策定するには、心理学、社会心理学、社会学、文化人類学をはじめ多くの学問分野の成果を援用したインターディシプリナリー（学際的）な視点が必要である。

以上、簡単に消費者行動研究について触れてきたが、こうした研究を中心に据え、ゼミ員の関心に基づいてマーケティング、流通についても広く考えていきたい。

研究会 教授 榊原 研 互

授業科目の内容：

当研究会は、経営学の学説史的分析を主たる目的とする。

経営学説史というと、過去の経営学説や理論を年代順に整理して紹介するだけの学問と思われがちだが、むしろ歴史を学ぶ本当の意味は、過去を通して現在を知ることにある。つまり経営学説史の意義とは、経営学の発展のために先人達が払ってきた多くの努力の成果を理解し、それらを正確に位置づけることでこの学問の現状を知り、またそれによって将来の発展のための手掛りを得ることにある。

経営学は学問としてすでに1世紀の歴史をもち、今日では社会科学の1学科として確固たる市民権を獲得している。しかし近年における対象領域の拡大や研究分野の細分化は、隣接諸科学との境界をますます不明確にし、今や経営学は「セオリー・ジャングル」と形容されるほど錯綜した様相を呈している。それだけに、目下の経営学にさらに実り豊かな発展を望もうとすれば、既存の諸理論、諸学説の体系的な整序が何よりも急務な課題となる。とりわけ新しい理論が次々と唱えられる今日、学説史の理解なしにそれらの真価を見極めることは不可能であろう。

もっともその場合、観点の選択次第で多様な学説史が描けることを知ることは重要である。したがって学説史の研究にあつては、「科学の進歩とは何か」「理論の真の理解とは何か」といった根本的な問題を避けて通ることはできない。それには単に経営学の知識のみならず、方法論や哲学などの幅広い知識が必要とされるのである。

本研究会ではこのような問題意識に基づき、まず学説分析に必要な基礎知識の習得を目指す。とくに方法論の習得は決して容易なものではなく、多くの努力と忍耐を要するが、研究会ではこうした思考のトレーニングを通して、幅広いものの見方、考え方を養成してゆくつもりである。

研究会 計量経済学・国際産業連関分析 教授 桜本 光

授業科目の内容：

当研究会の研究領域は、計量経済学であるが特に、国際産業連関表を用いた世界経済と日本との相互依存関係を分析する産業連関分析を専攻する。本ゼミでは、専攻分野の研究は勿論、より広く現代の経済現象を実証科学の立場で正確に理解し、自ら判断し行動できるような一般的知性をも養成する。サブゼミでは、計量分析の基礎知識を確保するのに必要な書物、論文等を適時輪読する。過去の卒業論文は、原則として統計資料を使った計量分析を伴う研究が多いが、テーマ及び分析手法は各自自由である。

研究会 助教授 佐藤 和

授業科目の内容：

本研究会は、現代企業経営についての実証研究の方法を学び、卒業時まで全員が各自の研究を卒業論文としてまとめることを目標としている。

実証研究とは、理論だけを単独で研究したり、逆にただ単に事例（ケース）を集めたりするだけではなく、両者を組み合わせることによって、企業経営を理論から導かれた仮説を通して考え、データや事例によって検証してゆく方法論である。

そして計量経営学 (Manage-metrics) の研究会として、少なくとも「数字」には強くなってもらいたい。まず企業に関するデータの収集・分析の方法を体系的に学び、さらにその実習を通じて統計的な分析の「結果」を吟味できる能力を身につけてもらいたい。そこでは必ずしも数学的な「知識」は要求されないが、統計的な「センス」

を磨いてほしいのである。

そして各人の問題意識に合わせて、3年でのグループ研究及び4年での卒論の研究テーマは、広く経営学全般から自由に選んで取り組んでほしい。

研究会は一般の授業とは異なり、各メンバーのより能動的な参加が要求される。研究会の活動内容や雰囲気、自分たちで積極的に創り出していこうと考えている学生を希望したい。

研究会 マーケティングと消費者行動 助教授 里村 卓也

授業科目の内容：

本ゼミでは、マーケティング現象をモデルにもとづいて理解できるようにすることを目的とする。マーケティングおよび消費者行動のモデル化が本ゼミの主なテーマとなる。複雑なマーケティング現象を理解し、マネジリアルに活用していくためには、抽象化・単純化された「モデル」を用いて分析していくことが有用である。本ゼミでいう「モデル」とは数理的なモデルだけでなく、概念的なもの、グラフィカルなもの等、現象を抽象化する手段全般を指す。現象を抽象化することは理論的考察へとつながり、またデータを利用した計量的な分析も可能となる。

研究会の参加者は、「モデル」と「データ」を利用しながら各自興味のあるマーケティング上のテーマについて探求を行っていくことになる。

研究会 知的財産 教授 清水 啓助

授業科目の内容：

この研究会は、知的財産をビジネスという側面から捉え、経営や新事業の資源とすることを研究の対象とします。

特許、ブランド、デザイン、ソフトウェア、コンテンツ等の知的財産は企業の新たな競争力の源泉として注目されています。そして、これからの経済成長の原動力として知的財産を日本の産業の基盤とする「知的財産戦略」が打ち出されました。

当研究会では、知的財産の多様性や特殊性についての理解を深めるとともに、産学連携、ベンチャー創出、知的財産戦略や知財ビジネスについて、ケーススタディや討論を行っていきます。

参考書：

- ・西村吉雄 著「産学連携」日経 BP 社
- ・岡本薫著「著作権の考え方」岩波新書
- ・リベット/クライン 著「ビジネスモデル特許戦略」NTT 出版
- ・清水啓助他 著「知的創造時代の知的財産」慶應義塾大学出版会

研究会 専任講師 鄭 潤 澈

授業科目の内容：

本研究会は、近年の日本そして全世界の企業経営、産業、経済の様々なホット・トピックスの中から興味を引く課題を選んで実態調査と分析を行い、その結果を発表するグループ課題の形式で行われます。

第1回目の研究課題は「移動体通信市場の実態分析」です。携帯電話市場のテーマ別分析(料金競争、端末機の製品・価格競争、サービス競争、消費者行動等)と国別比較(日・米・英・中・韓等)をグループに分けて行います。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業中に必要に応じて紹介します。

研究会 教授 新保 一成

授業科目の内容：

研究会では、持続可能な社会をテーマに数量分析をおこないます。産業連関分析をおもな分析道具とします。わたしたちが生活する社会は、気候変動問題(地球温暖化や異常気象による災害など)、環境問題、食、住居、健康などにかんして、生活の安全性や人類社

会の持続性を脅かす問題に直面しています。研究会では、ゼミ員が協働して、関連するさまざまな領域の情報を収集し、持続可能な社会の将来シナリオを描きます。その将来シナリオを実現するためのコストと社会経済構造はいったいどのようなものであるかを、産業連関分析の手法を用いて包括的、数量的、そして詳細に分析します。持続可能な社会のシナリオは、ゼミ員が組織するプロジェクトで1年に少なくともひとつ、3年生と4年生協働で作成します。分析の成果を報告書としてまとめ、三田祭において3年生と4年生協働で発表します。プロジェクトを進めていく過程で、資料の収集の仕方、文献の読み方、パソコンをもちいたデータ分析の方法、論文の書き方、プレゼンテーションの仕方など、分析に必要で、かつ将来役に立つスキルを身につけていくことになります。また、視野を狭めないため、多角的に考える習慣をつけるために、一月にいちどの割合でゼミの時間を読書会にします。読書会では、指定された本について自由闊達に議論したいと思います。

テキスト：

1. Wassily W. Leontief (1985) "Input-Output Analysis", in W. W. Leontief, *Input-Output Economics*, Second Edition, pp. 19-40, New York: Oxford University Press.
2. Wassily W. Leontief (1970), "Environmental Repercussions and the Economic Structure", *Review of Economics and Statistics*, 52, 262-72.
3. Wassily W. Leontief (1974), "Structure of the World Economy: Outline of a Simple Input-Output Formulation", Nobel Memorial Lecture, reprinted in *American Economic Review*, December, 823-34.

参考書：

木下是雄『理科系の作文技術』, 中公新書。

研究会

教授 清家 篤

授業科目の内容：

この研究会では、自分の頭でものを考えられる人間を育てることを目的にしています。そのときどきの環境のもとで大切なことは何かを判断し、行動できる知性を身につけるといことです。これは意識して磨かないと身につけません。

そのためには、自分の身の回りのことや社会現象にいつもみずみずしい関心をもつことがまず必要です。そのうえで、その自分の関心のあることを、できるだけ論理的に説明するトレーニングをしなければなりません。

具体的には、ゼミ員に卒業論文を書いてもらうことによってこのトレーニングを行います。論文のテーマはおよそ世の中に存在するものであれば何を選んででもかまいません。またそれを、説明する方法も、論理的であるかぎり特に限定はしません。要は、私や他のゼミ員を納得させられるかどうかということ、そして社会に新たな叡智をもたらすものであるかどうかということです。

3年生は、まず最初に、卒業論文を書くための基礎能力、すなわち問題発見能力、分析能力、表現力を身につけるために、毎回1~2名のレポーターに課題を与えて報告してもらいます。また4年生は卒業論文の中間報告を中心に活動します。いずれも報告者以外のゼミ員は、必ずひとつは質問ないしコメントをする義務を負うということにしています。またゼミ員全員で分担を決めて参加する三田祭の共同研究や、野外の企業見学といったことも行っています。

研究会

教授 十川 廣 國

授業科目の内容：

4年生のみの研究会であるので、卒業論文作成のための指導を行う。

テキスト：

なし

参考書：

卒業論文の中間発表の都度、各学生に指示する。

研究会

教授 園田 智 昭

授業科目の内容：

私の研究分野は管理会計論です。管理会計は、企業の経営に有用な会計情報を、経営者・管理者・現場の作業員に提供します。管理会計を理解するためには、その前提として広く企業活動全般について理解する必要がありますので、本研究会ではそれらについての学習も補足的に行います。

テキスト：

最初の時間に指定します。

参考書：

最初の時間に指定します。

研究会

助教授 W 久 隆 太

授業科目の内容：

本研究会では、租税法及び税務会計を研究対象とするが、特に国際課税(国際租税法)に焦点を当てて研究することを目的としている。

近年、企業活動のより一層の国際化、企業組織形態の多様化等を背景に、クロスボーダー取引が拡大かつ、複雑化してきている。この結果、各国の課税権が衝突し、国際的二重課税が生じる可能性が高くなっている。企業にとっては、どの国へどのような企業形態で進出するかは重要な経営判断項目となっており、国際税務戦略の必要性が高まっている。一方、国家にとっては、他国の課税権との競争を調整しつつ、課税の空白を防止することにより、自国の課税権を確保しなければならない。

こうした状況下、租税条約、租税法といった国際租税法及び国際課税の実務を理解することを目標とする。

テキスト：

講義の中で指示する。

参考書：

講義の中で指示する。

研究会

マーケティング研究

教授 高橋 郁 夫

授業科目の内容：

当研究会は商業学・マーケティング分野に属し、様々なマーケティング現象を理論的・実証的に解明するための基礎知識とその方法を習得することを目標としている。その上で、マーケティング戦略の立案等の応用面にも目を向け、マーケティング的なものの見方を養うことも重視している。

具体的な研究方法としては、学術書および論文の講読に加え、コンピュータによるマーケティング・データの解析、ケース・メソッド、ディベート、合宿研修等を適宜取り入れる。2年間の総合的な学習を通じて、マーケティングに対する専門的知識と企画提案力が身につくように指導して行きたい。

テキスト：

高橋郁夫(2004)『消費者購買行動 小売マーケティングへの写像【増補版】』千倉書房。

研究会

産業組織論 / 競争戦略論 / 中小・ベンチャー企業論

教授 高橋 美 樹

授業科目の内容：

私の研究会では、市場・産業内部での企業間競争の分析を基本とします。各自の研究テーマは、なんらかの形で「市場 (Market)」, 「競争」が関連する限り、自由に選択できます。研究会での活動を通じて、専門分野の基礎的知識、問題発見・分析・解決の能力、発表・討論の仕方など様々なことを身につけてもらいたいと思います。

具体的な研究対象としては、多角化、広告、研究開発、海外進出などの企業戦略、製造業にとどまらず、流通分野、公的規制分野等も含む個別産業分析、企業集団・系列などの日本経済・産業の制度分析などが考えられ、その範囲は非常に多岐にわたります。

す。ちなみに、ここ数年の三田祭研究のテーマは「環境問題と中小企業」「ベンチャービジネスの資金調達」「中小流通業の活性化戦略」「中小企業の戦略的連携」「中小企業の人材活用戦略」「地域活性化と中小企業」「中小企業再生支援と金融機関」などでした。

本研究会での学問的基盤をなす産業組織論は、元来、独占禁止政策・公共政策の理論的なバックグラウンドとして展開されてきました。そこでは、「市場構造」(集中度、参入障壁など)「市場行動」(企業の戦略的行動)「市場成果」(利潤率、技術進歩など)という大きな枠組みにそって、産業が分析され、望ましい市場成果を得るために必要な政策が考察されます。つまり、産業組織研究の最終的な目的は、企業だけでなく、消費者や政府の立場をも視野に入れ、具体的に公共政策を考察することにあるということです。私自身は、産業組織論の応用として、ベンチャー企業の戦略や中小企業政策の研究を進めています。

なお、研究会に関するより詳しい情報は、下記ホームページにありますので、参照下さい。

<http://www.fbc.keio.ac.jp/~takamiki/>
テキスト:

最初の授業までに入手方法を示します。

参考書:

必要に応じて、授業中に紹介します。

研究会 助教授 谷口和弘

授業科目の内容:

現代企業は、さまざまな制度(組織構造、戦略、文化、ガバナンス・システム、ビジネス・モデルなど)によって構成されたまとまりをもつシステム(制度の複合体)としてとらえることができる。とくに近年、企業は経済のグローバル化やICT(情報・通信技術)の発展による環境変化のなかで、ドラスティックに変化している。本研究会は、比較制度分析や企業制度論の研究成果をふまえたうえで、現実世界で進化を遂げている企業のさまざまな制度的特徴にフォーカスをあてて研究を進めていく。

テキスト:

適宜指定する。

参考書:

- ・谷口和弘(2006)『企業の境界と組織アーキテクチャ:企業制度論序説』NTT出版、近刊。
- ・J. ロバーツ(谷口和弘訳)(2005)『現代企業の組織デザイン:戦略経営の経済学』NTT出版。
- ・R. ラングロウ・P. ロバートソン(谷口和弘訳)(2004)『企業制度の理論:ケイパビリティ・取引費用・組織境界』NTT出版。
- ・青木昌彦(瀧澤弘和・谷口和弘訳)(2001)『比較制度分析に向けて』NTT出版。

研究会 社会問題の経済学・交通経済学 教授 中条 潮

授業科目の内容:

自由経済体制の中にあっても、我々の日常生活は多くの規制にとりかまれている。たとえば、麻薬の所持・使用、一方的な離婚、希少動物の捕獲、プロ野球球団の自由な選択等は禁止されている。これらの規制は一見、社会的あるいは道徳的な価値判断に基づくもののように見えるが、人間の社会的行動はすべて費用と便益に基づいてなされるという事実を照らせば、これらの社会的規制の妥当性を経済学を用いて分析することが可能である。

この研究会では、社会的問題とされている様々な問題について、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、それらの社会問題の解決・改善方法として現行の規制が妥当か否かを議論する。

また、上記の政府規制が特に多く関係している分野が交通と公益事業(電力、ガス、通信等)である。この分野については、上記と同様の公共経済学的なアプローチを行うとともに、交通・公益事業に固有の経済的特徴・問題についても研究する。

したがって、本研究会の論文の過去のテーマ例は、教育自由化、医療保険の民営化、地方分権、農業保護の撤廃、上下水道・電気通信・電力など公益事業の規制緩和、金融規制緩和、外国人労働者問

題、政府開発援助、大型店舗規制の廃止、自然保護、ゴミ処理、レンタルCD問題、刑罰の経済学的考察、芸術保護、性表現、プロ野球、オリンピック、航空、大都市鉄道、新幹線等多岐にわたっている。

研究会 教授 辻 幸民

授業科目の内容:

当研究会の研究対象は、金融に関するものであれば何でも構わないが、分析のための手法は経済学をバックグラウンドとするものに限定する。当研究会の目的は、金融の現象を経済学の観点から分析する基本的な手法を習得することであり、そして各自の問題意識に応じて問題を設定し、習得した分析手法を応用することで見出される答を、卒論としてまとめて頂く。

具体的には資本市場や企業金融、デリバティブといった分野で使われる基本的な分析手法を勉強していく。この結果、2年後に卒論を完成させることが出来た者は、「ファイナンス」という分野の基本的な知識と分析手法を身に付けていることになる。そのためには、経済学と統計学および数学が必要不可欠であり、また実証的な問題解決のための道具としてコンピューターの利用も欠かせない。これらは各自の必要に応じて補習していく。

テキスト:

今年度のテキストは、

- ・榊原茂樹・菊池誠一・新井富雄『現代の財務管理』(有斐閣)
- ・辻 幸民『企業金融の経済理論』(創成社)

参考書:

必要に応じて指示する。

研究会 教授 友岡 賛

授業科目の内容:

本研究会は会計学の研究会であって、その研究対象は、会計にかかわる問題でありさえすれば、とくに限定しないが、いずれの問題についても、基本的な思考に立ち返って考える研究姿勢を肝要視する。そしてまた、思索と議論とによって理論を構築することの甘苦を共にする。

研究会 教授 中島 隆信

授業科目の内容:

本ゼミの目的は、実証科学としての経済学の分析手法を身につけることである。大学卒業後、社会人となる学生諸君にとって最も必要となるのは、社会が様々な問題に直面したときに正しい判断を下せる能力を身に付けておくことである。そして、正しい判断の拠り所となるのは、事実に対する鋭い観察眼と、それを解析するための経済学の理論である。本ゼミは、学生諸君個々人の問題意識を引き出すとともに、それら問題点を実証分析の手法に則って解明し、研究成果をゼミ員との活発な議論を通じて磨き上げて2年後の卒業論文の形で完成させるという順序で進めていく。

研究会 監査論 助教授 永見 尊

授業科目の内容:

この研究会は、「監査論」を中心とし、監査人の独立性とは何か、証拠とはどのような構造となっているのか、最新のリスクアプローチはどのような要素が取り込まれているのか、近年開始されたゴーイング・コンサーン問題(決算日後1年の間に企業が倒産の危機に直面している状態)はどのように実施されているのか、といったテーマが研究対象となります。しかしそれだけではなく、企業のコントロールという視点から、現実の経済社会で起きているさまざまな動き、事件あるいは問題などを検討していきたいと考えております。

テキスト:

最初の時間に指定します

 研究会
 マーケティング・サイエンス 教授 濱岡 豊

授業科目の内容：

このゼミでは、複雑に見える「市場」における現象の本質的な部分をみだし「論理」「モデル」を組立てて、「データ」を用いて検証し、それを実際に「マネジリアル」に役立てようというアプローチ、つまりマーケティング・サイエンスの視点から分析できるようになることを目的とする。

テキスト：

特に指定しない。資料は濱岡のホームページよりダウンロード可能。

<http://news.fbc.keio.ac.jp/~hamaoka/>

参考書：

上記を参照

 研究会 教授 早見 均

授業科目の内容：

卒論となる研究論文ないしはそれに類する創作物を仕上げるのが研究会の到達目標である。そのためには、研究テーマの選択、構成、必要な資料の収集、適切な分析、類似研究のサーベイ、文章作成上の留意点や論文としての体裁、効果的な発表方法などを身につけていく必要がある。

各自の研究テーマはさまざま、担当者自身、これまで労働経済や環境問題の分野で、統計的手法を応用して、労働時間・ワークシェアリング、リンクしたマイクロデータによる雇用分析、工学的データや貿易データを産業連関表とリンクさせて環境影響評価をおこなう、中国と日本の多部門マクロモデルとエネルギーバランスシミュレーションなど分野横断的研究をおこなってきた。したがって、この研究会の得意とする内容は 統計的な手法を利用し、さまざまなデータを加工して、仮説を検証していく計量経済学の領域、技術や新製品などの情報と産業連関表を利用した環境影響評価、分析に応じて必要とされる統計学、計算手法、コンピュータ利用など方法論的な課題である。研究分野の内容にこだわらず、重要な意義のあるテーマをいくつか選んで履修者全員で検討したい。

テキスト：

特になし

参考書：

D. Williams(2001) *Weighing the Odds*, Cambridge University Press.

 研究会 教授 樋口 美雄

授業科目の内容：

このゼミでは、まず経済現象の変化や政策の有効性に関する議論に着目し、つづいてそれらの背景を知る上で必要となる分析ツールを勉強する。そして最終的にはそれらを援用して、自分の興味のある現象を実証的に分析し、政策の是非を評価できるまでになれるよう目指す。研究対象となるテーマは社会現象であれば、とくに問わない。

 研究会 教授 平野 隆

授業科目の内容：

この研究会は、おもにつぎの二つの分野を領域とする。近代日本経済史・経営史：幕末・明治維新から現在に至る日本の経済・経営・社会の歴史的研究、および日本と欧米あるいはアジア諸国との比較的研究。消費社会論：消費文化と小売業、広告、マスメディアなどの関係についての歴史的・社会学的研究。

3年次では、専門基本文献の輪読、あらかじめ与えられたテーマによるディベート、各自が選んだ文献・論文のレビューなどにより、経営史・消費社会論の基礎知識、分析方法やプレゼンテーションなどの基本的なアカデミック・スキルの修得を目指す。夏休み以降は、卒論作成のための個別指導（テーマの設定、研究文献・資料の探索、論文構成、執筆の技法など）を併行して行う。4年次は、主に卒論の中間報告を中心とし、私を含めたゼミ員全員との質疑応答を通じて、

より完成度の高い論文に仕上げることを目指す。

 研究会
 国際経済（国際金融論とコーポレート・ガバナンスの国際比較）
 教授 深尾 光洋

授業科目の内容：

大学での勉強は、試験対策のための短期決戦型になり勝ちで、陸上競技で言えば短距離競走のようなものであることが多いに思っています。しかし就職してからの社会生活での競争は、むしろ自分でペースを作って自らの市場価値を維持し高めていく、マラソン型のもになります。会社で上司からの仕事を必死にこなしているだけでは、短期的な評価は上がっても、長い目でみると競争力をなくしてリストラ対象になりかねません。終身雇用・年功序列の日本型人事制度は崩れて行く方向にあり、そうなると自分自身に投資を続け、市場価値を維持できる人と、そうでない人の格差は、長期的には大きなものになることが予想されます。そこで私のゼミでは、就職してからも自分の市場価値を維持し高めて行くサバイバルのノウハウを身に付けることを大きな目標にしたいと思います。そのために、読書の仕方、情報整理の仕方、パソコンを使った情報収集や情報交換のやり方について、実践的に学ぶことを目標にします。具体的には、国際金融とコーポレート・ガバナンスの国際比較という金融のマクロとミクロの側面を毎年交互に勉強し、二年間のゼミを通して学ぶことにより、現実の金融・経済動向を見る目を育ててゆきたいと思っています。

参考書：

授業計画を参照。

 研究会
 保険学・保険政策論 教授 堀田 一吉

授業科目の内容：

本研究会は、保険学および保険政策論を研究する。国民生活が豊かになるにつれて、保険制度は、我々の生活に深く浸透し、身近な存在になってきた。我々の安定した生活は、多くの人々との関わりの中で、広い意味で、さまざまな保険制度に支えられているということが出来る。したがって、我々の研究対象は、生命保険や損害保険に限らず、公的年金や医療保険などの社会保険の分野をも含んでいる。しかも、それぞれに他の制度とのつながりを深めていることから、一つの問題を取り上げる上で、保険制度全体の理解が必要とされる。我々の最終的な課題は、経済活動をより安定的かつ発展的に営むためには、保険制度がどの程度有効に機能するか考究すると共に、その限界を把握することにある。そうした研究過程を通じて、さまざまな社会問題に対する本質的理解と、その解決策を追究する。

テキスト：

・堀田一吉『保険理論と保険政策 原理と機能』東洋経済新報社
 ・Harrington and Niehaus, *Risk Management and Insurance*, McGraw Hill.

参考書：

堀田一吉・岡村国和・石田成則編著『保険進化と保険事業』慶應義塾大学出版会

 研究会 教授 堀越 比呂志

授業科目の内容：

本研究会は、マーケティング論の研究会であるが、私の主たる研究領域がマーケティング方法論とマーケティング学説史であるということから、マーケティング論だけでなく、科学哲学および関連諸学科の文献も題材として取りあげられる。本研究会では、このより広い領域の基本的知識の概要を提示した上で、そこから自分のテーマを選定してもらい、論文作成を指導する。

本研究会の目的は、このプロセスからの知識修得よりも、むしろそのプロセスにおける要約力・批判力・構成員という知の技法を磨くことにある。それゆえ、自分の中に表現したい熱いものを持ち、どんなテーマでも自分とつながりがあるのだという気持ちで、積極的に討論に参加できる人をゼミに迎え入れたい。

参考書：

堀越比呂志著『マーケティング・メタリサーチ』千倉書房 ¥3800 + 税

研究会

助教授 前川 千春

授業科目の内容：

一般に企業会計は、株主や債権者など企業外部の利害関係者に損益計算書・貸借対照表・キャッシュ・フロー計算書等の財務諸表を通じて企業の経営成績および財政状態を報告することを目的とする財務会計と企業内部の管理者各層に意思決定を行いまたは業績を評価するのに有用な会計情報を提供することを目的とする管理会計の2つに大別されるが、当研究会は前者の財務会計を研究対象とする。外部利害関係者に提供される会計情報は法律等の規制を受けることが多いため、財務会計の勉強といえ専ら会計処理や表示に関する現行の諸基準・諸規則を覚え込むことであるかのように思われがちであるが、研究会では、単なる知識の習得ではなく、常に、何故そのようになっているのか、果たしてそれでよいのか、といった問い掛けをし、自分で答えを見出そうとする姿勢を身につけることを目標とする。

3年の本ゼミでは財務会計の基本書を2～3冊選んで輪読を行う。前もって割当てを決め、レジュメの作成・発表という形を採って進めていくが、ゼミそのものは担当者の発表に基づいて全員で議論することが中心となる。4年の本ゼミは主に卒業論文作成のための発表に充てられ、各自2～3回の中間報告を行って最終的な完成を目指す。その他にサブゼミ・合宿・三田祭発表なども行う予定である。

テキスト：

- ・平野皓正・鉄耀造訳『アメリカ会計セミナー』シュプリンガー・フェアラーウ
- ・岸本光永監訳『ヘルファート企業分析(第2版)』中央経済社
- ・武田隆二『最新財務諸表論』中央経済社
- ・広瀬義州『財務会計』中央経済社
など。

参考書：

- ・田中茂次『現代会计学総論』中央経済社
- ・桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

研究会

助教授 前田 淳

授業科目の内容：

現在、国際経営、国際経済をめぐる動向は、実に目まぐるしい。北海道拓殖銀行、山一証券、三洋証券の経営破綻、旧財閥の枠組みを越えたさくら銀行と住友銀行の合併、日産自動車に対するルノーの資本参加、国外に目を転じれば、東西ドイツ統一、欧州連合の結成、ユーロバンクの設立、アジア経済危機など枚挙にいとまがない。この企業・経済を巡る激変の本質や原理を客観的に理解し分析できる能力が益々必要とされる時代となっている。この能力を少しでもより多く身につけてもらうために3つの主たるメニューを用意している。

第1に、基本的な経営学、経済学の文献を輪読し、著者の主張する論点を正しく把握し理解できる能力をつけてもらう。レポーターと司会役を決め、レポーターの報告を基に質疑応答を通して文献の理解度を深めてもらう。

第2に経営分析である。今年は、光学・電機メーカー(キャノン・ソニー・NEC等)の経営分析を予定している。この目的は、論理的思考力と分析力の養成と発展である。

第3に、卒論作成である。上記2項目を通して身につけた論理的思考力、実証的分析力を遺憾なく発揮し、論文作成に取り組んでもらう。論文のテーマは各自自由に設定する。

参考書：

授業の中で随時紹介する。

研究会

教授 牧 厚志

授業科目の内容：

この研究会では「経済を見る目」を養い、複雑な経済現象を自分なりにわかりやすい言葉で説明できるような能力を開発していきたいと思っております。

研究会

教授 三浦 雄二

授業科目の内容：

私の研究会は、「経済社会学」の名称のもとで現在我々が展開している経済生活における人間問題の社会構造的背景の究明が試みられる。中心に置かれるのは私自身の専門である産業社会研究(したがって、人間問題として浮かびあがってくるのは労働者の社会的存在性であり、分科社会学の名称としては「産業社会学」がより近い)であるが、研究会としてはやや枠を広げ、経済活動との係わりで生じてくる多様な人間問題の中から各員が知的関心を持つものを選べるようにしてある。しかし、これだけでは些か漠然とし過ぎるので、研究会としては、一方で「社会学的思考法を磨く」ことに努めるとともに、他方で現在の我が国に代表される「資本主義の高度産業社会における人間問題の具体的諸相の確認」が果たされていく。何はともあれ、現代の経済生活は産業社会として結実しているからである。各員はこの二つの方向性を結びつけようとする努力の中から、直接的ないし間接的に自らの研究テーマを選ぶことになっている。

テキスト：

その都度指定する。

参考書：

必要に応じて紹介している。

研究会

教授 八代 充史

授業科目の内容：

この研究会では、労務管理論、特に企業の労務管理の実態面に関心を持つ学生を対象に、専門課程の2年間で卒業論文をまとめるために必要な指導を行う。

ただし労務管理の実態については、新聞、雑誌、単行本その他で日々洪水の様に情報が供給されている。こうした「圧倒的」な事実埋没しないためには、理論的・歴史的視座を持つことが不可欠である。こうした複眼思考で労務管理をとらえることに関心のある学生の参加を歓迎する。

ゼミの活動について触れると、本ゼミでは基本文献を何冊か決めて、その輪読を行う。年度の後半には、卒業論文の指導に入る。また、研究会の参加者には、関心のあるテーマごとにいくつかのサブゼミに分かれてもらい、そこで文献に目を通し、討論を行いながら労務管理について「頭」と「体」で勉強してもらう。

その他、工場見学などの「野外実習」なども行いたいと考えている。

テキスト：

適宜指示する。

参考書：

適宜指示する。

研究会

教授 横田 絵理

授業科目の内容：

このゼミでは経営と会計という視点で研究を進めていく予定です。私の研究の関心は管理会計のほか、組織、組織行動の分野にあります。つまり、会計情報と組織および人に関心を持っています。管理会計はマネジメントに役立つための会計ですから会計についてのみならずマネジメントについても理解を深めなくてはなりません。マネジメントの立場から管理会計を学ぶには、知識のみならず「考える」ことが重要です。そこで、理論および、事例などの検討から自分ならどのように考えるか、ゼミ生同士のディスカッションを中心に運営します。

テキスト：

授業内で提示します

参考書：

授業内で提示します

研究会

産業研究所 教授 吉岡 完治

授業科目の内容：

この研究会では、「経済活動と地球環境に関する計量分析」を行う。

各ゼミ員の自主性を重んじ、ゼミの計画、活動も全てゼミ員が合意のもとで決定していく方式をとります。したがって商学部の学生が卒業までに必要な経済学、商学などの幅広い教養育成は、当ゼミでは行わず授業で補っていただく。ゼミ活動を楽しんで卒業してもらうには、次のような学生が望ましい。

1. 数学、統計学が比較的苦にならない人
2. コンピューター・プログラムに関心を持って、経済分析に活用してみたいと考えている人

研究会

教授 吉田 正樹

授業科目の内容：

1. 企業経営と企業者活動について経済的・経営的考察を行います。中心的課題となるのは企業経営の発展・成長であり、これを文献および歴史資料等を用いて輪読をおこない、レポートを作成して理解を深めていきます。なお、理論・歴史のいずれの研究領域においても日本とアメリカを中心にとりあげます。
2. 比較検討の視点を養い、また多面的アプローチによる総合的理解力を深めていくうえで、文献精読とその成果発表は欠かせません。このため毎週数人の発表をもとに議論する形式をとっていきますが、具体的な文献リストは春学期最初に提示します。

テキスト：

- ・アルフレッド・チャンドラー「経営者の時代」鳥羽欽一郎他訳、東洋経済上・下
- ・ヒルシュマイヤー「日本の経営発展」東洋経済

研究会

教授 和気 洋子

授業科目の内容：

国境をこえた経済取引にかかわる問題発見とその解明を研究領域とする。したがって、今日では、外国貿易、通商政策、直接投資（多国籍企業）、国際金融、国際マクロ運営、開発途上国問題そして地球環境問題とその研究テーマは多岐にわたっている。

当研究会では、経済分析のための理論的素養と、グローバルな視点からの現実認識を2つの基本方針として、グループを中心とした作業や報告、そして討論を通じて自己を磨くことを主眼としている。また、最終的には独自の問題意識にそって各自テーマを絞り、理論と実態を体系的に整理・分析し、卒業論文の作成にあたることになる。

研究会

教授 渡部 直樹

授業科目の内容：

私達のゼミナールの研究領域は、大きく分類すれば「経営学」ないし「企業研究」といったジャンルに入る。しかし、このようなことはゼミナールのメンバーが、この領域に属する研究のみに従事することを意味している訳ではない。

つまり私のゼミの各メンバーには、各々が主体的に自分達の領域及び課程を見つけ、これらを深化させていくことが望まれている。各メンバーは自分達の関心に従って、自分自身の問題を自らの方法によって探究し、それを発展させることが常に求められている。そのため各メンバーの研究テーマが、従来の「経営学」の領域からはみ出してしまふことは、当然のことである。

ゼミナールの各メンバーに望まれることは、より具体的には、三田の2年間という短い時間の中で、いかに自ら問題を深め、他の人とは一味も二味も違った卒業論文を書きあげるかということになる。

しかし、このことは言う程は易しいことではない。私達が皆さんにできることは、この分野の問題はこの様なものであり、これを解決するのはいくつかのやり方が考えられる、といったこと（＝いわば料理のレシピ）を提示することと考えている。どのレシピを選ぶのか、そしてそれをどのように使うのかは、皆さんゼミの各メンバーの仕事なのである。

テキスト：

テキストは授業の進行にあわせて示すが、今年は以下のものを考えている

青木昌彦著『比較制度分析に向けて』NTT出版

参考書：

参考書は経営学、経済学、ゲーム理論の入門書を使用する予定である。

授業科目の内容:

現代における企業と企業経営の特徴について講述し、企業経営に関する基本的知識の修得と今日的課題について考察していく。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

植竹晃久『現代企業経営論:現代の企業と企業理論』税務経理協会(近刊),吉森賢『経営者機能』2005年,放送大学教育振興協会,ほか必要に応じて適宜指示していく。

経営管理論

戦略構築と組織設計のマネジメント

教授 今口忠政

授業科目の内容:

経営管理とは企業の目標を効果的に達成するために、組織メンバーの協働をいかに確保して実現するか、に関する学問である。そのために、目標をいかに設定すればよいか、設定した目標をどのような戦略として具体化するか、役割分担をどのようにすればよいか、動機づけやリーダーシップをどのように発揮すればよいか等の問題を解決しなければならない。経営管理とはこのような一連の行動を指したものであるが、その良し悪しによって生産性や企業業績が左右される。

講義はマネジメントに対する考え方を理論的に説明するとともに、実際の企業の事例を用いて、できるだけ理解しやすいように心がける。

テキスト:

今口忠政著「戦略構築と組織設計のマネジメント」(中央経済社,2001年,2500円)

参考書:

教科書に記載,他は講義中に紹介します。

経営学説史

教授 榊原研互

授業科目の内容:

経営学が学問として成立してから約1世紀が経過し、経営学は今日社会科学の1学科として確固たる市民権を獲得するに至っている。しかしこのことは、経営学がもはや十分な体系性をもっているということではない。むしろ今日の経営学の対象領域の拡大は、学際的研究の名のもとに多種多様な理論や命題を次々と生み出し、それは「セオリー・ジャングル」と呼ぶにふさわしい様相を呈している。こうした状況にあって、われわれがさらに実り豊かな発展を経営学に期待しようと思うならば、われわれは何よりもこれら諸理論・諸学説の関係を明らかにし、かつそれらの科学性や説得力を批判的に吟味する必要がある。このような問題意識から、本講義では、まず科学的知識とはどのようなものかという方法論的基本問題から説き起こし、経営学の科学化のために先人たちが払ってきた多くの努力の成果をドイツやアメリカの諸学説を通して明らかにしながら、経営学の今日的課題を考察する。

テキスト:

とくに指定しない。

参考書:

- ・G.シャントツ/小島三郎編著『経済科学と批判的合理主義』慶應通信,1988年
- ・土屋守章・二村敏子編『現代経営学説の系譜』有斐閣,1989年
- ・G.シャントツ著,榊原訳『経営経済学の課題と方法』同文館,1991年
- ・H.ウルリッヒ/G.ブローブスト著,榊原他訳『全体的思考と行為の方法』文眞堂,1997年
- ・A.ピコー/H.ディートル/E.フランク著,榊原他訳『新制度派経済学による組織入門』白桃書房,1999年

授業科目の内容:

企業は、補完的な制度 戦略,ガバナンス・システム,そして企業文化などの複合体とみなすことができる。本講では、組織経済学や戦略経営論の研究成果をふまえたうえで、環境変化のなかで、企業の境界と組織アーキテクチャがいかに変化していくかを検討する。とくに、企業の性質,リーダーシップ,比較コーポレート・ガバナンスと会社法の変化,「選択と集中」の戦略,モジュール化,そして資本主義の進化などにかかわる問題を考察する予定である。

テキスト:

- ・谷口和弘(2006)『企業の境界と組織アーキテクチャ:企業制度論序説』NTT出版,近刊。

参考書:

- ・J.ロバーツ(谷口和弘訳)(2005)『現代企業の組織デザイン:戦略経営の経済学』NTT出版。
- ・R.ラングロウ・P.ロバートソン(谷口和弘訳)(2004)『企業制度の理論:ケイパビリティ・取引費用・組織境界』NTT出版。
- ・青木昌彦(瀧澤弘和・谷口和弘訳)(2001)『比較制度分析に向けて』NTT出版。
- ・鈴木清之輔(1999)「現代企業の株式所有構造と支配構造:企業の所有・支配分析の基礎視角」植竹晃久・仲田正機編『現代企業の所有・支配・管理:コーポレート・ガバナンスと企業管理システム』ミネルヴァ書房,pp.23-38。

授業科目の内容:

本講義は、現代企業の戦略行動のあり方を理論的・実証的両側面から考えることに目的がある。そのため、まずは戦略論の発展の流れと企業が抱える課題について検討し、戦略経営のパスpekティブの重要性を明らかにする。そのうえで企業の競争優位構築とその行動について議論することになる。

テキスト:

特になし

参考書:

- 十川廣國『企業の再活性化とイノベーション』中央経済社,1997年
- 十川廣國『新戦略経営:変わるミドルの役割』文眞堂,2002年
- 十川廣國『CSRの本質:企業と市場・社会』中央経済社,2005年

授業科目の内容:

企業評価論とは、ひとことで言ってどのような企業が良い企業か、どのような企業が良くない企業か、を考える学問である。しかし何を以て“良い”とするかはその評価基準によって、また評価を行なう主体によって異なる。すなわち、資金を貸し出す金融機関が評価する場合、投資家が評価する場合、実際に企業経営を行なっている経営者が評価する場合、また、就職のために学生が評価する場合、それぞれ評価基準が異なる。従来この企業評価は経営分析という手法によって行なわれてきたが、本講義ではそれをさらに応用した様々な企業評価を考察する。

テキスト:

なし

参考書:

- 岡本大輔著『AI企業評価』中央経済社,2004年
- 通産省産業政策局企業行動課編『平成12年度版 総合経営力指標』(製造業編)(小売業編)大蔵省印刷局,2002年

現代企業経営各論（企業倫理）（春学期）

助教授 梅 津 光 弘

授業科目の内容：

昨今の企業不祥事の多発や不透明な取り引き慣行への批判などから、企業倫理やコーポレート・ガバナンスの問題が企業経営の中核を担う課題として日本でも自覚されるようになってきた。このクラスではこうした事情を踏まえて、近年アメリカを中心に急成長してきた“Business Ethics（企業倫理学・経営倫理学）”という新学問領域の概説を行いながら、企業経営における社会的・道義的責任とは何かを共に考えてみたい。企業倫理は日本企業が今後直面する規制緩和、国際化、職場環境の多様化、社会全体の成熟化などの企業経営を取り巻く環境の変化との関係から今後もその重要性が増すと考えられる。また、国際化、地球環境保全、従業員の人權といった「新たな規範」に関する問題は企業だけでなくあらゆる組織が取り組まなければならない課題でもある。参加者との活発な討論を通じて、国際的にも通用する経営理念と指導原理とを確立する契機になればと思う。

テキスト：

・『ビジネスの倫理学』丸善

その他必要な文献は適宜プリントにして配布する。

現代企業経営各論（経営経済）（秋学期）

教授 菊 澤 研 宗

授業科目の内容：

現代企業経済学のフロンティアといわれている「取引コスト理論」、
「エージェンシー理論」、
「所有権理論」などの「組織の経済学」を数式を一切用いずに平易に説明し、これらの理論に基づいて日米独企業組織の効率性と非効率性を比較制度分析する。

テキスト：

菊澤研宗著『組織の経済学入門』2006年秋発売予定。

具体的には講義中に指示する。

参考書：

菊澤研宗著『日米独組織の経済分析』文眞堂 1998年。

菊澤研宗著『比較コーポレート・ガバナンス論』有斐閣 2004年。

現代企業経営各論（経営情報論）（春学期）

助教授 神 戸 和 雄

授業科目の内容：

企業経営における情報の取り扱いに関する理解を深め、経営情報システムの活用と問題点を把握することを目的とする。

テキスト：

必要に応じて資料を配布する。インターネット経由での配布を予定している。

講義資料プリントはWebページ <http://www.kambe.net/info2006/> よりダウンロードすること。ユーザ名・パスワードは初回授業で伝達。

参考書：

必要に応じて紹介する。

現代企業経営各論（経営組織）（春学期）

教授 渡 部 直 樹

授業科目の内容：

組織・市場・情報

本講義では、従来からの組織に関する有力なアプローチをレビューするとともに、近年盛んになりつつある経済学的アプローチ、及びゲームの理論からのアプローチ、更に進化論的なアプローチといったものを検討し、これらを用いてわが国における組織問題 - 企業内のみならず企業間の - を説明することにある。

テキスト：

テキストについては、授業の進行にあわせて具体的に指示する。

参考書：

ピコー他著『新制度派経営学による組織入門』（丹沢 他訳）白桃書房、1999年

現代企業経営各論（組織文化論）（秋学期）

助教授 佐 藤 和

授業科目の内容：

特にバブル崩壊以降、従来の日本型経営を行ってきた企業では、大きな変革が進行している。果たして「日本的」な要素は、21世紀にはすべて姿を消してしまうのだろうか。本講義では、現代企業経営を組織文化論という視点から捉え、特に国や社会の持つ文化との関係を踏まえて考えてみたい。

テキスト：

必要に応じて講義の中で紹介する。

参考書：

必要に応じて講義の中で紹介する。

現代企業経営各論（中小企業経営）（秋学期）

教授 高 橋 美 樹

授業科目の内容：

日米経済・産業のダイナミズム喪失が懸念される中、今日、中小企業は「日本経済再建の担い手」とまで呼ばれるようになっていきます。この授業では、「活力ある多数派」、「自己実現に挑戦する場」、「二重構造の底辺」など、様々に論じられる中小・ベンチャー企業を題材に、中小企業について基礎的な知識を身につけること、商業学、経営学、経済学など多様なバックグラウンドをもつ諸君が分野を超えて意見を交わし、自分の頭で考える楽しさを味わってもらうこと、これから社会に出ようとする諸君が自分自身の価値観、人生観、社会観を見直す契機を与えること、を講義の目標にしたいと思えます。

テキスト：

・佐藤芳雄・巽信晴編著「新中小企業論を学ぶ（新版）有斐閣選書、1996」

参考書：

松田修一 [2005] 『ベンチャー企業第3版』（日経文庫）日本経済新聞社

必要に応じて、講義中に紹介します。

現代企業経営各論（比較経営論）（秋学期）

助教授 前 田 淳

授業科目の内容：

株式会社とは何か、その特質と本質を理解した上で各国のコーポレートガバナンスの特徴や課題を理解していく。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

講義の中で紹介する。

[B 会 計]

財務会計論

名誉教授 笠 井 昭 次

授業科目の内容：

現代会計の全体を合理的に説明する論理を探求する。ただし、その点に関する私見を一方的に述べるのではなく、他の学説と比較検討しながら行なう。そのプロセスにおいて、受講生諸君が、みずから考える力を身につけられるような形で講義をしていきたい。

テキスト：

笠井昭次著『現代会計論』（慶應義塾大学出版会）

管理会計論

教授 園 田 智 昭

授業科目の内容：

管理会計は、企業の経営に有用な会計情報を、経営者・管理者・現場の作業員に提供します。この講義では、経理や人事などの本社

管理機能を企業グループで集約した組織であるシェアードサービスセンター (SSC) を例にとって、責任会計 (コストセンター、プロフィットセンター) という観点から SSC を分類し、そこで必要とされるさまざまな管理会計情報について説明します。

テキスト:

園田智昭『シェアードサービスの管理会計』中央経済社

参考書:

山口操『エッセンス管理会計』中央経済社

会 計 史 教 授 友 岡 賛

授業科目の内容:

そもそも会計とは何か、をかんがえる手掛かりとして、会計というものが経てきた変遷の姿、ときの経過にともなって過去から現在にいたるまで移り変わってきたそのプロセスをみる。方法としては、経済発展のプロセスに沿った通史的なそれが採用される。

また、会計の変遷と相即不離の関係にある企業形体の変遷を検討し、とりわけ、今日もっとも一般的な企業形体であるところの株式会社というそれについて、そもそも株式会社とは何か、をかんがえる。

テキスト:

・友岡賛『会計プロフェッションの発展』有斐閣

・友岡賛『歴史にふれる会計学』有斐閣

参考書:

・友岡賛『近代会計制度の成立』有斐閣

・友岡賛『株式会社とは何か』講談社

・友岡賛 (編)『会計学の基礎』有斐閣

・友岡賛 (監訳)『会計破綻』税務経理協会

財務会計各論 (会計基礎理論) (春学期)

教 授 友 岡 賛

授業科目の内容:

会計にかかわる基本的な問題をかんがえる。会計という行為の目的から説き起こし、会計公準論および会計主体論を検討の上、会計における認識、測定、および伝達にかかわる諸原則を論ずる。

テキスト:

・友岡賛 (編)『会計学の基礎』有斐閣

・友岡賛、福島千幸『アカウントティング・エッセシャルズ』有斐閣

参考書:

友岡賛『歴史にふれる会計学』有斐閣

財務会計各論 (会計測定論) 助教授 前 川 千 春

授業科目の内容:

近年、我が国においてもキャッシュ・フロー計算書が貸借対照表・損益計算書とともに基本財務諸表の一つとして位置づけられるようになってきた。当科目は、キャッシュ・フロー計算書の意義ならびに他の財務諸表との関係を理解し、具体的な作成方法・読み方を習得することを目的としている。

テキスト:

第1回の授業の際に指示する。

参考書:

必要に応じてプリントを配付する。

財務会計各論 (国際会計論) (春学期)

教 授 伊 藤 眞

授業科目の内容:

国際財務報告基準 IFRS (国際会計基準 IAS を含む。)の歴史、現状、今後の展開を簡潔に紹介、IAS 財務諸表の作成と表示に係るフレームワーク、主要な IAS の会計基準 棚卸資産、キャッシュ・フロー計算書、法人所得税 (税効果を含む。)、金融商品等を事例又は簡単な設例とともに解説

テキスト:

レジュメを配布又はホームページからダウンロード

参考書:

- ・International Financial Reporting Standards 2005 (原書), IASB
- ・『国際財務報告基準書』2004 企業会計基準委員会訳 (発行元) 雄松堂出版 2005
- ・『国際財務報告基準ハンドブック』中央青山監査法人 中央経済社 2004
- ・『国際財務報告基準の適用ガイドブック』あずさ監査法人 中央経済社 2005
- ・『国際財務報告基準の実務』デロイトトウシュートマツ (編集) 中央経済社 2005
- ・『テキスト国際会計基準 第2版』桜井久勝編著 白桃書房 2005年
- ・『会計学入門』第6版 千代田邦夫 2005年 中央経済社

財務会計各論 (現行会計基準概論) (秋学期)

教 授 伊 藤 眞

授業科目の内容:

会計ビッグバンといわれる会計基準の整備改善が行われ、連結財務諸表原則及び外貨建取引等会計処理基準の改訂、並びに税効果会計に係る会計基準、連結キャッシュ・フロー計算書等の作成基準、研究開発費等に係る会計基準、退職給付に係る会計基準、及び金融商品に係る会計基準等の設定が行われた。その後も固定資産の減損に係る会計基準、企業結合に係る会計基準の設定が行われた。これらの現在実務で適用されている会計基準について、その考え方及び会計処理について、事例又は簡単な設例とともに概要を講義する。

テキスト:

レジュメを配布又はホームページからダウンロード

参考書:

各基準及び実務指針 (日本公認会計士協会による監査小六法に掲載されている。)

・入門書『会計学入門』第6版 千代田邦夫, 2005 中央経済社

・『ゼミナール現代会計入門』第5版 伊藤邦雄 日本経済新聞社出版局 2005

・『会計学講義』醍醐聡 東京大学出版会 2004

財務会計各論 (税務会計論) (春学期)

助教授 W 久 隆 太

授業科目の内容:

税務会計とは、法人税を中心に、課税の基準となる課税所得の計算や課税価額の評価を目的とする会計であり、企業会計に立脚しつつ、租税法独自の調整を加えて作成されるものである。したがって、企業会計及び租税法の理解が不可欠である。

講義においては、初めに我が国租税制度の概要について説明し、その後法人税の課税所得の基礎的な計算構造等について理解する。

テキスト:

講義の中で指示する。

参考書:

講義の中で指示する。

財務会計各論 (税務会計論) (秋学期)

助教授 W 久 隆 太

授業科目の内容:

法人税の課税所得の計算及び税額計算を中心とした税務会計について理解することを目的とするが、あるべき税制のあり方や税務行政についても検討する。また、最近脚光を浴びている国際課税についても触れることとしたい。

テキスト:

講義の中で指示する。

参考書:

講義の中で指示する。

財務会計各論(退職給付会計論)(春学期)
名誉教授 笠井昭次

授業科目の内容:

退職給付会計は、今日、次の2点において重要な位置を占めている。ひとつは、この問題が収益費用観と資産負債観という二項対立の元で議論されているので、今後の会計の動向と深く結びついていることである。そしてもうひとつは、これまでの会計研究は、資産会計を中心であったが、今後は、負債会計の役割が重要化することが予想されることである。このふたつの動向に注目しながら、退職給付に関する妥当な会計処理を探求したい。

テキスト:

笠井昭次著『現代会計論』(慶應義塾大学出版会)

財務会計各論(非営利法人会計論)(春学期)
講師 千葉洋

授業科目の内容:

本講義では非営利法人の概要をみたあと、とくに私立学校法人の会計をとりあげ、以下の順で考察することにする。

- 学校法人会計の概要
- 資金収支計算の構造
- 消費収支計算の構造
- 基本金の特質

テキスト:

特に指定しないが、その都度指示するほか、随時プリントを配布する。

財務会計各論(非営利法人会計論)(秋学期)
講師 千葉洋

授業科目の内容:

本講義では非営利法人の概要をみたあと、とくに国立大学法人の会計をとりあげ、以下の順で考察することにする。

- 国立大学法人会計の概要
- 貸借対照表の構造
- 損益計算書の構造
- キャッシュ・フロー計算書の構造
- 国立大学法人業務実施コスト計算書の構造

テキスト:

特に指定しないが、その都度指示するほか、随時プリントを配布する。

会計監査各論(実態監査と情報監査)(春学期)
助教授 永見尊

授業科目の内容:

企業経営における監査は、会計情報に対する監査のみならず、経営トップの職務執行に対する監査、あるいは企業内に設置された内部監査など、いくつかの形態のものがああります。本講義では、「監査の主題」という視点から、監査を「情報監査(あるいは表現の監査)」と「実態監査(あるいは行為の監査)」という2つの枠組みで捉えて、それぞれの監査の理論、法律や規定、そして実務の姿を理解していきます。さらに内部統制の構築とその責任、そして監査について言及していきます。

テキスト:

最初の時間に指定します。

参考書:

授業毎にレジメと資料を配布します。

管理会計各論(原価計算論) 名誉教授 小林啓孝

授業科目の内容:

原価計算では、製品などの原価計算対象にそれ(=原価計算対象)に関連して発生する原価を集計する。このような集計計算を行うの

は、ここから得られる情報を経営管理の実施や財務報告に利用するためである。本講義では、主に製品への原価の集計をどのように行っていくかを講義する。

テキスト:

小林啓孝『現代原価計算講義(第2版)』(中央経済社)

[C 商業]

マクロ・マーケティング論
マクロ・マーケティング・システムと社会のインタラクション
教授 高橋郁夫

授業科目の内容:

生産、流通、消費の連係を巨視的に捉え、それをマーケティング・システムと呼ぶとき、本講はシステムそれ自体と、加えて、それを取り巻く社会とのインタラクションを対象とする。

テキスト:

毎回、プリントを配布する。

参考書:

- 清水猛(1988)『マーケティングと広告研究【増補版】』千倉書房。
- 田村正紀(2001)『流通原理』千倉書房。
- 高橋郁夫(2004)『消費者購買行動 - 小売マーケティングへの写像【増補版】』千倉書房。

ミクロ・マーケティング論 教授 檜原正勝

授業科目の内容:

本講義は、私達が日常経験的に目にすることが出来るマーケティング現象の背後にどのような経済原理が働いているかを理解することを目的としている。こうした能力を養うべく、理論的、原理的諸知識を学び取るとともに、事物を見えないところまで掘り下げて抽象的にとらえる仕方を学び、現実を理論の目で認識することをマーケティングの場で試みようとするものである。

テキスト:

適当なテキストがないので講義ノートによる。講義資料として毎時間プリントを配布する。

参考書:

多岐にわたるため授業中にその都度指示する。

マクロ・マーケティング各論(マーケティング史)(春学期)
名誉教授 堀田一善

授業科目の内容:

およそ人間社会におけるほとんどすべての制度や仕組みあるいは行動様式は、直面する問題を解決しようと腐心してきた人々の努力の所産に他ならない。今日、マーケティングと呼ばれている企業の市場支配的あるいは市場適応的行動様式もその例外ではない。本講では、マーケティングがとりわけ純粋な形式をもって発展してきたと言われているアメリカを中心に、19世紀半ば以降の諸企業を取り巻く経済的、政治的、あるいは社会的状況要因に触発された市場の競争条件の変化と関係づけて、目的志向的な企業の行為様式としてのマーケティングがどのように進化してきたのか、そしてそれが個別経済的にも社会経済的にも無視できない影響力を有するようになってきた様相を、方法論的固体主義ないし制度主義的個人主義の観点に立って、状況の論理に照らして解明することを目的とする。

テキスト:

テキストは特に指定しない。

参考書:

堀田一善『マーケティング思想史の中の広告研究』日本経済新聞社

マクロ・マーケティング各論(マーケティング学説史)(秋学期)
名誉教授 堀田一善

授業科目の内容:

20世紀初頭の体系的研究の出現以降、今日にいたるマーケティン

グ研究のプロセスとそこに現われた諸成果を科学論における認識進歩基準に照らして整理し、斯学の知的到達点の状況と問題点を明らかにすると共に、科学的研究と呼ばれる知的営みのあり方を解明する。

テキスト：

堀田一善『マーケティング思想史の中の広告研究』日本経済新聞社
参考書：

- ・堀越比呂志『マーケティング・メタリサーチ』千倉書房
- ・堀田一善(編)『マーケティング研究の方法論』中央経済社

マクロ・マーケティング各論(流通論)(春学期)
名誉教授 清水 猛

授業科目の内容：

本講は生産者から流通業者を経て消費者に至る流通過程をマクロの視点からシステムの的に考察することにより、わが国の流通の実態と変動を解明することを狙いとする。このための枠組みとしては、構造、行動、成果の関係がそのベースとして用いられる。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし
随時紹介する

マイクロ・マーケティング各論(グローバル・マーケティング論)
(秋学期) 講師 シェロン, エマニュエル

授業科目の内容：

The general purpose of this course is to examine the scope and the challenges of global marketing. Macroeconomic, politic, cultural and legal variables are studied in relation to commercial opportunities available in export markets. Information search and global markets assessments are presented as a prerequisite to structuring a marketing strategy and preparing a proposed international marketing mix. Internet sources of information for export are covered. International marketing opportunities and challenges are presented for small and medium sized businesses as well as for large global corporations.

テキスト：

Keegan, Warren J. and Mark S. Green (2005), Global Marketing, Fourth Edition, Upper Saddle River, New Jersey, Pearson Prentice Hall. ISBN:0-13-146919-3. Website:<http://www.prenhall.com/keegan/>

参考書：

<http://www.geocities.com/wallstreet/market/4263>

マイクロ・マーケティング各論(広告論)(秋学期)
助教授 齋藤 通貴

授業科目の内容：

本講義は主としてマーケティング研究との関連で広告研究および現実的なコミュニケーション戦略としての広告戦略を扱っていく。具体的には以下の通りである。

- ・マーケティングと広告
 1. マーケティング研究の領域と広告研究
 2. プロモーション戦略と広告
- ・コミュニケーションとしての広告
 1. コミュニケーション・モデル
 2. コミュニケーション効果研究と広告
 3. 消費者情報処理と広告
 4. ブランド戦略と広告
 5. 広告効果過程
- ・広告計画と戦略
 1. 広告計画のプロセスと管理
 2. 表現計画と媒体計画
 3. 広告効果
- ・社会と広告

テキスト：

講義で指示する。

参考書：

特に定めないが適宜適切な参考書を講義で紹介していく。

マイクロ・マーケティング各論(消費者行動論)(春学期)
助教授 齋藤 通貴

授業科目の内容：

企業のマーケティング行動は、市場(消費者)への適応行動という特徴を強調する。すなわち、消費者がどの文化の中で、どのようなライフ・スタイルを持ち、どのように商品やサービスを選択・購買し、どのように使用し、どのような満足や不満を形成するか、といった消費者の行動を理解することが有効なマーケティング戦略策定の礎になることは言うまでもない。

マイクロ・マーケティング各論(製品開発論)(春学期)
教授 濱岡 豊

授業科目の内容：

この授業では、マーケティングにおいて4Pの一つとしてとらえられている「製品」について、特に「開発」する段階に注目する。そこで行われている手法について紹介する一方、ケース演習やプロジェクトなどを通じて、それらを体得してもらいたい。なお、便宜上、「製品」という言葉をあてるが、製品のみならずサービスについても可能な手法について紹介する。

テキスト：

特に指定しない。資料は濱岡のホームページよりダウンロード可能。<http://news.fbc.keio.ac.jp/~hamaoka>

参考書：

上記参照

マイクロ・マーケティング各論(マーケティング経済学)(秋学期)
専任講師 鄭 潤 澈

授業科目の内容：

近年の経済学は古典的な完全市場の分析から進化をしつづけて、様々な実際の経営分野において応用されています。欧米の多くのビジネス・スクールやMBAコース等において「Managerial Economics」が基本・コア科目になっているという事実は、正にマーケティング経済学がマーケティングや経営戦略など経営学のなかで占めている現在の位置を示しています。本授業では「市場、競争、戦略」という、経営学を学ぶ上でもっとも重要な3つの分野を経済学の観点から講義していきます。

テキスト：

丸山雅祥『経営の経済学：Business Economics』(有斐閣)2005年
参考書：

丸山雅祥・成生彦彦『現代のマイクロ経済学』(創文社)1997年

マイクロ・マーケティング各論(マーケティング・リサーチ)
(春学期) 助教授 里村 卓也

授業科目の内容：

どのような製品・サービスを扱っている企業であれ、顧客のニーズを把握し満足させるためには、顧客に関する情報を収集し分析しなければならない。マーケティング・リサーチとは企業が特定のマーケティング課題について行う意思決定を支援するための情報機能である。「どのような消費者が我々の製品を購入してくれそうか」「どのような新製品を開発すればよいか」等の具体的課題についてよりよく答えるためにはマーケティング・リサーチによって得られた情報を利用することが必要となってくる。

本講ではマーケティング・リサーチを理解するとともに、マーケティング課題をリサーチ課題として定義し、情報収集・分析・レポート作成までを行う能力を修得することを目的とする。

テキスト：

特に指定しない。資料は担当教員のホームページで配布予定。ホ

ホームページのアドレスは第1回目の授業中に告知する。

参考書：

授業中に適宜指示する。

{ D 国際経済 }

国際経済学

教授 遠藤 正 寛

授業科目の内容：

国際経済学（国際貿易・国際金融）の基礎を講義します。

テキスト：

Paul. R. Krugman and Maurice Obstfeld, "International Economics: Theory and Policy, Seventh Edition," Addison Wesley, 2005 (旧版で翻訳書有)

世界経済論

教授 和 気 洋 子

授業科目の内容：

世界経済はいつも変動の中にある。それがどのような変動として実際に観測されるか、その変動要因が何であるか、その変動をどのように管理・統治できるか、その変動メカニズムをどのように理論化できるか、そして今後の世界経済をどのように展望できるかなど、知的関心は広くて深い。今21世紀を迎え、世界経済では、グローバル化の功罪、WTOの役割、FTAの進展、EU通貨統合の進展、東アジア地域の変容、資源・エネルギー問題の深刻化、貧困問題・地球環境問題・安全・安心の暮らし・企業の社会的責任の視点など、新たな課題に向けて、新たな挑戦が始まっている。本講義では、現代および将来の産業経済社会をめぐる諸課題を知る手がかりを得るために、イギリス産業革命にはじまる産業化の歴史とそれに関わる諸理論を展望し、そのなかで国際貿易論・国際マクロ経済論・開発経済論・環境経済学などで得られる学説史的な知見がいかに援用できるかについて論じる。

参考書：

- ・石井・清野・秋葉・須田・和気・ブラギンスキー共著『入門・国際経済学』有斐閣2003年
- ・森田・天野編著『地球環境問題とグローバルコミュニティー』岩波書店2002年
- ・松村・関下・藤原・田中『現代世界経済をとらえる』東洋経済新報社2003年

国際金融論

教授 深 尾 光 洋

授業科目の内容：

為替相場の変動、国際収支の不均衡などの国際金融に関連する諸問題を理解するために必要不可欠な諸概念と分析ツールを説明する。その基礎に立って、変動相場制下における経済政策運営、欧州通貨統合の背景、国際通貨政策等について理解を深めることを目標とする。

テキスト：

深尾光洋『実践ゼミナール国際金融論』東洋経済新報社、1990年

参考書：

授業開始後、関連文献や統計図表等をレジメとして生協経由で配布するので購入すること。

国際経済学各論（国際経済政策論）（春学期）

商学研究科 教授（フジタ・チェアシップ基金）小 島 明

授業科目の内容：

一般的な原論的知識を前提とし、国際経済の現場、最前線に案内する。冷戦の終焉、世界的な市場経済化ドミノ、情報通信革命などを背景に世界経済の構造変化が速している。時には変化のスピードが速く、既存の理論を現実が追い越す。そうした激動する世界の中における各国の経済政策の在り方、相互依存の実態を追う。実体経済の現場から政策当局者、経営者、研究者が今、何を考え、どうした問題意識を持つかを点検する。理論と現実の橋渡しをする。

テキスト：

- ・各国政府・研究機関、研究者の最新論文、資料を（インターネット等を通じ）活用。
- ・「通商白書」2004、2005

参考書：

OECD、IMF等のReports

世界経済各論（国際開発協力論）（春学期）

講師 後 藤 一 美

授業科目の内容：

(1) 概要：開発援助を含む国際開発協力の世界は、一見きれいごとのように見えても、その実、利害関係を有する多様なアクター間のダイナミックな緊張関係が渦巻く同床異夢の世界である。世界の開発・環境・人権・平和をめざす「政府開発援助」(ODA)という名の美德のかたまりをある種の隠れ蓑にしなが、あまたの組織や個人が、「私」の夢と欲望と使命で織りなした「公」の装いを表現することによって、それぞれの行動を展開している。わが国ODA50年余の歴史を回顧すれば、戦後の国際社会における日本という国とその民の「自分探しの旅」であったといえよう。ODAは、「国際社会で日本という国と国民を映し出す鏡である」という。「顔の見える援助」「声の聞こえる援助」というかけ声と裏腹に、日本のアイデンティティ（自分らしさ）は、国際社会の他のアクターとの関係性において、どれほどまでに発現されているのだろうか。また、援助という手段をとおした「国益」の実現への寄与が求められる昨今、日本が追及する目標とは、はたしてどのようなものであろうか。

(2) 目的：本講義の目的は、日本の国際開発協力に関する主要な援助形態と行動主体を中心として、その実態と特色を明らかにするとともに、今後の課題と展望を提示することである。本講義では、国際開発協力の基礎を学習しながら、「開発援助政策論」（援助行政と開発行政の相互作用に係る制度・実施・評価の実態分析に基づく問題解決アプローチ）を展開することによって、将来、国際開発協力の世界で活躍する人材の育成をめざしたい。

(3) 手法：本講義は、ビデオ（日本語・英語）、講義（OHP使用）、質疑応答の3点セットを組み合わせながら、開発援助の臨場感を抱けるように工夫している。特段の予備知識は必要としない。また、講師による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習とプレゼンテーションを随所に設けることにより、受講者の表現能力の能力向上に力点を置いている。

テキスト：

後藤一美・大野泉・渡辺利夫（編著）『日本の国際開発協力』シリーズ国際開発：第4巻 日本評論社、2005年。

講義資料・参考資料・参考文献リスト 授業のなかで配布。

参考書：

- ・後藤一美（監修）『国際協力用語集』第3版、国際開発ジャーナル社、2004年。
- ・荒木光弥、『1970年代途上国援助 歴史の証言』『1980年代途上国援助 歴史の証言』『1990年代途上国援助 歴史の証言』国際開発ジャーナル社、1997年&2005年。
- ・西垣昭・下村恭民・辻一人『開発援助の経済学 共生の世界と日本のODA』第3版 有斐閣、2003年。
- ・渡辺利夫・三浦有史『ODA（政府開発援助） 日本に何ができるか』中公新書、2003年。

世界経済各論（中国経済論）（秋学期）助教授 孟 若 燕

授業科目の内容：

今日に当たって中国に関するグッドニュースがたくさん出てきます。一つの最も成長の高い国として、今世紀半ば頃には経済規模が日本やアメリカを凌駕してトップに走るのではと予測されることもあります。一方、決して明るくない知らせも毎日ほど目に当たります。貧富格差の拡大、農村経済の停滞、社会保障制度の未整備、河川や大気汚染の進行など、成長の副産物なのか、改革の不十分さを語るものなのか、議論の余地が残っているまま成長のマイナス要因であることに間違いはない。この授業では、こうした過渡期にある中国の経済政策の転換、経済成長の要因および成長・改革の過程に伴

った諸問題を解説します。

テキスト：

特に指定なし。

参考書：

講義中その都度紹介する。

国際金融各論(国際金融システム論)(秋学期)

講師 斉藤 国雄

授業科目の内容：

この授業では、為替レート制度、通貨・債務危機への対応、主要国間のマクロ経済政策の協調と言った国際金融システムの基本的問題をとりあげる。そのために、まず、国際収支および為替レート決定の理論と、金本位制からブレトンウッズ体制を経て現行の変動為替制に到る国際金融システムの変遷を概括する。また、近年におけるグローバリゼーションの進展と国際資本移動の増加、およびその国際金融システムに及ぼす影響等についても検討する。その上で、現行国際金融システムの仕組みとその問題点を、IMFの政策勧告と多国間政策協調、国際収支赤字・通貨危機に陥った国への金融支援、重債務と貧困に苦しむ途上国への支援、等を中心に考察する。最後に、IMF、世界銀行を中心に進められている国際金融システム改革の状況を展望する。

テキスト：

指定せず。講義資料プリントを配布。

参考書：

- ・Krugman/Obstfeld, "International Economics — Theory and Policy(Seventh Edition)", 2000
- ・白井早百里, "入門現代の国際金融 検証経済危機と為替制度", 東洋経済新報社, 2002

[E 計 量 経 済]

理論経済学 (春学期集中)

教授 桜本 光

授業科目の内容：

経済現象を巨視的・微視的にとらえるマクロ・ミクロ経済理論を学ぶことにより、歴史的な転換期を迎えている世界経済特に、東アジアや米国と日本経済との相互依存関係を正確に理解し、現在の諸問題を整理し、今後の世界経済と日米経済の方向を議論できるような学生を養成する。

本科目は、本学部における経済関連及び他の専門科目の履修に際して、基礎的な理解を深めるために必要な科目の一つと考えられ、一年時履修の経済学の中・上級コースにあたる。

テキスト：

- ・Dornbusch, R. and S. Fischer (1994) Macroeconomics. Sixth edition (first edition, 1978), McGraw-Hill. (廣松ノドーンブッシュノフィッシャー, マクロ経済学(上下)「改訂版」CAP出版)

参考書：

- ・W. H. ブランソン(嘉治・今野訳)マクロ経済学(上下)マグローヒル.
- ・R. ドーンブッシュ(大山他訳)国際マクロ経済学 文眞堂.
- ・W. J. イーシア(小田・太田訳)現代国際経済学(国際マクロ)多賀出版.

経済政策

教授 樋口 美雄

授業科目の内容：

経済のグローバル化、産業構造の変化、少子高齢化の進展により、日本経済は大きな変革に迫られている。日本経済の特質を理解し、市場メカニズムと制度政策の関係について、マクロ経済学、ミクロ経済学の視点から考察し、これからの経済社会のあり方を検討していくのがこの授業の目的である。

参考書：

樋口美雄『雇用と失業の経済学』日本経済新聞社
その他は授業中に指示する

経済統計

経済学部 教授 清水 雅彦

授業科目の内容：

国民経済における所得(純生産)発生メカニズムに関するマクロ経済分析は、1930年代におけるクズネッツ等による国民所得統計の整備とケインズの一般理論を基礎として発展してきた。同時に、国民経済を一つの経済システムとして捉え、国民経済システムに内在する構造的特質を計量的に分析するための理論体系としてレオンティフの投入・産出分析理論(産業連関分析モデル)が開発された。その後、国民経済の成長と発展に関する経済分析は、国民経済に関する統計データの整備・拡充と計量経済学の発展に伴い、分析理論の現実妥当性を検証(テスト)する方向を辿ってきた。分析対象とする経済事象の観測事実(統計データ)に基づく分析理論の実証である。この講義では、まず国民経済に関する実証理論分析のための基礎資料となる経済統計データについて、特に国民所得統計から派生した国民経済計算体系(a system of national accounts: SNA)を中心として説明する。SNAは、国民経済において観測される一次統計データ(primary statistical data)を国民経済システムの要素に対応して集計した二次統計データ(secondary statistical data)の体系である。このようなSNAを理解するためには、一次統計データの作成過程と二次統計データへの集計過程を理解しておく必要がある。春学期においては、製造業に関する「工業統計調査」、サービス業に関する「サービス業基本調査」および「特定サービス業実態調査」、商業に関する「商業統計調査」等の一次統計調査に基づく産業統計を取り上げる。秋学期においては、SNAの各種勘定体系と二次統計データに基づく国民経済の統計的記述について概説した上で、産業連関表と産業構造分析の手法について詳細に講義する。

テキスト：

最初の授業時間に指示する。

参考書：

講義資料と併せて適宜指示する。

計量経済学

教授 牧 厚志

授業科目の内容：

前半では2年生で学習した統計学の復習をかねて、経営学、会計学、マーケティングを専攻しており、数量分析に興味を持っている学生にも理解しやすい授業をする。その内容は基礎編としてデータの整理と見方、確率変数と分布、推定と検定、回帰分析を講義する。そして応用編として、経済分析ばかりでなく、経営、会計、マーケティングの分野の分析も紹介する。後半では計量経済分析を行う際に必要な理論の具体的特定化、推定、検定などについて講義をする。

テキスト：

- 1『応用計量経済学入門』(牧 厚志, 日本評論社, 2001)
- 2『経済経営のための統計学』(牧他, 有斐閣, 2005)

理論経済学各論(応用ミクロ経済学)(春学期)

教授 中島 隆信

授業科目の内容：

本講義では、学生諸君が日吉で学んできた標準的価格理論をより発展させ、ヒト、モノ、カネの資源配分メカニズムをそれらが取引される市場の競争性との関連から説明する。

テキスト：

黒田昌裕・中島隆信『テキストブック 入門経済学』(東洋経済新報社), 2001年

理論経済学各論(経済成長論)(秋学期)

教授 中島 隆信

授業科目の内容：

経済成長に関する経済学的接近方法をひとつおり講義する。経済成長の観察に始まり、その要因分析、そして経済成長の決定理論について説明する。

テキスト：

Barro=Sala-i-Martin, Economic Growth, McGraw Hill, 1995

経済統計各論（数理統計基礎）（春学期）

教授 早見 均

授業科目の内容：

目的：データの分析に利用される統計的手法は各分野で日々開発されており、たいへんなバラエティがある。そのため詳しく統計学を知らないでもパソコンのソフトの使い方をさえわかればどんどん結果を出してくれる状況にある。ただし利用するときには失敗しないためには統計学の基礎は必須となる。この授業ではパソコンソフトを利用する際の仮定や計算結果の解釈と利用者の知識のギャップを少しでも埋めるため、必要となる統計学の基礎を省略をせずに解説したい。主に計量経済分野へつながらせるような課題を考えている。

メインテーマ：分布理論というかなり特殊な分野である。多くの場合、経済行動のモデル化には多数の経済主体を扱うため統計的接近を利用するが、そのために必要な道具である。頭も少しは使うかもしれないが、ここではむしろ手を使って計算する。式の展開など計算をたくさんして慣れてもらいたい。もちろん、できるかぎり利用例・応用例を示したいと思うが、時間の関係で思うようにいかないことがあるので、関連する分野（計量経済学、計量経済学各論、あるいは数学各論、特に確率解析）の講義で補って欲しい。この授業は単独でも履修可能だが、秋学期に開講される経済統計各論（統計的推論）とつながることを想定しているため、そちらのシラバスも参考にすること。

つけたし：参考書の Casella and Berger は米国の大学でよく利用されている教科書で、この講義では参考にしている部分が多く、最新の統計的手法につながる基礎的な概念を丁寧に説明してある。また、この授業は大学院の統計学基礎理論と併設されている。

テキスト：

<http://news.fbc.keio.ac.jp/~hhayami>

ないし

<http://www.sanken.keio.ac.jp/staff/hayami>

に講義メモを掲載する。パスワードを設定することがあるので、授業の際の説明に注意すること。

参考書：

- ・ G. Casella and R. L. Berger (2002) *Statistical Inference*, 2nd ed., CA: Duxbury Thomson Learning.
- ・ 岩田暁一『経済分析のための統計的方法第2版』東洋経済新報社、1983年。

経済統計各論（統計的推論）（秋学期）

教授 早見 均

授業科目の内容：

目的：統計的推定・検定のやや進んだ内容を理解して、利用上の制約や最近の統計学で話題となっている分野がどのようにしてその制約を乗り越えようとしているかを概観する。

内容：漸近理論の初歩、十分統計量、最尤法、尤度比検定などを解説したのち、モデル選択の指標として利用されている情報量規準(AIC)の考え方、ブートストラップ推定法や最近の計算統計の簡単な話題、確率過程のパラメータの推定方法など時間があるかぎり紹介していきたい。

この授業は単独でも履修可能だが、春学期の経済統計各論（数理統計基礎）とつながっている部分が多い。そのため数理統計基礎のシラバスも参考にしたい。各手法の応用や具体例については、関連する計量経済学、計量経済学各論などの講義で補って欲しい。

テキスト：

<http://news.fbc.keio.ac.jp/~hhayami>

ないし

<http://www.sanken.keio.ac.jp/staff/hayami>

に講義メモを掲載する。

その場合、パスワードを設定することがあるので、授業の際の説明に注意すること。

参考書：

- ・ G. Casella and R. L. Berger (2002) *Statistical Inference*, 2nd ed., CA: Duxbury Thomson Learning.
- ・ 岩田暁一『経済分析のための統計的方法第2版』東洋経済新報社、1983年。

計量経済学各論（応用計量経済学）（春学期）

産業連関分析

教授 新保 一成

授業科目の内容：

経済統計としての産業連関表、経済社会構造を数量的に分析するための理論体系としての産業連関分析について講義する。

参考書：

- ・ 中島隆信、北村行伸、木村福成、新保一成『テキストブック経済統計』（東洋経済）
- ・ 宮沢健一『産業連関分析入門』（日経文庫）
- ・ 作間逸雄編『SNAがわかる経済統計学』（有斐閣アルマ）

[F 金融・保険]

金融論（春学期集中）

教授 金子 隆

授業科目の内容：

今日の経済では、家計が貯蓄をして企業が投資をするというように、多くの場合、貯蓄主体と投資主体が分かれて存在している。貯蓄が投資と有効に結びつくためには、貯蓄主体から投資主体への資金の融通、すなわち金融 (finance) が効率的に行われる必要がある。さもないと、企業の投資は抑制され、経済の成長は著しく損なわれてしまう。その意味で、金融は今日の経済においてきわめて重要な役割を担っている。その金融のメカニズムを主として資金の面から解明していこうとするのが商学部の金融論である。

テキスト：

特に使用しない。代わりに講義ノート（レジュメ）を使用する。入手方法については初回に指示する。

参考書：

初回のガイダンス時に参考文献リストを配布する。

財政学

教授 跡田 直澄

授業科目の内容：

意義と目的：企業の経済活動はそれ自身がシステムを創り出すこともあるが、多くの場合には社会経済システムに制約される。その制約を作り出す一つのそして最大・最強の経済主体が政府である。20世紀、混合経済体制という考え方の下、政府は経済に積極的に介入してきた。先進諸国の中では、日本は最も強くかつ大規模に介入を行ってきたといえるが、近年行財政改革の名の下、そうした政府活動に一定の枠をはめようという議論が強まっている。そこで、本講義では、現代社会において、政府は経済活動にいかに関わるべきかという問題を基本テーマとして、以下のような内容で講義を行う。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

特に指定しない

証券経済論

名誉教授 赤川 元章

授業科目の内容：

証券経済論は特殊な領域の応用経済学である。本講義の目的は、「証券」の本質およびこの「証券」より構成されるシステムの構造の解明を主な対象とする。出来る限り、実際に則して展開する予定である。授業内容の理解を容易にするために、図解・数値例・新聞記事・統計資料などを活用して具体的に説明する。試験ないしレポートは秋学期に指示する。参考文献は講義中に必要があれば、適時明らかにする。講義の概要は以下の通り。

経済発展と証券制度

(1)「証券」の用語について(2)「証券」の具体的内容とその原初形態(3)証券資本主義

有価証券の基礎理論 擬制資本論の展開

(1) 法律的・経済的アプローチ(2) 有価証券の概念(3) 資本の構造と資本の証券化(4) 証券市場と金融市場

証券市場の性格と役割

(1) 企業金融の変化(2) 有価証券を用いた資金調達(3) 発行市場と流通市場(4) 景気循環と証券市場(5) 投資家の構造変化

(6) 証券市場の組織

証券取引の方法

(1) 取引所取引(2) 信用取引(3) 先物取引(4) オプション取引
証券価格の決定論

(1) 証券価格の決定要因(2) 株価指標(3) 債権の利回り(4) ポートフォリオ分析(5) 投資信託

経済体制と証券制度 国有化と民営化(移行期経済論)、持ち株会社論 etc.

世界の証券制度

(1) ドイツ(2) アメリカ(3) 中国

テキスト:

原則として使用しない。

参考書:

授業の中で指摘する。

保険学

教授 堀田 一吉

授業科目の内容:

国民生活に深い関わりのある保険業界は、金融改革の進展の中でいま大きな環境変化を迎えている。本講義は、特徴的な保険の構造を経済学的に解説すると同時に、他の経済諸制度との関連性を図りながら、現代社会の抱える諸課題を保険学の立場から見直してみる。そして、現代生活において、保険がいかなる機能を担っているかをできるだけ現状に即して多面的に検証してみる。

テキスト:

堀田一吉『保険理論と保険政策 原理と機能』東洋経済新報社

参考書:

・堀田一吉・岡村国和・石田成則編著『保険進化と保険事業』慶應義塾大学出版会

・庭田範秋監修(2002)『新世紀の保険』慶應義塾大学出版会

・下和田功編(2004)『はじめて学ぶリスクと保険』有斐閣

・庭田範秋(1995)『新保険学総論』慶應義塾大学出版会

・真屋尚生(2004)『保険の知識(第2版)』日本経済新聞社

金融各論(資本市場論)(春学期)

教授 辻 幸民

授業科目の内容:

今日、株式市場をはじめとする証券市場の動向は、家計や企業等の経済活動に多大な影響を与えている。証券市場には発行市場と流通市場があり、資金の融通に直接関係しているのは発行市場の方であるが、発行市場の円滑化のためには流通市場の安定と効率化が必要不可欠である。また企業も家計も流通市場と深くかかわっているのが現実である。この授業では、資本市場と呼ばれる株式市場と国債(債券)市場を取り上げ、これらの流通市場に焦点を絞って講義する。講義では、証券流通市場の経済的機能や価格決定メカニズムに関する理論分析と現実認識とを説明する。

テキスト:

辻 幸民著『企業金融の経済理論』(創成社)

参考書:

必要に応じて授業中に指示する。

金融各論(企業金融論)(秋学期)

教授 辻 幸民

授業科目の内容:

この授業は、企業(上場の大企業)の実物投資に伴う資金調達行動を分析する。1980年代以降、企業は銀行借入よりも、エクイティファイナンス(株式や転換社債・ワラント債の発行による資金調達)や普通社債発行を通じて資金調度を多様化させたが、このことを合

理的に解釈するには、企業と資本市場とのかわりについて考えることが必要不可欠である。企業金融論とは、企業の資金調達行動のミクロ経済学的な裏付けを提供するのがその目的である。授業では、企業金融論の基礎概念と理論展開を概説する。

テキスト:

辻 幸民著『企業金融の経済理論』(創成社)

参考書:

必要に応じて授業中に指示する。

証券経済各論(証券制度論)(秋学期)

講師 齊藤 壽彦

授業科目の内容:

公債・社債・株式の発行と流通の仕組みについてできるだけわかりやすく講義する。これらを理解することは今日の産業社会を理解する上できわめて重要である。信用論をふまえて証券制度について説明する。とくに日本の証券制度の現状について述べる。

テキスト:

齊藤壽彦『信頼・信認・信用の構造』改訂版(泉文堂, 2005年, 3300円)

保険学各論(生命保険論)(春学期)

講師 宮地 朋果

授業科目の内容:

生命保険の歴史は古く、概念は、古代ギリシャ(紀元前500頃)の宗教的慈悲組織にまで遡ることができるが、諸科学の成果を取り入れた近代的保険制度は、18世紀になってからのことであり、比較的新しいともいえる。超高齢社会を控えて、生活保障を支える上で、生命保険の果たす役割は、近年一段と大きくなっている。他方、国民経済的には、生命保険に対する需要の高まりが、生命保険業の金融業としての地位を高くしている。本講義では、現代社会において生命保険がいかなる機能を果たしているかを単なる技術論ではなくて、社会保障や企業保障など他の関連制度と関係づけながら、多面的に論じるつもりである。

テキスト:

堀田一吉『保険理論と保険政策』(東洋経済新報社)

参考書:

・石田重森・石田成則『自由競争時代の生命保険経営』(東洋経済新報社)

・山中宏編『生命保険読本』(東洋経済新報社)

・ニッセイ基礎研究所『生命保険の知識』(日本経済新聞社)

保険学各論(損害保険論)(春学期)

講師 岡村 国和

授業科目の内容:

本講義の目的は損害保険に関する保険理論の理解と現実の保険現象を分析する能力を修得することにある。さしあたり保険理論の理解に努める。保険理論は原理的には単純明快であるが、実際には多様な応用が施されているために、一見して複雑な感じがすると思う。こうした複雑に見える保険の理論的構造を分解して単純化した後に再構築することにより、損害保険のさまざまな特徴が浮き彫りにされるのであり、実社会において提示される損害保険市場の諸問題を理解・整理して分析することが可能となるのである。

損害保険市場の分析に関しては産業組織論からのアプローチを用いる。具体的には市場構造、市場行動、市場成果の各ブロック間の相互関係の説明、および保険規制がこれら各ブロックにいかなる影響を与えるかなどについて講義する。これらを理解した上で、最終的には、損害保険会社の倒産と消費者保護について講義する。

その骨子は、保険企業の存続保証を前提とした契約者保護(いわゆる船団体制)と保険市場の効率性の両立を考えることであり、「契約者の直接保護を前提とした契約者保護システム」(いわゆるセーフティネットの張り替え)を考察することによって保険市場の効率性と保険契約者の保護を統合的に接続するシステムを模索することである。

テキスト:

使用しない。レジュメや資料を随時配付する。

参考書：

庭田範秋編『保険学』成文堂。
その他、講義中に適宜指示する。

保険学各論（保険経営論）（秋学期） 講師 岡村 国和

授業科目の内容：

保険業を取り巻く環境変化のスピードは著しい。保障業務を本来業務としつつも同時に肥大化・拡大化しつつある（派生業務としてかつて位置づけられていた）金融業務は、今や本来業務の中に取り込まれつつあり、保険業を質的に変化させようとさえしている。保険経営の質的变化が保険業の本質的性格に及ぼす影響は計り知れないものであり、かつ金融業の業態間の垣根問題をめぐる緊張関係が今や無視しえないレベルにまで達している以上、われわれがここで保険業の本質的性格を再度検討することの意義は決して小さくはない。

本講で講義される「保険経営論」は、広義には経済学の一学科としての経営学に属し、狭義には特殊（業種別）経営学の一部としての「保険経営論」に位置づけられる。さしあたり、総論として保険経営の諸特徴を概観し、その後で規制緩和の環境変化の下での保険業の行動原理と競争をめぐる諸問題について「多様化する行動原理と経営目的」を念頭に置きつつ講義を進めていく予定である。

テキスト：

未定、但しレジュメを配布する。

参考書：

庭田範秋編著『保険経営学』有斐閣。
庭田範秋編著『保険学』成文堂。
その他、補足資料などを配布する。

保険学各論（保険数理論）（秋学期） 講師 荻原 邦男

授業科目の内容：

保険数理とは、保険料の計算から、将来の保険給付に備える責任準備金の積立、剰余金の分析、配当還元に至る、保険特有の数理的事項の総称です。本講義では、生命保険の仕組みの理解や保険会社の経営分析に不可欠な保険数理の基本的事項を説明します。併せて、生保保険会計の特徴を説明し、保険数理、保険会計の今日的なトピックスについても取り上げます。

テキスト：

使用せず

参考書：

指定せず

リスク・マネジメント各論（現代社会とリスク）（秋学期）
教授 堀田 一吉

授業科目の内容：

現代社会において、われわれが直面するリスクは巨大化、多様化、複雑化している。こうした中で、安定的かつ効率的な経済発展のために、近年、リスクマネジメントのあり方についての関心が急速に高まってきている。本講義では、主として、企業活動の観点から、実際の事例を交えながら、リスクマネジメントの考え方ならびに課題を論じる。

テキスト：

特定のテキストは指定しないが、参考書を随時紹介する。

参考書：

・亀井利明『リスクマネジメント総論』同文館
・甲斐良隆・加藤進弘『リスクファイナンス入門』金融財政事情研究会
・新日本監査法人『統合リスク管理』金融財政事情研究会
・インターリスク総研『実践リスクマネジメント』経済法令研究会
・武井勲『リスクマネジメントと危機管理』中央経済社

[G 産 業 ・ 交 通]

産業組織論（春学期集中）

教授 井手 秀樹

授業科目の内容：

産業組織論は応用ミクロ経済学の一分野です。この講義では、なるべく具体的な事例を取り上げながら、現実の様々な企業行動が経済厚生に与える影響（独占・寡占問題）、さらには独占禁止政策・公共政策の必要性を論じます。なお、独占禁止法に関しては、専門の科目として「経済法」があります。

テキスト：

植草・井手他「現代産業組織論」NTT 出版

参考書：

新庄浩二（編）『産業組織論』有斐閣ブックス

サービス経済学

休講

交通経済論

助教授 伊藤 規子

授業科目の内容：

この講義では、交通・公益事業分野の産業に属する企業の、構造と行動の一般的な理論、および、これら産業に対する政策を経済学的に分析する際のベンチマークがどのようなものであるか、

を理解してもらうことを目的とする。交通・公益事業サービスは、社会的生活に不可欠なサービスあるいは社会資本であるがゆえに、政府による市場への介入が頻繁に行われる。しかし経済活動である以上は資源配分の効率性からの視点が不可欠である。厚生経済学の基礎的な理論はその意味で交通・公益事業分野を分析するうえでの有力な道具である。本講義では、厚生経済学の概念整理から出発し、規範的なアプローチによる伝統的経済理論からの分析道具の提供をする一方、近年整理がなされてきた、ポジティブ・アプローチによる「規制の経済学」の考え方も示すことで、規制政策を考える際に有用な道具も提供する。なお、公平性といった観点も必要な場合については、適宜、概念を提示することにする。

テキスト：

特に指定はないが、担当者作成の授業用のホームページがある。これについては講義でアナウンスする。

参考書：

・竹内・山内『交通経済学』（有斐閣アルマ）
・藤井・中条編『現代交通政策』（東大出版会）
・岡野行秀『交通の経済学』（有斐閣）
・永井・藤井・阪本他著『経済政策入門(2)』（有斐閣）
・ウォーターソン著、木谷・新納訳『企業の規制と自然独占』（晃洋書房）
・山谷修作編著『現代日本の公共料金』（電力新報社）
・前田義信『交通経済要論』（晃洋書房）

その他、必要に応じて授業中にアナウンスする。なお、上記の参考文献は、旧図書館内に設置のリザーブブックにあるので、閲覧が可能である。

産業組織各論（規制の経済学）（春学期）

（社会問題の経済学）（秋学期）

教授 中条 潮

授業科目の内容：

この講義では、社会的・経済的問題とそれに対する政府の規制や慣習に関する課題を経済学的に検討する。

あらゆる社会・経済活動は多かれ少なかれ規制を受けているが、これは「公共性」、すなわち市場の失敗・欠落の議論によって説明することができる。交通や通信の公共性、金融や保険の自由化、農業保護、流通規制、外国人労働者規制、住宅問題、発展途上国への経済援助といった様々な経済問題は、市場の失敗の視点から分析することによって政策判断に寄与することが可能である。したがって、商学部の産業・経済分野を学ぶ者にとっては、政府規制の問題は必須

的バックグラウンドであると言える。

また、経営・会計分野の学生にとっても、企業の経営分析や財務分析を行なうにあたって、政府規制は少なからず影響を与える変数である。たとえば、規制下にある企業の経営指標は一般的に安定的であるが、それは政府の保護によるものであって経営政策に基づく安定度ではないかもしれない。

さらに、規制は経済上の規制にとどまらない。我々の日常生活は多くの規制にとりかこまれている。たとえば、麻薬の所持・使用、一方的な離婚、希少動物の捕獲、プロ野球球団の自由な選択等は禁止されている。これらの規制は一見、社会的あるいは道徳的な価値判断に基づくもののようにみえるが、人間の社会的行動はすべて費用と便益に基づいてなされるという事実には照らせば、これらの社会的規制の妥当性を経済学を用いて分析することが可能である。

それゆえ、医療、自然保護、公害、教育、国防、福祉、死刑廃止論議など、社会的問題とされている様々な問題についても、それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し、それらの社会問題の解決・改善方法として現行の規制が妥当か否かを議論することが可能である。

このように、市場介入の意義・妥当性を研究することによって、経済制度・社会制度を経済学的に分析するのが本講義の目的である。

テキスト：

〔春学期〕

- ・中条潮『規制破壊』(東洋経済新報社)
- ・藤井・中条編『現代交通政策』(東大出版会)第4章

〔秋学期〕

- ・中条潮『景気復活最後の切札 規制改革なくして日本再生なし』小学館文庫

参考書：

必要があればその都度指示する。

産業組織各論(産業組織と企業戦略)(春学期)

教授 高橋美樹

授業科目の内容：

産業組織論は、他の学問分野と密接な関連をもって発展してきた。本講義では、関連分野の中でもとくに企業戦略論との関連に注目し、企業のとる様々な戦略的行動、また、企業競争力の源泉について議論したいと思います。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

必要に応じて、講義中に紹介し、またプリントを配布します。

交通経済各論(経済地理) 経済学部 教授 杉浦章介

授業科目の内容：

経済地理は、経済活動の空間的側面に焦点をあてて分析を行うが、経済活動のグローバル化や地域経済統合などによって、企業、産業、地域・都市経済、国民経済、国際経済の様々なレベルにおいて経済の空間的組織化は急速かつ根本的に変容してきている。本講義では、空間経済学や地理学的視点からこれらの変化や変容を明らかにしてゆく。都市・地域経済、国際経済、グローバル企業経営などに興味のある学生の履修に適している。他学部の学生の履修も認めるので経済学の理論的知識については適宜説明を行う。

テキスト：

杉浦章介『都市経済論』岩波書店、2003年

参考書：

杉浦章介他『人文地理学』慶應義塾大学出版会、2005年

交通経済各論(国際交通論)(春学期)

国際海上輸送 講師 織田政夫

授業科目の内容：

国際交通の一手段というよりも、主要な国際物流手段である「海上輸送」は、一国の産業経済ならびに国民経済のいわばインフラストラクチャーとして、現代の生産および流通活動の根幹を成してい

る。『交通経済各論(国際交通論)』は、その海運活動が営まれる「国際海運市場」がどのような構造になっており、そこでどのような競争が展開されているかを分析し、市場構造と競争の本質を明らかにする。そして、これによって海運業の景気変動のメカニズムを知るとともに、世界海運を構成する主要海運勢力について把握する。

次いで、この国際海運市場で営まれる「海運業の経営特性」を明確にする。

続いて「海運政策の概念と本質」を明確にしたうえで、海運政策の形態、海運政策と海運業経営との係わり、わが国の海運政策課題等について考察する。

テキスト：

特に指定しない。必要に応じて統計資料等を配布する。

参考書：

織田政夫『海運要論』(海文堂)

[H 労働・社会]

労働経済学

教授 清家 篤

授業科目の内容：

現在の労働市場で起きていることを経済学の枠組みを使って理解、分析できるようにすることを目的としています。内容は次の通りです。

〔 〕労働経済分析の枠組み

- (1) 労働経済学とは何か
- (2) 労働力の観測
- (3) 労働統計

〔 〕労働の需給

- (1) 労働供給
 - (i) 性・年齢別労働力率の観測
 - (ii) 就業・最適労働供給時間の決定
 - (iii) 労働供給曲線の導出
- (2) 労働需要
 - (i) 労働需要の決定要因
 - (ii) 産業別労働需要の変動
 - (iii) 最適労働需要の決定
 - (iv) 労働需要曲線の導出

〔 〕労働市場

- (1) 失業
 - (i) 失業とは何か
 - (ii) 失業にかんする経験法則
 - (iii) 日本の失業構造
- (2) 雇用調整
 - (i) 雇用調整とは何か
 - (ii) 雇用調整係数と雇用調整コスト
- (3) 労働市場における情報の役割
 - (i) 情報の不完全性
 - (ii) 情報の不完全性ゆえに生じる経済主体の行動
 - (iii) 情報の不完全性と企業組織
- (4) 労働力のフロー表
 - (i) 労働力のフローとは何か
 - (ii) フロー表を使った分析

〔 〕労働市場の実態分析

- (1) 経済の構造変化と雇用制度
 - (i) 人口構造の変化と雇用制度
 - (ii) 競争構造の変化と雇用制度
 - (iii) 意識構造の変化と雇用制度
- (2) 賃金と労働時間の経済分析
 - (i) 年功賃金制度とは何か
 - (ii) 年功賃金制度の変化と能力・成果主義
 - (iii) 労働時間と企業への貢献度
 - (iv) 労働時間短縮のために
- (3) 高齢者雇用の経済分析
 - (i) 高齢者の労働供給
 - (ii) 高齢者の労働需要
 - (iii) 必要な制度変革

(4) 労使関係

- (i) 集团的労使関係の意義
- (ii) 変化する労使関係

テキスト：

清家篤『労働経済』（東洋経済新報社）

参考書：

生産性労働情報センター『活用労働統計』（社会経済生産性本部生産性情報センター）

産業関係論

講師 菊野 一 雄

授業科目の内容：

近代以降の工業化社会を、我々は「インダストリアル・ソサエティー」ないし「ビジネス・ソサエティー」と呼び、豊かな生活を約束された素晴らしい社会と思い込んできた。しかし、インダストリーは「勤勉」、ビジネスは「忙しい」（ビジー）であり「物的豊かさ」を求めて「物の加工」に忙しい時代であった。「忙しい」とは「心を亡ぼす」ことである。事実、我々は物的に豊かになればなる程、心を亡ぼしてきたように思う。だが、それは何故か。

何故、物的豊かさを求めて工業を興し、労働の細分化（分業）と機械化を推進すればする程、雇用をめぐる諸関係（産業関係）にさまざまな矛盾（副作用）が生じてきたのか。商（ビジネス）学部において産業（インダストリー）関係論を学ぶ意義はまさにこの点の解明にある。

産業関係（Industrial Relations = IR）という用語は1910年代頃から英米において使われてきたが、いまだ研究者の間で共有できる統一的概念や理論体系を有していない。産業関係（IR）は広義には「雇用関係から派生する全ての行動、ないし雇用過程に関連する全ての行動」（D. ヨーダー）であるが、本講義では労働市場と雇用管理の接点に焦点をあてていきたい。

テキスト：

- ・菊野・八代編著『雇用・就労変革の人的資源管理』中央経済社
- ・菊野一雄『現代社会と労働』慶應義塾大学出版会

参考書：

- ・菊野一雄『Humanization of Work and Japanese Personnel Management』（英文）楽出版
- ・菊野一雄『模索時代の人間と労働』中央経済社
- ・菊野他編著『雇用管理の新ビジョン』中央経済社
- ・今村仁司『仕事』弘文堂
- ・今田高俊『自己組織性』創文社
- ・加藤尚武『環境倫理学のすすめ』丸善
- ・二神恭一編『戦略的人材開発』中央経済社

産業社会学

教授 三浦 雄 二

授業科目の内容：

現在私たちが「産業社会」という形で営んでいる社会生活の意味を考えたい。豊かさや利便性は成果であるが、仕組みの硬直さや経済主義的価値への偏重などは弊害的である。しかもこれらの成果や弊害は、この社会を貫く資本主義的工業化の論理に常に曝されており、安定的ではない。我々の多くは労働者という形で産業活動に従事し、産業的な生活様式を享受しながら生きていくのだが、その過程で我々が自覚的に取り組まなければならない問題は多くある。社会の在り方としては、産業社会はなお科学的な考察の対象である。

テキスト：

テキストは使用せず、講義を中心としている。

参考書：

参考文献は区切りの良いところでまとめて紹介している。

組織心理学

助教授 吉川 肇 子

授業科目の内容：

組織と個人の適応的関係について、心理学的視点から検討します。そのために、組織心理学の基本的な知識を学びます。講義とともに、授業内に実習やLTD学習を行い、体験的に理解を深めることをねらっています。

テキスト：

外島裕・田中堅一郎（編著）産業・組織心理学エッセンシャルズ ナカニシヤ出版

参考書：

レイボナー・チャーネス・キッパーマン・ペイシル（著）丸野・安永（訳）討論で学習を深めるには LTD 話し合い学習法 ナカニシヤ出版

社会保障論

教授 権 丈 善 一

授業科目の内容：

この講義の意義と目的は、最近の社会保障政策の動向を理解してもらうのみならず、君たちが大学を卒業し、社会で重責を担う年齢に達したときでも、自分自身で社会保障をはじめとした公共政策の動向を評価し、さらには政策をデザインすることができる力を身に付けてもらうことにもある。そして、講義を進める際に、特に次の2つのことを意識する。

- ・物事を抽象的に考える（モデルを使って考える）大切さを分かってもらうこと
 - ・望ましい政策を導き出す考え方は、実は、数多く存在し、考え方の数だけ「望ましさ」があるのを分かってもらうこと
- なぜ、これら2つのことを意識した講義を行うのかを理解してもらうために、少し説明しておこう。

今、君たちに、「社会保障に関する過去1ヶ月の政策動向を、10分間で分かりやすく説明せよ」という課題が与えられたとしよう。君たちの能力をもってすれば、この課題は難なくこなせるはずである。そこで次に、「過去1年の社会保障の動きを、10分間で分かりやすく説明せよ」と言われたとする。さらには、「過去5年、そして過去10年の動きを、10分間で分かりやすく説明せよ」と、質問の難易度がエスカレートしていったとしよう。この種の難問にみごとに答えるためには、物事の枝葉末節を取り除き、重要な要因のみをピックアップして考える能力、すなわち抽象的に考える能力、モデルを使って考える能力が必要となる。さらに時には、身近な例にたとえながら身近な例に対する共通の理解の助けを借りて説明の時間を節約しながら複雑な出来事を分かりやすく説明する能力が必須となる。社会保障に関する現実の政策動向を抽象化し、分かりやすく単純化したシナリオを作る能力がなければ、10年のできごとを10分というコンパクトな時間で、ひとに理解してもらえ意味のある形で要約することはできない。

それでは次の課題については、どうであろうか。「社会保障の過去における政策動向を評価するとともに、将来の望ましい社会保障の在り方を提案せよ」。この課題に答えるためには、何をもって「望ましい社会保障」のあり方なのかという評価規準を、どうにかして設定する必要がある。ところが面白いことに、何をもって望ましいとするかという評価規準は、実は、ひとつではなく、世の中にはたくさん存在するのである。わたくしは、君たちに、数多くの評価規準を示し、そのなかから、君たち自身が望ましいと思う望ましき(?)を選択してもらいたいと思っている。何を言っているのか分からないかもしれないが、講義に出席していれば、不思議と理解できるようになるので心配の必要はない、と思う。

このようなことを意識しつつ、具体的には、「社会保障のまわりで、過去10数年の間、いったい何が起こってきたのか、そしてこれから10数年にわたって、いったい何が起ころうとしているのか」を理解してもらえようように講義を進め、中長期的な視野で政策動向を大局的に把握する力を身に付けてもらいたいと願っている。

また、社会保障は、ほとんど毎日、新聞の紙面ににぎわしているわりには、これらの制度は複雑で用語は特殊すぎるために、多くの人は、問題の所在をとらえきれない。この社会保障論では、政策の動向を大局的に把握する力を身に付けてもらいながらも、制度、用語の説明を可能な限り行っていきたい。

なお、この講義の特徴の一つは、講義専用のホームページから、講義のハンドアウト・関連資料をダウンロードしてもらうとともに、ホームページを通じて社会保障・税制に関連する情報を、随時、君たちに提供できるシステムを活用していることにある。1999年より始めたこの方法のおかげで、タイムリーかつ相当の量の情報を、毎週、君たちに提供できるようになっている。

テキスト：

権丈善一 (2001) 『再分配政策の政治経済学 日本の社会保障と医療』慶應義塾大学出版会

参考書：

- ・権丈善一 (2003) 『年金改革と積極的社会保障政策 再分配政策の政治経済学』慶應義塾大学出版会
- ・権丈善一 (2006) 『再分配政策の政治経済学』慶應義塾大学出版会
- ・二木他編 『医療経済・政策学』勁草書房

産業関係各論 (労務管理論) 教授 八代 充史

授業科目の内容：

労務管理とは、市場経済において最大利潤の獲得という目的の下に企業が行うヒトの管理についての諸活動を総称したものである。

この講義では、昇進・昇格、人事考課といった労務管理の諸活動についての基本知識を与えることを重視する。ただこうした労務管理の諸活動の背景にある理論的な意味や歴史的な経緯も、この講義の重要な課題である。

テキスト：

- ・佐藤博樹・藤村博之・八代充史 『新しい人事労務管理 (新版)』有斐閣アルマ, 2003 年。
- ・佐藤博樹・藤村博之・八代充史 『マテリアル人事労務管理』有斐閣, 2000 年。

参考書：

- ・白井泰四郎 『現代日本の労務管理 (第 2 版)』東洋経済新報社, 2002 年。
- ・八代充史 『管理職層の人的資源管理 労働市場論的アプローチ』有斐閣, 2002 年。
- ・菊野一雄・八代充史編 『雇用・就労変革の人的資源管理』中央経済社, 2003 年。

産業社会学各論 (経営社会学) 講師 塚本 成美

授業科目の内容：

経営社会学は、社会不安の引火点としての経営という視角から、社会構成体としての経営の社会過程・社会関係の解明を目的として、1920 年代ワイマール期のドイツで形成された。経営社会学の底流には、自立した産業市民層の育成と企業経営の全体社会への自覚的編入を基本理念とした、経営の社会改革という考え方がある。混迷する社会を根底から改革するという経営の社会的・人間的課題からも、環境適合的な動態的組織編成という経営の経済的・戦略的課題からも、経営従業者の自発性と自立性の要求をみだすことは現代経営の急務である。自発性と自立性は、働く人間の自由な精神活動を前提とするため、企業経営の人間問題は、現代の高度の合理化された経営支配構造の中で、経営従業者の人格的独立と社会的協同はいかにしたら両立可能か、という問題に行き尽くす。ここに経営の人間的・社会的問題の核心がある。

本講義では、経済的計算理性と社会的理性の錯綜した経営の社会的現実をときほぐしながら、経営の社会的・人間的問題に対する理解を深めることをめざす。経営が社会不安のより切迫した発生源としておおきな社会的影響力をもつ時代に生きるわれわれは、経営の現実から社会の行く末を看破する洞察力を養わなければならないからである。

テキスト：

とくに指定しない。

参考書：

講義のなかで、必要に応じてその都度紹介する。

[I 産業史・経営史]

産業史 (春学期) 助教授 牛島 利明

授業科目の内容：

この講義では明治期から戦時期にいたる日本の産業発展とそれを支えた制度的要因を事例としてとりあげ、産業の発展・衰退の過程、産業間の相互依存関係、個別産業と経済全体との関連について理解

を深めることを目的とする。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

参考文献は必要に応じてその都度指示するが、さしあたり下記の文献を参照されたい。

- ・橋本寿朗 『近代日本経済史』岩波書店, 2000 年。
- ・西川俊作ほか編 『日本経済の 200 年』日本評論社, 1996 年。

経営史 (春学期) 教授 平野 隆

授業科目の内容：

今日の企業が直面している諸問題の本質を把握するためには、それらが歴史的に形成されてきた過程を理解することが不可欠である。

この講義では、まず経営史学の基本的な考え方と方法について解説し、つづいて18世紀以降のイギリス、アメリカおよび日本におけるモダン・ビジネスの形成・発展と企業経営の展開過程を概観する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

参考文献は講義中に適宜指示する。さしあたって以下の文献をあげておく。

- ・大河内暁男 『経営史講義』(第 2 版) 東京大学出版会, 2001 年。
- ・宮本又郎ほか 『日本経営史』有斐閣, 1995 年。
- ・鈴木良隆ほか 『ビジネスの歴史』有斐閣, 2004 年。

産業史各論 (科学技術政策史) (春学期)

科学技術発展における国家の役割

講師 ルイス, ジョナサン

授業科目の内容：

世界各国の科学技術政策がどのような目的で形成されてきたのか、科学技術政策の効果、そしてそのおもいがけない結果などを論じる。国家が科学研究と技術開発で果たしてきた役割を具体的な例を紹介しながら考察する。

例年では、講義の前半は日本語で、後半は英語を用いるが、参加者の希望に合わせる。

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It focuses on the role of the state in promoting and regulating scientific research and technological development.

In previous years I have talked in Japanese for the first half of each class and English for the second half, but will adjust this to fit students' preferences.

参考書：

- ・Mani, S. (2002). Government, innovation, and technology policy: an international comparative analysis. Cheltenham, UK; Northampton, MA, Edward Elgar Pub.
- ・Rogers, E. M. (2003). Diffusion of innovations. New York, Free Press.
- ・Neufeld, M.J. (1995). The rocket and the reich: Peenemünde and the coming of the ballistic missile era. New York, Free Press.
- ・Dyson, G. (2001). Project Orion: the true story of the atomic spaceship. New York, Henry Holt and Co.
- ・McCurdy, H.E. (1990). The space station decision: incremental politics and technological choice. Baltimore, Johns Hopkins University Press.
- ・Broad, W. J. (1997). The universe below: discovering the secrets of the deep sea. New York, Simon & Schuster.
- ・加藤弘一著 『電脳社会の日本語』文春新書, 2000.
- ・Lessig, L. (2004). Free culture: how big media uses technology and the law to lock down culture and control creativity. New York, Penguin Press.
- ・Weber, S. (2004). The success of open source. Cambridge, MA, Harvard University Press.
- ・Thomas, D. (2002). Hacker culture. Minneapolis, University of Minnesota Press.

・Etkowitz, H. (2002). MIT and the rise of entrepreneurial science. London; New York, Routledge.

産業史各論(比較小売業史)(秋学期)

教授 平野 隆

授業科目の内容:

本講義は、19世紀後半以降の日本、イギリスおよびアメリカにおける近代小売業の成立・発展過程を比較検討し、各国の異なる社会的・歴史的背景要因が、小売業の発展パターンにどのように反映したかを考察する。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

- 講義中に適宜指示する。さしあたり、以下の文献を参照されたい。
- ・J. ベンソン, G. ショー編, 前田他訳 (1996) 『小売システムの歴史的発展』中央大学出版部。
 - ・山本武利・西沢保編 (1999) 『百貨店の文化史 日本消費革命』世界思想社。

経営史各論(アメリカ経営史)(春学期)

講師 安部 悦生

授業科目の内容:

企業と企業家の発展を理解する。産業史、経済史、経営学、経営組織論、経営戦略論、ミクロ理論などをすでに勉強したか、それらと並行して、勉強することが望ましい。

テキスト:

『ケースブック アメリカ経営史』有斐閣, 2002年

参考書:

- ・安部悦生『経営史』日経文庫, 日本経済新聞社, 2002
- ・『経営学のすべてがわかる本』学習研究社, 2004

[その他]

数学各論(確率解析)(秋学期)

確率論とその応用

専任講師 安田 公美

授業科目の内容:

社会や自然現象の中に見られる確率現象を論理的に解析するために必要な数学的概念、定式化を学びます。

テキスト:

最初の授業の時に指示。

参考書:

最初の授業の時に指示。

数学各論(経済数学基礎)(春学期) 教授 小宮 英敏

授業科目の内容:

第1学年配当授業の「微分法」と「線形代数」の履修を前提として、それを補完し経済数学の理論展開を理解するために必要な知識を与えることを目標とする。時間の関係で重要な数学的結果の細かい証明まで扱うことはできないが、その結果の意味の理解と運用ができるよう授業を進める。

テキスト:

使用しない。授業中に資料を配布する。

参考書:

- ・K. Binmore and J. Davies, Calculus, Cambridge Univ. Press 2001.
- ・R.K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge Univ. Press 1996.

数学各論(最適化理論)(秋学期) 教授 小宮 英敏

授業科目の内容:

数学各論(経済数学基礎)の履修を前提とし、最適化理論として

まとめられているトピックスの中で基本的なものを学ぶ。経済学における効用最大化, 利潤最大化, ゲーム理論における利得最大化などの数学的構造を正確に理解することを目的とする。

テキスト:

使用しない。授業中に資料を配布する。

参考書:

- ・R.K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge Univ. Press 1996.
- ・K. Binmore and J. Davies, Calculus, Cambridge Univ. Press 2001.

数学各論(ゲーム理論)(春学期) 助教授 木戸 一夫

授業科目の内容:

無視し得ない力を持つ複数の主体に係る最適値問題としてゲーム理論を学ぶ。ゲーム理論の基本概念と、テキストにある応用例を結びつけながら、使えるゲーム理論を身につけることを目指す。授業は、おおむねテキストにそって進める。授業の前半(1時間程度)では、テキストの所定部分を履修者が発表し、それを基に議論をする演習形式とする。後半(30分程度)では、次週演習する内容を深く理解するために必要な、ゲーム理論の諸概念・諸定理を講義する。

テキスト:

ミラー著『仕事に使えるゲーム理論』阪急コミュニケーションズ

参考書:

中山幹夫著『はじめてのゲーム理論』有斐閣ブックス

情報処理 (電子計算概論)

産業研究所 教授 新井 益洋

授業科目の内容:

今日の社会は情報化の時代と言われ、好むと好まざるにかかわらず、コンピュータと関係を持たずに済むことはできない。大学において研究を進める諸君にとってもコンピュータによる情報処理は不可欠なものとなってきている。そして、その多くはワードプロセッサや表計算ソフト、各種アプリケーションソフトなどの既製ソフトを利用して行うことになる。

しかし、コンピュータの効果的利用を実現するためには、コンピュータに関する正しい理解が必要である。それには、既製ソフトの利用だけでなく、自分でプログラムを作り、コンピュータを使って実践することが最良の方法である。また、既製ソフトではできない処理に対処するためにも、自らプログラムを作成できることが望ましい。

授業内容に示す題目について解説しつつ、演習・実習をまじえて、実用面を重視した問題を通じて、どのようにすればコンピュータでの処理が可能になるのか、その考え方やその解き方、プログラミングの技法の習得を目的とする。なお、実習はパーソナルコンピュータを用い、使用言語はJavaで行う。

テキスト:

使用しない。

参考書:

授業中に指示する。

法学各論(民法)

民法物権法/総則

講師 河原 格

授業科目の内容:

総則/物権・担保物権

日常生活の一部は民法の適用される領域であると思って間違いのないほど、その適用範囲は広い。この講座では、金融取引の分野で重要とされる物権法、担保物権法、次に民法の中で最もとっつきにくいとされる民法総論を勉強する。

テキスト:

[春学期]

河原格『入門 物権法』八千代出版(2004年)2300円

[秋学期]

齋藤和夫編『レーアブーフ 民法総則』中央経済社(2004年)2200円

参考書:

いずれも図書館に入っている

- ・内田貴『民法〔第2版〕総則・物権総論』(2000)
- ・丸山英気『物権法入門』(1997)

法学各論(民法) 民法 債権法 講師 河原 格

授業科目の内容:

契約法/債権総論

日常生活は契約によって規律され、契約によって日々債権・債務(内容)が発生している。このことから債権そのものは、非常に重要な法律内容と言える。特に金融関係に進む希望のある諸君にとり、債権譲渡、弁済などの内容は、大変役に立つものである。だから心して勉強してもらいたいと思っている。

テキスト:

〔春学期〕

河原格編著『契約・不法行為入門』泉文堂 2005年 2400円

〔秋学期〕

河原格『入門 債権総論』八千代出版 2003年

参考書:

平野裕之『民法』新世社 2002年

法学各論(商法) 会社法講義 法学部 教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容:

このところ、日本企業はそれを取り巻く状況の変化により大きな影響を受けている。また、今年の春から新しく会社法が施行される。会社に興味を持っている者は多いと思うが、会社の存在自体が法律によって認められているのであるから、是非、会社の設立、株式および株主、経営機構、資金調達、企業結合というような諸分野について、法的知識を持ってもらいたい。

テキスト:

宮島司「新会社法エッセンス」弘文堂

参考書:

授業中に指示する。

法学各論(商法) 法学部 教授 島原 宏明

授業科目の内容:

商法の中に位置づけられるところの「手形・小切手法」について、体系的に解釈論の解説を行う。一見、手形・小切手法は応用的なジャンルの法律とみられがちであるが、これらは使用される社会が限定されているため、法律行為論の本質的な要素をとらえるには絶好の素材といえる。

具体的には、主に約束手形を対象として講義を進めていく。

テキスト:

島原宏明『手形法学への誘い』八千代出版(¥2,500)

参考書:

開講時に指示する。

法学各論(経済法)(春学期集中) 法学部 教授 田村 次朗

授業科目の内容:

本講義は、資本主義経済体制を支える経済法を取り上げる。特に、市場経済における、競争メカニズムに密接に関連している独占禁止法(競争法)の現状と課題を法的視点から分析する。今日、経済活動では、企業(事業者)の法令遵守(コンプライアンス)が強く求められているが、この独占禁止法をはじめとする経済法は、企業行動に対する適切な法規制という意味できわめて重要であり、講義に際しては、この点についても様々な視点から取り上げることとする。

テキスト:

・金井貴嗣他編『独占禁止法』(弘文堂 2004)

・『独禁法審決・判例百選(第6版)』別冊ジュリスト(2002)

参考書:

白石忠志『経済法教材 2005』(商事法務 2005)

法学各論(労働法) 企業と労働者(サラリーマン)をめぐる法的問題を分析する 法学部 助教授 内藤 恵

授業科目の内容:

労働法とは、賃金を得て生活する者(これを労働者と称します。)と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法、個別的労働関係法、そして集团的労使関係法に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期及び秋学期の初めを使って、特に労働者と使用者の間に締結された労働契約の始期からそれが終了する原因に至るまでを講義します。この二つの法主体間の関係を、個別的労働関係と呼びます。内容としては、下記授業計画の第二章から第十一章がそれに当たります。

続いて、労働法と社会保障法の間に位置する労働災害補償の問題を講義(第十二章)し、更に労働者・使用者・労働組合の三者間の法的関係を解釈する、集团的労使関係の領域を講じます。内容としては、第十三章から第十八章がそれに当たります。

講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、出来れば話題となった新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト:

毎回 Web に講義資料プリントをアップロードします。(2006年4月、初学者向テキスト出版予定)

但し法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので、URL は初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第7版〕(有斐閣 2002)

参考書:

初心者向けの参考書として、

・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界(第6版)』(有斐閣, 2005)

・西村健一郎・安枝英『労働法(第8版)』(有斐閣プリマシリーズ, 2004)

良く書き込まれた概説書に、菅野和夫『労働法(第7版)』(弘文堂, 2005)

ジャバニーズ・エコノミー(春学期) 商学研究科 教授(フジタ・チェアシップ基金) 小島 明

授業科目の内容:

戦後から現在に至る日本経済を世界経済との関連を重視しながら分析。高度経済成長、制度改革、雇用慣行、企業経営など多面的に論ずる。

1980年代の円高、バブル景気とその崩壊、不良債権問題、直接投資、金融改革、日本的経営の在り方などを議論する。日本が現在直面している政策問題も点検。講義及び討議は英語を使用。

ビデオ、テープなども利用しながら当局者、専門家の生の声、意見に接することができるようにしたい。

Japan's economic performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective.

Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate demographic change, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialists through Video and tapes etc.

テキスト:

METI "white paper on International Trade", 2004, 2005

参考書:

・"Japan's Policy Trap — Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance", by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

・"Balance Sheet Recession -- Japan's Struggle with Uncharted Economics and its Global Implications", by Richard C. Koo, 2003 John Wiley & Sons Pte Ltd.

・ Various reports, working papers by Government, International Organizations (IMF, OECD etc) and by scholars are recommended as needed.

経済学史 経済学部 助教授 神代光朗

授業科目の内容:

資本制生産様式の経済法則の解明としての政治経済学および経済思想の歴史を、主に17～19世紀を中心にその成立、展開とその批判に焦点をあてて講ずるが、経済学と国民・民族、諸階級、社会・経済体制とその変動などの歴史的・現代的諸問題との関わりにも関心の目を向け、私達をとりまく世界史的な諸問題に資本主義的近代市民社会成立期の過去の経済学説がどのような光をあててくれるのかを、諸君とともに考えながら講義をすすめたい。

テキスト:

特にスタンダードなテキストはない。担当者である私の講義内容そのものが、テキストに該当するものであるからして、履修者は必ず出席をし、ノートを自らとる心掛けをもってほしい。下記の参考書は、それを前提にして学生諸君の理解を補助する通史であるが、いかなる通史のテキストにも一長一短はある。

参考書:

- ・ 内田義彦『経済学史講義』未来社、1968年(未来社の復刻版もあり)または『内田義彦著作集』(第2巻)岩波書店、1989年、2001年より増刷
- ・ 早坂忠編『経済学史 経済学の生誕から現代まで』ミネルヴァ書房、1989年
- ・ 馬渡尚憲『経済学史』有斐閣、1997年
- ・ 高橋誠一郎『経済学史略』慶應出版社、昭和27年、又は泉文堂〔16刷〕

これらは、あくまで参考文献であり、諸君自らが、古典文献を読まれることが何より大切である。なお、他に必要な文献等は、授業中に適宜指示する予定である。

経済広報センター寄附講座

「ブランド創造とコミュニケーションの新展開」

コーディネーター 助教授 斎藤通貴(春学期)

助教授 里村卓也(秋学期)

授業科目の内容:

ここ10年間で、我が国においてもブランドが主要な経営資源であるとの認識が広まってきている。企業をはじめ国や地方自治体もブランド創造に取り組み、また顧客をはじめとするステークホルダー(利害関係者)との間のコミュニケーションを通じてブランドを共有しようとする取り組みが進行している。本講座では、現代企業の考え方や取り組みの実情を聞きながら、ブランド創造とコミュニケーションの新たな展開について考えてみる。

テキスト:

特になし

参考書:

特になし

日本証券投資顧問協会・投資信託協会寄附講座

「資産運用の理論と実務」(春学期)

コーディネーター 教授 堀田一吉

授業科目の内容:

日本の社会が成熟し豊かになるにつれて、アセット・マネジメント(資産運用)の重要性が増しています。1400兆円の個人の金融資産の運用が、日本の経済の行方や国民の将来の生活設計を大きく左右することになっているのです。皆さん一人一人が個人として金融資産をどのように運用するかということを実践的に学び、理解し、応用出来なければなりません。そればかりが、未来の職業人として金融機関に就職する場合は勿論のこと、その他のいかなる職業に就いたとしても、企業財務や年金を通じて資産の運用との関わりから逃れることは出来ません。

経済のグローバル化が進んで、経済を映す鏡である金融資本市場

は、新しい経済ニーズに応じて複雑化・高度化しプロフェッショナルな世界になってきています。わが国でも、M&A、敵対的買収防衛、企業価値、ヘッジファンドなどの言葉が新聞紙上を賑わしています。このような中で、資産運用の本質とは何か、現場に何が起きているのか、今後どのような方向に進んで行こうとしているのか等について、金融資本市場の最前線で活躍している専門家から生きた声を聞くことが有益です。

こうした時代の変化・社会的要請に答えるべく、本講座では、現代の社会に必要な資産運用の基礎から最先端までを概観します。資産運用の機能や社会的位置付けを踏まえつつ、金融資本市場や法制度などその取り巻く環境、資産運用における投資手法や経済記事の読み方からアセットマネジメント・ビジネスの実態に至るまで、金融知力として皆さんが個人としてあるいは職業人として身に付けるべきエッセンスを幅広く学ぶことにします。特に、資産運用の重要な概念である「リスク」についての正しい認識を進めます。適切なリスク管理なしにリターンは得られないのが資産運用の本質です。

資産運用ビジネスはめまぐるしく変化しています。数年前の非常識が今の常識に変わる世界です。新しい考え方を体得するために、講義の一部には常に最新のテーマ設定を行うこととします。

商学部の基本理念とする「経済社会現象に対する自主的関心と豊かな発想」こそが、資産運用の核となるものであることは、授業終了後に受講生諸君が実際に体得出来ることでしょう。

みずほフィナンシャルグループ寄附講座

「現代の企業金融」(秋学期)

コーディネーター 教授 深尾光洋

授業科目の内容:

企業の経済活動において、その裏付けとなるのは企業の裁量で活用できる資金であることはいうまでも無い。わが国における企業の資金調達、間接金融としての銀行借入と直接金融としての株式発行が中心であった。ところが、バブル崩壊後、各企業がバランスシートのスリム化を指向する中、資金調達手法は多様化の一途をたどっている。本講義では、こういった金融システムの変遷、産業構造の変化を踏まえ、従来型企業金融の総論をまず解説する。次に資金調達手法を、保有する資産活用による調達(第4回から第8回)借入金による調達(9,10回)エクイティーによる調達(11,12回)に区分し解説していく。この構成は企業のバランスシートの資産、負債、資本にそれぞれ対応しているところから、財務会計の基本的な知識は必須である。最後に多様化する金融ニーズに対応する新たなビジネスモデルを講義することで本授業の総括とする。

特別講座「21世紀のマネジメント」(秋学期)

コーディネーター 教授 十川廣國

教授 岡本大輔

授業科目の内容:

商学部の基本理念の前文には「本学部は、福澤諭吉の実学の精神を『商学』の分野において継承し、現代社会の進歩と変革に対応して、つねに新鮮にして活力のある学部であることを目指す。」とある。

また、基本理念2には「教育にあたっては経済社会現象に対する自主的関心と豊かな発想をもってつねに新しい課題に取組み、体得した科学的方法と商学の専門知識を積極的に問題解決に適用できる人材の育成をめざす」と掲げられている。

本講座は、慶應義塾大学商学部においてかつて学び、実学の精神を「商学」の分野において継承したうえで、現代の産業社会において、経営者(企業家)としてその進歩と変革に携わってこられた方々を講師とする。その講義を通じて、経済社会現象に対する、学生の自主的関心と豊かな発想を涵養することを目的とする。

テキスト:

使用しない。

参考書:

適宜紹介する。

[大学院併設科目について]

- 「環境の経済・経営・商業・会計」
- 「イノベーションの経済・経営・商業・会計」
- 「非営利組織の経済・経営・商業・会計」
- 「戦略の経済・経営・商業・会計」

以上の大学院併設科目については、以下の基準を満たした意欲のある学生のみ履修可能です。

- 3年生
 - 2年生までの自由科目を除く A の個数が 24 個以上の者
- 4年生
 - 3年生までの自由科目を除く A の個数が 23 個以上の者
 - いずれも原則として留年をしたことのある者を除く

以上の基準を満たさない場合の履修申告は無効となります。また基準を満たした場合でも、履修希望者多数の場合は人数調整を行う可能性もありますので、5月上旬に郵送する「履修申告科目確認表」でエラーメッセージが表示されていないか確認してください。

環境の経済・経営・商業・会計（春学期）

コーディネーター 教授 岡本大輔

授業科目の内容：

本講義は経済学・経営学・商業学・会計学のそれぞれの専門家が現代社会において環境問題をどのように研究し、成果をあげているかを講義する学際的科目であり、「環境学」へのプロローグである。

- 第1週（4月8日）ガイダンス 商学部教授 岡本大輔
コーディネーターにより本講義の担当講師と環境問題への統合アプローチによる講義概要が紹介され、引き続いて経済学のアプローチの第1回講義が行なわれる。
- 第1週（4月8日）廃棄物問題（経済） 商学部教授 和気洋子
廃棄物問題をめぐる PPP、拡大生産者責任などの原則論議、環境保全の政策手段と政策効果、あるいは一連の包装・容器、家電、自動車リサイクル法に関する具体的論議について講義する。
- 第2週（4月15日）地球温暖化問題（経済） 商学部教授 和気洋子
地球温暖化防止のための国際的な枠組みをめぐる諸課題を、日本経済の費用負担などとの関連から、講義担当者が関与する政府委員会等におけるエネルギー・炭素税などの話題に言及しながら、講義する。
- 第3週（4月22日）国際環境経済システム（経済） 商学部教授 和気洋子
環境と貿易 / FDI をめぐる諸問題を解説し、途上国の持続的経済発展のシナリオや地球環境問題へのコミットメント問題などとの関連において、国際環境経済システムの構築に資する問題を講義する。
- 第4週（4月29日）【休講】
- 第5週（5月6日）【休講】
- 第6週（5月13日）環境経営の定量評価（会計） 中央大学経済学部教授 河野正男
環境に配慮する企業経営の定量評価に関する二つの手法 環境パフォーマンス評価と環境会計を紹介する。とくに環境会計の枠組みと基礎概念について詳述する。
- 第7週（5月20日）外部報告のための環境会計（会計） 中央大学経済学部教授 河野正男
環境省の「環境会計ガイドライン」の解説の後、財務報告書および環境報告書における環境会計情報の現状をガイドラインに関連付けて紹介する。
- 第8週（5月27日）意思決定のための環境会計（会計） 中央大学経済学部教授 河野正男
環境要因を考慮に入れたいくつもの管理手法すなわちライフサイクル・コスト、環境品質原価計算、トータル・コスト・アセスメントおよび予算管理などについて紹介する。
- 第9週（6月3日）環境と経済の両立は可能か（経営） 千葉商科大学政策情報学部教授 三橋規宏

自然が作り出す以上のスピードで過剰消費し、自然の環境許容限度を超えて有害物質を過剰排出することで、環境と経済がトレードオフの関係に陥った。「無限で劣化しない地球」から「有限で劣化する地球」へ地球観を切り替えていかななくてはならない。この変化を「自然満足度曲線」という新しい概念で説明する。

第10週（6月10日）ストック重視経済と環境経営（経営） 千葉商科大学政策情報学部教授 三橋規宏

新製品を大量に生産する時代は終わった。これからは蓄積された様々な製品・社会資本ストックを長期間、大切に使うサービス分野で大きなビジネスチャンスが広がる。長持ちさせる企業の基本戦略は、労働生産性の向上をいかに高めるかにある。20世紀の企業は、エネルギー、資源を多消費、多浪費することで、規模の経済を実現し、労働生産性を高めてきた。しかし21世紀の企業は、エネルギー、資源を節約し、資源生産性を向上させることで、労働生産性を高めていかななくてはならない。

第11週（6月17日）企業の社会的責任と環境ビジネスの発掘（経営） 千葉商科大学政策情報学部教授 三橋規宏

人類が地球の限界に遭遇した今日、これまでのビジネスは大幅な修整を迫られている。このことは、逆にいえば、新しいビジネスを発掘し、発展させるまたとないチャンスと受け止めることができる。環境ビジネス発掘のマトリックスを説明し、それを埋めることで、新たなビジネスの発見に挑戦してもらおう。

第12週（6月24日）環境問題とマーケティング（商業） 筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授 西尾チツル

地球環境との共生や資源循環を推進する方法にはどのようなものがあるか、その中でマーケティングに課せられている役割とは何か、を概説する。その上で、環境マーケティングの概念と課題を企業事例を紹介しながら説明する。

第13週（7月1日）消費者の環境配慮行動の規定要因とその特徴（商業） 筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授 西尾チツル

市場を構成する消費者の環境問題への認知の特徴や環境配慮行動の規定要因に関する国内外の研究を紹介し、その特徴を整理する。それらを踏まえた上で、環境配慮型商品の市場を拡大するためのコミュニケーション方法や整備すべき仕組みなどについて議論する。

第14週（7月8日）環境マーケティングの展開方法（商業） 筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授 西尾チツル

上記2回に渡る議論を通じて、環境マーケティングの内容を製品・サービスの企画・販売段階、使用・消費段階、廃棄・資源回収段階ごとに整理し、具体的な展開方法について議論する。また、企業の環境マーケティングを推進するために必要な法制度や社会システムについても考察を加える。

イノベーションの経済・経営・商業・会計（春学期）

コーディネーター 教授 高橋郁夫

授業科目の内容：

- 講義は以下に記すスケジュールに従って進める予定である。
1. オリエンテーション（担当：慶應義塾大学教授 高橋郁夫）
 - 第1回（4月8日）
本講義のねらいと進め方、それに成績評価の仕方等について情報の伝達を行う。
 2. イノベーションと経済（担当：日本大学経済学部教授 乾友彦）
 - 第2回（4月15日）マクロ経済とイノベーション
マクロ経済学において、技術進歩やイノベーションがどのように組み込まれているかを説明し、昨今の日本経済における技術進歩の役割について説明する。
 - 第3回（4月22日）IT投資と日本経済
1990年代に入って、世界的にIT化が進んでいる。経済学では、このIT化をどのように把握しているのか、また日本のIT化は、世界に比べて進んでいるのか、遅れているのかということを経済データに基づきながら論じる。またIT投資、その他の投資が技術進歩に与える影響について論じる。
 - 第4回（5月6日）イノベーションの源泉：研究開発投資とグロー

バリエーション

経済学では、イノベーション（技術進歩）の源泉は、研究開発投資による知識ストックの蓄積と教育による人的資本の向上であると考えられている。ここでは研究開発に焦点を当てて、統計データに基づきながら解説を行う。また経済のグローバル化が研究開発や技術開発に与えるインパクトを検証する。

3. イノベーションと会計

（担当：青山学院大学教授 西村優子）

第5回（5月13日）イノベーションと戦略的管理会計

戦略的管理会計において、イノベーションから創出される新知識の創出と蓄積のプロセスに関わる会計情報について説明し、企業の研究開発投資とその投資から産み出される成果に関する会計情報を考察する。

第6回（5月20日）知的資産の会計的評価

イノベーションによって創出・蓄積される知的資産を会計的に測定し評価する方法として、コスト・アプローチ、インカム・アプローチ、マーケティング・アプローチがある。これらの測定方法の理論と計算について、具体的に明らかにする。

第7回（5月27日）知的資産に関わる会計情報と開示

知的資産の会計処理、会計情報の開示、ならびに知的財産報告書について以下の指針、会計基準などに基づいて検討する。

- ・日本公認会計士協会経営研究調査会研究報告24号「知的財産評価を巡る課題と展望（中間報告）」（2004年6月）
- ・経済産業省「知的財産情報開示指針 特許・技術情報の任意開示による企業と市場の相互理解に向けて」（2004年1月）
- ・国際財務報告基準における改訂IAS38号「無形資産（Intangible Assets）」（2004年）
- ・米国財務会計基準書142号「暖簾およびその他の無形資産（Goodwill and Other Intangible Assets）」（2001年）

4. イノベーションと経営

（担当：サンノゼ州立大学教授 Mark Fruin）

第8回（6月10日）第9回（6月17日）第10回（6月24日）

アメリカのハイテク企業におけるイノベーション・マネジメント、特に研究開発のプロセスの現状と特質についてシリコンバレーを拠点として行動しているベンチャー企業を中心にして理論的・実証的な視点から解説する。

イノベーションの分類と企業戦略

イノベーションとグローバル化の諸点

5. 流通におけるイノベーション

（担当：青山学院大学教授 田中正郎）

第11回（7月1日）流通における情報

定型的情報と非定型的情報

情報という言葉が意味するところは、必ずしも一定したものではない。流通において特に必要とされる情報は、商品の需要と供給に関するものである。こうした情報が持つ特徴とは何かを考へる。

第12回（7月8日）小売業の商品管理システムと情報技術

小売業における商品管理システムは、技術革新の連続であった。キャッシュレジスターの発明からPOSシステムが開発されるまでの商品管理システムにおける技術革新のようすをふりかえてみる。

第13回（7月15日）企業間の流通関連業務プロセスの統合化

食品や雑貨品のメーカー、卸、小売を含めたサプライチェーン内の企業が協働して、サプライチェーン内の可視性向上やパートナーがもつリソースの活用等が模索されている。こうした動きの背景を考へる。

* 必要に応じて、6月3日(土)、7月10日(月)、11日(火)を補講日とする。

テキスト：

各講義担当者が必要に応じて指示する。

参考書：

各講義担当者が必要に応じて指示する。

非営利組織の経済・経営・商業・会計（秋学期）

コーディネーター 教授 跡田直澄

授業科目の内容：

非営利組織について経済・経営・商業・会計の諸分野からのアプローチによる分析・検討により総合的な理解を深めることを目的とする。

1. 総論（跡田直澄）

非営利組織体の分類と特徴（9月30日）

非営利組織体と営利組織体の活動環境（資源の獲得、市場との関わり）の相違点と類似点

非営利組織体の財務報告の目的

2. 商業（浅井慶三郎）（10月7日、10月14日、10月21日）

はじめに：本テーマの講義は大略以下の内容で行う予定です。

第1回は、まず伝統的な経営の概念を再検討し経緯堂という発想について述べ、NPOの社会的文化的役割およびNPOが直面する経営問題に緯とサービスの切り口からそのマーケティングを論じ、次にNPOに関する税制そのものの抜本的改革をマーケティングの視覚から戦略的に論じます。

第2回は、NPOの主要分野の一つである大学の経営問題を取り上げて大学のマーケティングを論ずるが、特にAppsの今後の経営戦略を受講生諸君と一緒に考えてみましょう。

第3回は、冷戦後に於ける大国間の覇権を巡る文明の衝突が民族間紛争を多発させ、地球の人類、動植物および自然資源の浪費と環境の破壊を齎している現実をいかにして平和と共存の道を探るかを、政治や軍事に頼らずグローバルな草の根の文化交流に見出すべきと考へ、NPOのグローバルネットワークをベースとする観光サービス（平和だから観光ができる、観光が出来るから平和が生まれる）の開発を問題として検討してみたいと考えています。

*1 各回毎により更に詳しい講義内容のレジュメと必要に応じて参考となる新聞その他の資料を学事センターを通じて配布します。詳細は掲示でお知らせしますので、センターを訪れて確認し入手して、授業に出る前に授業内容を予想し予習してください。

*2 基本的参考文献

- ・サービスとマーケティング（増補版）浅井慶三郎 2005 同文館出版（株）
- ・コミュニティビジネスの時代、NPOが変える産業、社会、そして人間 金子郁容他 2003 岩波書店
- ・新版コミュニティ・ソリューション 金子郁容 2003 岩波書店
- ・儲けはあとからついてくる、片岡勝のコミュニティビジネス入門 片岡勝 2002 日経新聞社

*3 3回とも出欠をとります。また3回の講義終了後、以下の要領でレポートを学事センターに提出してください。（締切日等、詳細は掲示でお知らせします）

テーマ：小生の講義に関連づけて各自で問題だと考へるテーマを決めて結構です。これを1600字で旨く纏めて小論の形にして、A4版1ページにプリントする。

3. 経営（谷本寛治）（10月28日、11月4日、11月11日）

企業とNPOの関係について、具体的な事例をもとに考へていくことにする。

- (1) NPOの特徴：NPOの3つのパターン（慈善型、監視・批判型、事業型）
- (2) 企業とNPOの基本的な違いと類似点を確認する。
- (3) 企業とNPOの多様な関係性について下記の点について考へる。
企業によるNPO支援
NPOによる企業の監視・批判
NPOによる企業評価
企業とNPOのアランアンス

参考文献：

- ・谷本『企業社会のリストラクション』千倉書房、2002年。
- ・谷本・田尾編著『NPOと事業』ミネルヴァ書房、2002年。

4. 会計（会田一雄）（12月2日（連続2時限）、12月9日）

(1) 非営利組織における会計の機能

種々の非営利組織における会計の機能について、組織のガバナンスの在り方、社会環境、ステークホルダーの異質性等の視

点に沿って考察する。社会の期待と現実の会計実務とのギャップが焦点である。

(2) 非営利組織の財務諸表と会計基準

非営利組織の形態により異なる会計基準における計算構造を分析し、現在、どのような改革が進んでいるかを展望しつつ、財務諸表の体系と情報利用の進め方を論じていく。

(3) 組織評価と会計情報

資源の効率的利用を推進する観点から、組織評価をいかに進めるべきかについて、NPMの流れを汲むパブリック・セクターの改革と会計情報の利用を中心に取り上げる。

参考文献：

- ・杉山学・鈴木豊(編)、「非営利組織体の会計」,中央経済社,2002年。
- ・松葉邦敏(編)、「新公益法人会計基準」,税務経理協会,2004年。

5. 経済(12月16日,1月6日,1月13日)

(1) 経済学の視点からみた非営利組織のあり方1(中条潮)

非営利組織の存在理由は何か、非営利組織を営利組織と区別する理由は何かをミクロ経済学の視点から検討する。

(2) 経済学の視点からみた非営利組織のあり方2(中条潮)

非営利組織に対する規制や支援の妥当性をミクロ経済学の視点から議論する。

(3) 経済学の視点からみた非営利組織のあり方3(跡田直澄)

非営利組織の問題点、役割、規制や支援の妥当性をマクロ経済学の視点から検討する。

この授業は回により第1・2時限の連続授業となりますので、履修申告の際は注意してください。

戦略の経済・経営・商業・会計(秋学期)

コーディネーター 教授 小宮 英敏

授業科目の内容：

1. オリエンテーション(9月30日) 担当 十川 廣國
講義の全体像についてのオリエンテーションを行う。

戦略会計的視点(10月7日,10月14日,10月21日)担当 田中 隆雄

2. 企業戦略と企業価値

日本企業は比較的最近まで、資本コストに注意をあまり払わなかった。その結果、資本効率を無視して、設備投資を行い事業を存続してきた。そのような企業戦略ないしは資源配分によって日本企業の資本効率は外国企業に比して著しく低くなっている。いうまでもなく、財務的目標は企業戦略を構築する際に最重視すべき課題の1つである。近年、欧米のみならず日本においても関心の高まっている財務測度として、企業価値がある。企業価値とはどのような測度で、それを測定する方法としてどのような方法があるのであろうか？また、企業価値重視の経営、いわゆるパリュール・ベースのマネジメントとはどのようなものであろうか？日本企業の実態を含めて話すことにする。

3. 戦略の実行と業績評価

近年、アメリカにおいては戦略の実行をモニターするツールとして、Balanced-Scorecard(BSC)が急速に普及しつつある。BSCはもともとBUの業績管理手段として考案されたが、実際に使ってみると戦略の実行をモニターする機能を兼ね備えていることが解かった。BSCは財務的尺度と非財務的尺度の複合した測定尺度である。非財務的尺度としては、顧客の視点、従業員の視点そしてプロセスの改善などによって構成される。非財務尺度は将来の業績を予測するうえで有益な制度であるといわれるが、それは何ゆえか？非財務的測度は戦略の実行とどのように関わるのであろうか？

4. コーポレート・ガバナンスと企業業績

近年、コーポレート・ガバナンスの在りかたが問題になっている。コーポレート・ガバナンスとは企業の経営者とステイクホルダーとの間におけるコントロール権の配分に関する仕組である。日本では欧米とことなり従業員がもっとも重要なステイクホルダーであるという意見が少なくない。経営者の多くは従業員出身者であり、社外取締役もメイン・バンクやグループ企業から派遣される場合が多い。その結果、株主の利益が軽視され、企業業績に対する経営者の責任もあいまいにされている。こうした問題点を解明し、企業業績を高めるためにガバナンスの仕組はどうあるべき

かについて検討する。

戦略の商業(マーケティング)的視点

(10月28日,11月4日,11月11日) 担当 濱岡 豊

戦略についてマーケティングの観点から論ずる。3回の授業のうち初回ではマーケティングにおける戦略について復習した後、それらの限界、近年の展開を概観する。残りの2回では、近年のマーケティング戦略の動向として、ブランド戦略、消費者による開発のマーケティング戦略への影響について紹介する。

5. マーケティング戦略のこれまでと限界

ここではまず、マーケティングにおける戦略立案プロセスの古典的な手順、概念を紹介する。下記の項目について紹介し、それぞれの課題を指摘する。そして、近年のマーケティングの動向について概観する。

マーケティングにおける戦略的発想の歴史

マーケティング戦略策定の古典的な手順

SWOT分析

プロダクト・ライフサイクル

マーケット・セグメンテーション

ポジショニング

マーケティングミックスの策定

古典的な手順の限界

マーケティング戦略の動向

ワンツーワンマーケティング

共進化マーケティング

6. ブランド戦略

マーケティング戦略の近年のトピックスとしてブランド戦略を紹介する。主な論点は下記の通り。

ブランドの歴史

ブランド資産の定義

ブランド管理の諸問題

ブランド拡張の成功条件

ブランドのアーキテクチャ

ブランド管理の組織

日本のブランドと海外のブランド

7. 創造する消費者の台頭とマーケティング戦略へのインパクト

Linuxがユーザーによって開発されてきたことにみられるように、消費者による創造、開発はマーケティングにとって無視できない現象である。筆者によって提案された創造しコミュニケーションする「アクティブ・コンシューマー」についての分析結果を紹介し、企業と消費者が相互作用しながら進化するという「共進化マーケティング」の方向性を展望する。

消費者、ユーザーによるイノベーション

アクティブ・コンシューマーの特徴

共進化マーケティングの成立条件

戦略の経済的視点(11月18日,12月2日,12月9日)担当 小宮 英敏

8. 交渉問題の導入

社会では様々な交渉が行なわれるが、交渉が成功裏に決着した場合交渉の当事者たちは何らかの経済的行為をなし、その結果その経済的行為をなさない場合に比べそれぞれの効用が増加しているはずである。この交渉の戦略的構造が交渉による経済的価値の創造とその価値の分配という視点でとらえられることを理解することを目指す。また、交渉の当事者の効用には貨幣が加法的に含まれ効用が譲渡可能な場合を考察する。

9. 交渉問題における交渉力と非協力ゲーム

交渉問題の交渉力が決定される要因として交渉当事者の時間選好が本質的であることを明かにしたルービンシュタインの交渉理論を紹介する。これは交渉当事者をプレーヤーとする提案応答ゲームの形式をもつ非協力ゲームとして定式化される。提案応答の最終期間が明確に設定されている場合とそうでない場合の違いなど提案応答ゲームの特質の理解を目指す。

10. ナッシュ交渉問題と協力ゲーム

交渉問題の古典であるナッシュの交渉問題を取り扱う。ナッシュの交渉問題は協力ゲームとして定式化される。この交渉問題の本質的な構造をとらえると共に、ナッシュによる交渉問題の公理

的な解決法のアイデアを理解することが目的である。これは前回の非協力ゲームによる交渉問題の定式化と対照をなす。その理解のためには期待効用仮説，あるいは数学的な概念の理解が必要になるが，丁寧に解説するつもりである。

戦略の経営的視点（12月16日，1月6日，1月13日）担当 十川 廣國

11. 企業経営から見た戦略

企業成長のためには，企業が目指すべき将来の方向を選択し，その目標実現のために経営資源をいかに活用するかが基本的な課題となる。こうした活動を担うのが経営戦略である。しかし，経営戦略に対する考え方は，伝統的な視点から現代的な視点へと変化を遂げてきている。まずは，戦略の経営的視点がどのように変容してきたかについての理解をすすめることにしたい。

12. 持続的競争優位の構築と戦略経営

変化する環境のもとでの企業の成長・存続は，競争優位をいかに構築するかにかかっている。人々の創造性発揮を通じた経営資源の新たな活用が求められることになり，組織をいかに活性化するかが解決されるべき重要課題となる。新たな組織能力が競争優位の源泉になると考えられるからである。ここでは，こうした組織能力とは何か，それが競争優位構築にどう結びついて行くと考えられるのかについて検討したい。

13. 戦略の経営的視点と戦略経営についてのまとめ

〔 自主選択科目 〕

〔 中国語科目について 〕

三田に設置された中国語の自主選択科目は、中国語第 XX (表現練習) である。

専攻科目 類として設置される外国語特殊 (中国語中・上級) を 2 コマ履修を希望し、かつ担当教員 の了承を得られた場合、2 つ目のコマを自主選択科目として履修することができる。

なお、この授業は専攻科目 類の中・上級の会話より上のレベルを求める学生を対象とする。

中国語第 XX (表現練習) 講師 張 明 傑

授業科目の内容:

表現力の養成に力点を置き、できるだけ多くの場面会話を身につけ、やや複雑な複文でも応用できるようにする。同時に現代中国の社会や中国人の暮らしに触れることもできるようにする。

テキスト:

張明傑著『実用中国語会話』(金星堂, 2000 円)

参考書:

副教材として担当者が中国語の映画などを用意する。

〔 その他の語学科目について 〕

以下のイタリア語、ロシア語、朝鮮語、アラビア語、ギリシャ語、ラテン語については、文学部併設であるため、履修人数が多い場合は文学部生優先となる。

必ず履修申告前に、授業担当者に許可をもらうこと。

イタリア語 [春学期] 文学部 講師 ジョエ, イニャツィオ 未定
[秋学期]

授業科目の内容:

初心者向けの会話クラス。特に春学期は日本語で文法の説明も行いながら授業をすすめます。基礎的な会話表現を身につけるとともに、語彙力の増強をはかります。

テキスト:

《ESPRESSO》

参考書:

- ・イタリア語の ABC (白水社)
- ・1からはじめるイタリア語練習 (白水社)
- ・イタリア語を学ぶ (PHP 新書)
- ・日本語から引く知っておきたいイタリア語 (小学館)
- ・[辞書] ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典 (小学館)

ロシア語 文学部 講師 佐野 洋子

授業科目の内容:

このクラスは初めてロシア語を学ぶ人を対象とし、一年間で初級文法を習得します。最終的には、平易なロシア語のテキストを読む力をつけることを目的とします。

テキスト:

生協購買部にて、コピー冊子を購入して下さい。

参考書:

辞書が必要になりますが、初回の授業で説明します。

朝鮮語 (初級) 文学部 講師 崔 鶴 山

授業科目の内容:

日常的に使う韓国語のための基礎文法知識を習得する授業です。まず、発音と文字体系、文の仕組みになれるようにします。「ハング

ル」という馴染みのない文字を使う韓国語は一見難しく見えますが、文の構造や語順、漢字語などは日本語のそれととてもよく似ているため、特に日本人には意外と早い上達が期待できる言語です。一年間の学習により、自己紹介、日常の簡単なやりとり、日記などの基本的な口語表現及び文章表現ができるようになります。平常点、出席を重視します。

テキスト:

「はじめての韓国語」崔鶴山著, 白水社

朝鮮語 (中級) 文学部 教授 野村 伸一 (春) (月5)
文学部 講師 崔 鶴 山 (秋) (月5)
文学部 講師 崔 柄 珠 (金5)

この科目は、月曜 5 限と金曜 5 限のセットになっていますので、両方を履修申告してください。

授業科目の内容:

中級レベルのこの授業では 1 学年に続き、日常的な場面をテーマにした各課のシチュエーションを学習することで、状況に応じた表現方法を習得するとともに、韓国人の会話スタイルについても理解を深めていきます。そのほか、時には映画やドラマ、新聞などを素材にして、生きた韓国語に慣れ、韓国の文化や社会事情に対する理解も高めていきます。

これと関連し、授業では受講生の発表の時間を取るようにします。

一週間に二回の授業は、講師は変わっても、同一教材を用いて進めます。各課ごとに小テストをして、達成度をはかります。

出席、応用問題の回答提出と小テストは一年時と同様に重要です。

授業進捗の詳細は初回の授業の時にプリントで示します。

テキスト:

慶應義塾外国語学校編『朝鮮語 中級』

朝鮮語 (中級) 文学部 講師 崔 鶴 山 (春) (月5)
文学部 教授 野村 伸一 (秋) (月5)
文学部 講師 李 泰 文 (金5)

この科目は、月曜 5 限と金曜 5 限のセットになっていますので、両方を履修申告してください。

授業科目の内容:

中級レベルのこの授業では 1 学年に続き、日常的な場面をテーマにした各課のシチュエーションを学習することで、状況に応じた表現方法を習得するとともに、韓国人の会話スタイルについても理解を深めていきます。そのほか、時には映画やドラマ、新聞などを素材にして、生きた韓国語に慣れ、韓国の文化や社会事情に対する理解も高めていきます。

これと関連し、授業では受講生の発表の時間を取るようにします。

一週間に二回の授業は、講師は変わっても、同一教材を用いて進めます。各課ごとに小テストをして、達成度をはかります。

出席、応用問題の回答提出と小テストは一年時と同様に重要です。

授業進捗の詳細は初回の授業の時にプリントで示します。

テキスト:

慶應義塾外国語学校編『朝鮮語 中級』

アラビア語
アラビア語の世界とその文化
文学部 講師 師岡カリーマ, エルサムニー

授業科目の内容:

アラビア語で文章を読み、自分を表現する力を付け、アラブ世界の文学や芸術、風俗、人々の生活等、多様な文化について幅広い知識を身に付けてもらう事を目的としています。

テキスト:

特に指定しません。プリントを配付します。

参考書:

- ・「恋するアラブ人」師岡カリーマ・エルサムニー著, 白水社
- ・「アジア読本 / アラブ」大塚和夫編, 河出書房新社

授業科目の内容：

古典ギリシア語の初等文法を学びます。

テキスト：

水谷智洋著『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）

その他適宜補助プリントを配布。

ラテン語

古典期のラテン語文法学習 文学部 講師 平 田 真

授業科目の内容：

インド・ヨーロッパ語の一員であると共にロマンス諸語の母体言語でもあるラテン語の基礎文法修得を目標とする。

テキスト：

樋口・藤井共著『詳解ラテン文法』（研究社）

参考書：

逸身喜一郎著『ラテン語のはなし』（大修館書店）

諸 研 究 所

教職課程センター
言語文化研究所
メディア・コミュニケーション研究所
体育研究所
福澤研究センター
外国語教育研究センター
国際センター
情報処理教育室
知的資産センター

教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

平成 18 年度言語文化研究所特殊講座

科目名	教員名	単位数
サンスクリット (初級)	土田龍太郎	通年 2 単位
サンスクリット (中級)	土田龍太郎	
アラビア語 (基礎)	榮谷温子	
アラビア語 (現代文講読)	榮谷温子	
アラビア語 (古典)	岩見 隆	
アラビア語文献講読	岩見 隆	
ヴェトナム語 (初級)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語 (中級)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読	嶋尾 稔	
ペルシア語 (初級)	関 喜房	
ペルシア語 (中級)	岩見 隆	
タイ語 (初級)	三上直光	
タイ語 (中級)	ポンシー, ライト	
トルコ語 (初級)	ヤマンラール, アイドゥン	
トルコ語 (中級)	ヤマンラール, アイドゥン	
朝鮮語文献講読	野村伸一	
カンボジア語 (初級)	三上直光	
ヘブライ語 (初級)	笈川博一	
ヘブライ語 (中級)	笈川博一	
古代エジプト語 (初級)	笈川博一	
古代エジプト語 (中級)	笈川博一	
アッカド語 (初級)	高井啓介	
アッカド語 (中級)	高井啓介	

サンスクリット (初級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。

参加者は、練習問題の予習が必要となる。

テキスト:

- ・ヤン・ホンダ著 鎧淳 訳「サンスクリット語初等文法(春秋社)
- ・辻 直四郎著「サンスクリット文法」(岩波書店)

授業の計画:

- ・サンスクリット語とはなにか
- ・アオリスト活用
- ・子音と母音
- ・完了活用
- ・名詞変化の基礎
- ・その他の動詞形
- ・動詞変化の基礎
- ・複合語等
- ・母音曲用
- ・子音曲用
- ・動詞現在組織
- ・動詞未来及受動変化

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

サンスクリット (中級)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語の初歩をすでに一通り取得したもののための授業である。

テキスト:

参加者の希望で決める。

授業の計画:

サンスクリット では、参加者と相談して決めたテキストを講読、文化史宗教史の事項と文法解説を行う。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語 (基礎)

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容:

正則アラビア語(フスハー)のアラビア文字の読み方、綴り方からはじめ、一年間で基礎文法を習得することを目的とします。また正則アラビア語による簡単な日常会話フレーズも練習します。

テキスト:

佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社, 2004年, 1905円)
必要に応じてプリントや練習問題を配布します。

参考書:

参考書 David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

授業の計画:

- 第1回 第6回 アラビア文字のつづり方, 名詞の性・格・複数, 人称代名詞と前置詞
- 第7回 第13回 指示代名詞・形容詞・疑問詞および名詞文の構造
- 第14回 第20回 動詞完了形・未完了形および受動態・分詞・動名詞・場所名詞
- 第21回 第26回 不規則動詞および派生形

履修者へのコメント:

毎回宿題を出します。アラビア語の文法はテキストでの独習のみでは理解がむずかしい部分が多々あります。一回でも授業を欠席すると継続が困難になります。毎回の出席を心がけてください。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語 (現代文講読)

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容:

基礎文法の習得を終えた人を対象として現代文の講読を行います。講読を通して、アラビア語の基本的な文章構造の理解、さらには母音記号などの補助記号がついていない文章にたいする読解力の養成を目的とします。

テキスト:

プリントを配布します。

辞書は、Hans Wehr, A Dictionary of Modern Written Arabic-Englishを使用します。

参考書:

- ・佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社, 2004年, 1905円)
- ・David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)

授業の計画:

初回には、辞書や文法書、授業の進め方を説明をします。最初は母音記号のついた平易な文章からはじめます。その過程で既習の基礎文法や辞書による単語の調べ方を再確認していきます。順次程度の高い文章の講読をしていき、最終的には母音記号のついていない文章を、自らの文法知識を用いて読解できるようにしたいと思います。

第1週 第6週 母音記号がついた平易な短い文章(名詩文・動詞文)の講読。

第7週 第13週 母音記号がついた長い文章を講読。

第14週 第26週 要所のみ母音記号がついた文章から、最終的には母音記号がつかない文章の講読。

履修者へのコメント:

文法の復習を繰り返しながら文章をよみます。辞書と文法書を必ずもってきてください。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語 (古典)

アラビア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

母音符号のついていない普通のアラビア語テキストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテキスト読みにどう生かすかを課題としてやります。

テキスト:

Brünnow-Fischer: Arabische Chrestomathie
プリントで配ります

参考書:

井筒俊彦: アラビア語入門, 慶應出版社 1950.

授業の計画:

最初の日には、参考書や辞書の紹介などガイダンスをやりませう。

春学期の間は母音符号が全部ついていないテキストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしようと思います。

なお、受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテキスト読みを進めてゆくつもりです。

履修者へのコメント:

少くとも規則動詞原型の完了, 未完了の変化は完全に頭へたたきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席者は毎回必ずあてます。テストがわりです。)

アラビア語文献講読

アラビア語演習 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容：

アラビア語の定評ある古典の中、平易な散文（叙事の文）をあたりまえに読めるようになることを目指します。

テキスト：

受講者と相談して決めます。

参考書：

Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. Press, 1962

授業の計画：

第1回はガイダンスで、参考文献、辞書の使い分けのやり方などを話します。

2回目以降はもっぱらテキスト読みに専念します。

なお、対象が古典ですから、単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思います。

履修者へのコメント：

初等文法の諸規則や用語に慣れておくことが必要です。動詞変化の基本をマスターしていること。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回必ずあてますから、そのつもりで来て下さい。）

ベトナム語（初級）

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

ベトナム語を基礎から学ぶ。発音、綴り字、初級文法、簡単な会話力の習得を目指す。

テキスト：

『ベトナム語入門』（慶應外国語学校）

参考書：

富田健次『ベトナム語 はじめの一歩まえ』（DHC, 2001年）

授業の計画：

初回のガイダンスで知らせる。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（時々小テストを行う。）

ベトナム語（中級）

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

変更なし

初級ベトナム語を学び終えた人を対象に文献講読を行う。最初は簡単なものから始めるが、受講者のレベル・要望に応じて、雑誌・新聞などの記事などを読んでいくことにしたい。

テキスト：

初回到受講者と相談して決める。

参考書：

小高泰・Nguyen Thi Mai Hoa『会話で覚えるベトナム語 666』（東洋書店, 2005年）

履修者へのコメント：

ベトナム関係のウェブサイト上の、ベトナム語の辞典、テキスト、新聞の中から便利で有益なものを随時紹介してゆきたい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ベトナム語文献講読

言語文化研究所 助教授 嶋尾 稔

授業科目の内容：

ベトナム語で書かれたベトナムの歴史や文化に関する文章を広く読んでゆく。

テキスト：

初回到受講者と相談して決める。

参考書：

富田健次『ベトナム語の世界：ベトナム語基本文典』（大学書林, 2000年）

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

ペルシア語（初級）

ペルシア語文法 言語文化研究所 講師 関 喜房

授業科目の内容：

現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第、易しい文章を読むつもりです。その際、文法書には記されていない文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。

テキスト：

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』（大学書林）

参考書：

黒柳恒男著『ペルシア語の話』大学書林

授業の計画：

講義計画は以下の通りです。

- 1- ガイダンス
- 2- 文字の習得
- 3- 教科書を用いた文法の学習（計16回）
- 4- 易しい現代文を読む練習（計7回）
- 5- テスト

履修者へのコメント：

教科書の練習問題を必ず予習すること。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
 - ・平常点：出席状況および授業態度による評価
-

ペルシア語（中級）

ペルシア語講読 言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容：

ペルシア語の文の流れをつかみとれるように、平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。

テキスト：

受講する人と相談して決めます。

参考書：

Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ. Press, 1974

授業の計画：

最初の日にテキストを相談して決めるなどガイダンスをやります。2回目以後はひたすらテキストを読みませう。

履修者へのコメント：

文法は理解しているものと考えてやりませう。だから動詞の変化など慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回あてますから、毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。）

タイ語 (初級)

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容:

タイ語入門講座。発音, 文字の読み書き, 初級文法, 基本表現の修得を目標とします。

テキスト:

開講時に指示します。

授業の計画:

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え, 後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント:

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

授業中・授業後に受け付けます。

タイ語 (中級)

言語文化研究所 講師 ポンシー・ライト

授業科目の内容:

タイの小学校2年生の教科書より短編ストーリーを用いて, タイ語の運用能力向上を目指します。

テキスト:

プリント使用。

授業の計画:

前期は文章表現と読解力, 後期は会話表現と聞き取りに重点を置きます。

履修者へのコメント:

あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

トルコ語 (初級)

トルコ語初級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール, アイドウン

授業科目の内容:

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが, 簡単な講読も行います。

テキスト:

プリント使用

授業の計画:

- 第1 - 2回 トルコ語の特色, 母音・子音の調和。
- 第3 - 7回 “～は～です”の構文, 助詞(格), 副詞, 形容詞
- 第8 - 13回 動詞(現在・単純過去・超越などの時制)
- 第14 - 17回 動詞(伝聞過去・未来などの時制と複合時制)
- 第18 - 21回 分詞
- 第22 - 24回 動名詞
- 第25 - 26回 条件文, 仮定法など

以上は初級文法の主要な学習事項と予定です。授業の進行に応じて順番などが変わるので, 一応の目安と考えてください。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

トルコ語 (中級)

トルコ語中級

言語文化研究所 講師 ヤマンルール, アイドウン

授業科目の内容:

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

テキスト:

プリント使用

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

朝鮮語文献購読

文学部 教授 野村伸一

授業科目の内容:

大韓民国という国家, 社会の歴史と現状を知るためのテキストを講読します。

今日「韓流」というマスコミにより流布された一種の流行現象に興味を抱く人は多く, 皆さんのなかにもそうした人はいるでしょう。そのこと自体はきっかけとしてはいいことです。しかし, それにまつわる言説だけをみても, けっして内面的な理解には到達し得ないでしょう。

すべて, ものごとには, 来歴と「いうにいわれぬこと」があるものです。朝鮮民族にとって, それはどのようなものであったのか。それを知らない限り, 日本と朝鮮半島は時流の往来をくり返すばかりではないでしょう。

テキスト:

韓洪九『大韓民国史 03』, ハンギョレ新聞社, 2005年。各自, 韓国書籍を扱う書店(例, 三中堂, 高麗書林)もしくはソウルの大型書店に注文して入手してください。

参考書:

- ・韓洪九著, 高崎宗司監訳『韓洪九の韓国現代史 韓国とはどういう国か』, 平凡社, 2003年
- ・同『韓洪九の韓国現代史 2 負の歴史から何を学ぶのか』, 平凡社, 2005年
- *上記の翻訳書は韓洪九『大韓民国史 01』, 『大韓民国史 02』に相当します。

<http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/shohvou1.html> に書評を掲載しました。

授業の計画:

毎回, 原文で4, 5頁の講読をします。受講者は翻訳してきてください。

履修者へのコメント:

受講者は朝鮮語を読む準備ができていることが前提となります。口頭での会話能力は必要ありません。ひとまず日本語にした上で, なお, それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ, 明らかに違うとおもえる表現に出会うことがたいせつです。

この授業に関連することからは随時, <http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/kougi.html> に掲載します。

またインターネットハンギョレ <http://h21.hani.co.kr/> には『ハンギョレ 21』があり, ここに韓洪九氏の連載コラムがあります。上記の著書はこれを編集したものです。そこでは, 現実に生起する諸問題が歴史的な視点で興味深く論じられています。三八六世代を含めた韓国の中堅世代の視点, 意見が適確に反映されているものとして, 理解する必要があります。

成績評価方法:

出席すること, 翻訳結果を学期末に提出することで評価します。

カンボジア語 (初級)

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容:

カンボジア語入門講座。発音、文字の読み書き、初級文法、基本表現の習得を目標とします。

テキスト:

開講時に指示します。

授業の計画:

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント:

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

授業中・授業後に受け付けます。

ヘブライ語 (初級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

旧約聖書ヘブライ語の初歩。まったくの初心者想定している。

テキスト:

テキストは比較的繰り返しの多い創世記を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、辞書の助けを借りて散文をある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

ヘブライ語 (中級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

旧約聖書サムエル記の講読。

テキスト:

テキストはプリントを授業で配布する。

参考書:

英語ないしドイツ語による辞書(¥2500~¥10000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

初級でプラクティカルに習得した文法を体系的に復習する。さらにヘブライ語の理解を深め、散文は自由に読めるようにする。後期には詩文にも挑戦したい。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語 (初級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

文法体系が比較的よく分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者想定している。

テキスト:

テキストは「ヴェナモン」を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

5月ごろから辞書(約¥9000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画:

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語 (中級)

言語文化研究所 講師 笈川博一

授業科目の内容:

中期エジプト語の初歩。

テキスト:

テキストは「難破した水夫」であるが、プリントを授業で配布する。

参考書:

辞書は Raymond O. Faulkner "A Concise Dictionary of Middle Egyptian" Oxford (Amazon JP で ¥3542), あるいはその日本語訳が必要となる。

授業の計画:

初級でやった後期エジプト語と対比しつつ、より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント:

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

アッカド語 (初級)

言語文化研究所 講師 高井啓介

授業科目の内容:

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが、足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

テキスト:

Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

参考書:

開講時に指示します。

授業の計画:

以下のようなスケジュールを予定していますが、授業の進み具合に応じて変更することもあります

前後期を通じて

1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞（計三回）　　コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹（計五回，語根の判別，変化，叙法など）とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形（計三回）
7. 動詞 S 語幹とその派生形（計三回）
8. 動詞 N 語幹とその派生形（計三回）
9. アッカド文学の概観
10. ハンムラビ法典，イシュタルの冥界下りなど　　テキストを読みつつ文法事項を確認します（計五回）

履修者へのコメント：

古代メソポタミアの文化，歴史，宗教についても適宜紹介していくつもりです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば lampbreaking@ybb.ne.jp まで連絡してください。

アッカド語　（中級）

言語文化研究所 講師 高井 啓介

授業科目の内容：

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら，簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

テキスト：

テキストはプリントを準備します。

授業の計画：

講義計画

読むテキストについては，初回に受講者と相談の上決定するつもりですが，以下のような内容のテキストを取り上げることになるでしょう。

前期：王碑文，書簡，法律文書，契約文書など（計十三回）

後期：神話・叙事詩，祈り文学，占い文書など（計十三回）

履修者へのコメント：

楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば lampbreaking@ybb.ne.jp まで連絡してください。

メディア・コミュニケーション研究所の研究生諸君に

メディアコム研究所所長（法学部教授） 関根政美

メディア・コミュニケーション研究所（Institute for Media and Communications Research）は、昭和21年（1946年）に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、平成8年（1996年）に50回目の誕生日を迎えました。まさに、研究所は日本の戦後とともに歩んできたこととなります。新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマスメディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合国占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その役割の遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行いうる研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任されることになったというのがその発端であると、伝えられております。

既述の通り、当初、新聞研究所は新聞研究室として出発しましたが、後に研究機能の重視を目的に研究所に名称を改めました。かつては、新聞を実際に発行して実習授業を盛んに行っていました（当時発行された新聞はマイクロフィルム化されていますので読もうと思えば読めます）、今日では実習的な側面よりは研究生（新聞研究所に入所した学生はこう呼ばれます）にはマス・メディアおよびマス・コミュニケーション研究の基礎的教育を行い、専任教員を中心として基礎的な研究に力を入れてきました。メディア業界からは、すぐに陳腐になりやすいテクニカルな知識や技術のみを身に付けた人間よりは、基礎的な知識や思考能力そして人間関係能力に裏打ちされ、しっかりとした考えと独創的な発想力をもつ人材が求められており、そうした要求に沿った教育と、各種メディア・コミュニケーション産業にとり有益な研究成果を提供することに新聞研究所は力を入れてきました。

しかし、時代は急速に変わりつつあります。戦後50年の情報通信技術の革新の動きは目覚ましく、新聞研究所がスタートした頃の報道機関といえば活字メディアが中核で、ラジオがそれに多少付け加わっているだけでした。その後、テレビ放送が本格化しメディアの中核は電気通信・放送へと移行して行きました。近年では地上波だけではなく、衛星放送・衛星通信、ケーブルテレビなど多面的かつグローバルにコミュニケーションが展開する時代になってきました。また、インターネットを中核とし、マルチメディアの展開が叫ばれ、コンピュータ・メディアの時代へと大きく変化し、新聞、ラジオ・テレビの融合現象も注目されるようになりました。と同時に、かつては一方的な伝達が中心であったものが、コンピュータ・メディアの発達により双方向的なものとなると同時に、その情報通信範囲もパーソナルなレベルからグローバルなレベルへと拡大化し、コミュニケーション能力の著しい発展と質的な変化は驚くべきものとなりました。また、多チャンネル時代を迎え、放送内容も多様なものになり、アイデアや創造力がメディア業界に働く人々に要求される度合いも格段に高くなりました。

こうなってくると、新聞研究所という名称はさすがに古めかしさを感じさせるようになったため、平成8年（1996年）には、研究所50年の記念式典を行い翌平成9年度より名称を変更いたしました。それが、メディア・コミュニケーション研究所出発の経緯です。新しいメディアの発展による新しいコミュニケーションの時代に合致した名称に変更したというわけです。もっとも、メディア・コミュニケーションの形態・技術は変化しても、報道ジャーナリズムの健全な発達のため、つまり、民主主義的で自由で公正なる報道を行うための前途有為な人材育成の目的はそのままです。そして、そのための少人数精鋭教育のためのカリキュラム変更も行いました。研究生には、報道ジャーナリズムやマス・コミュニケーション研究の基本を学び、新しいメディア（とくにコンピュータ・メディア）をある程度理解した上に自由に使いこなせるだけの能力も身に付けて欲しいと思っています。そのために、平成11年10月より、この方面のメディア・リテラシー向上を求めて、「メディア・ワークショップルーム（MWR）」を開設しました（本格的稼働は平成12年4月より）。インターネット放送もはじめました。今では大学生になるまでに、インターネットに十分習熟した学生も増え、より高度なメディア・リテラシーが期待できるので、インターネット放送やオンライン・新聞を盛んにしたいと思っています。

1996年秋に新聞研究所は記念式典を実施し、その際に新しい名称を与え新たなスタートを切りました。基本的な研究所の研究生教育とメディア・コミュニケーション研究は変わりませんが、新たな名称のもとに生まれ変わった研究所の次の50年の発展が大変期待されます。なお、現在のスタッフは所長、専任および兼任所員、事務職員総勢でも10名に満たない小さな研究所ですが、非常勤講師の諸先生のご協力を得て研究生150名（2～4年生）の教育を行っております。本年入所される研究生を含め現在の研究生は、新たな歴史を刻む当事者となります。研究所が大きな成果を生むために大いに頑張ってもらいたいと思います。

最後に、メディア・コミュニケーション研究所は、平成18年、つまり、今年ですが、改称して10年目の記念の年を迎えることになりました。名称を変えてあっという間に10年が経ちました。その間のインターネットの普及と展開はめざましく、在来メディアをインターネット会社が買収しようという騒ぎが日本でも発生するようになりました。今後もそうした激動の10年がくり返されると思います。規模は小さいけれど、綱町三田会（修了生の同窓会）というOB・OG組織の皆さんの協力を得て、さらなる発展をめざしたいと思います。

カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の4つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外（2年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱いは、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）

メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。

- ・研究会（研究生のみ対象）

研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。

- ・特殊研究（研究生のみ対象）

少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。

- ・基礎演習（研究生のみ対象）

メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならず、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

(1) 入所説明会（入所申込書配布）11月中旬三田、日吉、藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。

(2) 入所試験（選考）12月中旬三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

・基礎科目	10 単位以上
・研究会	8 単位以上
・特殊研究	4 単位以上
・基礎演習	2 単位以上
合計	28 単位以上

2～4年春学期までに研究会 ～ を順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会（論文指導）を履修すること。すなわち、研究会 ～ と研究会 は全員が履修するが、研究会 と は必修ではない。

3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成 18 年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所科目一覧

* 基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	鈴木 雄雅
三田設置科目	国際コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	伊藤 英一
三田設置科目	メディア社会論（法学部併設）	秋 2	藤田 真文
三田設置科目	メディア法制 ・	春 2 / 秋 2	佐々木秀智
三田設置科目	ジャーナリズム論 ・	春 2 / 秋 2	伊藤 高史
三田設置科目	世論 ・	春 2 / 秋 2	小川 恒夫
三田設置科目	情報行動論	春 2	川浦 康至
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	秋 2	浅井亜紀子
三田設置科目	メディア文化論 ・	春 2 / 秋 2	岩渕 功一
三田設置科目	メディア産業と政策	春 2	菅谷 実
三田設置科目	メディア産業と政策	秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	情報産業論 ・	春 2 / 秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	ジャーナリズム総合講座 ・	春 2 / 秋 2	荒田・萩原・伊藤高
日吉設置科目	マス・コミュニケーション論（法学部併設）	春 2	川端 美樹
日吉設置科目	社会心理学 ・（法学部併設）	春 2 / 秋 2	萩原 滋

* 研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	金山 智子
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	小川 葉子
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	伊藤 陽一
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	大石 裕
三田設置科目	研究会（ ～ ）	春 2 / 秋 2	金 正勲

* 特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義 ・	春 2 / 秋 2	安倍 宏行
三田設置科目	新聞特殊講義 ・	春 2 / 秋 2	木村 良一
三田設置科目	広告特殊講義 ・	春 2 / 秋 2	吉田 望
三田設置科目	メディア特殊講義	秋 2	工藤 卓男
三田設置科目	メディア特殊講義	秋 2	嶋 信彦
三田設置科目	特殊研究 ・（日本の近代化とマス・メディア）	春 2 / 秋 2	小川 浩一
三田設置科目	特殊研究 ・（市民とメディア）	春 2 / 秋 2	金山 智子
三田設置科目	メディア産業実習 ・	春 2 / 秋 2	宿南・金山・菅谷・小川

* 基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語 ・	春 2 / 秋 2	高須賀茂文
三田設置科目	文章作法 ・	春 2 / 秋 2	升野 龍男
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習 ・	春 2 / 秋 2	金山 智子
三田設置科目	映像コンテンツ制作 ・	春 2 / 秋 2	金山 勉
三田設置科目	メディア・ネットワーク実習 ・	春 2 / 秋 2	田辺 浩介
日吉設置科目	電子ネットワーク調査法	秋 2	菅谷 実
日吉設置科目	時事英語 ・	春 2 / 秋 2	蓮実 潔
日吉設置科目	文章作法 ・	春 2 / 秋 2	浜村 寿紀

【基礎科目】

マス・コミュニケーション論 (春)

マス・コミュニケーションと政治 大石 裕

授業科目の内容:

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト:

- ・大石裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会
- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書:

- ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房

授業の計画:

- 1回 コミュニケーションの類型
- 2-3回 大衆社会モデル:弾丸効果モデル
- 4-5回 限定効果モデル
- 6-7回 強力効果モデル
- 8-9回 強力影響・機能モデル
- 10回 批判モデル
- 11-12回 ジャーナリズム論再考

履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・レポートによる評価

マス・コミュニケーション論 (秋)

ジャーナリズムとメディア言説 大石 裕

授業科目の内容:

ジャーナリズムに関する理論的考察(ニュース論や客観報道論など)、言説分析によるニュース分析、メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト:

大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』(勁草書房)

参考書:

- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
- ・鶴木真編『客観報道』成文堂
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房

授業の計画:

- 1-2回 マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論
- 3回 アジェンダ設定メディアとしての新聞
- 4回 日本のジャーナリズム論の理論的課題
- 5-6回 ニュース分析の視点
- 7-8回 客観報道論再考
- 9-10回 集合的記憶とマス・メディア
- 11-12回 メディア・イベントの政治学

履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・レポートによる評価

マス・コミュニケーション発達史 (春)

日本の近代化とジャーナリズム 鈴木 雄 雅

授業科目の内容:

ジャーナリズムの発展について概説する。文字の誕生から紙、印刷などの複製技術の出現、通信、交通手段の発展が、ジャーナリズムの形式を規定していく状況を眺める。さらに幕末日本に新聞、雑誌が出現してから近代新聞が成長し、その過程でジャーナリズムの機能がどのように近代日本の社会発展と関わりあってきたかを考察する。授業スケジュール・参考文献類については、最初の講義時に発表。

授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide06.html>

テキスト:

春原昭彦『日本新聞通史[四訂]』(新泉社, 2003)

参考書:

宮地正人『国際政治下の近代日本』(山川出版社)ほか。講義時に紹介する

授業の計画:

1. 幕末期から明治初期:瓦版,新聞紙,近代化とメディア,開港場に新聞,英字紙の発達,幕末新聞の特色
2. 慶応4年(明治元年)の新聞紙,日刊紙の登場:明治のコミュニケーション革命
3. 明治初期の新聞界:奨励策と新聞弾圧,小新聞の登場,自由民権運動の勃興と言論機関
4. 明治14年の政変と新聞の政党化:民権派新聞と新聞の脱政党化
5. 明治の新聞人:日清戦争,日露戦争と新聞界
6. 資本主義の成立と商業新聞の成立(新聞の企業化)
7. 政治的キャンペーンとマス・メディアの成立:ラジオの出現と出版・雑誌界の動き
8. 戦時統制への過程,軍の干渉と新聞人の抵抗,製紙会社,通信社の統合
9. 情報局の成立,統制法規の制定,新聞社の統合,戦時下の新聞
10. 敗戦と占領下の新聞,独立回復と復興への歩み
11. 戦後の新聞界の新しい動き(言論性,販売,広告界の変化,技術革新とその対応)
12. テレビ,週刊誌の出現によるメディアの多様化
13. 現代の変化とジャーナリズムの役割

履修者へのコメント:

日本の近代史についてある程度の知識が必要(高校程度の日本史,世界史)

成績評価方法:

学期末試験・出席状況・授業態度などの総合質問・相談:

授業中ならびに授業後,Eメール

マス・コミュニケーション発達史 (秋)

イギリスのジャーナリズム 鈴木 雄 雅

授業科目の内容:

ジャーナリズム揺籃の地といわれるヨーロッパ地域のマス・メディアについて学ぶ。外国のマス・メディアを学ぶ基礎的知識・オリエンテーションののち,イギリス・ジャーナリズムの歴史,現状,問題点を探る。

適時,ヨーロッパのマス・メディア,ジャーナリズムの問題をとりあげるが,国際的なマス・メディア産業の動態分析やジャーナリズム研究にとどまらず,その形成過程に多大な影響を及ぼす政治体制や社会構造の変化にも注目する。さらに,常に日本の状況と比較しながら,現代ヨーロッパのマス・メディアの構造と機能を研究する。授業スケジュール・参考文献類については,最初の講義時に発表。

授業サイト URL

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide06.html>

テキスト:

とくに指定しない。適時指示する。

参考書：

Euromedia Research Group, The Media in Europe: The Euromedia Handbook London: Sage,2004.

授業の計画：

以下の項目について、2 回程度の講義を行う予定。

1. オリエンテーション ヨーロッパのマス・メディア
2. イギリスのジャーナリズム (1) ジャーナリズムの発生
日刊紙出現までの英国新聞界の発達過程を概観し、「言論の自由」の概念を考える。
3. イギリスのジャーナリズム (2) ジャーナリズムの近代化
大衆紙の登場とジャーナリズムの変容
4. イギリスのジャーナリズム (3) 20 世紀のメディア・パロンの登場
5. イギリスのジャーナリズム (4) 戦後のイギリス・ジャーナリズム界
放送の出現とジャーナリズムの衰退
6. イギリスのジャーナリズム (5) 現代ジャーナリズムの抱える諸問題
1980 年代以降のジャーナリズムの変化

履修者へのコメント：

英国通史ほか英国社会・文化史の基礎知識が必要です。

成績評価方法：

学期末試験・出席状況・授業態度などの総合評価

質問・相談：

授業中ならびに授業後、E メール

国際コミュニケーション論 (春)

グローバル化とコミュニケーション

伊藤英一

授業科目の内容：

自分自身との対話、友達や家族との会話、といったコミュニケーションでも、もどかしく感じることはありませんか？ コミュニケーションの重要性を切実に感じているにしても、円滑なコミュニケーションは至難の業です。ましてや、「文化や言語の異なる人々とのコミュニケーションなんて」と、一歩後退したくなるかも知れません。しかし、山頂から見晴るかす眺望が麓からの見た風景とは違うように、視点をかえてこそ理解できることもあるのではないのでしょうか。この講義では、あたかも、『星』になった諸君が、丸い地球を見下ろしながら、その地球を巡るコミュニケーションを考察できるような場を提供します。

テキスト：

適宜、案内します。

参考書：

- ・福澤諭吉；『西洋事情』（慶應義塾大学出版会）
- ・伊藤英一；『マルチメディアの新世紀』（丸善）
- ・Daya Kishan Thussu; “International Communication” (Arinold)

授業の計画：

1. 地球と世界地図
2. 国際コミュニケーション論の理論的傾向
3. グローバル化とメディア/コミュニケーション
4. フランス革命と情報インフラ
5. カナダのバランス感覚と国際コミュニケーション
6. 映画が創造するコミュニケーション カンヌ映画祭
7. 海を越えるコミュニケーション
8. 国境を越える共通語・感覚の共振
9. ファッションの世界とコミュニケーション
10. 広告・広報活動と国際コミュニケーション
11. CNN と情報 TV の歴史
12. Al Jazeera アラブの声を聴く
13. 成功するプレゼンテーションとは？

履修者へのコメント：

コミュニケーションとは、“『共（友）』になる” ことです。年代を越えて、良きコミュニン（コミュニティ）の仲間になって下さい。

成績評価方法：

受講して下さる皆さんと、相談して決めたいと思います。

質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問や相談を寄せて下さい。

国際コミュニケーション論 (秋)

異文化を繋ぐコミュニケーション

伊藤英一

授業科目の内容：

21 世紀はグローバル化、情報化の時代であるとも言われます。同時に、文化や社会の枠を越えた地球規模のコミュニケーションの重要性も指摘されています。

しかし、メディアの高度化・迅速化が、必ずしもコミュニケーションの精度や密度を高める方向に働いているとも言い切れません。

国際コミュニケーションの様々な問題をケース・スタディの題材として取り上げながら、枠に捉われないコミュニケーションの素晴らしさを、諸君と共に、探ってみます。

テキスト：

適宜、案内します。

参考書：

Fred E. Jandt; “An Introduction to Intercultural Communication” (Sage)

授業の計画：

1. コミュニケーションと国際的な価値
2. 異文化コミュニケーション論の潮流
3. 言語力とメディア・コミュニケーション
4. 劇場型のコミュニケーション効果と環境要件
5. 多様な文化とコミュニケーション
6. グローバル化の中のローカル・コミュニケーションと生命線
7. 文化と認識
8. 非言語的コミュニケーション
9. 言語の壁を克服する
10. 異文化の出会い
11. 姿、形のコミュニケーション 外見の重要性
12. 国際コミュニケーションを俯瞰する
13. 異文化コミュニケーションのプロになる

履修者へのコメント：

コミュニケーションとは、“『共（友）』になる” ことです。年代を越えて、良きコミュニン（コミュニティ）の仲間になって下さい。

成績評価方法：

受講して下さる皆さんと、相談して決めたいと思います。

質問・相談：

講義中は、タイミングの如何にかかわらず、積極的な質問や意見を歓迎します。

また、講義時間外においては、メール等により、適宜、質問を寄せて下さい。

メディア社会論 (秋)

メディア・コンテンツへの物語論的接近

藤田真文

授業科目の内容：

この授業では、物語論という方法を中心にメディア・コンテンツを分析していきます。授業の約 3 分の 2 は、『ギフト』（1997 年放送）というテレビドラマを分析対象にして、物語構造、映像表現、メディア特性、社会的コード、視聴者による読解など多様な観点からテレビ・テキストの分析を試みます。残りの約 3 分の 1 は、ニュースや CM など他のコンテンツに物語分析を応用していきます。

各回の前半に分析方法を解説し、後半にはドラマの映像を見ながら分析を実践していきます。

テキスト：

藤田真文『ギフト、再配達』せりか書房（近刊）

補助的に毎回授業中にプリントを配布します（原則として再配布はしません）。

授業の計画：

1. テレビ・テキストの進行 統辞構造 [構造主義・物語論・記号論]
2. テレビ・テキストの時間 ストーリーとプロット [物語論・文学理論]
3. テレビ・テキストの人物関係 範列構造 [構造主義・物語論・記号論]
4. テレビ・テキストの映像表現 [映像論・映像記号論]
5. テレビ・テキストにおける語りと視点 [映像論・文学理論]
6. テレビ・テキストのメディア特性と相互テキスト性 [メディア論・構造主義]
7. テレビ・テキストと社会的コード ジェンダー/階級 フェミニズム論・社会学・記号論]
8. テレビ・テキストにおける登場人物と役者 [精神分析・身体論・映像論・演劇論]
9. テレビ・テキストと視聴者読解 意味をめぐる相互作用・闘争 [読者論・カルチュラル・スタディーズ]
10. テキストの責任/視聴者の責任 『ギフト事件』をめぐって [作家論/読者論・メディア倫理]
11. 他のテキストへの応用 物語としてのニュース
12. 他のテキストへの応用 物語としての CM
13. まとめ

履修者へのコメント：

テレビドラマは比較的近い分析対象ですが、この授業によって常識的なテレビドラマ観を超えてメディア・コンテンツについての新たな視点を提供できればと思っています。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価（定期試験期間中に実施。評価の50%）
- ・レポートによる評価（授業の中間で課題を与える。評価の50%）

メディア法制（春）

表現・メディアの自由と民主主義の法理論 佐々木 秀 智

授業科目の内容：

この講義は、メディア（マス・メディアとパーソナル・メディア双方を含む）に関する法の基本構造を概観し、その前提となる憲法上の原理、特に表現・メディアの自由、民主主義の観点からいかに位置づけられるかを考えていきたい。なお、法律学の履修を前提としない。

テキスト：

林紘一郎『情報メディア法』（東大出版会・2005年）

参考書：

松井茂記『マス・メディア法入門（第3版）』（日本評論社・2003年）

授業の計画：

- (1) イントロダクション（1回）
- (2) メディアに関する法の基本構造（3回）
- (3) 表現の自由の諸法理（3回）
- (4) 表現の自由の限界（名誉毀損、プライバシー侵害、著作権侵害など）（3回）
- (5) 民主主義とメディア（情報公開、アクセス権など）（計3回）

履修者へのコメント：

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある学生の受講を歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

hsasaki@kisc.meiji.ac.jp まで、授業終了後も可

メディア法制（秋）

IT社会における表現・メディアの自由 佐々木 秀 智

授業科目の内容：

この講義は、ITの発達によって、これまでのメディアに関する法構造がいかなる影響をうけたのかを概観し、またIT社会への移行に伴

う法制度の変化における基本的視点をふまえたうえで、特に表現・メディアの自由がIT社会においていかに位置づけられるべきかを考えていきたい。なお、履修するためには、事前に履修することが望ましい。

テキスト：

林紘一郎『情報メディア法』（東大出版会・2005年）

参考書：

松井茂記『マス・メディア法入門（第3版）』（日本評論社・2003年）

授業の計画：

- (1) IT基本法及びその他の新規立法・法改正動向（2回）
- (2) コンテンツ規制のあり方（3回）
- (3) コンデュイト規制のあり方（3回）
- (4) パーソナルメディアに関する法的問題（1回）
- (5) ケーススタディ（プロバイダ責任法、個人情報保護法など）（3回）
- (6) 解釈論と立法論（1回）

履修者へのコメント：

メディア・コミュニケーション研究所の研究生に限らず、テーマに関心のある学生の受講を歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

hsasaki@kisc.meiji.ac.jp まで、授業終了後も可

ジャーナリズム論（春）

ジャーナリズムと「表現の自由」 伊藤 高 史

授業科目の内容：

ジャーナリズムが抱えている問題点や課題を、「表現の自由」との関連で解説する。ジャーナリズムについて、一般にどのような問題点が指摘されているのかを整理し、「表現の自由」は今日、どのような状況に置かれているのかを理解させることが目的である。

テキスト：

伊藤高史著『表現の自由の社会学』（八千代出版、近刊）

参考書：

授業中に指示する

授業の計画：

ガイダンス

- 「表現の自由」概論とジャーナリズムの定義、存在意義など（日本国憲法における「表現の自由」の位置づけなど）（3回）
- ジャーナリズムと人権を巡る問題（メディアによる人権侵害、差別表現など）（3回）
- ジャーナリズムの組織に関わる問題（記者クラブ、メディアの経営問題など）（3回）
- 「表現の自由」に関わる法律上の動き（司法判断の流れなど）（3回）

履修者へのコメント：

教科書はもちろんのこと、指定した参考書など、本をよく読んで授業にのぞむこと

成績評価方法：

試験の結果による評価（原則として、試験のみで成績をつける。教科書の持込は可の予定）

質問・相談：

随時受け付けます

ジャーナリズム論（秋）

ジャーナリズム研究と社会理論 伊藤 高 史

授業科目の内容：

ジャーナリズム論の内容を踏まえて、ジャーナリズムを社会学論との関連で考える。具体的にどのような報道活動が社会を動かし、そのような報道活動がいかにして生み出されたのかを、実証的かつ理論的に考える力を養成するのが目的。

テキスト：

伊藤高史著『表現の自由の社会学』（八千代出版、近刊）

参考書：

授業中に指示する

授業の計画：

ガイダンス

権力理論とジャーナリズム（2回）

情報操作とジャーナリズム（2回）

ブルデューの社会理論とジャーナリズム（2回）

アジェンダ構築モデルとジャーナリズム（3回）

「表現の自由」とジャーナリズム（3回）

履修者へのコメント：

教科書はもちろんのこと、指定した参考書など、本をよく読んで授業にのぞむこと。

成績評価方法：

試験の結果による評価（原則として、試験のみで成績をつける。教科書の持込は可の予定）

質問・相談：

随時受け付けます

世論（春）

世論の機能と形成メカニズム

小川恒夫

授業科目の内容：

現在民主主義社会において世論に期待される役割と阻害要因を考察しながら、マスコミ報道によって世論がどのように操作的に形成される可能性があるかをマスコミ効果論の立場から理論的に把握できるようにします。

テキスト：

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版／2005年／2,700円

参考書：

使用しません／随時授業内で資料を提示します。

授業の計画：

(1) ガイダンス

(2) 理想的世論と現実的世論

(3) 歴史的イベントにおいて世論の果たした役割を概観する

(4) 世論形成の垂直的影響（マスコミ）と水平的影響（口こみ）

(5) 受け手は主体的に世論を形成するという見方

(6) 受け手は常に操作的に世論を形成するという見方

(7) 受け手は主体的にも操作的にも世論を形成するという見方

(8) 受け手の置かれた社会状況と世論形成

(9) 広告論からみた世論形成

(10) 学習・教育論からみた世論形成

(11) 情報処理過程モデルからみた世論形成

(12) マスメディアの社会的責任と世論

(13) 全体のまとめと残された課題

履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。授業には「教科書」を持参してください。

成績評価方法：

学期末試験の結果による評価。

質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

世論（秋）

世論形成の現状と対策を具体的事例から考える

小川恒夫

授業科目の内容：

20世紀後半から近年に至る具体的事例から、どのような性格の争点があるか、誰によって、どのような統制メカニズムが利用されてマスメディアが操作され、なぜ多くの有権者がそれを信じて世論を形成し、どのような社会的問題が発生し、それに対する対策の可能性を、順次一連の課題として見ていきます。この作業を通じて、理想的世論と現実的世論との間の距離を考えます。

テキスト：

使用しません。

参考書：

小川浩一編著『マス・コミュニケーションへの接近』八千代出版／2005年／2,700円

授業の計画：

(14) ガイダンス

(15) 戦争報道と世論

(16) 犯罪報道と世論

(17) 科学報道と世論

(18) 経済報道と世論

(19) 海外報道と世論

(20) 民族間報道と世論

(21) 政治報道と世論

(22) 法的規制の危険性と可能性

(23) ジャーナリスト教育とメディアリテラシー教育の可能性

(24) オンブズマン制度の可能性

(25) 残された課題

(26) 全体のまとめ（質問受付）

履修者へのコメント：

特に、政治学の視点からマスメディアの機能について関心がある学生の履修を希望します。

成績評価方法：

学期末試験の結果による評価

質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

情報行動論（春）

ケータイの社会心理学

川浦康至

授業科目の内容：

携帯電話に限定して、パーソナルメディアと対人コミュニケーションのかかわりを考える。

テキスト：

特になし

参考書：

授業中、随時紹介する。

授業の計画：

1. ガイダンス：授業の進め方など

2. ケータイの歴史

3. メールと通話

4. メールアドレス

5. メール文体

6. 対人過程とケータイ

7. 対人関係とケータイ

8. モノとしてのケータイ

9. ケータイのある生活

10. ネットとケータイ

11. ケータイと社会摩擦

12. ケータイライフの今後

13. まとめ

履修者へのコメント：

授業は受講者自身の経験から体験談をまじえながら進めるので、積極的な参加を期待する。授業が自らのケータイライフを相対化する機会になればうれしい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（毎回、課題を出すので、その提出状況による）

質問・相談：

講義前後、およびメールでも受け付けます。

授業科目の内容:

異文化との出会いにより、個人は異なる文化的様式(価値観や行動パターン)に接し、それを取り込んだり抵抗しながら自分を新しく作っていく。本授業では、異なる文化における様々なコミュニケーションスタイルの違いに目を向け、そのような異文化に接した時に、どのように心理や行動が変化していくか、異文化接触の具体事例を通して学ぶ。

テキスト:

プリント配布

参考書:

- ・宮原哲「コミュニケーション入門」松拍社
- ・箕浦康子「子どもの異文化体験」思索社

授業の計画:

- (1) 授業内容説明,異文化間コミュニケーションの背景,文化の定義
- (2) コミュニケーションの定義
- (3) 認知と文化
- (4) イメージとステレオタイプ
- (5) ステレオタイプの間人間関係への影響
- (6) 言語コミュニケーション:自己開示への文化的影響
- (7) 言語コミュニケーション:自己開示動機をめぐる要因
- (8) 非言語コミュニケーション(表情,空間利用,身体接触)
- (9) 異文化適応シミュレーション: Banga, 認知・行動・情動
- (10) 異文化ストラテジー: 映画を素材として
- (11) 子どもの異文化体験
- (12) 青年の異文化体験
- (13) 全体のまとめ

履修者へのコメント:

海外経験に関心のある学生,異文化における人間関係に関心のある学生を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度

質問・相談:

講義前後の教室・教員室で質問・相談を受け付けます。メールでも可。

授業科目の内容:

多文化状況が深まる現代社会における,メディア文化の諸問題を検討して,より開かれた社会の構築に向けたメディア文化の役割と可能性を模索する。

テキスト:

詳細は授業時に指示する。

「沖縄に立ちすくむ」(岩淵・多田・田仲編著,せりか書房 2004年)

参考書:

授業時に指示する

授業の計画:

前期はメディア・文化研究の基本的概念・理論・方法論を学ぶ。「沖縄」に関するメディアテキストの具体的事例から文化と社会における不均衡な力関係について考察する。

- ・イントロダクション(1回)
- ・メディアの表象・生産・消費(6回)
- ・「沖縄」ケーススタディー(4回)
- ・グループプレゼンテーション(1回)
- ・まとめ(1回)

履修者へのコメント:

講義だけでなく,プレゼンテーションや討論を含めた双方向な授業を目指すので積極的な参加を期待する。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価

- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
- ・プレゼンテーション・グループプロジェクト

授業科目の内容:

グローバル化が深まる現代社会における,メディアと文化の諸問題を検討して,より開かれた社会の構築に向けたメディア文化の役割と可能性を模索する。

テキスト:

詳細は授業時に指示する。

「トランスナショナル・ジャパン」(岩淵功一,岩波書店 2001年)

参考書:

授業時に指示する

授業の計画:

後期はグローバル化の中で促進されている資本・情報/イメージ,人間の国境を越えた流れと移動が,どのような新たなつながりと不均衡をもたらしているのかを考察する。

- ・イントロダクション(1回)
- ・文化のグローバル化とローカル化(3回)
- ・メディア・移民・トランス/ナショナルなつながり(3回)
- ・東アジアの越境メディア文化(4回)
- ・グループプレゼンテーション(1回)
- ・まとめ(1回)

履修者へのコメント:

講義だけでなく,プレゼンテーションや討論を含めた双方向な授業を目指すので積極的な参加を期待する。メディア文化論を履習していることが望ましい。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
- ・プレゼンテーション・グループプロジェクト

授業科目の内容:

前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論,後半は映画を中心とした映像コンテンツ産業の構造と政策を取り上げます。

テキスト:

菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』(丸善,2002年)

授業の計画:

本年は以下の予定で講義を進めます。

オリエンテーション(1)

基礎理論(5)

- 1 メディア政策
 - 2 政府規制
 - 3 メディア市場
- 映像コンテンツ産業(6)
- 4 映像コンテンツと映画
 - 5 映画産業の発展
 - 6 映像振興政策(欧州,米国,日本)
- まとめ(1)
- 7 メディア融合とコンテンツ

履修者へのコメント:

コンテンツ産業,映画産業に興味ある学生の履修を歓迎します

成績評価方法:

基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する。

質問・相談:

毎回講義終了時に質問,相談を受け付けます

授業科目の内容:

メディア産業に関する政策の動向と今後の課題について日米の比較を行いながら学習していく。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

- ・宿南達志郎『情報メディア政策』NTT出版, 2006年
- ・鈴木健二『地方テレビ局は生き残れるか』日本評論社, 2004年
- ・谷脇泰彦『融合するネットワーク』かんき出版, 2005年

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) 放送メディア政策(4回)
 - マスメディア集中排除原則
 - 番組の質と報道の信頼性
 - NHKのあり方
 - 放送のデジタル化
- (3) 通信メディア政策(3回)
 - ユニバーサルサービスと競争政策
 - 周波数政策
 - 放送と通信の融合
- (4) コンテンツ政策(2回)
 - 著作権保護政策
 - 作り手の育成と国際競争力強化
- (5) 情報メディア政策(2回)
 - デジタル・デバイドの解消
 - インターネット・ガバナンス
- (6) まとめ

履修者へのコメント:

情報メディア産業に関心のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

授業科目の内容:

メディア産業について、産業構造、経営戦略、利便性などの観点から、歴史的経緯や今後の課題などについて概要を学びます。ビデオなどを活用して理解しやすく講義します。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

- ・宿南達志郎など著『メディア産業論』有斐閣, 2006年
- ・電通総研編『情報メディア白書 2005』ダイヤモンド社, 2005年
- ・総務省編『情報通信白書 平成17年版』ぎょうせい, 2005年

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) メディア産業の歴史(2回)
- (3) 各産業分野の現状と将来
 - コンピュータ業界(2回)
 - 通信業界(2回)
 - 放送業界(2回)
 - 新聞業界(1回)
 - 出版業界(1回)
 - 音楽業界(1回)
- (4) まとめ

履修者へのコメント:

情報メディア産業に関する関心がある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

授業科目の内容:

インターネット・ビジネスについて、その特徴や伝統的ビジネスへの影響などを学びます。また、携帯やデジタル放送などを活用した新しいビジネスモデルの可能性についても学びます。

テキスト:

特に指定しない

参考書:

- ・(財)インターネット協会編著『インターネット白書 2005』インプレス社, 2005年
- ・加藤秀雄『ネットワーク経営情報システム インターネット・ビジネスモデル』共立出版, 2004年
- ・宿南達志郎『eエコノミー入門』PHP研究所, 2000年

授業の計画:

- (1) オリエンテーション
- (2) インターネット・ビジネスの理論的背景(2回)
- (3) インターネットによるビジネスモデルの革新(5回)
 - 金融業
 - 流通業
 - 製造業
 - 旅行業
 - エンターテインメント産業
- (4) インターネットビジネスの事例研究(5回)
 - 楽天
 - アスクル
 - インデックス
 - Amazon
 - Yahoo
- (5) まとめ

履修者へのコメント:

インターネット・ビジネスに関心がある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

授業科目の内容:

本講座は、朝日新聞社の記者やフリーのジャーナリストなど、ジャーナリズムの活動に日々携わっていらっしゃる方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

テキスト:

なし

参考書:

授業中に指定する。

授業の計画:

朝日新聞の記者の方など、外部の方々をお招きし、約1時間程度講義していただき、その後質疑応答を行う。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。なお、平成18年度の授業日程は、メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイトを参照されたい。

履修者へのコメント:

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されていることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。ただ出席していれば単位が認められるということではない。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム総合講座（秋）	荒田茂夫
朝日新聞社寄附講座	萩原滋
	伊藤高史

授業科目の内容：

本講座は、朝日新聞社の記者やフリーのジャーナリストなど、ジャーナリズムの活動に日々携わっていらっしゃる方々をお招きし、ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に指定する。

授業の計画：

朝日新聞の記者の方など、外部の方々をお招きし、約1時間程度講義していただき、その後質疑応答を行う。講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。なお、平成18年度の授業日程は、メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイト参照されたい。

履修者へのコメント：

出席者は、よく新聞を読み、積極的に質問することのほか、頻繁にレポート等の課題が課されていることを覚悟すること。また当然であるが、外部から招いた講師に講義をしていただくため、私語や遅刻など、講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。ただ出席していれば単位が認められるということではない。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

マス・コミュニケーション論（日吉）	
マス・コミュニケーションと社会	川端美樹

授業科目の内容：

現在われわれの日常生活に深く関わっているマスメディアがどのようにして誕生し、発達してきたのか。また、社会にどのような影響を与え、その中でどのように機能してきたのか。さらに、マス・コミュニケーションは人間の社会的行動や心理にどのような影響を与えているのか。

本講義の目的は、以上のようなトピックについて学び、理解した上で現在の自分を取り巻く現状を見直し、マス・コミュニケーションをめぐる状況について客観的・批判的に考え、分析することである。

テキスト：

大石裕『コミュニケーション研究（第2版）』慶應義塾大学出版会、2006年

参考書：

授業時に必要に応じて指示する。

授業の計画：

以下のような内容で授業を進めていく予定である。

1. マス・コミュニケーションの基礎的諸概念
2. マス・コミュニケーションの発達と社会
3. マス・コミュニケーションとその影響

履修者へのコメント：

講義で取り上げる内容について興味を持ち、批判的に考える意欲のある学生の受講を期待する。

成績評価方法：

期末試験の結果を総合点の70%とし、授業中の提出物や参加度に対する評価を30%として、全体の成績評価とする。

社会心理学（日吉）	
社会的認知と対人行動	萩原滋

授業科目の内容：

春学期は、自分たちの社会的環境をいかにして把握するかという問題を取り上げる。すなわち「社会的認知」と呼ばれる研究領域を中心に、均衡理論、認知的不協和理論、帰属理論など社会心理学の代表的な理論枠組について概説し、それに依拠して行われた実験など具体的な研究事例を詳しく紹介する。また対人魅力など、対人行動の基礎となる問題も取り上げることとする。

テキスト：

使用しない

参考書：

- ・山本真理子他編（2001）「社会的認知ハンドブック」北大路書房
- ・唐沢稯・池上知子・唐沢かおり・大平英樹（2001）「社会的認知の心理学 社会を描く心のはたらき」ナカニシヤ出版

授業の計画：

ガイダンス（1回）

社会心理学の研究手法（1回）

社会的認知の研究領域概観（1回）

印象形成の古典的実験（1回）

帰属理論と実証的研究（3回）

認知的一貫性の諸理論（1回）

認知的不協和理論と実証的研究（3回）

対人行動の基礎（2回）

履修者へのコメント：

特になし。

成績評価方法：

学期末に筆記試験を行う。

質問・相談：

最初のガイダンスの時に尋ねてください。

社会心理学（日吉）	
メディアとコミュニケーション	萩原滋

授業科目の内容：

州学期は、対人コミュニケーションからマス・コミュニケーションまで幅広く「コミュニケーション」過程に関わる諸問題を取り上げる。対人コミュニケーションに関しては「説得効果」、マス・コミュニケーションに関しては「テレビの社会的機能、对人的影響」に焦点を当てて、新旧取り混ぜて社会心理学的研究成果を紹介する。

テキスト：

使用しない。

参考書：

- ・萩原滋・国広陽子編（2004）「テレビと外国イメージ メディア・ステレオタイプ研究」頸草書房
- ・萩原滋編著（2001）「変容するメディアとニュース報道 テレビニュースの社会心理学」丸善
- ・田中義久・小川文弥編（2005）「テレビと日本人 「テレビ50年」と生活・文化・意識」法政大学出版局

授業の計画：

対人コミュニケーションとマス・コミュニケーション（1回）

説得的コミュニケーションと態度変容（2回）

説得の技法（1回）

テレビのメディア特性（1回）

日本におけるテレビ放送小史（1回）

テレビの社会的影響概観（1回）

テレビの視聴効果（1）：暴力や反社会的行動への影響（3回）

テレビの視聴効果（2）：現実の社会認識への影響（3回）

履修者へのコメント：

特になし。

成績評価方法：

学期末に筆記試験を行う。

質問・相談：

授業時間中、あるいは授業後にお尋ねください。

【研究会】

研究会(～)(春)(秋)
メディアと社会行動

萩原 滋

授業科目の内容：

本研究会は、2年ないし3年の在籍期間を通じて、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修了論文に結実させることを目的としている。研究テーマは、メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば、ある程度各自の自由裁量に任されることになるが、単なる感想や思い付きではなく、それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。履修者数に応じて運営方法を多少とも調整する必要があるが、本年度も、基本的には従来の個人研究のスタイルを継続するつもりである。

テキスト：

田中義久・小川文弥編「テレビと日本人」(法政大学出版局、2005年、3800円)

授業の計画：

春学期

ガイダンス(1回)

テキスト講読(6回)

個人研究テーマの設定、発表(6回)

(夏合宿にて継続して各自の発表を行う)

秋学期

三田祭論文に向けて(2,3年生の個人研究発表,6回)

修了論文に向けて(4年生の中間報告,3回)

次年度に向けての研究計画発表(2,3年生,4回)

履修者へのコメント：

自分の発表だけでなく、他の人たちの発表にも興味をもって、質問やコメントをしてもらいたい。

成績評価方法：

・平常点：出席状況および授業態度による評価

・三田祭論文、修了論文

質問・相談：

適宜、研究室に来てくだされば、お答えするつもりです。

研究会(～)(春)(秋)
メディア産業論を考える

菅谷 実

授業科目の内容：

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネット、映画などのコンテンツ産業を含むメディア産業全体を対象にその産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめます。

例年、春学期は、共同研究に関連するテーマに関わる文献レビューを中心とした個人発表、秋学期は、三田祭で発表する共同研究報告書に関わる調査と報告書作成、および4年生の修了論文発表を中心に進めます。(2005年度の共同研究テーマは、東アジアのメディア・コンテンツ流通)

また、夏合宿、OGOB会、異業種交流勉強会なども行っています。ゼミ活動の詳細は研究会ホームページ(<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/sugaya/toppage.htm>)を参照してください。

テキスト：

春学期のはじめに紹介します

参考書：

春学期のはじめに紹介します

授業の計画：

各学期のはじめに詳細なシラバスを配布するが、春学期は、授業でのレポートを中心とし、秋学期は、三田祭に向けた共同研究が中心となる。

履修者へのコメント：

履修者は、授業はもちろんのこと、合宿、論文報告会、その他のゼミイベントにはすべて出席すること

成績評価方法：

授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。なお研究会は修了研究の発表および論文による評価。

研究会(～)(春)(秋)

宿南 達志郎

授業科目の内容：

放送メディアのあり方について、マスメディア集中排除原則、民法とNHKの2元体制、NHKの受信料問題、地方局の存在意義などの政策的課題や経営課題を中心として研究を行う予定です。

テキスト：

松田浩『NHK 問われる公共放送』岩波新書、2005年

参考書：

- ・宿南達志郎『情報メディア政策』NTT出版、2006年
 - ・田原茂行『視聴者が動いた 巨大NHKがなくなる』草思社、2005年
 - ・舟田正之・長谷部恭男編『放送制度の現代的展開』有斐閣、2001年
- 授業の計画：

春学期は、教科書や参考書を中心として、放送メディアのあり方について議論を行っていきます。

主なテーマとしては、以下のようなものを考えています。

放送法に規定されている番組調和原則やユニバーサルサービス義務などについて

NHKのあり方について(番組の質、適正な事業規模、受信料問題など)

民法のあり方について(キー局と地方局の関係、BSデジタル放送との関係、広告収入はこれからも確保できるのかなど)

秋学期は、各個人あるいはグループでテーマを設定して研究を行ってもらう予定です。

履修者へのコメント：

放送メディアについて関心のある学生の履修を歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会(～)(春)(秋)

身近なメディア・コミュニケーションの現象を研究する

金山 智子

授業科目の内容：

本研究会では、自分たちの興味や関心をもとにメディアに関するテーマを設定し、実際に調査研究することを目的としています。メディアに関しては特定せず、新聞、ラジオ、テレビ、雑誌、インターネットといった一般的な媒体から、ダンス、建物、空間といった媒介にいたるまで、広義の意味でのメディアを対象とします。研究は、文献だけでなく、アンケート、内容分析、インタビュー、そして参与観察といった方法を使って実際に調査を実施し、データを集め、分析を行なっていきます。

テキスト：

特に指定しません。

授業の計画：

個人またはグループでメディア・コミュニケーションに関連する研究を実施してもらいます。一連の研究プロセスは、担当教員との個別コンサルティングを交えながら、ステップ・バイ・ステップで身に付けられるよう指導します。4年生に関しては、修了論文を中心に個別で指導します。

春学期

テーマ設定、文献調査、仮説設定、調査法選定

秋学期

調査実施、データ分析、報告、発表(三田祭)

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会(～)(春)(秋)

グローバル化と持続可能なメディアのデザイン

小川 葉子

授業科目の内容:

環境と身体をとりまく科学的知識と文化の創発に関するコミュニケーションを考察する。本年度は、プロダクトおよびコンテンツのデザインとファッション・ジャーナリズムにおける知識生産の接点を比較したい。それによって、ウェアラブル・メディアやオンライン・ショッピング等の影響も考えつつ、健康とサステナビリティに基づいたライフスタイルにおける未来のメディア・コミュニケーションのありかたを模索したい。

テキスト:

M.リー著『ファッション中毒』(NHK出版,2004年)その他ハーバード・ビジネススクールにおけるマーケティングのテキスト等を使用予定。

参考書:

M.フェザーソン著,川崎賢一・小川葉子編著『消費文化とポストモダニズム』(上・下巻,恒星社厚生閣,2002年)

授業の計画:

春学期

- (1) ガイダンスおよび導入(2~3回)
- (2) ファッション・ジャーナリズムと科学ジャーナリズム(2~3回)
- (3) デザイン言語とマーケティング戦略(2~3回)
- (4) デザイン・コミュニケーションをめぐる産業と流通の構造プロセス(2~3回)
- (5) グローバルな市場と規制およびNPO等の役割(2~3回)
- (6) 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(記事タイトル)設定を発表,春学期のまとめ(1~2回)

秋学期

- (1) 秋学期全体のスケジュールと作業プランニング(1~2回)
- (2) 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(記事タイトル)設定と発表(2回)
- (3) フィールドワーク(2回)
- (4) 個人あるいはグループプロジェクトによる記事および作品の制作(2回)
- (5) (4)のプレゼンテーションおよび専門家によるコメントと相互批評(2回)
- (6) 三田祭発表とフィードバック
- (7) まとめ,未来のデザイン・コミュニケーションとは(1~2回)

履修者へのコメント:

フィールドワークは,経済産業省,環境省のファッションおよび新製品発表イベントへの参加を考えています。日頃から各国のジャーナリズムや映画批評に親しんでおいて下さい。

成績評価方法:

- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
 - ・ファッション・ジャーナリズム記事かそれにかかわる作品による評価
- 質問・相談:

授業終了直後,あるいは履修者に指示するオフィス・アワーに受け付けます。

研究会(～)(春)(秋)

情報化と近代化

伊藤 陽一

授業科目の内容:

「情報化」(情報技術が発達し,マス・メディアと教育が一般庶民レベルにまで普及し,情報流通量が增大する現象として定義される)が「近代化」に及ぼした影響とそのメカニズムについて研究する。具体的には,「近代」の特質である民主主義,合理主義,個人主義,資本主義が,「情報化」を通じてどのようにしてもたらされたか,あるいはもたらされつつあるかについて考察・議論する。

テキスト:

・伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」関口一郎(編)『コミュニケーションのしくみと作用』大修館,1999年

・その他講読する論文を授業で配布する。

参考書:

- ・有吉広介(編)『コミュニケーションと社会』芦書房,1990年
- ・津田幸男・浜名恵美(共編)『アメリカナイズーション:静かに進行するアメリカの文化支配』研究社,2004年

授業の計画:

- 第1回 オリエンテーション:研究会の目的,求められる心構え,基礎理論に関する講義等
- 第2回 先学期の学生の期末レポート内容の報告
- 第3回 先学期の学生の期末レポート内容の報告
- 第4回 以降は,指定された論文講読を行う。講読する論文は履修者の関心,専門分野を知った上で決めたい。

履修者へのコメント:

研究会では積極的に発言することが大切です。普段からの勉強と準備が教室での適切な発言を可能にします。歴史や理論に強い人,関心を持っている人を歓迎します。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価(「三田祭参加論文」と期末レポート)
- ・授業における発言の頻度と質は重要です。

質問・相談:

随時受け付けます。

この研究会は2008年3月で終了となりますので2年生は注意して下さい。

研究会(～)(春)(秋)

ジャーナリズムを考える

大石 裕

授業科目の内容:

最初の数回は,ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み,それ以降は班分けし,新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。

テキスト:

大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書:

田村紀雄ほか編『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社

授業の計画:

[前期]

- 1~2回 基本的な文献の講読。
- 3~13回 2,3年生を中心とした研究発表と討議

[後期]

- 1~10回 2,3年生を中心とした研究発表と討議
- 11~13回 4年生の修了論文発表

履修者へのコメント:

新聞のみならず,ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。

成績評価方法:

平常点による。

研究会(～)(春)(秋)

メディア融合時代のクリエイティブ産業に関する研究

金正勲

授業科目の内容:

クリエイティブ(creative industries)とは,映画,放送,音楽,広告,出版,ゲームなど人間の創造性に基盤をおく産業です。本研究会では,デジタル革命やメディア融合が既存のクリエイティブ産業にもたらす産業的・社会的・政策的インプリケーションについて研究します。

テキスト:

特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

参考書:

授業中に適宜指示する。

授業の計画:

- (1) 春学期
ガイダンス(計1回)

共通テーマと関連する文献の輪読(計12回)
 其々独自の研究テーマを設定の上、夏休み中の合宿での研究発表
 (2) 秋学期
 毎回数人ずつ研究発表と討論(計11回)
 企業訪問(計2回)
 履修者へのコメント:
 本研究会では、自ら発想し、積極的にディスカッションすることを大事にします。常に自分の視点(perspectives)を持ち、他者とコミュニケーションすることで相互に高め合う、創発的なコミュニティとしての研究会を目指します。社会のネクストステージを自らデザインすることに意欲のある学生を歓迎します。
 成績評価方法:
 ・レポートによる評価。
 ・平常点:出席点および授業態度による評価。

【特殊研究】

放送特殊講義 ・ (春)(秋)
 テレビニュースは何が出来るか? 安倍 宏 行

授業科目の内容:
 テレビニュースの制作の実際。テレビ報道記者の取材活動とは。テレビニュースの問題点と今後の姿を探る。後期は、ドキュメンタリーや調査報道などニュース以外の制作にも触れます。
 テキスト:
 特に指定しない
 参考書:
 特に指定しない
 授業の計画:
 前期
 1 ガイダンス
 2~5 ニュース制作の流れ + 原稿スキル
 6~10 記者レポート制作
 11~13 リポート発表
 後期
 1~6 ドキュメンタリー制作・調査報道・企画の作り方
 7~10 企画制作実践
 11~13 企画発表
 変更の可能性あり

履修者へのコメント:
 テレビ局の仕事に興味がある人、テレビジャーナリストになりたい人、ドキュメンタリーや企画を作りたい人を歓迎します。
 成績評価方法:
 平常点:出席状況および授業態度による評価(クラス参加,リポート,企画などの制作によります。)
 質問・相談:
 講義用ブログ上にて常時受け付けます。

新聞特殊講義 ・ (春)(秋)
 ジャーナリズムとは何か
 木村 良一(産経新聞社 編集委員・論説委員)

授業科目の内容:
 新聞記者の仕事のおもしろさを私の体験をもとに話しながら、「ジャーナリズムとは何か」をいっしょに考えていきたいと思います。
 テキスト:
 特に指定しません。資料を配布することもあります。
 参考書:
 木村良一著「移植医療を築いた二人の男 その光と影」(扶桑社, 2002年, 1400円)
 授業の計画:
 たとえば、脳死移植の問題、新型インフルエンザ出現の危機、医療過誤といったニュース、それにリクルート事件、日航ジャンボ機

墜落事故など過去の事件・事故も取り上げ、新聞記者がどう取材し、どう書いているかを検証しながら次のテーマを考えます。
 ・ジャーナリズムと社会
 ・伝えることの意味
 ・特ダネとは何か
 関係者をゲストに招いて話を聞くことも検討しています。
 履修者へのコメント:
 ジャーナリストを目指す学生だけでなく、「人間」や「社会」に強い関心のある学生ならどなたでも参加してください。
 成績評価方法:
 ・レポートによる評価
 ・平常点:出席状況および授業態度による評価

広告特殊講義 ・ (春)(秋)
 広告的な生き方とか 吉 田 望

授業科目の内容:
 広告・ブランドに関する講義・外部講師の講演・広告実習・課題演習など
 参考書:
 ・ブランド ・ブランド (宣伝会議)
 ・会社は誰のものか(新潮社)
 授業の計画:
 春学期
 1) ブランドとは何か
 2) ブランドの歴史
 3) 広告を見る
 4) 広告をつくってみる
 秋学期
 1) 広告の歴史
 2) 広告産業
 3) 外部講師講演
 4) 広告をつくってみる
 履修者へのコメント:
 boldです。よろしくです。
 成績評価方法:
 ・平常点:出席状況および授業態度による評価
 ・ブログへのコメント・実習など

メディア特殊講義 (秋)
 民放テレビの現状と課題 工 藤 卓 男

授業科目の内容:
 テレビ東京の体験を通じて民放テレビの実態と展望を探る。
 テキスト:
 特に指定はありません。
 参考書:
 特に指定はありません。
 授業の計画:
 全13回を通して民法テレビ局の概略が把握出来るようにしたい。(但、各テーマ変更の場合もある。)
 オリエンテーション(1)
 総論(1)
 各論(10)
 (1)番組編成のしくみ
 (2)視聴率
 (3)コンテンツ内容
 (4)営業現場
 (5)娯楽番組の制作
 (6)報道の使命
 (7)スポーツ番組の企画
 (8)メディア開発
 (9)BS, CS, WOWOW
 (10)著作権
 まとめ(1)

履修者へのコメント：

テレビ局に関心のある学生を歓迎します。
セミナー形式で積極的な意見の交換も行いたい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点

質問・相談：

授業終了後受けます。

メディア特殊講義 (秋)

映像・活字メディアの実践

高 信 彦

授業科目の内容：

毎週発生する事件についてブレーストーミング、討論を行うとともに、実際に映像、活字メディアに関しテーマを掲げて作成してもらう。

テキスト：

毎日の新聞各紙、雑誌、TV ニュース

参考書：

高信彦著「ニュースキャスターたちの24時間」(講談社 文庫)

授業の計画：

- ・2005年秋学期と同様に、活字、映像メディアの実習や現場の見学、現役記者・キャスターなどをゲストに呼んで討論などを行う。
- ・メディア・リテラシー、情報分析、収集の方法論、プレゼン、ブレーストーミング等々を実体験しながら社会教育も学んでもらう。
- ・4~5人のチームに分け、前半は新聞、雑誌の形態でテーマを決めて実際に制作し、その過程で取材、編集、討論を通じ学生同士で刺激になるような授業にしたい。
- ・後半は映像制作。これも各チームがテーマを決めるか、共通テーマで活字とは違った方法論を一緒に学びたい。
- ・詳しく知りたい人は2005年の履修者に聞くとよい。

履修者へのコメント：

- ・チームで動くから履修した以上は欠席しないこと。
- ・エキサイティングに物事を考える方法論を身につけ、人生を考えてほしい。
- ・情報の読み解き方と自己表現力を高める授業にしたい。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・毎週小感想文(葉書き2枚分)を出してもらう

質問・相談：

いつでも応ずる。

特殊研究 (春)(秋)

日本の近代化とマス・メディア

小 川 浩 一

授業科目の内容：

21世紀の日本社会の在り方を、「近代化」と「マス・メディア」をキーワードにして読みとく作業をする。ジャーナリズムが日本社会と如何にかかわったかを考える。

参考書：

- ・マス・コミュニケーションへの接近(八千代出版)
- ・ジャーナリズムの社会学(リベルタ出版)

授業の計画：

春学期

- | | |
|-------------------------|----|
| 1. 日本社会の現状(階層固定化) | 3回 |
| 2. 明治以後の近代化 | 2回 |
| 3. 戦後の近代化 | 2回 |
| 4. マス・コミュニケーションとジャーナリズム | 4回 |
| 5. 近代化とマス・メディア | 2回 |

秋学期

- | | |
|-----------------|----|
| 1. ポピュリズムと選挙 | 2回 |
| 2. 政治とマス・メディア | 2回 |
| 3. 文化とマス・メディア | 2回 |
| 4. 社会意識とマス・メディア | 3回 |
| 5. 教育とマス・メディア | 3回 |

6. ジャーナリズムと市民

1回

履修者へのコメント：

現在の日本を考えることは現在、将来の自分を考えることです。過去の歴史の中でジャーナリズムが如何なる状態にあったのかという点も考えて下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点

特殊研究 (春)(秋)

市民とメディア

金 山 智 子

授業科目の内容：

この10年、市民が社会の様々な問題を解決するため、自ら参加し活動していけるようなボランティアな社会が築かれつつあります。その中で、市民グループ、NPO、NGOの活動は中心的な役割を担っています。また、一般企業においても、NPO・NGOとのパートナーシップを通じた社会貢献(CSR)活動が活発になっています。このような活動において、メディアの活用がますます重要になってきています。しかし、こういった活動は社会と深く関わるだけに、常にポジティブではなくネガティブな結果を生むこともあります。市民、NPO、NGOの活動におけるメディア活用について、『ほっとけない貧しさ』キャンペーンなどの最近の事例を交えながら、現状と問題点について考えます。

テキスト：

資料を配布。

参考書：

- ・『NPOのメディア戦略』(金山智子、学文社)
- ・『コミュニケーションするPR』(小倉重男、電通)
- ・『世界の公共広告』(金子秀之、研究社出版)

授業の計画：

春学期は、市民とメディアについての基本的な考え方について学びます。毎回事例を用いながら、ディスカッション形式で進めます。また、NPOやNGO関係者を招き、現場の声を聞きながら、受講生を交えて考える機会をもちます。

秋学期は、実際にメディアを活用している市民グループ、NPO、NGOについて研究し、発表してもらいます。

履修者へのコメント：

常に問題意識をもって、積極的にディスカッションに参加することを期待します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア産業実習 (春)(秋)

インターンシップ

宿 南 達志郎

金 山 智 子

菅 谷 実

小 川 葉 子

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。

秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習を登録し、インターンシップに参加することができる。

授業の計画：

(1)春学期

オリエンテーション

産業別のレポートと討論(新聞、放送、通信、移動通信、出版、広告、インターネット、通信販売等)

まとめ

(なお、研修先は、7月上旬に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない)
(2)秋学期

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

履修者へのコメント：

履修希望者(前年度にメディア産業実習を履修し本年度を履修する者を含む)は、4月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。

履修者は夏休み研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法：

- ・春学期：クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

【基礎演習】

時事英語 ・ (春)(秋)
英文ジャーナリズム入門

高須賀 茂 文

授業科目の内容：

英字新聞や英字週刊誌の記事などを教材に使い、時事英語の読解力を養成します。一年後には、辞書を使わずにTimeやEconomistの大意を理解できるようになるのが目標です。併せて英語でのinterviewや記事の書き方の基礎も学びます。

テキスト：

特に指定しません。講義資料を配布します。

参考書：

The Daily Yomiuri (読売新聞が発行する日刊英字紙)
最新ニュース英語辞典(東京堂出版)

授業の計画：

まず、火事や交通事故など簡単な記事を通して英文ジャーナリズム独特の「決まり事」を勉強することから始めます。後半の授業では、評論や解説など高度な内容の英文記事に挑戦し、国際情勢への理解を深めます。また、座学だけでなく、The Daily Yomiuri編集部の見学や在日外国人特派員へのインタビューなども計画しています。

履修者へのコメント：

堅苦しい講義形式ではなく、できるだけ実践的な授業をやるつもりです。必然的に課題も多くなるので、積極的に学ぶ意欲のある塾生を歓迎します。また、英和、和英辞典はできるだけ本格的なものを用意し、授業には毎回持参して下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

文章作法 ・ (春)(秋)

目から鱗(ウロコ)が落ちる授業です 升野龍男

授業科目の内容：

文章作りは、文章を書くことだけで身に付くものではありません。常日頃の目撃・観察によって情報をとらえる。そこから何故を發し、取材する。そして、何故に対する仮説(ひょっとしたら、こうではないかな?)を提示する。それを検証し、仮説を実証する。実証できねば新たな仮説を提示し、新発見に挑む。目撃・観察・洞察・発見による情報作りとプレゼンテーション。問うて、学ぶ。文字通り「学問」。これが、情報に関する升野流メソッド。この基本が身につけば、その情報を文章化、映像化、音楽化できるわけです。良いインプットがなければ、良いアウトプットもありません。

不器用な人でもこの動作を日常化すれば、文章のうまい器用な人をあつという間に凌駕できるようになります。「面白くなければ授業じゃない」。最高水準の授業を、面白く、分かりやすく展開します。

テキスト：

私の執筆文章を中心に、適切な文章や、文章作法本を適宜使用いたします。毎回、講義資料プリントを配布します。これらを束ねたものが、私のテキスト。時事問題など「旬の材料」も提供します。

参考書：

- ・野口悠紀雄著「超文章法(中公新書)」780円
 - ・鹿島茂著「勝つための論文の書き方(文春新書)」700円
- また授業中にも、講義内容をより深く理解できる参考文献を適宜紹介します。

授業の計画：

春学期

- (1)「ワクワク、どきどき授業」のガイダンス
- (2) 情報を採るために「飢えた情報ハンター化」する段階 = 目撃・観察法の体得。
目撃・観察ノートの作成と記述の日常化。
目撃・観察のための方法論 = オリジナル情報作りのため、目撃・観察対象に関する自分なりのベストポイントとベストタイムを持つ。
- (3) 情報組み立て、表現方法の体得
情報処理は誰でも身に付けられる能力。情報化社会を生き抜くパスポートです。VTR, DVD, 印刷物等、私秘蔵の優良コンテンツを駆使して、情報組み立て、表現方法を体得してもらいます。
毎回課題を出しますが受講生の優秀作品はサンプルとして配布。技術の共有化を図ります。
- (4) 以上を通じて評論、エッセイ作法を体得。テストは60分で書く課題に取り組んでもらいます。

秋学期

- (1)「自己アピール、謎解き授業」のガイダンス
- (2) 最もタフで繊細な情報作りである広告情報の演習 = 利益社会へのデビューにこれは必要不可欠
- (3) 自己プロデュース方法 = 自分の目標宣言と、そのアピール方法の体得
- (4) 洞察力の保有
目撃・観察から「何故」を發する行為の体得 = 取材、一歩踏みこむ
「何故」を解く仮説設定方法の体得 = 「ひょっとすると、こうではないか」という洞察力保有
- (5) 論文の作り方 = 目撃・観察・洞察・発見の重要性と、「謎解き情報設計」の体得
論文作りが難しくなく、この作法を身に付けることが如何に人生に役立つかを具体的に指導します。したがって最後は論文提出です。

履修者へのコメント：

何かを表現する場合、最後は文章力がモノを言います。文章を書くのが苦手な人、大歓迎。もちろん書くのが大好きな人も歓迎。学期終了時に驚くほど情報作りが好きになり、上手くなった自分を發見できるでしょう。講義は一方通行ですが、毎回演習課題を出します。その指導は個別添削。メールでの質問・相談にも応じます。指導コンセプトは「発育」。ひとりひとりに潜んでいる可能性を發見し、その可能性を育む。教育指導は、その手段であると考えます。

成績評価方法：

- ・出席 40%
- ・演習課題 40%
- ・テスト 20%

課題提出が最大の評価ポイント。

質問・相談：

メールで受け付けますが、ウイルス感染防止のため必ず大学から送信してください。それ以外は開封いたしません。

e-mail:tatsuom@mbk.nifty.com

授業科目の内容:

コミュニケーション技術の発展により、誰でも気軽に映像を撮って表現したり、メッセージを発信したりできるようになってきました。また、メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになってきています。本講義では映像制作実践を通じて、よりよいメディア・シチズンとしての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身に付けることを目標としています。また、映像制作過程において、いろいろな人たちとかわり、その中で社会や他者に対する理解を深めていくプロセスを大切にしながら、伝えたい人に伝えることの難しさや面白さを体験してほしいと思っています。

授業の計画:

春学期

- (1) 映像撮影や編集機材の使用法を学ぶ
基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
- (2) 映像作品を読みとく
一般市民が制作した“良い作品”を見て、「誰に何をどのように伝えるか」という意味でのメッセージ伝達について考えます。
- (3) 映像コンテンツを制作する
個人またはグループで企画・構成・取材・撮影・編集加工という映像制作過程を体験し、映像コミュニケーションを身に付けてもらいます。

秋学期

ドキュメンタリー作品を制作する。

また、昨年同様、市民メディアグループの放送イベント参加を通して、より規模の大きな映像制作も予定しています。

履修者へのコメント:

映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また、クラス授業時間外での作業(撮影・編集)が必要になります。メディア・コミュニケーション実習はの事前履修が望ましいですが、だけの履修も可能です。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
- ・映像作品

映像コンテンツ制作 (春)

映像コンテンツ制作実践に向けた基礎ステップ

映像表現の文法・作法を習得する 金 山 勉

授業科目の内容:

映像コンテンツ流通の重要性が社会的にも大きくとりあげられるようになり、総務省や通産省でもアジア諸国をはじめ、世界に向けた映像コンテンツ流通発信のための対策を検討しています。大学では情報ネットワークの拡張とテクノロジーの統合、ユビキタス環境の導入に伴う映像コンテンツ流通体制充実の必要性も指摘しています。それと同時に望まれるのがこれらの技術や政策を学ぶ学生たちが映像表現方法の基礎的な力をしっかり身に付けることです。映像コンテンツ制作では、映像コンテンツ制作に関わる際の基本的な枠組み作り(プロダクション)の力を確実に身に付けてもらうことを目的としています。

テキスト:

金山勉・金山智子『やさしいマスコミ入門』勁草書房(2005年)

参考書:

授業時に紹介する。

授業の計画:

映像コンテンツ制作では、映像コンテンツ制作のための基礎能力の獲得と初歩的な番組制作実践について学びます。映像表現をす

る際の事前準備の重要性について講義し、企画書、画コンテの作成、さらに屋外(フィールド)での撮影、編集までを個人レベルで取り組んでもらいます。全体の流れは以下の通りです。

映像コンテンツ制作 (春学期)

- ・映像メディア・コミュニケーションへの招待(2回)
- ・映像コンテンツ加工のための機材とその機能を知る(2回)
- ・映像コンテンツ制作のための基礎能力(2回) コンティニューティ、フレーミング
- ・番組企画とは(2回) ミニ企画プロジェクトの実践に向けて
- ・番組制作実践(5回) カメラ取材と編集

履修者へのコメント:

映像コンテンツ制作では受講生の自主性を最大限尊重し、自由な発想や可能性の追求を歓迎します。講義は春学期と秋学期でそれぞれ独立してはいますが映像コンテンツ制作とを連続して受講することにより、総合的な力を身につけることができるようにプランされていますので両方セットで受講することを希望します。

成績評価方法:

- ・映像コンテンツ制作のプロセスと番組完成度に対する評価 (60パーセント)
- ・出席と平常制作準備活動の評価 (40パーセント)

質問・相談:

授業終了時、および電子メールで受け付けます。

映像コンテンツ制作 (秋)

映像コンテンツ制作実践に向けた応用編

スタジオプロダクションを実験する 金 山 勉

授業科目の内容:

本講座では映像コンテンツ制作への取り組みを通じて、映像コンテンツ中に含まれる独特の映像作法、メディア環境、さらに映像文化について考察すると共に、スタジオでの映像コンテンツ制作を通じて映像メディア・コミュニケーションの実践プロジェクトに携わることが制作者に感動と興奮を生むことを体験してもらいます。コンテンツ制作の感動を求めるがあまり、制作者が個人の主張や意図を一方的に発信したくなるなど、映像コンテンツ制作の中から生まれるメディアの課題もみずから体験することになると考えます。これらの経験が受講生のメディア・ジャーナリズムへの考察を深化させることにつながることを期待します。

テキスト:

金山勉・金山智子『やさしいマスコミ入門』勁草書房(2005年)

参考書:

授業時に紹介する

授業の計画:

映像コンテンツ制作では編集加工された取材コンテンツ映像(編集VTR)を活用したスタジオの企画番組制作に取り組みます。全体の流れは以下の通りです。

映像コンテンツ制作 (秋学期)

- ・映像メディア・コミュニケーション力のアップに向けて(2回)
- ・フィールドカメラ素材を取り込んだ映像メディアコンテンツ制作(1回)
- ・スタジオカメラを利用した映像メディアコンテンツ制作(2回)
- ・番組企画プロジェクトチームの結成と番組企画の実践(2回)
- ・番組制作実践とプリプロダクション(4回)
- ・番組制作リハーサルと本番収録(2回)

*フィールドカメラによる自主素材を交えた番組制作

履修者へのコメント:

映像コンテンツ制作では、映像コンテンツ制作で蓄積した映像構成の基礎理解や番組企画のノウハウをさらに発展させることを狙っています。講義は春学期と秋学期でそれぞれ独立して完結しますが、映像コンテンツ制作とを連続して受講することを希望します。

成績評価方法:

- ・映像コンテンツ制作のプロセスと番組完成度に対する評価 (60パーセント)
- ・出席と平常制作準備活動の評価 (40パーセント)

質問・相談：

授業終了時、および電子メールで受け付けます。

メディア・ネットワーク実習 ・ (春)(秋)
「放送と通信」融合のしくみ・導入編 田 辺 浩 介

授業科目の内容：

コンピュータ・ネットワーク技術について、解説と基礎的な実習を行います。「放送と通信の融合」に対する技術的な理解を高めることを目標とします。

テキスト：

特に指定しませんが、IT 関連のニュースサイトには目を通しておくようにして下さい。

参考書：

特に指定しませんが、IT 関連のニュースサイトには目を通しておくようにして下さい。

授業の計画：

1. コンピュータの基礎（ハードウェア，ソフトウェア）
2. ネットワークの基礎（IP，DNS，各種プロトコル）
3. Webの基礎（HTML，WEB上のファイル形成）
4. ネットワークの構築（配線，サーバー設定）
5. 音声・映像配信の実践（ライブストリーミング，Podcasting）
6. 動的 Web サイトの構築（CMS）

履修者へのコメント：

- ・実習の多くはMWRのアカウントを利用して行います。
- ・映像制作の講義と同時に受講することをおすすめします。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時電子メール、または講義用 Web ページで受け付けます。

電子ネットワーク調査法（秋）（日吉）
ネットワーク上のメディア情報を探索する 菅 谷 実

授業科目の内容：

ネット上には全世界の多様な情報が膨大な数存在していますが、どこにどのような情報が存在しているかを熟知している人は多くありません。ここでは、はじめにメディア、ネットワーク産業、情報通信政策に関わる情報を収集するために必要な探索法とサイトの利用法を紹介します。さらに、受講者の興味に従い特定のテーマで情報を収集し、それをプレゼンする効果的方法を学びます。

テキスト：

特に使用しません

授業の計画：

本年は以下の予定で講義を進めます（カッコ内は授業回数）

オリエンテーション (1)

ネット情報探索法 (8)

インターネットとは

日本のメディア・ネットワーク産業

日本の情報通信政策

海外情報の探索

調査・研究サイト

情報収集実践とプレゼン (3)

受講者のプレゼン

まとめ (1)

履修者へのコメント：

ネットワークの情報検索に興味ある研究生の受講を歓迎します

成績評価方法：

平常点で評価する。

質問・相談：

毎回講義終了時に質問、相談を受け付けます。

時事英語 ・ (春)(秋)(日吉)
英文記事から学ぶ世界情勢 蓮 実 潔

授業科目の内容：

速報を重視する外国通信社や米有力紙の記事を教材に使い時事英語の読解力を養うとともに、世界情勢の現況と背景を学ぶ。

テキスト：

特に指定しない。できるだけ直近の報道をテキストにする

参考書：

特に指定しない

授業の計画：

ガイダンス（1時限）

比較的読みやすい通信社（AP 通信など）の配信記事読解（1時限）

主に米紙の記事を教材とし、米国の政治、議会、司法制度、経済の動向などを学ぶ（5時限）

中国や欧州、中東情勢に関する外国メディアの報道をフォローし、日本メディアとの視点の相違などに注意を払う（4時限）

、 、 にはナマの出来事を追いながら国際情勢の理解に必要な基本認識を深める

主要米紙の論説 (editorial) を読み、「主張するメディア」の在り方を探る（2時限）

後期も ~ のプロセスをほぼ踏襲する

履修者へのコメント：

完全なバイリンガルは別として、いくら英文記事を読めても、それを他人にも分かる滑らかな日本語に「変換」できなければニュースへの理解は浅いものにとどまる。講義中、いくら辞書を引いても構わない。積極的質疑を期待する。

成績評価方法：

レポートによる評価

文章作法 ・ (春)(秋)(日吉) 浜 村 寿 紀

授業科目の内容：

文章作成技術の基本を固める。企業などの競争試験に備えるとともにジャーナリスティックな視点の涵養を図る。

参考書：

随時指定する。

授業の計画：

テーマを提示した作文演習が中心。文章作成の前提となる情報収集（取材）についても実習を含めた技術指導を行う。インターネットエイジのコミュニケーションに関するエクササイズも実施する。

履修者へのコメント：

メディア業界希望者はもちろん他の業種希望者にも役立つ講義にするつもりです。

成績評価方法：

随時提出の作文による評価

質問・相談：

講義時間、および E-mail。受講者の希望があればブログ等も活用する。

体 育 科 目 (三田設置) (体育研究所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板(西校舎)に、日吉設置科目については、体育科目掲示板(日吉 J11 番教室前)にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目(日吉)の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A(ウィークリー・スポーツ)が、8科目(テニス、バレーボール、フットサル、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス)開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体现する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の4科目があります。学部、学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください(学事センターで閲覧できます)。

(1) 体育学講義 (2単位).....「身体」「健康」「運動」等に関する講義。

(2) 体育学演習 (1単位)..... 講義+実習による演習形式の授業。

(3) 体育実技 A (1単位).....「身体活動」実技 A~Dの4段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

(4) 体育実技 B (1単位).....「身体活動」実技 P(合)・F(否)(Pass/Fail)の2段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

体育実技には「体育実技 A」と「体育実技 B」がありますが、特に成績評価の方法が異なることに注意してください。なお、「体育実技 A」と「体育実技 B」、ともにウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツがあります。その概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ.....週1回半年(春学期または秋学期)の授業。

シーズン・スポーツ.....夏季休業中(7月~9月)または春季休業中(2月)の7日間の授業。ただし、合宿科目は原則として3泊4日。

3 2003年度以前に入学した諸君へ

2004年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 三田設置科目履修申告までの流れ

4月7日(金)

体育科目ガイダンス(三田)

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内と時間割を持参のうえ出席してください。
1限および2限 522番教室(いずれの時限も同内容)

4月7日(金)
~20日(木)

定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所: 日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間		9:00~12:30	14:00~15:30	受付時間		9:00~12:30	14:00~15:30
4月7日	金	女子(10時開始)	男子	4月14日	金	男子	男子
8日	土	男子	男子	15日	土	女子	女子
9日	日			16日	日		
10日	月	女子	男子	17日	月	男子	男子
11日	火	男子	男子	18日	火	男子	女子
12日	水	男子	女子	19日	水	女子	男子
13日	木	男子	女子	20日	木	男子	

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口申し出てください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

4月10日(月)
~14日(金)

体育研究所許可証の取得

体育科目時間割に従い、第1週目の授業で体育研究所許可証を発行します。秋学期科目も同授業で発行します。発行数は定員分までです。

第1週目の授業に出席できない者のために、各日12時30分から14時まで、三田綱町グランド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行する時間を設けていますが、発行するのはその時点で定員に達していない授業だけです。

第1週目の授業に定員以上の履修希望者が集まった場合は、その場で抽選を行い、定員分の体育研究所許可証取得者を決定します。

4月14日(金) 8:30
~15日(土) 15:00
4月17日(月)
8:30~15:00

Webによる履修申告期間

学事Webシステムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

履修者数の調整について

体育研究所許可証を取得した学生は、履修申告すれば、必ずその科目を履修できます。体育研究所許可証を未取得であっても、履修申告はして構いません。ただし、許可証取得者が優先され、それでも定員に不足が生じた場合に限り、未取得者の中で抽選が行われます。

4月22日(土)

履修者数調整結果発表

9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板

10時30分 三田 西校舎共通掲示板

追加履修を受け付ける、定員に余裕のある科目も同時に発表します。

追加履修は抽選で外れた場合のみ、外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。

追加履修のためには、体育研究所許可証の取得と修正申告の手続きが必要です。

三田設置科目の体育研究所許可証は各授業で発行します。各授業で許可証を取得し、定められた期間に学事センターで修正申告を行なってください。

5 日吉設置科目履修申告までの流れ

4月5日(水) ~ 7日(金)

体育科目ガイダンス(日吉)

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内、講義要綱・シラバス、体育科目時間割を持参のうえ出席してください。

4月5日 10:45 541・613・623 番教室
6日 10:45 J11・J21・39 番教室
7日 10:45 613・614・623 番教室

4月7日(金) ~ 20日(木)

定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所: 日吉記念館

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口に出してください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

4月10日(月) ~ 14日(金)

体育科目ガイダンス週間(日吉)

体育科目の時間割どおりに実施します。

ただし、実技科目はこの期間のみ、すべて日吉記念館スタンドで行います(時間割の実施場所ではありません)。

各時限とも同一内容のガイダンスを、前半・後半の2回行います。

シーズン・スポーツの科目は個別のガイダンスはありません。日吉記念館(総合案内)で担当教員の説明を受けてください。

科目ガイダンス	場 所
体育学講義	時間割指定教室
体育学演習	時間割指定教室
ウィークリー・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館スタンド
シーズン・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館(総合案内)

レベルの高低や、自己の都合などによる履修の取消、変更はできません。

4月14日(金) 8:30 ~ 15日(土) 15:00
4月17日(月) 8:30 ~ 15:00



Web による履修申告期間

学事 Web システムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

 4月22日(土) 	履修者数調整結果発表 9時 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板 10時30分 三田 西校舎共通掲示板
--	--

体育実技 A, 体育実技 B, 体育学演習では, 履修希望者が定員を上回った場合, 抽選による履修者数の調整を行います。履修申告した者は, 履修の可否を必ず確認してください。ただし, 体育学講義は, 抽選による履修者数の調整は行いません。シーズン・スポーツのアウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット, 水泳(オープンウォータースイミング)の履修者は後述の実技費用納入の手続きを行ってください。

4月24日(月) ~5月10日(水)	追加履修について 履修調整の結果, 定員に余裕のある実技科目・演習科目は追加履修することができます。 追加履修は抽選で外れた場合のみ, 外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。
5月8日(月) ~10日(水)	追加履修するためには, 体育研究所許可証の取得と, 修正申告期間中の修正申告の2つの手続きが必要です。 履修調整結果を再確認し, 誤りのないようにしてください。

体育研究所許可証の取得手続き
 定員に余裕のある科目について, 以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受付日時	申込場所
4月24日(月) 9:15~11:30, 12:30~16:00 4月25日(火) 9:15~11:30, 12:30~15:00	体育研究所
4月26日(水)~5月10日(水)(平日のみ) 受付時間 8:45~17:00 (最終日 16:00 終了)	日吉学事センター総合窓口

春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は, 必ず24・25両日中に体育研究所許可証を取得してください。26日以降は取得できません。

修正申告の手続き
 で受け取った体育研究所許可証を持参し, 定められた期間に学事センターで履修申告を行ってください。

いずれの手続が不足しても追加履修はできません。また, 所属する学部が追加履修を認めていない場合は, 行っても修正申告の手続はできません。

6 シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

(1) シーズン・スポーツのうち, 以下の合宿形式7科目については, 指定期間内に実技費用の納入が必要です。

実技費用納入科目 アウトドアレクリエーション・山岳・スキー・スケート・馬術・ヨット・水泳(オープンウォータースイミング)

実技費用納入日時	受付時間	受付場所
4月24日(月)~4月27日(木)	8:45~17:00	日吉学事センター総合窓口(納入用紙交付)

上記科目は, 履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

費用が納入期間に間に合わない場合は, 総合窓口に申し出てください。申し出なく期間内に納入しなかった場合は, 履修放棄として取り扱います。(DまたはF評価)

(2) 実技費用納入締め切り後, なお人員に余裕がある科目については, 追加履修を受付けます。

体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

球技

体育実技 A (テニス) 月曜 1 限
(上級) 堀場 雅彦

〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット, シューズ (ハードまたはオールコート用)

〔授業の計画〕

1 限 (90 分) の計画

05 準備体操

10 球出しによるウォーミングアップ, フォア・バックハンド
ストローク

30 サービス, シングルス・ダブルスポジションにて

40 ペアーボレーボレー

50 ダブルスゲーム, MIX・男子・女子

85 総括

半期 13 回の計画

毎週, 毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが, 参加者数により, ラリー (クロス・ストレート), シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。

ストローク・サービス・ボレーの各ショット別練習中に, 以下ポイントに沿ったアドバイスを個別または全体に与える。

1 ~ 3 週: 腕の振り

4 ~ 6 週: 身体のバランス

7 ~ 10 週: 足捌き (フットワーク)

11 ~ 13 週: 総括および戦術

〔履修者へのコメント〕

テニスはサッカーについて, 全世界 120 か国以上に普及した国際的スポーツです。また, 国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も, 5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ, 腕を競い合っています。正にグローバルゼーション・高齢化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に, 是非手習いをしておきたいスポーツです。

〔成績評価方法〕

平常点: 出席状況および授業態度による評価 (出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。)

体育実技 A (テニス) 水曜 2 限
(初級) 村松 憲

〔実施場所〕

綱町グラウンド (屋外ハードコート) 三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度

〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ, テニスラケット (シューズ, ラケットの貸し出しはありません), 運動に適した服装

〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1~2 回目 ボールとラケットに親しむための基礎練習

3~6 回目 ボレー, サービス, グラウンドストローク, スマッシュの基礎練習

7 回目以降 クロスコートでのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

テニスが全く初めての方でも大丈夫です。また, 少し経験はあるけれども基礎を確認したい, という方も歓迎します。

かなり経験を積んだ方が参加しても構いませんが, あくまで, 初級者にレベルを合わせて授業をすすめますので, あらかじめご理解下さい。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A (テニス) 水曜 3 限
(中級) 村松 憲

〔実施場所〕

綱町グラウンド (屋外ハードコート) 三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度

〔服装・携行品・その他〕

テニスシューズ, テニスラケット (シューズ, ラケットの貸し出しはありません), 運動に適した服装

〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

1~3 回目 サービス, ボレー, グラウンドストローク, スマッシュ, リターン等, 基礎技術の確認と練習

4~6 回目 回転をかけるサービス, ジャンピングスマッシュなど, 試合を有利にすすめる上で役立つ応用技術の確認と練習

7 回目以降 クロスコートでのサービスからのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

このクラス (中級) では, 「技術レベルがどこまで到達したか」 (どの程度向上したか, だけでなく) という点も成績評価の対象とします。したがって, 「打ち合いで安定して 10 往復以上続けることができる (相手が打ちやすいボールを出してくれた場合) こと」が難しい方にはおすすりできません。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A (テニス) 火曜 1 限
(初中級) 加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット, テニスシューズ, 運動ができるウェア

〔授業の計画〕

2回をセットとして、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、を技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。3回の技術力テストを行う。雨天時は当日の朝、掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技A（テニス） 火曜2限
（中上級）

加藤 大雄

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と、ルールの習得ならびに、テニスにおける戦術の指導。

〔実施場所〕

綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット、テニスシューズ、運動ができるウェア

〔授業の計画〕

戦術的な説明をしつつ、フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、ボレー、スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気です。実践的な練習が多い予定。雨天時は当日の朝、掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技A（バレーボール） 木曜1限・2限

野口 和行

〔授業の目的〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを促進する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド バレーボールコート

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装・屋外シューズ

〔授業の計画〕

1. 個人の技術レベルの向上（4回）
パス、スパイク、ブロック、サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。
2. 集団技能の学習とフォーメーションの理解（4回）
サーブレシーブフォーメーション等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。
3. リーグ戦形式のゲームの実践
個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め、ゲームを楽しむ。ゲームで利用できるような個人技能のレベルアップ。

〔履修者へのコメント〕

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり、技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、技術（10%）、態度（20%）、理解（10%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

体育実技A（フットサル） 水曜2限・3限

須田 芳正

〔授業の目的〕

フットサルの技術、戦術を習得し、ゲームの中でフットサルの魅力、楽しさを体験することを目的とする。

〔参考書〕

- フットサル教本（松崎康弘、須田芳正著、大修館書店）
- フットサル攻略マニュアル100（須田芳正著、NHK 出版）

〔授業の計画〕

- 1回、ガイダンス（場所は銀座 de フットサル 田町スタジアム）
- 2~4回、技術練習とゲーム形式
テーマ：ボールフィーリング、パス&コントロール、シュート
- 5~8回、戦術練習とゲーム形式
テーマ：4対2、フォーメーショントレーニング
- 9回以降、ゲーム形式
テーマ：チームを固定してのリーグ戦

〔履修者へのコメント〕

積極的に授業へ参加する学生を歓迎します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等についてはガイダンス時に説明する。

〔質問・相談〕

実施場所は銀座 de フットサル 田町スタジアム
所在地：港区芝5-36-7 札の辻パーキング2F
JR 田町駅 三田口 西口、都営地下鉄三田駅より徒歩3分

武道

体育実技A（合気道） 木曜2限

藤平 信一

〔授業の目的〕

合気道の実技を通して、心と身体からだの正しい使い方しんしんどういつ（心身統一）を習得する。
心身統一を日常生活で活用できるように習得する。
大切な場面での心の落ち着きを習得する。危険に対する察知と対応を習得する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館

〔服装・携行品・その他〕

道着は貸与。Tシャツ（女子のみ）・タオル（汗をふくため）・道着を持ち運ぶバッグ等。

〔授業の計画〕

- 半期前半
 - ・合気道基本技
 - ・心が身体を動かす（心身統一）
 - ・正しい姿勢（自然に安定した姿勢）
 - ・安全な受身と間合い
- 半期後半
 - ・合気道応用技
 - ・正しいリラックス（虚脱状態との違い）
 - ・大切な場面での心の落ち着き
 - ・危険に対する察知と対応

春学期と秋学期ではテーマは同じですが、内容は異なります。半期が基本ですが、通年で履修をすると理解がさらに深まります。

〔履修者へのコメント〕

基礎から確実にお伝えしますので、合氣道を初めて学ぶ方でも安心して学べます。

半期で一通りのことを学ぶことが出来ますが、しっかりとした習得には通年での履修をおすすめします。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。）

体育実技A(弓術) 火曜1限・2限 小笠原 清忠

〔授業の目的〕

和弓に親しみながら、的中に興味を持たせる。
弓術を修練することにより礼節を身に付ける。

〔実施場所〕

綱町グランド 武道館(正己弓道場)

〔服装・携行品・その他〕

服装は運動の出来る服装(ボタンや胸ポケットのないもの)

〔授業の計画〕

- 1 道場内での礼儀作法。弓具の取り扱い。
- 2 素引き練習
- 3 習熟度合いにより距離を離して行射を行う。
- 4 正規の距離で行射を行う。

〔履修者へのコメント〕

雨天でも授業は行います。靴下又は足袋を必ず持参すること。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。）

体育実技A(剣道) 水曜2限・3限 吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の実力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

〔実施場所〕

綱町グランド 武道館(剣道場)

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴(運動に相応しい服装も可)・手ぬぐい
剣道具(防具)・竹刀は準備しています。

〔授業の計画〕

- 1 ガイダンス剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎
- 2 素振りのバリエーション 五行の構え 対人的足さばき
- 3 基本の復習 日本剣道形の導入・1本目
- 4 日本剣道形1~2本目 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方
- 5 日本剣道形1~3本目 基本的な技の打ち方 防具の着け方
- 6 日本剣道形1~4本目 手の内の刃えについて 正中線の意味 切り返し
- 7 日本剣道形1~5本目 一本打ちの技
- 8 日本剣道形1~6本目 連続技(二・三段打ちの技)払い技 捲き技
- 9 日本剣道形1~7本目 応じ技(すり上げ技・返し技)
- 10 日本剣道形1~7本目 応じ技(抜き技・打ち落とし技)
- 11 日本剣道形小太刀1~3本目 出頭技
- 12 日本剣道形復習試合規則の確認 試合形式の実践
- 13 紅白試合まとめ

〔履修者へのコメント〕

剣道を通して、戦う技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

〔成績評価方法〕

出席60%、技術10%、態度20%、理解10%の割合で点数化して評価する。

体育実技A(柔道) 月曜2限・3限 安藤 勝英
(初心者、経験者を問わない~男女共習)

〔授業の目的〕

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方等をより深く解説する。また、見る柔道の立場から、国際、国内ルールを説明する。更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

〔実施場所〕

綱町グランド 武道館(柔道場)

〔服装・携行品・その他〕

柔道衣(希望者には貸与する)、タオル、Tシャツ(女子のみ)

〔授業の計画〕

- 1 講道館柔道の歴史とその内容。
- 2 柔道の基本的動作(礼法、受身、体捌き)
- 3 投げ技と受身の反復練習(大外刈、大内刈等)
- 4 投げ技と受身の反復練習(大腰、背負投等)
- 5 投げ技と受身の反復練習(送足払、払釣込足等)と約束稽古。
- 6 約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
- 7 乱取稽古
- 8 乱取稽古
- 9 技の連絡変化。
- 10 固め技(抑込技、絞技、関節技)の説明。
- 11 固め技の説明とその稽古方法。
- 12 乱取稽古(立技、寝技)
- 13 試合方法、審判法(国内、国際ルール)の説明。

〔履修者へのコメント〕

この授業を通し、現行の試合を中心にした柔道ではなく、本来の組み方、技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。

〔成績評価方法〕

平常点:出席状況および授業態度による評価(出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。)

個人種目

体育実技A(ダンス) 金曜2限・3限 篠原 しげ子
ボールルームダンス 入門 初級

〔授業の目的〕

種目ごとのリズムの特徴を理解し男女で組んで踊れるようになる。

〔実施場所〕

綱町グランド 武道館(剣道場)

〔定員〕

男性10名 女性10名

〔服装・携行品・その他〕

動きやすい服装 綱町道場の剣道場で行うためシューズは着用せず、ソックスを持参

〔授業の計画〕

金曜2時限目

春学期 ラテン入門 (ジルバ ルンバ チャチャチャの基礎を4~5週間ずつ行う)

秋学期 スタンダード入門（ブルース タンゴ ワルツの基礎を
4～5週間ずつ行う）

金曜3時限目

春学期 初級・タンゴ

秋学期 初級・ワルツ

それぞれの種目を半期間と押して行う

1～3週 種目の特徴（リズム，姿勢，ホールド）を理解する

4～8週 数種類のフィギュアをつなげて一曲踊りとおせるよう
になる。

9～12週 さらにフィギュアの数を増やすとともに正確な踊りを
目指す

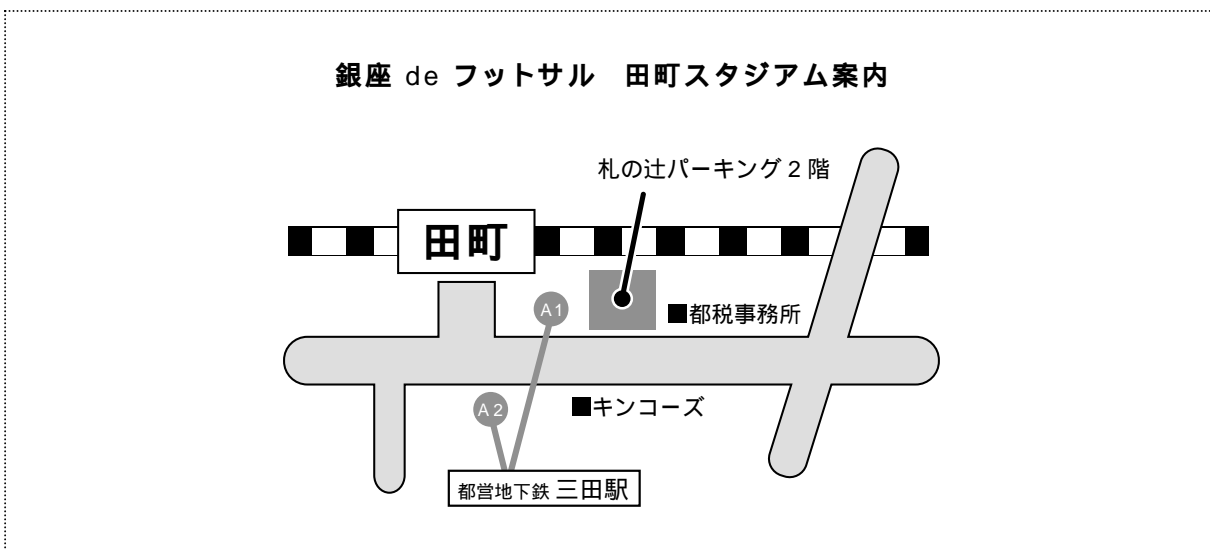
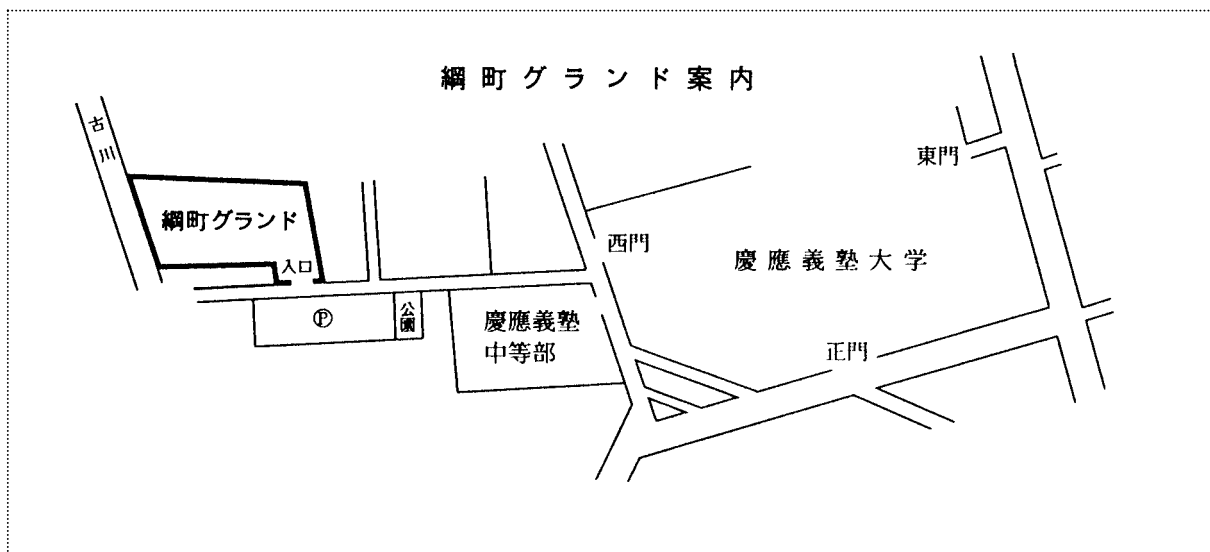
13～ 自分で好きな順番でつなげて踊れるように工夫する

〔履修者へのコメント〕

ガイダンス週間に種目のビデオを見ながら，それぞれの踊りの説
明をします。必ず参加して内容を把握して選択してください。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（各時限に簡単なレ
ポート提出により，理解度 20，授業態度 20，出席状況 60 で採点）



福澤研究センター設置講座

慶應義塾福澤研究センターは、1983年に義塾創立125年を記念して、旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は、一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが、単にそこにとどまるものではありません。同時に、福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは、一面では、福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが、そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには、福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからでもあります。

しかも、福澤諭吉に関する研究は、狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は、19世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため、福澤諭吉に取り組むことは、例えばアジアの近代化を考えることに直接的にも間接的にもつながってゆきます。このように、各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており、文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて、これまで福澤研究センターは、学術誌『近代日本研究』・資料集・叢書の刊行や、講演会、セミナー、展覧会などを開催してきました。また、これらの資料整理・研究活動は、23名の所員、11名の顧問、26名の客員所員、7名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は、このような活動を続けている福澤研究センターが、提供する大学講座です。講座の目的は、第1には、福澤研究センターを中心として、塾内外の研究者により行われてきた研究の学術的な成果を、講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また、第2には、福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに、第3には、将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして、第4には、この講座を通して、21世紀の世界にとって、福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が、いかなる意味を持っているかを考える機会をつくることを目指しています。

近年、慶應義塾で学びながら、義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず、また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在、それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし、福澤の著作は、その主張に賛成するものにとっても反発するものにとっても、面白く刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは、我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも、本設置講座は、文系の多くの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は以下の6講義・演習を開講しますので、諸君の活発な履修を期待しております。

(慶應義塾福澤研究センターのホームページ <http://www.fmc.keio.ac.jp/>)

近代日本研究 (春学期)(2)

『学問のすゝめ』とその時代

法学部教授 岩谷 十郎
経済学部教授 小室 正紀
名誉教授 坂井 達朗
教職課程センター教授 米山 光儀

授業科目の内容:

福澤諭吉の初期の代表作『学問のすゝめ』は、明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって、17編にわけて逐次刊行された。それは、福澤の生涯の中では、『文明論之概略』に結実する思想の形成期であった。また、この時期は、学制頒布、新橋・横浜間鉄道開通、徴兵令布告、征韓論、明六社結成、地租改正条例公布、民選議院設立の建白書、佐賀の乱、征台の役、立志社設立、江華島事件、萩の乱などの制度改革や事件が陸続する時であり、まさに揺籃期の明治社会にとっては、改革と模索の時期であった。

この講義では、『学問のすゝめ』各編を取り上げて、4人の担当者が分担して講義を行うが、単にその文面から福澤の思想を考えるだけではなく、同書の各編を、福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置付けることを目指したい。またその過程を通して、福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

テキスト:

福澤諭吉『学問のすゝめ』をテキストとするが、同書には様々な版がある。どの版でもかまわないが、受講者は必ず、同書を用意すること。

参考書:

- ・福澤諭吉『福翁自伝』(各種の版があります)
- ・慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻、岩波書店、平成13年。
- ・石河幹明『福沢諭吉伝』岩波書店

授業の計画:

- 第1回 はじめに(小室正紀)
- 第2~4回 『学問のすゝめ』初編~4編
- 第5~7回 『学問のすゝめ』5編~8編
- 第8~10回 『学問のすゝめ』9編~13編
- 第11~13回 『学問のすゝめ』14編~17編

履修者へのコメント:

毎回、講義で取り上げる編をあらかじめ読んでおくこと。

成績評価方法:

レポートによる評価

質問・相談:

授業時間内に受け付けるとともに、コーディネーターの小室正紀のオフィス・アワーに質問を受け付ける。

近代日本研究 (秋学期)(2)

福澤研究センター助教授 西澤 直子

授業科目の内容:

福澤諭吉が近代社会に問いかけた「一身独立」そして「独立自尊」とは何であったのか。まずいくつかのトピックスを中心に生涯を通じて考察し、更に「土族社会」「家族論」をキーワードに再考を試みる。

テキスト:

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書:

- ・『福澤諭吉書簡集』(岩波書店、2001~2003年)
 - ・『福澤諭吉著作集』(慶應義塾大学出版会、2002~2003年)
- 他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画:

- 1 序論 授業テーマの説明および「一身独立」「独立自尊」に関する予備的考察
- 2 福澤諭吉の生涯と「一身独立」「独立自尊」
中津の学問的伝統
滞米滞欧体験
著作権確立運動
交詢社の設立
時事新報の創刊

朝鮮留学生

3 福澤諭吉と中津土族社会

「中津留別之書」「旧藩情」「福翁自伝」
中津市学校と土族授産

4 福澤諭吉の家族論

女性論
男性論
家族論

5 まとめ 授業を通して考察したことについての意見交換

履修者へのコメント:

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(論述形式)
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価(出欠は取りませんが、積極的な参加は評価に加えたいと思います。)

質問・相談:

授業後。あるいは文書でも受け付けます。

近代日本研究演習 (春学期)(2)

法学部教授 寺崎 修

授業科目の内容:

この演習では福澤諭吉の政治思想を学ぶため、「分権論」、「通俗民権論」、「通俗国権論」などを読む。

テキスト:

『福澤諭吉著作集』第7巻(慶應義塾大学出版会)

参考書:

授業中に適宜紹介する。

授業の計画:

1. 序
2. 「分権論」を読む
3. 「分権論」の意義
4. 「通俗民権論」を読む
5. 「通俗民権論」の意図
6. 「通俗国権論」の読み方
7. 「国会論」を読む

履修者へのコメント:

履修条件は毎時間出席できる者。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

随時。

近代日本研究演習 (秋学期)(2)

福澤書簡の研究

講師 松崎 欣一

授業科目の内容:

福澤および近代日本研究の基礎史料としての福澤書簡について「授業の計画」に示す視点からの検討を行う。あわせて、写真版等により原書簡の読解演習を実施したい。

テキスト:

『福澤諭吉の手紙』(岩波文庫)

参考書:

- ・『福澤諭吉書簡集』全9巻(岩波書店刊)
- ・『福澤諭吉著作集』全12巻(慶應義塾大学出版会刊)
- ・富田正文『考証福澤諭吉』上・下(岩波書店刊)

授業の計画:

- 1) 福澤書簡概観...『書簡集』編纂の経緯、名宛人、年次別発信数等について。
- 2) 古文書学的視点からの検討...福澤書簡の形状、文体、用字、用語、筆跡等。
- 3) 福澤の伝記史料としての検討...新たな「福澤年譜」編成のための基礎的作業として。

- 4) 近代日本の同時代史的史料としての検討...福澤書簡の名宛人は約 600 人に及ぶ。その多くは、福澤と名宛人相互の私的な通信にとどまらず、周辺の人事やその時々、社会的諸事象に話題が及んでいる。いくつかのテーマを設定して検討する。
- 5) 書簡の読解演習...『福沢諭吉の手紙』(岩波文庫)をテキストとし、また原書簡の写真版等により読解の実習を行う。福澤研究センター所蔵の原書簡に触れる機会も作りたい。

履修者へのコメント：

「授業の計画」の具体的な展開は、受講者の所属、専攻、研究課題等を確認してあらためて考慮したい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・出席状況による評価

質問・相談：

随時。

明治期日本女性論と福澤諭吉 (春学期)(2)

福澤研究センター助教授 西澤 直子

授業科目の内容：

福澤諭吉の女性論を中心に、明治期日本における女性論の展開を考える。

福澤の女性論・家族論は、同時代のみならず大正期・昭和期に入っても、たとえば与謝野晶子、本間久雄、山高しげりなど多くの人々に高い評価を得ながら、読み継がれてきた。それは福澤の指摘が今日的であり続けたからであり、つまりは近代化の過程において、福澤が提示した課題が克服され得なかったことを示している。近代日本において形成された女性像・家族像は、福澤の構想とは異なるものであった。

この授業では、福澤の著作を読むとともに、同時代の他者による女性論を比較講読しながら、福澤の意図はどこにあったのか、また最終的に社会的規範として受け入れられていった女性論がいかなるものであったのかを考察し、その視点から近代日本について考えたい。

授業は通常講義形式で行い、演習の時間は履修者による意見発表を行う。(履修者は最初の1時間の講義ののち、各自が参加する演習を決定する) では明六社、自由民権運動活動家、福澤諭吉の明治10年代までの女性論を扱う。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻(慶應義塾大学出版会, 2003年)
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 明六社の女性論
 - 1) 森有礼「妻妾論」・加藤弘之「夫婦同権ノ流弊論」・津田真道「夫婦同権弁」
 - 2) 福澤諭吉「男女同数論」
 - 3) 演習
- 3 自由民権運動の中の女性論
 - 1) 土居光華『文明論女大学』
 - 2) 岸田俊子「同胞姉妹に告ぐ」・福田英子『妾の半生涯』
 - 3) 植木枝盛『東洋の婦女』
 - 4) 演習
- 4 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 「中津留別の書」『学問のすゝめ』
 - 2) 「日本婦人論」『日本婦人論後編』
 - 3) 『男女交際論』『男女交際余論』
 - 4) 演習
- 5 まとめ

履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(授業中に意見発表の時間があります。)

質問・相談：

授業後。あるいは文書でも受け付けます。

明治期日本女性論と福澤諭吉 (秋学期)(2)

福澤研究センター助教授 西澤 直子

授業科目の内容：

福澤諭吉の女性論を中心に、明治期日本における女性論の展開を考える。明治期日本女性論と福澤諭吉 を参照のこと。

授業は通常講義形式で行い、演習の時間は履修者による意見発表を行う。(履修者は最初の1時間の講義ののち、各自が参加する演習を決定する) では明治20年以降の福澤の論説およびキリスト教主義者、儒教主義者の女性論を扱い、また福澤女性論の系譜について考える。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻(慶應義塾大学出版会, 2003年)
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 『日本男子論』
 - 2) 『女大学評論・新女大学』
 - 3) 演習
- 3 キリスト教主義の女性論
 - 1) 矢島楯子『東京婦人矯風雑誌』『婦人矯風雑誌』より
 - 2) 潮田千勢子『婦人新報』より
 - 3) 演習
- 4 儒教主義の女性論
 - 1) 丹靈源『国母論』・大江スミ子『女房説法鉄砲三ぼう主義』
 - 2) 井上哲次郎ほか『女大学の研究』
 - 3) 演習
- 5 福澤女性論・家族論の系譜
 - 1) 深間内基『男女同権論』・鎌田栄吉『鎌田栄吉全集』より
 - 2) 日原昌造 福澤研究センター所蔵『時事新報』社説原稿より
- 6 まとめ

履修者へのコメント：

知識を授受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(授業中に意見発表の時間があります。)

質問・相談：

授業後。あるいは文書でも受け付けます。

設置講座案内(三田)

外国語教育研究センターでは、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、インドネシア語、アラビア語、およびイタリア語の9外国語について、「表現技法」をキーワードとし、「聴く」「話す」ことから出発し、「読み」「書き」さらに「発想・思考」にいたる外国語学習本来のプロセスを尊重し、各要素のバランスのとれた外国語コミュニケーション能力が確実に身につくよう、少人数編成のクラスで授業を行います。また、超上級クラス、基礎固めのクラス、各種の検定試験に特化したクラスも用意されています。さらに、これらの設置科目のほかに、学部で開講されている外国語科目の一部が外国語教育研究センターに併設されています。

外国語教育研究センターでは、夏休みに慶應立科山荘で行う外国語集中セミナーや春休みに行う海外短期語学研修、および高校生から大学院生を対象としたアカデミック論文コンテストなどを

企画しています。詳細が決定し次第、外国語教育研究センターのホームページや掲示で広報し、参加者を募る予定です。

以下に本年度開講される外国語教育研究センター設置科目の一覧を掲載します。ガイダンス、履修の手続き、および各科目の詳細な講義内容ならびに併設科目については、別途配布の『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』を参照してください。

なお、『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』は4月6日(木)に行われるガイダンスおよび外国語教育研究センター事務室でも配布します。

ガイダンス日程：4月6日(木) 12:30 ~ 531 番教室

各科目の履修希望者が定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。なお、外国語教育研究センターが履修を許可した科目は、必ず履修申告しなければなりません。

外国語教育研究センター設置科目一覧(三田)

*科目名に(a)(b)と表記されている科目は春(a)・秋(b)をセットで履修することが義務付けられている科目です。

*科目名に()と表記されている科目は春()と秋()どちらかひとつの履修あるいは両方の履修が可能です。

語 種	科 目 名	担当講師名	設置学期		曜日・時限	定員	形態	単位数
			春	秋				
英 語	英語最上級 アドバンスト英語(a)	横川 真理子	春		水・3	25	半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語(b)		秋	半期			1	
	英語最上級 アドバンスト英語		春 秋	通年			2	
	英語翻訳(a)	アーマー, アンドルー J.	春		火・2	15	半期	1
	英語翻訳(b)		秋	半期			1	
	英語翻訳		春 秋	通年			2	
	英語テスト対策 TOEFL()	中村 優治	春		水・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEFL()		秋	半期			1	
	英語テスト対策 TOEIC()	バロウス, リチャード	春		火・5	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC()		秋	半期			1	
	英語テスト対策 TOEIC()	和田 朋子	春		火・2	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC()		秋	半期			1	
	英語テスト対策 TOEIC()	横川 真理子	春		水・4	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC()		秋	半期			1	
	英語テスト対策 TOEIC()	狩野 みき	春		月・4	30	半期	1
	英語テスト対策 TOEIC()		秋	半期			1	
	英語経済・金融()	日向 清人	春		月・3	30	半期	1
	英語経済・金融()		秋	半期			1	
	英語法律・法務()	日向 清人	春		月・4	30	半期	1
	英語法律・法務()		秋	半期			1	
英語オーラル・プレゼンテーション()(初級)	ファロン, ルース	春		月・3	20	半期	1	
英語オーラル・プレゼンテーション()(初級)		秋	半期			1		
英語アカデミック・ライティング()	和田 朋子	春		火・1	25	半期	1	
英語アカデミック・ライティング()		秋	半期			1		

語種	科目名	担当講師名	設置学期		曜日・時限	定員	形態	単位数
ドイツ語	ドイツ語表現技法 4(a) (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春		月・3	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 4(b) (中・上級聴解・口頭表現)			秋			半期	1
	ドイツ語表現技法 4 (中・上級聴解・口頭表現)		春	秋			通年	2
	ドイツ語表現技法 5(a) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル=タカヤマ, メヒティルド	春		火・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 5(b) (中・上級文章表現法)			秋			半期	1
	ドイツ語表現技法 5 (中・上級文章表現法)		春	秋			通年	2
フランス語	フランス語表現技法 ㄨ (DELF 第1段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・3	20	半期	1
	フランス語表現技法 ㄨ (DELF 第1段階対応クラス)			秋			半期	1
	フランス語表現技法 ㄨ (DELF 第2段階対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法 ㄨ (DELF 第2段階対応クラス)			秋			半期	1
	フランス語表現技法 4 (DALF 対応クラス)	ペリセロ, クリスティアン・アンドレ	春		木・1	20	半期	1
	フランス語表現技法 4 (DALF 対応クラス)			秋			半期	1
ロシア語	ロシア語表現技法 1 (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷 葉子	春		金・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 1 (映画とドラマでロシア語を学ぼう)			秋			半期	1
	ロシア語表現技法 ㄨ (ロシア語で発信しよう)	宮澤 淳一	春		水・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 ㄨ (ロシア語で発信しよう)			秋			半期	1
中国語	中国語聴解 ㄨ (最上級) (時事中国語)	山下 輝彦	春		水・2	25	半期	1
	中国語聴解 ㄨ (最上級) (時事中国語)			秋			半期	1
	中国語表現技法 ㄨ (最上級) (作文と翻訳)	蔣 文明	春		月・5	25	半期	1
	中国語表現技法 ㄨ (最上級) (作文と翻訳)			秋			半期	1
スペイン語	スペイン語表現技法 ㄨ (上級)	安藤 万奈	春		金・4	25	半期	1
	スペイン語表現技法 ㄨ (上級)			秋			半期	1
インドネシア語	インドネシア語ベーシック ㄨ(a)	野村 亨 トトク, スハルディアント	春		月・4 金・2	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック ㄨ(b)			秋			半期	2
	インドネシア語ベーシック 2		春	秋			通年	4

2006 年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）春学期時間割

時限 曜日	第 1 時限 9 : 00 ~ 10 : 30	第 2 時限 10 : 45 ~ 12 : 15	第 3 時限 13 : 00 ~ 14 : 30	第 4 時限 14 : 45 ~ 16 : 15	第 5 時限 16 : 30 ~ 18 : 00			
月			英語経済・金融 () ドイツ語表現技法 4(a) ドイツ語表現技法 4 フランス語 表現技法 2() 英語オーラル プレゼンテーション() (初級)	日向 三瓶 ルカルヴェ ファロン	英語テスト対策 TOEIC() 英語法律・法務 () フランス語 表現技法 3() インドネシア語 ベーシック 2(a) インドネシア語 ベーシック 2	狩野 日向 ルカルヴェ 野村	中国語表現技法 2() (最上級)	蔣
火	英語アカデミック・ ライティング()	和田	英語翻訳(a) 英語翻訳 英語テスト対策 TOEIC()	アーマー 和田	ドイツ語表現技法 5(a) ドイツ語表現技法 5	ドゥッセル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC()	バロウス
水			英語テスト対策 TOEFL() 中国語聴解 2() (最上級)	中村 山下	英語最上級 アドバンスト英語(a) 英語最上級 アドバンスト英語 ロシア語 表現技法 2()	横川 宮澤	英語テスト対策 TOEIC()	横川
木	フランス語 表現技法 4()	ベリセロ						
金			インドネシア語 ベーシック 2(a) インドネシア語 ベーシック 2	トトク	ロシア語 表現技法 1()	熊野谷	スペイン語表現技法 3 (Ⅸ 上級)	安藤
土								

2006 年度 外国語教育研究センター設置科目（三田）秋学期時間割

時限 曜日	第 1 時限 9 : 00 ~ 10 : 30	第 2 時限 10 : 45 ~ 12 : 15	第 3 時限 13 : 00 ~ 14 : 30	第 4 時限 14 : 45 ~ 16 : 15	第 5 時限 16 : 30 ~ 18 : 00			
月			英語経済・金融 () ドイツ語表現技法 4(b) ドイツ語表現技法 4 フランス語 表現技法 2() 英語オーラル プレゼンテーション() (初級)	日向 三瓶 ルカルヴェ ファロン	英語テスト対策 TOEIC() 英語法律・法務 () フランス語 表現技法 3() インドネシア語 ベーシック 2(b) インドネシア語 ベーシック 2	狩野 日向 ルカルヴェ 野村	中国語表現技法 2 (Ⅸ 最上級)	蔣
火	英語アカデミック・ ライティング()	和田	英語翻訳(b) 英語翻訳 英語テスト対策 TOEIC()	アーマー 和田	ドイツ語 表現技法 5(b) 表現技法 5	ドゥッセル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC()	バロウス
水			英語テスト対策 TOEFL() 中国語聴解 2() (最上級)	中村 山下	英語最上級 アドバンスト英語(b) 英語最上級 アドバンスト英語 ロシア語 表現技法 2()	横川 宮澤	英語テスト対策 TOEIC()	横川
木	フランス語 表現技法 4()	ベリセロ						
金			インドネシア語 ベーシック 2(b) インドネシア語 ベーシック 2	トトク	ロシア語 表現技法 1()	熊野谷	スペイン語表現技法 3 (Ⅸ 上級)	安藤
土								

慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季および春季休業中に海外で在外研修プログラムを開講しています。

これは、外国語による講義およびディスカッションのほか、大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して、さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。

形態は原則として、往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で、本学の教職員が同行する講座もあります。

また、現地への出発前には事前研修を実施します。(事後研修を実施する場合もあります。)

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。

ガイダンス 4月4日(火) 藤沢 12教室 16:10~17:40 4月6日(木) 矢上 14-201教室 13:00~14:30
4月5日(水) 三田 519教室 13:00~14:30 4月6日(木) 日吉 J11教室 17:00~18:30

夏季講座募集期間: 4月12日(水), 13日(木) 一次合格発表: 4月20日(木)

面接審査: 4月22日(土) 夏季講座選考結果発表: 4月28日(金)(予定)

慶應義塾大学 ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義、ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション、エッセイの作成・提出を中心としており、ケンブリッジ大学の教員が指導にあたります。

〔現地研修期間〕

2006年8月7日(月)~9月6日(水)(予定) 5月~7月に三田キャンパスにて事前研修を2回程度行います。

〔開講予定科目〕 6科目の中から3科目を選択して履修。

English Literature, History of Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior (Zoology).

〔研修内容〕

講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA: Teaching Assistant)を交えてのディスカッション(午後)、エッセイ作成・提出(週末)

〔単位数〕

4単位 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕 60名

慶應義塾大学 ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は、米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマに沿った英語による講義、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション等で構成されています。また、大学内での寮生活や、講演会、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流を体験することができます。

〔現地研修期間〕

2006年7月28日(金)~8月15日(火)(予定) 4月下旬より事前研修(6回程度)、帰国後には事後研修(2回程度)を行います。

〔研修内容〕

ウィリアム・アンド・メアリー大学の教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイなど。

〔単位数〕

4単位 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕 40名

慶應義塾大学 ワシントン大学夏季講座

ワシントン大学はアメリカ北西部ワシントン州シアトルにある 1861 年に創立した歴史のある学校で、ワシントン州最大の大学です。豊かな自然に恵まれたキャンパスはとても広大で美しく、緑が多い環境の中で落ちついて学業に専念することができます。

「環境」を多面的な視点から学ぶ講義・ワークショップとディスカッションのほか、フィールドトリップ、ワシントン大学の学外施設を利用した実地自然体験宿泊旅行などをバランスよく配置しています。

なお、この講座には APRU (Association of Pacific Rim Universities, 環太平洋大学協会) 加盟大学から数名が参加する予定です。

〔現地研修期間〕

2006 年 8 月 19 日～9 月 9 日(予定) 5 月～7 月に事前研修を 2 回程度行います。

〔研修内容〕

講義/ワークショップ, ディスカッション, フィールドワーク, プレゼンテーション

体験宿泊旅行: レーニア山, エコロジーウォーク(森林学), フライデー・ハーバー・ラボ(海洋学)

〔開講科目例(2005年度実績)〕

Urban issues and environmental concerns, Marine Conservation, fisheries, aquaculture, Biodiversity and the Urban Populace

〔単位数〕

4 単位 本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕30 名

慶應義塾大学 パリ政治学院春季講座

パリ政治学院は、フランスのエリート養成機関『グランゼコール』の 1 つで、フランス現大統領のシラク氏をはじめ、歴代の政界・財界の著名人の母校として大変有名です。

本講座は、加盟国の増大により拡大する EU の政治・社会・財政・文化の問題のみならず、EU 対アジアや EU 対米国の関係など、様々なテーマを取り扱う非常に中身の濃いプログラムになっています。

プログラム期間中に、各自が決めた研究テーマに沿ってエッセイを書き、プログラム終了時には、パリ政治学院からディプロマが授与されます。また、最終週にはベルギーの首都ブリュッセルにある EU の諸機関を実際に訪問し、EU の組織に対する理解を深める機会が設けられています。

講義はすべて英語で行われますが、午後にはフランス語の授業もありますので、2 か国語を同時にマスターできるのもこの講座の魅力となっています。

プログラムの詳細は、11 月ごろ国際センターホームページで発表します。

〔現地研修 2005年度参考〕 2006 年 2 月 19 日(パリ)～2006 年 3 月 18 日

〔講義内容 2005年度参考〕

1. "The History of Europe: Once upon a time..."
2. "An introduction to European Institutions"*
3. "European public Space and Democracy"*
4. "National political parties and Europe: are they European?"
5. "The values of the European(s)"
6. "The latest EU enlargement: transition processes and successes of the integraion of formerly Socialist countries"
7. "The Challenges of a Common Immigration Policy"*
8. "Joining the EU: is Turkey specific?"
9. "European welfare states"
10. "Is there a European capitalism?"
11. "The growth performances of European economies"
12. "Monetary governance in Europe"
13. "Fiscal governance in Europe"
14. "Public services in Europe"
15. "US/EU conflicts of values and/or conflicts of interest"*
16. "The challenges of a European security policy"*
17. "Europe and the Middle East Conflict"*
18. "Ageing and generational equality in Europe"

単位取得: 4 単位(卒業に必要な単位として認められることがあります。ただし、次年度春学期設置科目として認定の為、参加時に最終学年の場合は対象外となります。)

定 員: 30 名(うち 10 名は上智大学生)

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国/地域は、米国、カナダ、オーストラリア、アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、政治、経済、産業、文学、芸術、思想など幅広い側面から日本を探究します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生，大学院生，ならびに別科生（原則として新入生を除く）
2. 単位 各科目2単位
（なお，医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）
3. 手続方法
履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。
学部・大学院が設置主体の科目については，学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は，三田，日吉の国際センターで相談してください。
4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は，三田の国際センター掲示板に掲示されます。

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

Text Books:

None. Handouts will be given from time to time.

Reference Books:

Several books will be suggested during the class.

Class Schedule per week:

1. Orientation
2. What is SEA ?
3. SEA & Japan
4. SEA & European Power
5. Nature and Climate of SEA
6. Languages of SEA
7. Music of SEA
8. Politics of SEA
9. Other aspects of SEA

Please note that above order may change with short notice. For further information, please ask the professor directly.

Message to those taking this Course:

Students are recommended to bring along a map of Asia and / or Southeast Asia in every session.

Classroom rules will be indicated at the first session.

Grading Methods:

In class Exams, Attendance, Participation

Questions, Requests:

Should be forwarded to : nomura@sfc.keio.ac.jp

No petition on scores will be acceptable.

Sub Title:

Looking for the hidden roots of cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Reference Books:

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.
- 2) Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

Class Schedule per week:

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture — Mead, Sapir & Whorf, Hall
3. A model of hidden culture — The onion model.

4. Student presentations
5. Cultural in human relations — independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression — How we show feelings
7. Culture and status — Who is important and why ?
8. Student presentations
9. Culture and gender — Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time — polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

Message to those taking this Course:

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised — in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

Grading:

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

オーストラリア政治の今日の問題

(春学期)(Spring)

CURRENT ISSUES IN AUSTRALIAN POLITICS

テリー , レス

国際センター講師 (ビクトリア工科大学文学部助教授)

Leslie Terry

Lecturer International Center (Senior Lecturer, Faculty of Arts, School of Social Sciences,
Victoria University of Technology)

Course Description:

This offering will explore the changing face of government in contemporary Australia. Students will be introduced to the basic structures and workings of this country's political culture, the nature of its political parties and lobby groups, as well as the key debates in current government policy. A major focus of this unit will be to highlight the impact of the recent shift from post-1945 social-welfare policies to market-driven forms of governance in the 1990s. Central to the course will be a discussion of the 'public' versus the 'private' forms of citizenship in Australia. Students will be introduced to a range of current debates around multiculturalism, innovations in education and changing industrial relations. The course will use a variety of sources including current material from the media to provide students with the opportunity to compare issues of governance in Australia and Japan.

Class Schedule per week:

- | | |
|---------|--|
| Week 1 | Lecture and discussion: Introduction <Articles> |
| Week 2 | Lecture and discussion: Key issues in Australian government <Articles, charts demographic material> |
| Week 3 | Video: <i>The Castles</i> or <i>The Bootman</i> : The Australian state in transition <Video> |
| Week 4 | Lecture/presentation: Governing the Australian citizen 1 (Social democracy) <Articles> |
| Week 5 | Lecture/presentation: Governing the Australian citizen 2 (Liberalism and Neo-Liberalism) <Readings, articles> |
| Week 6 | Lecture/presentation: Oppositional Social Movements and political parties <Readings, articles> |
| Week 7 | Film: <i>Looking for Alibrandi</i> : Governing Cultural identities and ethnic difference <Readings, articles> |
| Week 8 | Lecture/presentation: Multiculturalism and its future <Readings, articles> |
| Week 9 | Lecture/presentation: Managing the population: debates on the immigration (refugees, ageing population) <Articles, readings> |
| Week 10 | Lecture/presentation: Shaping the citizen: debates in education <Articles, readings> |
| Week 11 | Lecture/presentation: Changing working life in Australia <Readings, articles> |
| Week 12 | Lecture and discussion: Overview of the issues <Notes and readings> |
| Week 13 | Test and Evaluation |

Grading Methods:

Exam, Report, Attendance, Participation, Other

世界政治におけるラテンアメリカ

(春学期)(Spring)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

アントリネス , マリオ

国際センター講師

Mario Antolinez

Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

Text Books:

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

Reference Books:

Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.

Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.

Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.

Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.

Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.

Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.

Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.

Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.

Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.

Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.

Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.

Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.

Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.

Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

Class Schedule per week:

PART I

Session 1: Introduction

Session 2: The Actors

Session 3: The Inter-American System

Session 4: Latin American Integration and Association

Session 5: Economic Outlook

Session 6: International Relations

Session 7: Latin America and the United States

PART II

Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants

Session 9: Cuba: The Socialist Way

Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery

Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy

Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution

The Caribbean: Colonies and Micro-states

Session 13: Final Exam

Grading:

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

現代の国際問題と国連の役割

(春学期)(Spring)

CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS

マリク ,ラビンダー 国際センター講師 (元国連大学学長室長)

Rabinder N. Malik Lecturer, International Center (Former Executive Officer, Office of the Rector, United Nations University)

Sub-title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues.

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and problems and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course, which is suitable for students from all faculties, is to enable the students to gain a better understanding of the world around them and about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and to formulate their own well thought-out opinions based on facts. It should help enhance their trans-cultural literacy and competence and enable

them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world. Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English.

Text Books:

No specific text books. Photocopied handouts will be distributed as appropriate and relevant. Students will be encouraged to get into the habit of reading a daily newspaper or a weekly magazine and catch the news on radio and television so that they can participate actively and meaningfully in the discussion of contemporary issues. Group discussions and assignments will rely heavily on material obtained from such sources.

Reference Books:

- (1) Charter of the United Nations, UN, New York
 - (2) UN Millennium Declaration, Resolution 55/2, UN General Assembly, 55th Session, Sept. 2000
 - (3) A More Secure World: Our Shared Responsibility; Report of the High-Level Panel on Threats, Challenges and Change, UN, December 2004
 - (4) In Larger Freedom: Towards Development, Security and Human Rights for All, UN Secretary-General, April 2005
 - (5) Relevant publications, reports and documents issued by the United Nations and United Nations University
 - (6) Newspaper articles and journals related to the topics covered by the course
- (Some of the above documents can be accessed through the website <http://www.un.org>)

Class Schedule per week:

- Week 1:* INTRODUCTION TO THE COURSE AND OVERVIEW OF THE CURRENT GLOBAL SCENARIO
Week 2: GLOBAL INTERCONNECTEDNESS AND NEED FOR INTERNATIONAL COOPERATION
Week 3: THE UNITED NATIONS AND ITS ORGANS (UNITED NATIONS CHARTER)
Week 4: THE UNITED NATIONS AND ITS ORGANS (Continued)
Week 5: OTHER INTERNATIONAL AND REGIONAL ORGANIZATIONS
Week 6: INTERNATIONAL PEACE AND SECURITY
Week 7: SOCIAL AND ECONOMIC DEVELOPMENT (MILLENNIUM DEVELOPMENT GOALS)
Week 8: GLOBAL ENVIRONMENTAL SUSTAINABILITY
Week 9: HUMAN RIGHTS (UNIVERSAL DECLARATION OF HUMAN RIGHTS)
Week 10: WOMEN AND DEVELOPMENT
Week 11: AGING SOCIETY
Week 12: REFUGEES AND MIGRATION
Week 13: FINAL REPORTS AND EVALUATION

Message to those taking this Course:

This course is good for those who wish to improve their ability to communicate in English and be able to discuss about international issues with confidence. Regular attendance and active participation in the class discussions will be important. Students should do some prior reading or internet search on the topics under discussion as I would expect students to make comments, ask questions and speak freely in the class.

Grading Method:

- (1) There will be no examination but all students will be expected to write a final report based on readings, lectures and discussions covered during the period.
- (2) Participation in group discussions and individual assignments will also be considered in grading.
- (3) Attendance will be an important part of the consideration for grading.

Requests, Questions:

If students have any questions or problems in the course, they should feel free to talk to me before or after the class or send me an email at: rabindermalik@hotmail.com

I look forward to working with you this semester!

国際人権法

(春学期) (Spring)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer, International Center

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Subject of the class:

Students will study five different aspects of international human rights including:

- (1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.
- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub- Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human

- Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
- (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
 - (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
 - (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

The principal book:

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, International Human Rights: Law, Policy and Process (3rd ed. 2001) and supplement Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law

Assignments:

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 12: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 19: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 26: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 10: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights ?
- May 17: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 24: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable ?; Guest speaker, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- May 31: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding
Fact-Finding role play, or Guest Speaker to be announced
- Jun. 7: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries ?
- Jun. 14: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- Jun. 21: Chapter 12: European Human Rights System
- Jun. 28: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- Jul. 5: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- Jul.12: Questions & Answers for reviewing the exam

Comment on the Class:

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

Grading Policy:

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

Office Hours:

Wednesday, 1-3 p.m. or by appointment

アフリカン イシューズ : アフリカにおける近代と危機の意味

(春学期)(Spring)

AFRICAN ISSUES

近藤英俊

国際センター講師 (関西外国語大学助教授)

Hidetoshi Kondo

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Sub Title:

The Challenge of Communities — Beyond Postcolonial Situation

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on problems and possibilities associated with communities in contemporary Africa. From political conflicts to development projects, many of social issues seem to have increasingly been revolving around communities in Africa over the last few decades. The saliency of communities seems to have much to do with so called postcolonial situation in which the decline of state power has contributed to the activation of various communal ties and there exists complex flow of plural cultures and identities. But communities here does not necessarily subscribe to the conventional view of closed social groups. They harbour contradictory features: some are fluid, ephemeral and borderless while others are exclusive, sustainable and concerned with boundary.

Using wide range of academic disciplines, we will examine: (1) theoretical issues on communities, (2) the features of communities and their changes in the light of postcolonial situation in Africa, (3) relationships between conflicts and communities, and (4) relationships between development and communities. The course attempts to highlight not only despair but also hope that African communities promise.

Text Books:

Texts will be distributed in due course.

Reference Books:

References will be suggested in due course. However the following will be included:

1. Trager, L. 2001 *Yoruba Hometowns*. Linne Tienner
2. 野元美佐 2005 『アフリカ都市の民族誌』 明石書店
3. 松田素二 1996 『都市を飼ひ慣らす』 河出書房新社
4. Kondo, H. 2003. 'Illness in Between'. *Japanese Review of Cultural Anthropology* 4

Class Schedule:

- I. Introduction: Communities in Postcolonial Africa (1 session)
- II. The Making and Unmaking of Communities (4 sessions)
 1. Communities without Boundary
 2. Invention of Kingdom
 3. Plural and Shifting Identities
- III. Conflicts, Identity Politics and Communities (4 sessions)
 1. Instrumental Ethnicity vs Cultural Tradition
 2. Politics over Autochthony
 3. Religious Fundamentalism and the Youth
 4. Crises of Trust and Identities
- IV. Development and Communities (4 sessions)
 1. Voluntary and Saving Associations
 2. Elite and Local Development
 3. International Organizations, State and Communities in the arena of Development

Message to those taking this Course:

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course!

Grading Methods:

Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(春学期)(Spring)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン , ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

Text Books:

- Leading the Revolution by Gary Hamel
- Supplementary Reading Materials and Case Studies
- Additional Book To Be Assigned

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

Class Schedule per week:

- List of Topics:
 - Introduction: Time of Change & Innovation
 - Trends In International Business Leadership /and Strategy

- Encouraging Ideas / Innovation
- What to Do About Decaying Strategy
- How to Become A Global Innovator
- New Market Expansion and Entry
- U.S. ,China, Thailand, Japan
- Global Leaders/Global Partnerships
- A look at Global Leaders
- Global Companies/Working Overseas
- Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
- Creativity in Leadership
- Future of International Business

Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Grading:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

現代ロシア研究

(春学期)(Spring)

UNDERSTANDING RUSSIA

ナコルチェフスキー , アンドリイ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

The main purpose of this course is an attempt to understand contemporary Russia, to understand people who live in this still somewhat enigmatic land in the context of its own history of contacts with other nations. This course will not be a standard course in history and culture. We will talk more about things which usually remain unsaid in academic papers — about how average Russians live, what they like and dislike, what they value and what they hate. We will try to comprehend a legendary “enigmatic soul” of Russians, to enter their inner world and look at it from within. We will also discuss general features of unique Russian civilization developed geographically and culturally between East and West. We will try to understand Russia escaping any distortions as best we can, using a lot of video materials as illustrations and sometimes as a base for discussion.

What does it mean to be a Russian ? This will be the main question to which we will try to find an answer during these classes.

Class Schedule:

1. Introduction
2. The starting point of Russian history: the problem of Kievan Rus heritage
3. Orthodox Christianity: its origin and role in Russian history
4. Traditional Moscovia and imperial Russia: choices of Alexander Nevski and Peter The Great
5. Russia and Europe: Slaphophiles and Westernisers
6. Ukraine: the alternative model of development
7. Russian classical literature: main features and ideas
8. Russian Idea: utopia or self-indulgence
9. 19th century failed modernization and 1917 Revolution
10. New empire: the socialist experiment
11. Perestroika: new possibilities or disaster ?
12. Future of Russia in a geopolitical perspective

Grading Methods:

Presentation and participation

AMERICAN STUDIES

ウィリアムス, ムケーシュ 国際センター講師

Mukesh K. Williams Lecturer International Center

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

Course Outline: The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: 'Old' and 'New' immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock'n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865-1917); Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920-2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war on terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and evolving nations of national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

- a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world? And how do people from other nations think about America? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization*; radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
- b) How is space constructed in the lives of individuals in America? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S.? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
- c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America? (Clifford Geertz and others)
- d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
- e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy?
- f) Is the rise of the modern West a pure or impure concept? (Chris Bayly and Bernal)

Aims: The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

Text Books:

<TEXTBOOK> Howard Zinn, *A People's History of the United States 1492-Present (Perennial Classics)*, (New York: Harper Perennial, 2003); Price 12.89 USD.

<REFERENCE BOOK> David Colbert ed., *Eyewitness o America: 500 Years of American History in the Words of Those Who Saw it Happen*, (New York: Vintage, 1998); Price 12.21 USD.

Reference Book:

Short selections from the following books and essays:

Richard J. Bernstein, *Radical Evil: A Philosophical Interrogation*, (Cambridge: Polity Press, 2002)

The New Constellation: Ethical-Political Horizons of Modernity/Postmodernity, rpt., 1998; (Cambridge, Massachusetts: The MIT Press, 1992).

Julia Kristeva, *Nations Without Nationalism*, (New York: Columbia University Press, 1993)

Samuel Huntington, *The Clash of Civilization and the Remaking of World Order*, (New York: Touchstone, 1997).

Clifford Geertz, *The Interpretation of Culture*, (New York: Basic Books: 1973).

Available Light: Anthropological Reflections on Philosophical Topics, (Princeton: Princeton University Press, 2000).

Todd Gitlin, *The Twilight of Common Dreams: Why America is Wracked By Culture Wars*, New York: Henry Holt & Company, 1995).

David A. Hollinger, *Postethnic America*, (New York: Basic Books, 1995).

Giles Gunn, "Introduction: Globalizing Literary Studies," *The Modern Language Association of America*, 2001, pp. 16-31.

Rober Young, *White Mythologies: Writing History and the West*, rpt 2003; (London: Routledge, 1990).

Tzvetan Todorov, *The Conquest of America: The Question of the Other*, (Norman: The University of Oklahoma Press, 1999).

Stuart Hall, *Representation: Cultural Representations and Signifying Practices*, (London: Sage, 1997).

David Reisman, *The Lonely Crowd*, (New Haven: Yale University Press, 2001).

Werner Sollors ed., *Theories of Ethnicity: A Classical Reader*, (London: Macmillan Press, Ltd., 1996).

Charles Taylor, *Multiculturalism: Examining the Politics of Recognition*, (Princeton: Princeton University Press, 1994).

Class Schedule per week:

- 1st Week: Shopping
- 2nd Week: Introduction to the course, handouts, a short reading list; Imagining the nation—European and Native American ideas. Extract from Todorov's *The Conquest of America*; Sollors, *Theories of Ethnicity*; de Tocqueville, *Democracy in America*,
- 3rd Week: 3 Worlds Meet—Europe, West Africa and Native Indian—Video Script. Disney imagining Pocahontas—multicultural, racial (anti-British and anti-Indian) and feminist issues
- 4th Week: Immigration and Cultural Change, video; OMD Directive 15. Immigrant writers such as Saul Bellow/Malamud Isaac Singer/Anzia Yezzeriska, Toshio Mori, Hisaye Yamamoto, John Okada, Jhumpa Lahiri, Amy Tan et. al. Handout: Giles Gunn, "Globalizing Literary Studies."
- 5th Week: A brief discussion of topics of presentation such as European pioneers, Native American concept of land/music/family life/politics, immigrants/ multiculturalism/working class life in big cities (Reisman, *The Lonely Crowd*); personal is political, civil rights movement—Malcolm X/Martin Luther King/FBI; Japanese Americans/Internment camps/loyalties etc. Choose topics for presentation.
- 6th Week: Make small groups (about 2/3 students) to discuss presentation topics followed by question-and-answer discussion session. Summing up—representation of social and political reality. Create a format for presentation/outline.
- 7th Week: World Wars I and II/Postwar America. Extracts from Gitlin and Hollinger; Show all three videos (if time permits).
- 8th Week: Readings from speeches of Malcolm X and Martin Luther King Jr., A discussion of Harlem and the First Abyssinian Church, New York; Handout from Stuart Hall, *Representation*; Taylor and Appiah, *Multiculturalism*.
- 9th Week: American Foreign Policy: Show video US and the World (1865-1917); extract from Huntington's *The Clash of Civilization*.
- 10th Week: Henry Kissinger and others on American Foreign Policy
- 11th Week: End-Semester Presentation and 4-page final report
- 12th Week: End-Semester Presentation and 4-page final report
- 13th Week: End-Semester Presentation for latecomers/course evaluation

Message to those taking this Course:

Please read the handouts and textual material at home so that you are better prepared to discuss topics in class more enthusiastically and creatively.

Grading Methods:

1. End-Semester Class research-based presentation in class (60% credit)
2. End-semester 4-page report on the topic chosen for presentation (20 % credit), homework based on the text/supplementary material (10% credit)
3. Attendance, Participation 10 % credit

現代中国社会

(春学期) (Spring)

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

ファーラー, グラシア

国際センター講師

Gracia Liu Farrer

Lecturer, International Center

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. This class covers topics such as regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal

and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

Text Books:

Wenfang Tang and William L. Parish.2000. *Chinese Urban Life under Reform: The Changing Social Contract*. University of California Press.

Deborah Davis.2002. *The Consumer Revolution in Urban China*. University of California Press.

Electronic copies of *China Quarterly*, *Journal of Contemporary China*, and other social science journals that would be sent to student via email.

Reference Books:

Solinger, Dorothy J. 1999. *Contesting Citizenship in Urban China: Peasant Migrants, the State, and the Logic of the Market*. Berkeley: University of California Press.

Class Schedule per week:

Week 1. Class Orientation

1. Introduction of the course
2. Collect topics of interests
3. Brief introduction of pre-1949 Chinese history

Week 2. Mao, social movements and the transformation of Chinese society- overview of China between 1949-1978

1. Brief review of the political campaigns and social changes that transformed the Chinese society in the 1950s,1960s and 1970s
2. The rural and urban divide
3. Social mobility

Week 3/4. The State and Society in Post-Reform China

1. The changing social structure: 1978 to present
2. The work-unit system and the organized dependency
3. The rise of the individual and the decline of collectivism

Week 5/6. Reforms and Urban Social Change

1. The impacts of market economy on urban space
2. Growth and unemployment
3. Changing patterns of consumption

Week 7. Mid-term

Week 8. The plight of Rural Population

1. Economic restructuring and rural poverty
2. The development of rural economy
3. The problem of social welfare

Week 9. The Internal Rural Urban Migration

1. The floating population and the social problems

Week 10. Women in Post-reform China

1. Women and Urban Socio-Economic Change
2. Women in Rural Development

Week 11. Family Planning and One Child Policy

Week 12. The Changing Popular Culture

Week 13. Out-migration and Transnationalism

Grading Methods:

1. Exam: One mid-term exam 25% and one final exam 25%
2. Reports: One 10-page research paper on one specific issue area covered in the course. 25%
3. Class Participation : 25%

ドイツ文化と社会

(秋学期)(Fall)

GERMAN CULTURE AND SOCIETY

ワニェク, ヤクリーン

国際センター講師

Jacqueline Waniek

Lecturer International Center

Sub Title:

Introduction to German culture, educational and political system, and historical challenges

Course Description:

The objective of this course is an introduction to the history, social, political and educational systems of Germany. Emphasis will be placed on

contemporary public issues such as the German reunification, Germany's role in the international community and Germany's aging society. By means of discussions, lectures, reading, writing and class presentations, students will reflect the German national character with that of contemporary Japanese.

Text Books:

O'Dochartaigh, P. (2004). *Germany Since 1945 (Studies in Contemporary History)*. New York: Palgrave Macmillan.
<http://www.deutschland.de/home.php>

Reference Books:

Flippo, H. (2002). *When in Germany, Do as the Germans Do*. McGraw-Hill

Class Schedule per week:

1. Introduction
 2. Demographic data, geography, climate
 3. History of Germany
 4. Challenges through German reunification
 5. Germany and Europe
 6. Social structure
 7. Demographic changes
 8. Political System
 9. Educational System
 10. Science and Technology
 11. Culture and Traditions 1
 12. Culture and Traditions 2
- Final class

Message to those taking this Course:

Students are strongly encouraged to contribute to the class by active participation in group work, and discussions.

Grading Methods:

1. Exam (Final Exam 30%)
2. Reports (none)
3. Attendance, Participation (regular attendance 50%)
4. Other (group project presentation 20%)

比較映画論:映画における歴史の表象

(秋学期)(Fall)

VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM

エインジ, マイケル W.

経済学部助教授

Michael W. Ainge

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of various styles of representing history on film, including American forms such as Hollywood Historical Drama and Documentary, as well as other styles from other countries. Close readings of historical texts and of the filmed versions of those events will provide a window into the strengths and limitations of both media. We will consider whether representing the historical past on film necessitates simplification, distortion and/or falsification of the facts? How about the case of post-colonial societies struggling to retrieve lost or obscured histories? How does film effect memory, both collective and personal? These and other questions will constitute the core of our discussions.

Text Books:

Readings on the periods and/or episodes depicted in the films, as well as on the historical film. Copies will be distributed in class

Class Schedule per week:

Unit & Dates	Topic(s)Film Title	Readings
1. Sept.25	Introduction: Representing History in Text and on Film	
2. Oct.2-16	Hollywood Styles I: The Documentary	<i>Hearts & Minds</i> (ハーツ・アンド・マインズ)(USA, 1975)
3. Oct.23-30	Hollywood Styles II: The Historical Drama	<i>The Last Samurai</i> (ラスト・サムライ)(USA, 2003)
4. Nov.6-13	Non-Hollywood Styles I: Tropicalism	<i>Quilombo</i> (キロンボ)(Brazil, 1984)
5. Nov.27-Dec.4	Non-Hollywood Styles II: Griot	<i>Ceddo</i> (チェド)(Senegal, 1978)
6. Dec.11-18	Anti-Hollywood Styles I: Post-modernism	<i>Walker</i> (ウォーカー)(UK, 1987)
7. Jan.8-15	Anti-Hollywood Styles II: Personal Essay	<i>Sans Soleil</i> (サン・ソレイユ)(France, 1982)

Grading Methods:

1. Reports (**Short essays, 10%; Final Paper 50%**)
2. Attendance, Participation (**40%**)

Course Description:

[HTTP:// WWW.SFC.KEIO.AC.JP/SOUTHAFRICA/](http://www.sfc.keio.ac.jp/southafrica/)

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturnomics” was coined to define how various intellectual disciplines need to combine in order to offer a fuller world view. This is course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

The course will focus the geo-political area of southern Africa, and the issues that such regions face as they plan seek to integrate their local economies and to connect to the “global village.” Speakers from the various embassies of the S.A.D.C. group will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa's Development a major part of its international policy. Two years ago at the third Tokyo International Conference on African Development Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. This government interest has led to a variety of efforts to make the connections between southern Africa and Japan more multi-dimensional, and include both large-scale and small scale investment, tourism and educational connections and N.G.O. endeavors. (http://www.ajf.gr.jp/old/english/ajf_update.htm)

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their focus country and Japan. As a final project, each group will present a tentative plan to further develop the connections between Japan and their research country.

Class schedule per week:

- Class 1: Introduction and Organization (all students planning to register must choose a study group on this day.)
- Class 2: A Short History of Africa / form country research groups
- Class 3: The economic consequences of Colonialism in Africa
- Class 4: TICAD / Japanese aid and large-scale investment projects – their value and impact in S.A.D.C.
- Class 5: Japan/ Africa tourism eco and main-stream / cultural and economic impact
- Class 6: mid-term, project check
- Class 7: Alternative models of small-scale investment (crafts and culture as export items)
- Class 8: N.G.O.s / education and other “cultural” contacts as components of Japan / Africa economic ties
- Class 9: Symposium prep
- Class 10: Evaluation of the symposium and some thoughts for the future
- Class 11-13 student presentations and final paper

Grading:

As this is a lecture class attendance will be an important part of the grade. If a student is absent for 3 classes without an official excuse his/her grade will be lowered one level. If more than 4 class are missed, the student cannot pass the class. Along with the group work and presentation, each student will be expected to hand in a 3-4 page paper (single space, 12pt font separate bibliography) on the last day of class. The paper will focus on one aspect of Japan/Africa relations covered in the course.

Resources:

Although there is no text, the following sites are required “surfing” for all students

<http://www.gca-cma.org/>

<http://www.southafrica.info/>

<http://allafrica.com/>

<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm> * this site is required viewing before the second meeting!

African Health Resources

<http://www.sul.stanford.edu/depts/ssrg/africa/health.html>

[HTTP://WWW.LOVELIFE.CH/STOPAIDS.PHP](http://WWW.LOVELIFE.CH/STOPAIDS.PHP)

[HTTP://WWW.MALIDOMA.COM/MALIDOMA/](http://WWW.MALIDOMA.COM/MALIDOMA/)

SADC Symposium 2005

<http://sadcsympo.sfc.keio.ac.jp/>

Note:

The exact schedule of speakers and participating embassies will be announced at the first class.

カナダという国とカナダの国際的な役割

(秋学期)(Fall)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローリーズ, ジェームズ

国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Sub Title:

Canada's Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

Text Books:

None, will be using handouts

Reference Books:

None, will be using handouts

Class Schedule per week:

1. Introduction to Canada/What are Your Impressions of Canada ?
2. Canada's International Reputation and Role
3. Canadian Politics
4. Decentralized Canada
5. Canadian History
6. Contemporary Canada
7. The Canadian Economy
8. Canadian Business
9. Canadian Society
10. Comparisons Between Canada, Japan and America
11. About First Nations/Inuit People
12. About Canadian Culture- Multi-culturalism
13. Quebec
14. Prepare for Reports

Message to those taking this Course:

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada, please consider taking this course.

Grading Methods:

1. Reports (A five page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Cultures)
2. Attendance, Participation

文化・文化適応とアイデンティティ

(秋学期)(Fall)

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

横川真理子

国際センター講師

Mariko Muro Yokokawa

Lecturer, International Center

Sub Title:

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響

How communication and understanding are affected by culture

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do role plays, as well as do presentations on ethnographic studies of their choice. The instructor will provide basic guidelines on how to conduct ethnographic (observational) research.

Text Books:

Text to be announced . Other materials to be handed out in class.

Reference Books:

- Faith Edise and Nina Sichel (Eds.). *Unrooted Childhoods: Memoirs of Growing up Global*. Intercultural Press, 2004.
 Richard Brislin and Tomoko Yoshida. *Intercultural Communication Training: An Introduction*. Sage Publications, Inc., 1994.
 Ruth Van Reken and David Pollock. *The Third Culture Kid Experience*. Intercultural Press, 2001.

Class Schedule per week:

1. Introduction: What is culture? Cultures, subcultures, values, and culture learning
2. Truth or belief? Beliefs, faiths, and differences in values
3. What's happening to me?—Models of cultural adjustment
4. How do I deal with this?—Culture shock and coping
5. Who am I? Where do I come from? Culture and Identity. TCK and Global Nomad Identity (2 sessions)
6. Is this really home? Re-entry, re-learning culture, and re-defining identity (Case of returnees)
7. Am I what I speak? Language, culture, and identity (Sapir/Whorf; BICS/CALP hypotheses)
8. Presentations on ethnographic studies (3-4 sessions depending on enrollment)
9. Analysis of critical incidents and role plays

Message to those taking this Course:

Japanese returnees and international students are both welcome. The instructor is herself a returnee and Global Nomad educated at international schools in Afghanistan and Egypt, and has done her doctoral research on Japanese children abroad. Active participation and contribution by the students is crucial.

Grading Methods:

1. Reports (Ethnographic Study)
2. Attendance, Participation (Prompt arrival, full attendance, and active participation obligatory)
3. Other (Presentations and comments on presentations)

Questions, Requests:

Students are encouraged to ask questions during class, as this generates good discussions.

 国際関係

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL RELATIONS

セット, アフターブ

Aftab Seth

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授

Professor, Keio University Global Security Research Center

Sub Title:

Public Speaking / Debate / Art of Conversation, etc.

Course Description:

The course will seek to expose students to the multidimensional nature of international interaction – including debate and literature

1. The course will focus on the importance of communication in the conduct of international relations at all levels; governments, NGOs, Multi-National Corporations, multilateral organizations and at the level of artists, journalists and academicians.
2. The course will include the art of public speaking, social intercourse, the technique of debate, the appreciation of poetry and literature and the importance of a multicultural approach to international affairs.
3. The course will be designed as an interactive one with students, encouraged to actively participating in all the activities described in the preceding paragraph.

Text Books:

None

Reference Books:

None

Class Schedule per week:

1. Communication in its various aspects – an overview
2. The art of conversation
3. Negotiation – its techniques and strategies
4. Debate – its forms and techniques
5. Drama as a vehicle of views
6. Music as communication
7. Art as a universal communicator
8. Poetry – appreciation, recitation, as communication
9. Silence – its uses as communication
10. Inter-cultural communication – the pitfalls and rewards
11. A diplomat as a communicator
12. A politician as a communicator
13. Examination

Message to those taking this Course:

Those interested in learning about communication may attend.

Grading Methods:

1. Exam(in class exam)
2. Attendance, Participasion

開発と社会変容

(秋学期)(Fall)

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

倉沢 愛子

経済学部教授

Aiko Kurasawa

Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness ? Critical analysis and evaluation are most welcome.

Text Books:

give you hand-out

Reference Books:

倉沢愛子 『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社 2001年

Class Schedule per week:

- (1) Introduction on Indonesia
- (2) Suharto's development policy and foreign aid (national level analysis)
- (3) Development policy in economic sector
- (4) Development policy in health sector (2 times)
- (5) Development policy in education
- (6) Neighborhood Association and Control of people
- (7) Increased flow of Information
- (8) Strengthening of Muslim belief (2 times)
- (9) Emergence of new urban middle class
- (10) Globalization and flow of pop culture
- (11) Definition of "prosperity"

Message to those taking this Course:

Read several books on developing countries in Southeast Asia

Grading Methods:

Reports (4-5 pages (A4) of essay), Attendance,Participasion (requires 70% attendance)

アジア諸国におけるビジネスマネジメント

(秋学期)(Fall)

BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

トビン , ロバート I.

商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case studies and research assignments.

Text Books:

Text TBA

Additional assigned articles, case studies and supplementary readings

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

Class Schedule per week:

Introduction
 How to Succeed in Asian Markets
 Asian Market Leaders
 Hybrid Management Styles
 Leading Foreign Firms Successfully
 Local Company and Country Trends
 Country Information Presentations
 Pan-Asia Strategy
 Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Style
 Political and Economic Risks in Asia
 Executive Development and HR
 Challenges in Asia
 Competition with Family Businesses
 Business in Frontier Markets
 Company Presentations
 Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries in this region. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

Evaluations:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.
 Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

 国際開発協力論

(秋学期)(Fall)

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

後藤一美

国際センター講師 (法政大学教授)

Kazumi Goto

Lecturer, International Center, (Professor of International Cooperation, Faculty of Law, Hosei University)

Course description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Text Books:

Textbook is not used in particular. Resume and list of reading materials will be available during the course and via e-mail.

Reference Books:

- David Arase, Japan's Development Aid: An International Comparison (Contemporary Japan), Routledge, 2005.
 - David Arase (ed.), Japan's Foreign Aid: Old Continuities and New Directions, Routledge, 2005.
 - Ramesh Thakur, Andrew F. Cooper, John English (eds.), International Commissions and the Power of Ideas, United Nations University Press, 2005.
- Anthony Payne, Global Politics Of Unequal Development, Palgrave Macmillan, 2005.
- Jeffrey D. Sachs, The End Of Poverty: Economic Possibilities for Our time, The Earth Institute: Columbia University, 2005.

- Report of the UN Secretary-General, In Larger Freedom: Towards Development, Security and Human Rights for All, United Nations, 2005. <<http://www.un.org/largerfreedom/>>
- Report of the UN Millennium Project (Jeffrey D. Sachs, Director), Investing in Development: A Practical Plan to Achieve the Millennium Development Goals, United Nations, 2005. <<http://www.unmillenniumproject.org/>>
- Report of the Secretary-General's High-level Panel, A More Secure World: Our Shared Responsibility, Department of Public Information, United Nations, 2004. <<http://www.un.org/secureworld/>>
- Margaret P. Karns, Karen A. Mingst, International Organizations: The Politics and Processes of Global Governance, Lynne Rienner Pub, 2004.
- Michael Edwards, Future Positive: International Cooperation in the 21st Century, Stylus Pub Llc, 2004.
- John Keane, Global Civil Society ?, Cambridge University Press, 2003.
- Akitoshi Miyashita, Limits to Power: Asymmetric Dependence and Japanese Foreign Aid Policy, Rowman & Littlefield Pub Inc, 2003.
- John Degenbol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, Aid: Understanding International Development Cooperation, Palgrave-Macmillan, 2003.
- Finn Tarp, Foreign Aid and Development: Lessons Learned and Directions for the Future (Routledge Studies in Development Economics), Routledge, 2000.
- 後藤一美・大野泉・渡辺利夫 (編著) 『日本の国際開発協力』 <シリーズ国際開発: 第4巻> 日本評論社, 2005年。
- 後藤一美 (監修) 『国際協力用語集』 <第3版>, 国際開発ジャーナル社, 2004年。

Class Schedule per week:

- 第1回: Orientation
- 第2回~第3回: Introduction to international development cooperation
- 第4回~第6回: Major issues (Part 1: Theory)
- 第7回~第9回: Major issues (Part 2: Practice)
- 第10回~第12回: Major issues (Part 3: Actor)
- 第13回: Prospects of international development cooperation

Message to those taking this Course:

Active participation in class discussions is required.

Grading Methods:

Some short essays are requested to be submitted during the course. Evaluation will be made, based on the final report (five pages of A4 size) submitted at the end of the course, with the following criteria: originality; logic; and persuasiveness.

Questions, Requests:

Should you have any inquiries, feel free to contact with the following address:<k-goto@i.hosei.ac.jp>

現代インド事情
INDIA TODAY

西村祐子

Yuko Nishimura

セツ, アフターブ

Aftab Seth

国際センター講師 (駒澤大学教授)

Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授

Professor, Keio University Global Security Research Center

(秋学期)(Fall)

Sub Title:

The Indian Middle Class : Where are they from and where are they going ?

Course Description:

This course is aimed at describing India through the eye of 'the middle class': In this course, participants will learn where India's new middle class come from, how they are different from the 'traditional middle class'. How globalization influences Indian new middle class, etc. We will study caste, class, kinship, and gender from the post-modern perspective. We will learn the cultural difference between the North and the South, similarities and differences between Indian middle class and other Asian counterparts. We will also cover issues surrounding 'dowry' problems in India. We will discuss these issues in the class and students are encouraged to study issues from cross-cultural perspective. Essay writing and discussion will also focus on understanding the modernity and Asia.

Textbooks:

Appadurai, A. 1996 Modernity at Large, Univ. of Minnesota Press.

Das, G. 2002 India Unbound, Oxford Univ. Press. (In the class, a few websites will be also suggested).

Reference Books:

J. Nehru 1946 The Discovery of India, Oxford Univ. Press.

Varma, P. 1996 The Great Indian Middle Class, Penguin Books.

Y. Nishimura 1998 Gender, Kinship, and Womanhood in South India, Oxford Univ. Press.

Breckenridge, C. 1995 Consuming Modernity, Univ. of Minnesota.

Robinson, R. & Goodman, D. 1996 The New Rich in Asia, Routledge.

Class Schedule per week (The order of topics may change):

Each class will have 60-minute-lecture and 30-minute-discussion.

1. Introduction to India Today: What is Modernity ?
2. British Raj and the appearance of India's middle class.
3. Brahma Samaj and Arya Samaj: the West and the Other
4. Emergence of the Independence Movement and the Middle Class: What is the Congress ?
5. The Middle Class in Power: Industrialization and India
6. Kinship and Marriage: What is Kulinism ? Emergence of 'Dowry'
7. Family Law and Gender : Property Rights, Dowry, and Marriage in Post colonial India
8. Shar Bano and Nisha Sharma : Women, property rights, Marriage, and Divorce.
9. Migrating Indians: Case Study of Kerala.
10. Economic Liberation and the 'New Middle class' : who are they ?
11. The Middle Class women vs. Working Class Women: what is the difference ?
12. Modernity and the New Middle Class in Asia: People and Migration.
13. Epilogue: Globalization and the Indians : Can the New Middle Class save India ?

Message to those taking this Course:

You will be asked to do three short reports during the session (about 1000 words each), and a 3000 word final report at the end of the course. You may participate in a trip to South India in mid Feb. for 2 weeks (this is not part of the course work and is completely optional).

Grading Methods:

Reports (60%)

Attendance, Participasion (40%)

Questions, Requests:

Please ask questions during the discussion. Or if you have further questions, you may email: yukon@b1b2.org (you must mention your name and student ID in the subject column. Otherwise, my 'spam' filter may delete your message before I see it).

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS

(秋学期)(Fall)

嘉治 佐保子

経済学部教授

Kaji, Sahoko

Professor, Faculty of Economics

林 秀毅

経済学部非常勤講師

Hayashi, Hideki

Part-time Lecturer, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, with emphasis on the economic aspects. Each lecture will be based on different chapters of Gilson (2000) and additional materials as necessary. Powerpoint will be used for exposition. Students are expected to participate actively with questions and comments.

At the end of each lecture, the topic to be discussed the following week will be announced. A set of questions related to that topic will also be given out. Students must write a report on one of the questions and submit it at the beginning of the next lecture. By writing this weekly report, students are to familiarise themselves with the next topic before coming to the lecture.

Text Books:

Julie Gilson, (2000) 'Japan and the European Union. A Partnership for the Twenty-First Century', Palgrave Macmillan, 2000. (Several Copies of the text are on reserve at the library.)

For lighter reading, students can turn to Kaji, Hama and Rice (1999) "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books.

References:

Kaji, Hama and Rice, "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books, 1999.

Class Schedule (Subject to change):

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)
- Chapter 2 Developing Cooperation 1950s - 80s (2)
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan (3, 4)
- Chapter 4 European Integration and Changing Views of Japan (5, 6)
- Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7, 8)
- Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (9, 10)
- Chapter 7 Addressing Global Agendas (11, 12)
- Chapter 8 Conclusions: A partnership for the Twenty-first Century (13)

Message to Those Taking This Course:

Knowledge of other European languages is welcome, but not essential.

Evaluation:

End-of-term essay (on any related topic), weekly reports, class participation.

Questions and consultation:

Anytime during the class, also by e-mail.

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

ルイス, ジョナサン 商学部非常勤講師 (一橋大学助教授)

Jonathan Lewis

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

Course Description:

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It focuses the roles of the states, in promoting and regulating scientific research and technological development.

In previous years I have talked in Japanese for the first half of each class and English for the second half, but will adjust this to fit students preferences.

Reference Books:

- Mani, S. (2002). Government, innovation, and technology policy: an international comparative analysis. Cheltenham, UK; Northampton, MA, Edward Elger Pub.
- Rogers, E. M. (2003). Diffusion of innovations. New York, Free Press.
- Neufeld, M. J. (1995). The rocket and the reich; Peenemünde and the coming of the ballistic missile era. New York, Free Press.
- Dyson, G. (2001). Project Orion: the true story of the atomic spaceship. New York, Henry Holt and Co.
- McCurdy, H. E. (1990). The space station decision: incremental politics and technological choice. Baltimore, Johns Hopkins University Press.
- Broad, W. J. (1997). The universe below: discovering the secrets of the deep sea. New York, Simon & Schuster.
- 加藤弘一 著 『 電腦社会の日本語 』 文春新書 , 2000
- Lessig, L. (2004). Free culture: how big media uses technology and the law to lock down culture and control creativity. New York, Penguin Press.
- Weber, S. (2004). The success of open source. Cambridge, MA, Harvard University Press.
- Thomas, D. (2002). Hacker culture. Minneapolis, University of Minnesota Press.
- Etzkowitz, H. (2002). MIT and the rise of entrepreneurial science. London; New York, Routledge.

Class Schedule per week:

1. オリエンテーション
2. 技術政策の概要
3. イノベーションと技術普及論
4. 宇宙ロケットの開発史
5. プロジェクト・オライオン (原子力ロケット)
6. 国際宇宙ステーション
7. 海洋研究
8. 規格の役割。文字コードを例に
9. 著作権制度
10. オープン・ソース・ソフトウェア
11. コンピュータセキュリティ
12. 科学技術政策と大学
13. まとめ

Evaluation:

授業内試験の結果による評価 (in-class examination)

Inquiries:

jonathan_lewis@mac.com

Sub title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

Recommended Readings:

Japanese culture and behavior: selected readings by Takie Lebra & William Lebra

Japanese patterns of behavior by Takie Sugiyama Leba

An introduction to intercultural communication by John C. Condon & Fathi Yousef

Intercultural communication :a reader (6th edition) by L.A.Samovar & R.E.Peter

Class Schedule:

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. Amae psychology: prototype of Amae and definition of Amae
7. How Amae psychology and an emphasis on Wa gets translated into Japanese communication patterns: Sasshi, Enryo and Honne vs. Tatamae
8. How to overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of Sunao and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2 and Wrap-up

Message to Those Taking This Course:

You are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

To be based on the combination of Reports and Attendance and Class participation including oral presentation.

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and

the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

Format:

Lectures supplemented by visual materials including extracts from Hollywood films and contemporary television news coverage. Students who are unsure of their English comprehension should feel free to record the lectures or ask questions in Japanese.

Readings:

No textbook is used. A general bibliography of influential foreign writing on Japan will be distributed. Significant writing pertaining to each topic will be introduced and discussed in the lectures.

Lecture Topics:

Because the instructor encourages student comment and discussion and because topics of special interest may appear in the foreign media during the term, the number of sessions and the specific topic for each session may vary somewhat from the list below.

- 1 Japan ? Who's Japan ? When ? Where ?
- 2 Cool Japan(1) - Japanese Pop Culture in Europe and America
- 3 Cool Japan(2) - Japanese Pop Culture in Europe and America
- 4 Cruel Japan(1) - The Legacy of War in America and Asia
- 5 Cruel Japan(2) -The Legacy of War in America and Asia
- 6 Sick Japan -Japanese Social Problems Seen from Afar
- 7 Concrete Japan - The Japanese Natural Environment
- 8 Gung Ho Japan - Japan as Number One
- 9 Frightening Japan -The Rising Sun Threatens America
- 10 Sexy Japan - Japanese Women and Sex in the Foreign Imagination
- 11 Sneaky Japan(1) - Pearl Harbor and Its Legacy
- 12 Sneaky Japan(2) -Pearl Harbor and Its Legacy
- 13 Japan ? - Where is the Real Japan ?

Grading and Required Work:

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of something foreign. There will be a final examination for the course based on the lectures. In principle the paper (report) and final examination are each weighted fifty percent but in the case of students who miss lectures because of job hunting or those with special language problems, a different weighting may be agreed upon in consultation with the instructor. The examination will be based on the lectures, video materials, and handouts. Students will be free to consult their notes or copies of the handouts during the examination. Electronic and paper dictionaries are also permitted.

Course home page:

<http://www2.gol.com/users/ehk/keio>

Email for the instructor:

ehk@gol.com or e_kinmonth@mail.tais.ac.jp

源氏物語への道

(春学期)(Spring)

THE TRAIL OF GENJI

アーマー , アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

Course Description:

Written a thousand years ago, *The Tale of Genji* has won international fame as "the world's first novel". Partly because of this distinction, it is apt to be viewed as an isolated phenomenon, almost an aberration. In an attempt to correct such a perspective, this course will trace the roots of this Heian masterpiece, introducing the major extant works that preceded it. The focus is on literature, but political and cultural developments will also be covered in order to throw light on the historical background and mental atmosphere of the period.

Text Books:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/genji.htm).

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;

4. Appreciate the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Message to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is an advantage.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

日本の経営

(春学期)(Spring)

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS

梅津光弘

商学部助教授

Mitsuhiro Umezu

Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Texts:

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

Recommended Reading:

TBA

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2: Environment
13. Final Exam.

Message to Those Taking This Course:

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

Evaluation:

Mid-Term Examination (TBA) 30%, Final Exam/ Project (TBA) 40%, Class Participation 20%, Home work 10%

手塚千鶴子
Chizuko Tezuka

国際センター教授
Professor, International Center

Sub title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

Text Book:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

Conflict in Japan edited by Ellis Krauss, Thomas Rohren, and Patricia G. Steinhoff, University of Hawaii Press, 1990.

Japanese Culture and Society: model of interpretation edited by Kreiner and Olscheleger, Monographien 12, Deutschen Institute fur Japanstudien der Philipp-Franz-von-Siebold-Stiftung, 1996.

Das Wesen von Naikan: the essence of NAIKAN 内観の本質 edited by Prof. Akira Ishii/Shaku Yoko JOseh Hartl (Hrsg.), altes Wissen, neue Wege, 2000. (a book in German, English and Japanese)

Class schedule:

1. Orientation and test-taking on conflict management style
2. Harmony Model vs. Conflict Model of Japanese Society and orientation to writing conflict episode journal
3. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools 1
4. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools 2
5. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: *Karoushi* and *Gaman*
6. Japanese cultural values underlying non-confrontational strategies
7. How Japanese express anger
8. Cross cultural comparison of conflict management between U.S.A. and Japan
9. A case study of intercultural conflict around the *Ehimemaru* incident
10. Intercultural conflicts between Japanese teachers and int'l students
11. Japanese conflict management seen from a perspective of a bicultural writer, Kyouko Mori.
12. How to make use of anger creatively
13. Wrap-up session

Messages to those students taking this course:

Students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

Evaluation:

To be based on the combination of reports, attendance, and participation.

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

ドーシー, ジェームス
James Dorsey

国際センター講師(ダートマス大学助教授)
Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth College)

Sub Title:

Japanese Writers, Poets, Artists, Filmmakers and Cartoonists Under the Wartime State

Course Description:

The course will examine a variety of cultural artefacts (essays, short stories, novels, films, comics, etc) produced in Japan during the 1930s and 1940s and related, either directly or indirectly to the wars first in China and later in the Pacific. The course will focus on discovering the workings of, and relationship between, propaganda, nationalism, imperialism, colonialism, censorship, interpretive strategies, and the creative imagination.

Text Books:

- John W. Dower, *War Without Mercy: Race & Power in the Pacific War* (New York: Pantheon Books, 1986), 2000円.
- Samuel Hideo Yamashita, *Leaves from an Autumn of Emergencies: Selections from the Wartime Diaries of Ordinary Japanese* (Honolulu: University of Hawaii Press, 2005), 2500円.
- Ishikawa Tatsuz, *Soldiers Alive*, trans by Zeljko Cipris (Honolulu: University of Hawaii Press, 2003), 2500円.
- Handouts

Class Schedule per week:

- 1 COURSE INTRODUCTION
Instructor & student introductions, course expectations, grading policy, etc.
FIRST IMPRESSIONS
Students react to painting by Fujita Tsugeharu, poem by Takamura Kotaro, short story excerpt from Dazai Osamu
- 2 THE LIBERAL ROOTS OF THE RADICAL RIGHT (1920s)
Students read Nakano Shigeharu, "The House in the Village"
Lecture on Kobayashi Takiji, Hayashi Fusao, and the "tenko" (conversion) movement.
- 3 "HOME IS WHERE THE HEART IS" (1930s)
Students read Kobayashi Hideo, "Literature of the Lost Home"
Lecture on the "furusato" boom and reactions to modernity in the works of Kawabata Yasunari and Sakaguchi Ango
- 4 THE DELICATE DANCE OF WRITERS AND THE STATE (2 sessions)
Students read Ishikawa Tatsuzo, *Soldiers Alive*
Lecture on censorship and comparison with Hino Ashihei's "Soldier Trilogy"
- 5 "THE EMPIRE IS MUSIC TO MY EARS": A GRAMMAR OF *GUNKA*
Students read Ishikawa Jun, "Mars' Song"
In class we listen to various *gunka* (military songs); lecture on the role of music and composers in representing the state.
- 6 "PURE AND SIMPLE": PROPAGANDA THEMES AND VENUES (2 sessions)
Students read John Dower, *War Without Mercy*
Lecture on themes in, and function of propaganda; comparison with Barak Kushner, *The Thought War: Japanese Imperial Propaganda*.
- 7 "THIS IS NO LAUGHING MATTER--OR IS IT?": CARTOONISTS AND THE WAR
Students read Sodei Rinjiro, "The Double Conversion of a Cartoonist: The Case of Kato Etsuro"
Lecture on the evolution of Tagawa Suiho, *Stray Blackie* (田河水泡 / 「のらくろ」) and the role of manga in normalizing the war.
- 8 THE EVERYDAY AND THE EXTRAORDINARY: WARTIME DIARIES
Students read Yamashita, *An Autumn of Emergencies*
Lecture on everyday life in wartime Japan, comparison of writer and average citizen diaries
- 9 RECYCLED HEROES
Students read excerpts from Yoshikawa Eiji, *Miyamoto Musashi*
In class watch clips of wartime film version of Mizoguchi's *Genroku Chushingura*; lecture on the heroes appearing in wartime propaganda.
- 10 THE "NINE GODS OF WAR" IN FICTION, FILM, AND JOURNALISM
Students read Sakaguchi Ango, "Pearls" and Dorsey, "Literary Tropes, Rhetorical Looping, and the Nine Gods of War: 'Fascist Proclivities' Made Real"
In class watch clips from Tasaka Tomosaka, *The Navy*; lecture on the Nine Gods of War phenomenon.
- 11 SUMMARY: CREATIVITY IN A TIME OF WAR

Message to those taking this Course:

War, suicide bombers, propaganda, surprise attacks, nationalism, the West vs. the non-West. These are all very much a part of our world today, and they were very much a part of it in the 1930s and 1940s. All students willing to explore and discuss these issues in the context of Japan's modern history are welcome. A field trip to the Yasukuni Shrine and museum will be part of the course.

Grading Methods:

1. Reports (2 two-page responses for 25%; 1 eight-page essay for 40%)
2. Attendance, Participation 35%

近代日本の対外交流史

(秋学期) (Fall)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Textbooks:

No specific textbook will be used.

Recommended Readings:

The reading list will be given at the beginning of the term.

Class Schedule (Subject to change):

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures): General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures): the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
4. Japanese Visits Abroad (2 lectures): the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways)
5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
7. The significance of the Iwakura Mission (1 ~ 2 lectures)
8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures): comparative analysis of several primary sources
Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

Evaluation:

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

異文化コミュニケーション2 異文化接触における日本人のアイデンティティ

(秋学期)(Fall)

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

手塚千鶴子

国際センター教授

Chizuko Tezuka

Professor, International Center

Sub title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

Tsuda Umeko and Women's Education in Japan by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.

The White Plum: a biography of Ume Tsuda by Yoshiko Furuki, Weatherhiesel, 1991.

Intercultural Communication: reader 5th ed., Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.

Japanese Culture and Behavior (revised edition) ed.by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.

Japanese Patterns of behavior ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.

Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness ed by Ray

Course schedule:

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late Edo Period
3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment1: culture as mental software, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angeles: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue

back in Japan

12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period:
13. Wrap-up: Challenge for both Japanese and non-Japanese in the globalizing world

Messages to students:

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion.

Evaluation:

To be based on combination of Reports and Attendance and Class Participation.

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

日本キリスト教史

(秋学期)(Fall)

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY

ポールハチエット, ヘレン 経済学部教授

Helen Ballhatchet Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

A case study of cross-cultural contact

Course Description:

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, student will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

Recommended Reading:

There will be a selection of assigned readings for each class. Students will find it useful to start the course with a basic knowledge of Japanese history, Japanese religion, and Christianity. All suggestions for reading will be displayed on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

Class Schedule (Subject to change) :

1. Orientation and overview: Religion and history
2. The view from the present: Religion in Japan and images of Christianity
3. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (1) The background and the initial encounter
4. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (2) Missionary approaches to the Japanese
5. From Xavier to Hideyoshi (1549-1598): (3) Japanese approaches to Christianity
6. Tokugawa Japan (1600-1868): (1) Government policies towards Christianity
7. Tokugawa Japan (1600-1868): (2) Christianity underground
8. Early Meiji Japan (1868-1888): Christianity and Western civilization
9. From mid-Meiji to the end of World War II (1889-1945): (1) Christianity and the dilemma of patriotism
10. From mid-Meiji to the end of World War II (1889-1945): (2) Christianity in a Japanese context
11. The second half of the twentieth century: (1) Christianity and Japanese democracy
12. The second half of the twentieth century: (2) Christianity in a Japanese context
13. Concluding remarks: Religion and history revisited

Message to those taking this Course:

I hope to attract students from a variety of backgrounds. This is because the course will gain from the combined viewpoints of people from areas which have sent Christianity missionaries to Japan, such as Portugal and the United States, and of people from areas which have played host to Christian missionaries, both in Asia (including Japan itself) and elsewhere.

I will expect students to attend all classes, on time, to do the assigned readings, and to participate in class presentations and discussions. Sessions will be organised into a combination of formal lectures and interactive seminars.

Grading Methods:

1. Oral presentations (30%)
2. Reports (At least one short and one long) (50%)
3. Attendance and Participation (20%)

Questions, Requests:

Students wishing to ask a question or arrange an appointment should talk to me before or after classes, or send an e-mail. My e-mail address is given on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

多民族社会としての日本

(秋学期)(Fall)

MULTIETHNIC JAPAN

柏崎千佳子

経済学部助教授

Chikako Kashiwazaki

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

Texts:

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous ?
3. Theories of ethnic relations
4. Zainichi Koreans: past and present
5. Zainichi Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary — Rethinking Japanese society

Message to Those Taking This Course:

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

Evaluation:

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (20%), presentations (20%), and reading/writing assignments including a short essay and a term paper of 1,800+words (60%).

政策決定，歴史的記憶，人種から見る明治期日本外交

(秋学期)(Fall)

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA:DECISION-MAKING, HISTORICAL MEMORY AND RACE

飯倉 章

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Akira Iikura

Lecturer, International Center(Professor, Josai International University)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

Text Books:

No textbook will be used. Handouts will be given as reading assignments.

Reference Books:

Recommended readings will be suggested in the course of the lecture.

Class Schedule per week:

1. Introduction to the course and decision-makers in the Meiji era
2. The trauma of Japanese diplomacy: unequal treaties, the triple intervention and the Portsmouth treaty
3. The Yellow Peril and its influence on Japanese foreign relations

4. The Anglo-Japanese alliance and the question of race
5. The lessons of the Anglo-Japanese alliance: Is an alliance with an “Anglo-Saxon” state reliable ?
6. Was the war evadable or inevitable?: perception and misperception of Japanese decision-makers before the Russo-Japanese war
7. The Russo-Japanese war as an icon in historical memory
8. Wrong lessons from the “success” of the war and the “defeat” in diplomacy
9. Explaining the Russo-Japanese war through the application of Graham Allison’s decision-making theories
10. The changing views of Japan during the Russo-Japanese war: Japan from protégé to world power
11. The wars and leaders in the Meiji era that live in Japanese culture

Message to those taking this Course:

The lecturer will put special emphasis on the Russo-Japanese war of 1904–05 by showing some new scholarly works, popular history and commemorative articles on the war that appear mainly during the years 2004 and 2005, the hundredth anniversary of the war. The lecturer will illustrate the lecture by using slides and videotapes.

Grading Methods:

A short term paper on one of designated questions and a final essay will be assigned. Attendance and class participation will be particularly important.

日本の文学

(秋学期)(Fall)

JAPANESE LITERATURE

アーマー , アンドルー

文学部教授

Andrew Armour

Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods.

Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

Texts:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/jlit.htm).

References:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Appreciate the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Messages to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is an advantage.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student’s research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student’s responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION: COMPARATIVE READINGS

レイサイド , ジェイムス 法学部教授

James Raeside Professor, Faculty of Law

Course Description:

In these classes we will attempt to elucidate something of the distinctive nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different literary traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing—particularly that of the short story—and perhaps into literature as a whole.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by a Western writer. The texts chosen will be relatively short, wherever possible complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translation, although students who are able to read the originals are welcome to add this knowledge to the discussion. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion. Those who do not feel their English ability is adequate to reading several pages of English each week should not take this class.

The texts will be read in roughly chronological order, starting the first decade of the 20th century and ending with the last.

Text Books:

Since the texts will be taken from various sources **photocopies** will be used. However, given the likely volume of paper, students may be charged at 10 yen per page.

Reference Books:

The Oxford Book of Japanese Short Stories. Ed. Theodore Goossen.

The Showa Anthology: Modern Japanese Short Stories, 1961-1984. Ed Van C Gessel & Tomone Matsumoto.

Weekly Class Schedule:

The following list should be considered provisional, and students are welcome to request inclusion of other authors in whom they are particularly interested. Japanese names are given without macrons.

- Week One: Orientation
- Week Two: Mori Ogai
- Week Three: Nagai Kafu
- Week Four: Muro Saisei
- Week Five: Hayashi Fumiko
- Week Six: Noma Hiroshi
- Week Seven: Ibuse Masuji
- Week Eight: Kawabata Yasunari
- Week Nine: Mishima Yuko
- Week Ten: Tanizaki Junichiro
- Week Eleven: Tsushima Yuko
- Week Twelve: Oe Kenzaburo
- Week Thirteen: Murakami Haruki

Instructors Comments for Prospective Students:

Please take to heart the final comments in the course description regarding the need to read texts in advance.

Grading Method:

Class Participation (Including Attendance) 50%

Final Report (3,000—3,500 words) 50%

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

ノッター , デビッド 経済学部助教授

David Notter Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on “modern” family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

Text Books:

Family: The Making of an Idea, an Institution, and a Controversy in American Culture by Betty G. Farrell

Class Schedule per week:

- Class 1: The Emergence of the Modern Family, Part
- Class 2: The Emergence of the Modern Family, Part
- Class 3: Class Discussion: Childhood
- Class 4: The "Invention" of Childhood
- Class 5: Childhood and Parenthood in American History
- Class 6: Class Discussion: Adolescence and Sexuality
- Class 7: Adolescence in Historical Perspective
- Class 8: Sexuality and the Family: 1600-1900
- Class 9: Class Discussion: Marriage
- Class 10: Modern Courtship and the Ideology of Romantic Love
- Class 11: Marriage and Divorce
- Class 12: Class Discussion: Old Age and Generational Relations
- Class 13: The Collapse of the Modern Family

Grading Method:

Evaluation will be based on attendance, participation in formal class discussions, and essays.

国際経営比較：日米企業を中心に

(秋学期) (Fall)

INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS

吉田文一

国際センター講師 (産能大学教授)

Fumikazu Yoshida

Lecturer, International Center (Professor, Sanno University)

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the "post-bubble" period in Japan, there is a strong tendency to criticise the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems. Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

Text Books:

No particular textbook will be used.

Reference Books:

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

Class Schedule per week (Subject to change):

1. Introduction to the course
2. Multinational Corporations, the main subject of the course
3. Preconditions for Japanese management system
4. Lifetime employment system (1) advantages and disadvantages
5. Lifetime employment system (2) subsystems and international comparison
6. Seniority system
7. Top management and Decision making process
8. Case study of a Japanese company in the USA (video)
9. Discussion based on the above video
10. Corporate philosophy and underlying strategy
11. Current issues of Japanese and American systems (1) employment system
12. Current issues of Japanese and American systems (2) organisation
13. Concluding remarks

Message to those taking this Course:

Students are strongly encouraged to contribute to the class by actively participating in class discussions.

Based upon the lecturer's international management experience, including 12 years of overseas assignments, many cases of international transactions and negotiations will be provided to make this course more realistic, and to broaden students' understanding of global business.

Grading Methods:

Grading will be based on attendance, class participation, and a short term paper.

Course Description :

This course aims to help participants to understand the Japanese economic system with its heavy Government involvement, specific company customs (which seemed to have worked fine during the high growth era), vested interests and social norms/behaviours. The sessions will (A) cover parts of the text book, *'Arthritic Japan'* which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems and some changes the Japanese have been facing recently, (B) involve students with some group discussions/presentations on some themes with additional journal articles, (C) show several illustrative videos and (D) have at least two special one-off guest speakers who will talk about their experiences in dealing with the Japanese bureaucratic approach/regulations/other barriers in the Japanese trade environment (all speeches will be given in English). The lecturer may sometimes explain several concepts/theories from the microeconomics' point of view whenever necessary to make it easy for the non-economics based student to understand the textbook and articles. The articles used in the sessions are most likely to be from *The Economist*, *The Japan Times* and *Japan Spotlight*.

Text Books :

- * some chapters from Edward, J. Lincoln, *Arthritic Japan: the slow pace of economic reform*, Brookings, 2001. (distributed by the lecturer)
(Now available in Japanese translation (translated by the lecturer herself) (Nippon-hyoron-sha, 2004) with the title "*Soredemo-Nippon-wa-Kawarenai*")
- * some parts from David Flath, *The Japanese Economy*, Oxford University Press, 2000.

Reference material :

Additional materials (journal articles) will be provided and documentary videos will be shown and discussed.

Class Schedule per week :

These are indicative, and may be changed dependent on (A) the availability of guest-speakers and their proposed subject matter and (B) matters of current Japanese and international interest:

1. overview and announcements (video session included)
2. introduction to the postwar system (video session and summary of chapter 2 of *Arthritic Japan*)
3. horizontal Keiretsu and corporate governance issues (presentation/discussion or a guest speaker)
4. vertical Keiretsu and other forms of vertical controls (presentation/discussion included)
5. labour markets (presentation/discussion included)
6. video session on a typical "Japanese corporate culture"
7. education issues (video and/or discussion)
8. 'industrial policy' and protectionism (discussion included)
9. a guest speaker on Japanese regulations/government interventions
10. Japanese government (both central and local and the relationship between them)
11. rent-seeking mechanisms and political overview (video included)
12. a guest speaker on the subject of entering the Japanese market
13. pressure for changes and current structural reform topics

Message to those taking this Course :

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give the students copies of journal articles as supplementary materials. The students will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles or the videos shown in the lectures. There will be an end-of-term essay to submit.

Grading Methods :

1. Reports (essays)
2. student presentations
3. attendance (minimum requirement for attending at least 8 sessions)

Questions, Requests :

Lecturer's email : noriko @fbc.keio.ac.jp

Sub title:

'Amae' Reconsidered

Course description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology ?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae needs* is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

- The Anatomy of Dependence* by Takeo Doi, Kodansha International, .1973.
The Anatomy of Self by Takeo Doi, Kodansha International, 1986.
Dependency and Japanese Socialization by Frank A. Johnson, New York University Press, 1993.

Course schedule:

1. Orientation to the course and the drawing task of "my relationship with my mother in my childhood"
2. Multiple definitions of *Amae*
3. Understanding *Amae* through visual images: comparison of 'Peanuts' and 'Doraemon'
4. Healthy *Amae* Interaction: mutuality and reciprocity in Japanese social relationships
5. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese companies
6. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through empirical research
7. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through children's drawings of meals and HTP test
8. Cross cultural empirical research on *Amae*
9. An American expatriate's response to *Amae* interaction in Japan
10. *Amae* in cross cultural counseling cases in Japan ..
11. Functions of healthy *Amae*: social support ?
12. *Amae* and Aggression from cross cultural perspectives
13. What do foreigners gain by learning about the concept of *Amae* contribute to peoples and wrap-up session.

Messages to those students taking this course:

Students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

Grading methods:

To be based on the combination of reports, attendance, and participation

Questions and Requests:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

美術を「よむ」 日本美術史入門

(秋学期)(Fall)

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

河合正朝	文学部教授
Masatomo Kawai	Professor, Faculty of Letters
村井則子	国際センター講師
Noriko Murai	Lecturer, International Center

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing the modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

Readings:

There are no textbooks for the course. A *Source Book* containing all required readings for the course will be available for purchase.

Course Schedule:

1. Introduction: Overview of the Course
2. Constructing "Japanese Art"
READING: Christine Guth, "From Temple to Tearoom," in *Art, Tea, and Industry* (1993).
3. From Edo to Meiji

READING: Ellen Conant, "Tradition in Transition, 1868-1890," in *Nihonga* (1995).

4. Okakura Kakuzō and the Aesthetic Ideology of Asia

READING: Excerpts from Okakura Kakuzō, *The Ideals of the East* (1903)

5. Body and the Nude

READING: Norman Bryson, "Westernizing Bodies: Women, Art, and Power in Meiji *Yōga*," in *Gender and Power* (2003).

6. Urban Spectacle and the Modernist Vision

READING: Miriam Silverberg, "The Modern Girls as Militant," in *Recreating Japanese Women* (1991).

7. The Colonial Gaze: Representing Otherness in Imperial Japan

READING: Kim Hyeshin, "Images of Women in National Art Exhibitions during the Korean Colonial Period," in *Gender and Power* (2003)

8. Visual Culture of Wartime and Occupied Japan

9. Action and Expression: the Gutai Association

READING: Sinichiro Osaki, "Body and Place: Action in Postwar Art in Japan," in *Out of Actions* (1998).

10. "Anti-Art" in the 60s

READING: Alexandra Munroe, "Morphology of Revenge: The Yomiuri Independent Artists and Social Protest Tendencies in the 1960s," in *Japanese Art After 1945* (1994).

11. The Postwar Unconscious: Performance and Photography

READING: Susan Klein, "The Butō Aesthetic and a Selection of Techniques," in *Ankoku Butō* (1988).

12. Architecture and the Public Space

READING: Kenneth Frampton, "Twilight Gloom to Self-Enclosed Modernity: Five Japanese Architects," in *Tokyo: Form and Spirit* (1986).

13. Image in the Age of Digital Manipulation: the 90s and beyond

READING: Norman Bryson, "Morimura: 3 READINGS," in *Morimura Yasumasa* (1996)

Bibliography:

Bibliography will be distributed on the first day of instruction.

Requirements:

1. Two short papers (4-5 double-spaced pages) based on museum visits
2. One group field trip to a museum in the area to take place on the weekend
3. Regular attendance and active participation in class discussion

Grading Methods:

The student's performance in the course will be evaluated primarily based on the two short paper assignments. Regular attendance is also mandatory, and active participation in class discussion will also be reflected in the final grade.

日本の宗教：救済の探求

(秋学期)(Fall)

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー , アンドロイ 文学部助教授

Andrei Nakortchevski Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as "Religions in Japan" and not as "Japanese Religions." Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion — Shinto and maybe some eclectic so called "new religions", and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities — art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle — "In Search of Salvation." Especially this aspect becomes important when we deliberate "new religions", including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

Class Schedule:

1. Introduction
2. Shinto
3. Visiting a Shinto shrine
4. Buddhism in general
5. Heian Buddhism: Tendai and Shingon Schools
6. Visiting a Shinto school temple
7. Kamakura Buddhism: Zen and Pure Land Schools

8. Visiting a Pure Land school temple
9. Tokugawa period: Confucianism and formation of the national religion
10. Visiting a Confucian shrine
11. New Religions
12. Visiting a shrine

Grading methods:

Report and participation

日本経済の展望

(秋学期) (Fall)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

市川博也

国際センター講師 (上智大学教授)

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

Text Books:

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

Class Schedule per week:

1. Introduction
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" *Foreign Affairs*, November/December 1994.
3. Discuss Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "Reform and Reconstruction" University of Tokyo Press. 1995.
4. Discuss chapter 3 "Rapid Growth" in Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp. 2003.
chapter 3 "Overcoming the dual economy — backward sectors are the key to Japan's revival".
chapter 4 "Overcoming Anorexia — the labours Sisyphus —"
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment
Richard Katz, chapter 9 "Globalization — the Linchpin of Reform-"
chapter 11 "Foreign Direct Investment — A Sea Change —".
See Nakamura chapter 7.
9. Discuss "The Collapse of the Bubble Economy" Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, "The political Economy of Japanese monetary Policy,"
chapter 5 "The Bubble Economy and its Collapse"
chapter 6 "Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Usen Companies, and Regulatory Inertia." The MIT Press. 1997
Richard Katz, chapter 12. "Financial integration — The Iceberg Cracks —".
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan's Economic Growth
chapter 1 "Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation"
chapter 2 "Fiscal Policy Works When it is tried".
chapter 3 "The Short and Long of Fiscal Policy" in Adam S. Posen, Restoring Japan's Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.
Richard Katz, chapter 6 "Fiscal dilemmas," chapter 7 "Monetary magic bullets are blanks", chapter 8 "Japan cannot export its way out".
Richard Katz, chapter 13 "What is structural reform?" chapter 14 "Financial reform" chapter 15 "Corporate Reform-No competitiveness without more competition".
11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.
Chapter 4. "Mounting Downside Risks: Financial and International"
Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model" in Adam S Posen.

12. Can Japan Compete ?
 Chapter 2. "Challenging the Japanese Government Model"
 Chapter 3. " Rethinking Japanese Management",
 Chapter 5. " How Japan can Move Forward: The Agenda for Government"
 Chapter 6. "Transforming the Japanese Company" Michael E. Porter, Hirotaka Takeuchi & Mariko Sakakibara, "Can Japan Compete ?"
 Macmillan Press Ltd. 2000
 Richard Katz, chapter 16 "Competition policy — Not enough competition, even less policy".
13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 "deregulation and state enterprises — The Moment is Clear, the destination is not."
 Chapter 19. "Tax Reform — Don't Exacerbate Anorexia".

Message to Those Taking This Course:

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.
 High proficiency in English required: TOEFL (PB) 550+ (CB) 213+

Evaluation:

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

ジャパニーズ・エコノミー

(春学期)(Spring)

JAPANESE ECONOMY

小島 明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, demographic change, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialist through Video and Tapes etc.

Text Books:

METI "White Paper on International Trade," 2004, 2005

Recommended Readings:

"Japan's Policy Trap Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance", by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

"Balance Sheet Recession Japan's Struggle with Uncharted Economics and its global implications", by Richard C. Koo, 2003 John Wiley & Sons Pte Ltd.

Various reports, working papers by Government, International organizations (IMF, OECD etc.) and by scholars are recommended as needed.

Message to Those Taking This Course:

Active participation by students strongly desired.

Evaluation:

Report and in-class exam

Term report and occasional reports

Active participation to discussion

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月3日(月) 2時限目(10:45~12:15) 516番教室

2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。その際、学生証を提示してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月10日(月) 9:00~16:00

4月11日(火) 9:00~16:00

4月12日(水) 9:00~16:00

場 所：三田学事センター

3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申込みをしないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

4 問合せ先

情報処理教育室(日吉学事センター内) 045-566-1015

5 平成18年度開講科目及び受講料

設置講座は受講料が必要です。

平成18年度 情報処理教育室設置講座(三田)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論	JAVA	12 A	藤村 光	通 年	50	12,000 円	4
情報処理応用	統計解析	32 A	鴻巣 努	春学期	30	5,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(土)から開始されます。

参考：平成18年度 情報処理教育室設置講座(日吉)

講座名	クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位	
情報処理概論	C言語によるプログラミング入門	11 A	通 年	100	12,000 円	4	
		11 B		50			
情報処理概論	パソコンによる情報整理学	13 A		46			
情報処理概論	JAVA	12 D	藤村 光	春学期	50	6,000 円	2
情報処理応用	JAVA	12 E	藤村 光	秋学期	50	6,000 円	2
情報処理応用	コンピュータグラフィックス	31 A	大野 義夫	春学期	50	5,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日(土)から開始されます。

授業科目の内容：

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、および基本的な考え方を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。

Java 言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。

テキスト：

Webサイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開。適宜更新します。

参考書：

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン、レイアウト、イベントの処理 (計 3 回)
5. クラス変数
6. 四則演算 (計 2 回)
7. 式、演算子、カウンタ、合計計算、最大値・最小値 (計 2 回)
8. 配列
9. 春学期演習
10. 秋学期のウォーミングアップ
11. 整列、検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理 (計 3 回)
13. マルチスレッドと描画 (計 4 回)
14. 再帰構造と再帰プログラミング (計 2 回)
15. 最終演習 (計 2 回)

履修者へのコメント：

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

成績評価方法：

レポートによる評価

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

fujimura-report@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。48 時間以内に返事がない場合は、同一メールを再送してください。

授業科目の内容：

データサイエンスの知識は、外国語や情報処理能力と並び、研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では、調査や実験により得られたデータを統計的に分析し、その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し、多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも、こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として、利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

参考書：

- ・東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
- ・田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社
- ・室淳子、石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

授業の計画：

- 第 1 回 統計的手法とは
- 第 2 回 統計パッケージ (SPSS, SAS, JUSE, EXCEL, S)
- 第 3 回 SPSS によるデータ処理
- 第 4 回 SPSS によるデータの視覚化
- 第 5 回 代表値と確率分布
- 第 6 回 散布図と相関係数
- 第 7 回 区間推定
- 第 8 回 平均値の差の検定、ノンパラメトリック検定
- 第 9 回 多変量解析の基礎
- 第 10 回 回帰分析、重回帰分析
- 第 11 回 主成分分析
- 第 12 回 因子分析
- 第 13 回 判別分析

履修者へのコメント：

数学やコンピュータに関する予備知識は特に求めないが、次のような学生の参加を期待する。

- ・卒業論文を書くにあたり、科学的手法を探している。
- ・統計学の基礎は学んだが、それを運用できるまでに至っていない。
- ・多変量解析に興味があるが、どのようなデータにどの手法を使えばよいか分からない。
- ・数学には自信がないが、データを分析することは嫌いではない。

成績評価方法：

平常点および期末レポートによって評価する。

1．知的資産センター設置講座にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として1998年11月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとし広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果に対する特許保護から始め、技術の移転、起業の支援と段階的に拡充していく計画です。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化してきました。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一環として、全学部の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開設しました。

2．設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の1科目を、春学期 三田キャンパスで開講します。

授業時間は水曜日 18:10～19:40、単位は2単位です。その他授業に関する情報は、三田掲示板、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、履修申告をしてください。

3．講義要綱

知的資産概論 知的財産の保護と活用をめぐる課題（ナテグリニド特別講座）(春学期)

コーディネーター 知的資産センター所長（商学部教授） 清水 啓 助

授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。

本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

教科書：

講義資料を配布します。

参考書：

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著，慶應義塾大学出版会

「特許がわかる12章」竹田著，ダイヤモンド社

「著作権の考え方」岡本著，岩波新書

授業計画の内容：

1. 知的財産の新たな時代
2. 特許の仕組み
3. 著作権の仕組み
4. 商標ブランドの価値
5. マルチメディアに関する知的財産
6. キャラクタービジネス
7. 音楽に関する著作権問題
8. 企業における知的財産戦略
9. 知的財産に関する世界の動向
10. 知的財産の紛争処理
11. ベンチャー・起業の仕組み
12. 知的財産ビジネス
13. 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

担当教員から履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点およびレポートによる評価

質問・相談：

授業の最後に質問の時間を設けます。